

音楽科教育法 (SB)

12288

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

初等音楽科教育の理念、歴史的展開、目標、内容構成、指導計画、評価のあり方、現状と課題等について概観し、初等音楽科教育の概念と全体像の理解を深めるとともに、実践的諸問題について検討する。理論と実践を連動させながら、学習指導要領や教科書、実践事例の具体的検討を通して、初等音楽科教育の基本的原理を概観するとともに、模擬授業やディスカッションを通して、授業デザインの方法や学習指導案の作成、指導法、環境構成等、教育実習を視野に含みこんだ実践の力量の形成を目指す。音楽科教育についての課題意識を明確にし、自己の音楽教育観を確立する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

初等音楽科教育の全体像を理解するとともに、基本的原理と諸課題を理解する。
授業デザインの方法や学習指導案の作成等、実践的諸能力を身につける。
初等音楽科教育における課題意識を明確にし、自己の音楽科教育観を確立する。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

音楽 I を履修済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—音楽科教育とは何か	イントロダクション 音楽自分史
2	小学校音楽科の現状と課題	学校現場 教師 子ども 学習指導要領
3	音楽科の成立—音楽科教育の歴史的展開	唱歌 童謡運動 芸能科音楽 学習指導要領
4	小学校音楽科の実際—目標と指導内容	表現 鑑賞 歌唱共通教材
5	音楽づくりの実際	即興的表現 創造的音楽づくり
6	小学校音楽科の学習指導計画と音楽学習の評価	カリキュラム 年間指導計画 学習指導案 題材 評価基準
7	学習指導案の作成	学習指導案 主題による題材 楽曲による題材 教材
8	学習指導案の検討と模擬授業準備	模擬授業 教材研究
9	模擬授業とディスカッション①	表現 歌唱指導
10	模擬授業とディスカッション②	表現 器楽指導
11	模擬授業とディスカッション③	表現 音楽づくり指導
12	模擬授業とディスカッション④	鑑賞指導 視聴覚機器
13	諸民族の音楽の実際	諸民族の音楽
14	音楽科の授業研究	授業評価 授業改善
15	初等音楽科教育実践の課題と展望	総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

音楽科教育は近年新しいアプローチや指導内容がとりいれられて、授業時数は削減されているにもかかわらず、内容は多義的に拡大しています。日常からいろいろなジャンルの音楽を聴いたり触れたりするように心がけ、音楽(教育)関連の書籍などを手にとってみるようにしてください。また他の教職科目や他教科の教育法とも関連づけながら、相対的に音楽科教育について考えてみてください。

* 授業ははじめとおわりに、オープニング・パフォーマンス、エンディング・パフォーマンスとして、歌唱共通教材の指揮と伴奏、簡単な指導をしていただきます。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	学習指導案の作成を含む最終レポートを課す。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	50 %	出席状況、授業の中での課題への取り組み、授業時の学習指導案等の提出物、毎時授業後に提出する個人レポートカード等をあわせて、総合的に評価する。

三分の二以上の出席を要します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽教育とは何かという問いを常にもって、自分の生活の中の音楽やこれまでうけてきた音楽教育などについて考えてみてください。小学校の音楽の授業が苦手だったという人や嫌いだったという人は、どういった授業をすればそれを克服できるかを考えましょう

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『最新初等科音楽科教育法』	初等科音楽教育研究会編 / 音楽之友社 / 978-4-276-8200-1 / 09年の改訂版を使用のこと。

参考書 / Reference Books

適宜授業時に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

コミュニティケア論 (S)

10795

担当者名 / Instructor 黒田 学

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講ではコミュニティケアに関する基礎的な理解を以下の3点から求める。①コミュニティケアの系譜および概念の整理・検討を、イギリスなどにおける国際動向および日本における実態と課題に照らして検討する。②社会福祉の構造的把握からコミュニティケアを考察する。特に、障害者福祉における地域福祉実践の構造的な理解を基礎にして、コミュニティケアを福祉援助の技術論的アプローチとともに、地域社会での生活を支える福祉、構成員すべての人間的発達を保障する視点から考察する。③ノーマライゼーションの視点からコミュニティレベルのケアの体系化(計画化)を提起する。福祉・医療・教育の各領域及びその協同、さらにはすべての構成員の社会参加と自己実現を基礎にして、総合的かつ横断的な施策と計画の必要性をノーマライゼーションの視点から提起する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. コミュニティケアに関する基礎知識の習得と系統的な理解
2. コミュニティにおける福祉課題に対する問題意識の形成
3. コミュニティケアの関連領域を踏まえての総合的理解

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

地域福祉論、児童福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、国際福祉社会論(それぞれ、少なくとも同時履修が望ましい)。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回 はじめに ―講義を始めるにあたって― 1. コミュニティケアとは (1)概念の検討と整理	コミュニティ、アソシエーション、ケア、施設ケアと在宅ケア
2	第2回 1. コミュニティケアとは (2)イギリスの政策動向と系譜①	シーボーム報告、グリフィス報告、コミュニティケア法
3	第3回 1. コミュニティケアとは (2)イギリスの政策動向と系譜②	ケアマネジメント、新自由主義政策
4	第4回 1. コミュニティケアとは (2)イギリスの政策動向と系譜③	福祉ミックス、ニューレイバー、シュアスタート
5	第5回 1. コミュニティケアとは (3)国際社会における展開	ノーマライゼーション、社会的排除、インクルージョン、CBR
6	第6回 2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (1)政策展開と実際①	高度経済成長期、コミュニティ政策、住民主体の原則、地域社会の構造変動
7	第7回 2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (1)政策展開と実際②	ゴールドプラン、地方分権、福祉のまちづくり
8	第8回 2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (1)政策展開と実際③	社会福祉基礎構造改革、介護保険制度
9	第9回 2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (1)政策展開と実際④	ケアマネジメント、支援費制度、障害者自立支援法
10	第10回 2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (2)構造的把握の意味	三元構造論、生活の社会化論
11	第11回 2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (3)地域福祉計画	社会福祉法、地域福祉計画、社会福祉協議会
12	第12回 2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (4)高齢者福祉と計画	高齢者の孤独死と自殺、老老介護、ケアプラン
13	第13回 2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (5)障害者福祉と計画	ノーマライゼーション、バリアフリー、コンフリクト
14	第14回 2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (6)児童福祉と計画	児童虐待、少子化対策、子どもの権利
15	第15回 3. コミュニティケアの展望と課題 ―あらためてコミュニティケアを考える、まとめにかえて―	住民参加、共同と連帯、発達保障

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

受講生が居住する地域社会の福祉問題について、日常的な関心を持って講義に望んでもらいたい。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	講義内容に関する基礎知識の習得と論理的思考。

上記以外の試験・レポート、 40 % 講義内容に対する問題意識の形成と積極的受講。3分の2以上の授業に出席し、レポート(コミュニケーションペーパー)を提出した者のみ成績評価の対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉に関する専門的な内容を多く含むため、社会福祉関連の科目を同時履修または既修であることが望ましい。講義への出席を通じて自分の頭で考え問題意識を高め、基礎的な事項への理解を深めてほしい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害のある子ども・家族とコミュニティア	黒田学、渡邊武編 / クリエイツかもがわ / 978-4863420366 /
イギリスのコミュニティアと介護者—介護者支援の国際的展開	三富紀敬 / ミネルヴァ書房 / 978-4623052196 /
福祉がつながる地域再生の挑戦	黒田学、よさのうみ福祉会 / クリエイツかもがわ / 978-4863420915 /
その他、講義中に適宜指示する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

各自治体(地域福祉計画等の資料)および厚生労働省のホームページ(<http://www.mhlw.go.jp/>)。その他、講義中に適宜指示する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目

精神保健福祉援助実習 (S)

12732

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉援助実習は、通年の授業と180時間以上の現場実習で構成されている。現場実習は、精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として、精神障害者の伴走者となる初めての体験である。180時間という限定された時間であるが精神障害を持つ当事者や家族と直接関わるなかで、講義で学んだ理論や演習で間接的に体験した知識を活用することが求められる。その直接的な関わりの中で、専門職としてのスキルや価値、倫理を高め、支援者として自らの課せられている課題を知ることが必要である

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ①精神障害者の生活課題を理解し、地域生活支援のありかたにつき考察する力を獲得する。
- ②医療・生活の現場における専門職の実践課題と現状につき分析する力を獲得する。
- ③支援者として自らが求められている課題を明確にできる。
- ④最低限の倫理や義務につき理解し護ることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

精神保健福祉援助演習は本科目と同時に履修しなければならない。
他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 オリエンテーション	実習の意義 目的 一年間の課題
	2 事前学習の内容と方法	現場が求めている実習生, 現場が求めない実習生, 実習に期待すること, KJ法
	3 事前学習①—実習計画立案にあたって①—	実習先の情報収集, 実習報告からの学び
	4 事前学習②—精神障害者と家族に関する文献学習—	精神科医療, 精神保健福祉, 家族間力動, 偏見
	5 事前学習③—精神障害者の地域生活資源に関する文献学習	精神保健福祉法, 自立支援法
	6 実習計画の立て方	目的, 意義, 目標, 課題, 評価方法
	7 実習計画の発表	目的, 意義, 目標, 課題
	8 実習計画の再発表	目的, 意義, 目標, 課題
	9 精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践①	パートナーシップ, バウンダリー
	10 精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践②	抵抗, 逆抵抗, 共感, 自己覚知
	11 精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践③	マイクロカウンセリング技法
	12 精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践④	バーンアウト要因
	13 実践と記録	客観的描写, 自己評価, 気づき(課題発見)
	14 実習生の心得	倫理, 課題, スーパービジョン
	15 実習直前ガイダンス	手続き, 様々な状況への対処
	16~17 実習の振り返り	当事者, 支援者, 自己, 地域
	18~28 実習報告	実習概要, 学び, 成長, 今後の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	演習活動への参加、事前学習レポート、実習計画、実習報告、実習記録などを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、演習形式の授業であり、毎回の報告が指示される。また、国家試験との関わりがある為、授業への参加(出席)日数は厳しく評価の対象とされる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神保健福祉白書(2010年版)流動化する障害福祉施策	精神保健福祉白書編集委員会 / 中央法規出版 / 978-4805832349 /
西欧精神医学背景史	中井久夫 / みすず書房 / 978-4622050469 /
こんなとき私はどうしてきたか	中井久夫 / 医学書院 / 978-4260004572 /
最終講義—分裂病私見	中井久夫 / みすず書房 / 978-4622039617 /
自殺のサインを読みとる	高橋祥友 / 講談社 / 978-4062101158 /

参考書は、適宜紹介する。本講義における事前学習時間は、平均120分となっている。ほぼ毎回、受講生からの報告(A4 2枚から3枚のレジュメ)が義務付けられるため参考書は重要な位置を占める。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目

精神保健福祉コミュニティワーク (S)

16514

担当者名 / Instructor 知名 純子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新聞報道やニュース、テレビ番組などを通じて、コミュニティワークについての考える。

精神障害者の生活支援を行うにあたって基本となる個別援助技術、集団援助技術を踏まえたうえで、コミュニティワークの実践の質をより深めるために必要な間接援助技術やその他関連援助技術のあり方について学ぶ。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・ 間接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
- ・ 習得した知識を実践に応用できる

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

社会福祉、精神保健福祉科目を履修しているか、その知識があることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	「コミュニティ」とは
2	コミュニティワークとは	時代に応じた概念の変化
3~4	精神障害者を対象とした地域援助技術	地域の身近な資源
4	間接援助技術の内容と機能	ソーシャル・プランニング
5	関連専門援助技術について1	心理療法・面接技法
6	関連専門援助技術について2	家族療法・家族支援
7~8	地域福祉の枠組み	地域福祉をめぐる考え方の違い
9	コミュニティワークの理論①コミュニティ・ディベロップメント	イネープリング、セトルメントとパートナーリズム、ラジカル・ワーカー
10	コミュニティワークの理論②ポリティカル・エンパワメント	多元的世界観、マイノリティの参加と社会の安定
11	コミュニティワークの理論③プランニング	新しいプランニング理論
12~13	コミュニティワークの理論④プログラム・ディベロップメント	インターグループワーク、多元主義と資源配分
14	コミュニティワークの理論⑤コミュニティ・リエゾン	ボランティアリズム、当事者参加促進策
15	まとめ	今後のコミュニティワークの展開

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

毎回、授業の最後に「次回までの課題」を提示します。次の授業日の始めに時間をとって「課題」についての確認をペーパーにて行います。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	授業中のワークへの取り組み姿勢、及び各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、課題の事例に対して実際に活用できるか、についてコミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって確認する。

最終講義日試験やテストに代わるレポート等はありません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

理論としてだけでなく、ごく身近な、だけどよくは知らないコミュニティワークについて考えたいと思います。授業中の演習を通して、コミュニティワークの難しさを体験してください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

その他 / Other

拡張項目

初等体育 (SA)

12435

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校体育の幾つかの領域から、典型教材やその指導の系統性を実践的に学ぶ。スポーツは体育授業では発達刺激と考えられることが多いが、人間が歴史的、社会的に生み出してきた文化としてとらえ、文化としてのスポーツを教えるという立場で授業を進めていく。体育授業は上手い下手がはっきりするため、その中でどのような授業作りを展開するのかが中心に行う。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

授業で取り上げる種目の中身の理解を求めることは当然であるが、それら教材に備わっている典型性を生かして、新たに教材を構成する力量を養う。また、体育授業における競争や評価の考え方を身につけることができるようにする。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションとグルーピング(教室)	学習指導要領の目的・内容と体育授業の役割
2	実技のオリエンテーション(第二アリーナ)	実技試験の課題の提示 50m走の測定
3	リレーの教材作り(第二アリーナ)	バトンパスで記録を縮める
4	「投げる」の授業作りをやる(第二アリーナ)	投げる動作習得の重要性と様々な投げ
5	マット運動1(第二アリーナ)	グループ学習で前転V字バランス
6	マット運動2(第二アリーナ)	側転の指導と習熟
7	マット運動3(第二アリーナ)	音楽マット発表会
8	マット運動4(第二アリーナ)	側転の試験
9	フラッグフットボール1(第二アリーナ)	on the ballとoff the ballの動き
10	フラッグフットボール2(第二アリーナ)	2対2からの展開
11	バスケットボール1(第二アリーナ)	30秒ショットとスコアリング、試しのゲーム
12	バスケットボール2(第二アリーナ)	ゲーム様相を先回りする。二人のコンビネーションからのパス・シュート
13	サッカーを教材化する(第二アリーナ)	空間の変化とアフオーダンス
14	縄跳びの授業 (第二アリーナ)	縄跳びを表現運動に位置づける。ダブルダッチ
15	ボールの授業とまとめ(教室)	体育理論ースポーツを文化としてとらえる

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	各教材で教えるべき内容とその方法を問います。
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	50 %	出席と実技試験で評価します。
出席については厳しく取り扱います。実技試験はP・Fです。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

適宜授業で紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目

初等体育科教育法 (SA)

12287

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、小学校体育の概論的かつ実践的な位置づけにある。前半では小学校の体育授業を営むために教材作りを学習する。後半では、自ら指導案を作って授業を実践しそれに対する評価活動を通じて、教師自身の成長のための授業研究の方法を理解する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ① 体育授業とスポーツ少年団などで行われているスポーツ活動との違いがわかること。
- ② グループ学習の仕組みがわかること。
- ③ 授業を設計し、マネジメントを行う基礎がわかること。
- ④ 授業を評価するポイントがわかること。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

初等体育

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションとグルーピング(教室)	戦後体育科教育の目標の変遷と今時改訂学習指導要領
2	マット運動1(第一アリーナ)	グループ学習と前転V字バランス
3	マット運動2(第一アリーナ)	側転の系統指導と「側転の習熟」
4	マット運動3(第一アリーナ)	音楽マット「タンポポ開いた」発表会
5	体育授業を創る(教室)	種目の選択と指導案の収集
6	体育授業を評価する1(教室)	作成された体育の指導案の検討
7	教場の確認と指導案の最終確認(第一アリーナ)	指導の流れの確認
8	指導案の完成と教具の準備(教室)	指導案の完成, 教具の準備など
9	模擬授業1(第一アリーナ)	
10	模擬授業2(第一アリーナ)	
11	模擬授業3(第一アリーナ)	
12	音楽マットと模擬授業の結果とその検討(教室)	
13	体育と道徳の批判的検討(教室)	しつけ・態度形成
14	体育授業を作るということ(教室)	全体のまとめ
15	実技試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

模擬授業に関わっては、指定された以外の文献や雑誌を当たることが望ましい。また、日頃から新聞やネット上で教育界の動向について敏感に反応しておくこと。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	体育授業を構成するために必要な知識や能力を問う。
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	60 %	マット運動関連20%, 模擬授業とその省察20%, 平常点20%

出席や遅刻については厳しく取り扱います。実技テストはP・Fで評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『体育授業を観察評価する』

高橋健夫他 / 明和出版 / 9784901933032 /

参考文献については、授業において指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

実技に関わって試験をします。

拡張項目

福祉発達史 (S)

16452

担当者名 / Instructor 密田 逸郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

従来の正規雇用を前提とした社会福祉・社会保障は、1990年代以降の正規雇用から非正規雇用への転換によって綻びを呈してきています。本講義では、貧困救済から始まったイギリスの社会福祉を出発点として、世界と日本の社会福祉の発達を概観します。その過程において、歴史を動かす原動力となったものは何か、人々の状況はどうであったかなどを考え、社会福祉の変遷が現在及び未来に伝えていくことは何なのかを学びます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

今日、私たちにとって社会保障・社会福祉制度は、必要不可欠な生活の条件となっています。この講義では、社会保障・社会福祉制度の生成・発展の歴史的展開をたどるなかで、社会保障・社会福祉の理念、本質、機能について学びます。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会福祉発達史を学ぶ意義	
2	ヨーロッパにおける前近代(古代～中世)の貧困救済	古代奴隷制、中世農奴制
3	イギリス絶対王政下での貧困救済	エリザベス救貧法、博愛事業
4	市民革命期の貧困救済	ワークハウス法、居住地法
5	産業革命期の貧困救済	新救貧法、スピーナムランド、慈善事業
6	第1回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性があります。
7	社会事業の組織的展開	社会事業、社会改良、COS
8	ドイツにおける社会保障・社会福祉の歴史的特質	「鉛と鞭」、ビスマルク
9	第二次世界大戦後における社会福祉の展開過程	ベヴァリッジ報告、所得保障
10	社会保障・社会福祉の理念の確立、世界的広がり	社会保障憲章、ILO
11	日本における社会保障・社会福祉の発展	恤救規則、救護法
12	日本における年金制度の成立過程①	公的年金のはじまり、船員保険法、相互扶助
13	日本における年金制度の成立過程②	日中戦争、アジア・太平洋戦争、労働者年金保険法
14	日本における戦後から今日までの年金制度③	国民年金法、財政投融资
15	第2回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性があります。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容の理解度を評価します。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	30 %	前半、後半に1回ずつ計2回の検証テストを行います。配点は1回を15点とします。また、毎回コミュニケーションペーパーの提出を求めます。

・DVD映画などによってできるだけ興味をもてるよう努めます。
・検証テストは、授業の進捗によって実施時期を変更する場合、あるいはレポートに変更する場合があります。
・出席を重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

世の中の動きに関心を持ってください。新聞を読むことをお勧めします。

教科書 / Textbooks

- ・テキストは使用せず、随時、レジュメ・資料等を配布します。
- ・授業において適宜提示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉の歴史	高島進 / ミネルヴァ書房 / 9784623025794 /

- ・高島進著『社会福祉の歴史』は入手困難となっていますが、図書館には所蔵されています。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

itsuro@mbox.kyoto-inet.or.jp

その他 / Other

講義中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。受講生としての最低限のマナーを守ってください。

拡張項目

Comparative Society (SB)

13303

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

We live in a media-saturated world: advertising, communication, information, and entertainment. This vast infiltration into our everyday lives means that the media not only provide communication and entertainment, but the media now also shape the way we conceptualize ourselves and the world around us. For societal observers, the media can therefore serve as valuable sources for examining other cultures and societies. In this class students will take on the role of cultural observers and learn about North American culture and society by examining various forms of media from the United States and Canada.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- Students will develop the analytical skills necessary for critically interpreting various types of media (advertisements, newspapers, film, etc.).
- Students will enhance their English reading, writing, speaking, and listening skills.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Course Introduction	media, media-saturated society
2	What is Media Literacy?	media literacy
3	Key Concepts of Media Literacy	representation
4	Media and Audience	audience, encoding and decoding
5	Advertisement (1) TV Commercials	codes, roles of TV commercials
6	Advertisement (2) Branding and Consumer Culture	brand royalty
7	Advertisement (3) Marketing to Children	target audience
8	Media Representation and Identity (1) Gender	stereotype, gender
9	Media Representation and Identity (2) Race and Ethnicity	Self and Other, race, ethnicity
10	Violence in Media (1)	Violence in children's media
11	Violence in Media (2)	Violence in action films and video games
12	Media Education (1)	Media education in Canada
13	Media Education (2)	Media education in Japan
14	Student Presentation (1)	
15	Student Presentation (2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Each class will start with a student presentation on selected readings, followed by discussion, a lecture by the instructor, and media analysis activities. Students are expected to come to class with careful preparation: finish reading assignments and familiarize yourself with topics in advance in order to actively participate in discussion.

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	Participation and Weekly Assignments (50%) Presentation (25%) Final paper (30%)

For the participation grade, class attendance is not sufficient. Students are expected to actively participate in discussion and media

analysis activities in class.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

The reading list will be distributed in class.

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
Representation: Cultural Representations and Signifying Practices	Stuart Hall (Ed) / SAGE / 0761954325 /
Media Education: Literacy, Learning and Contemporary Culture	David Buckingham / Polity Press / 0475628303 /
Mass Media and Popular Culture (Version 2)	Barry Duncan / Harcourt Brace / 0774701706 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference**授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)**

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other**拡張項目**

初等社会科教育法 (SA)

12290

担当者名 / Instructor 中西 仁

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

授業スケジュールの前半は、社会科の目標、歴史、生活科との違い、現行学習指導要領に定められた小学校社会科の目標及び内容、学習指導要領に沿った年間指導計画の作成など小学校社会科指導の基礎的知識・技能について学ぶ。後半は、「教材」「基礎・基本」「個に応じた指導」「問題解決能力」「評価」などに焦点を当て、実際に社会科の指導を行う際のポイントについて、実践例を通して考える。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ①小学校社会科の目標及び内容を理解できる。
- ②小学校社会科の指導計画作成・授業実践・評価のポイントが理解できる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	小学校社会科授業を振り返る	社会科授業体験
2	社会科のあゆみ	社会科教育史
3	社会科の目標	公民的資質
4	社会科でつきたい力	社会認識
5	学習指導要領1	改訂の要点
6	学習指導要領2	各学年の目標・内容
7	授業実践に学ぶ1	教材開発
8	授業実践に学ぶ2	地域教材
9	授業実践に学ぶ3	子どもとのやりとり
10	授業実践に学ぶ4	ロールプレイ
11	授業実践に学ぶ5	調べ学習
12	社会科授業づくり1	教材研究
13	社会科授業づくり2	授業構想
14	社会科授業づくり3	学習指導案
15	社会科授業づくり4	模擬授業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	実際の小学校社会科授業で実施可能な授業を設計できるか。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	60 %	・きちんと授業に出席した上で、講義中に適宜行う話し合いやプレゼンテーションなどの学習活動に積極的に参加する。 ・講義内容に関するミニレポート作成などにおいて、講義内容を理解した上で、自らの意見や考えをまとめることが出来る。
出席重視。2/3以上の出席が無い者は、上記の課題の成績如何に関わらず単位を認めない。 出席は授業開始後すぐにとる。20分以上の遅刻は欠席扱いとする。遅刻2回で欠席1回とカウントする。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職につくための知識・技能を習得する授業であると同時に、教職に対するキャリア開発の授業と考えているので、教職にふさわしくない受講態度は謹んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会 6上	／東京書籍／／小学校検定教科書
小学校学習指導要領社会編	／文部科学省／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目

日本語教授法演習 (LA)

15580

担当者名 / Instructor 丸山 敬介

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

互いが模擬教師・模擬学習者になって、初級段階の日本語指導の実験を経験してみる。

授業は、まず教師が指導の手順や留意点を示し、次にそれにしたがって各学生が模擬教師・模擬学習者になって指導してみる、というのを基本形とする。前半は個々の項目の指導、後半は実際の日本語教科書に沿った指導を行う。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

日本語教育初級段階の指導の基礎的技術を習得する。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

日本語教授法基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~5	履修上の留意点 ひらがな指導演習	
6~10	動詞の活用指導演習	
11~13	「こそあ」の指導演習	
14~15	あげもらいの指導演習	
16~30	初級段階の指導の基礎	模擬実習

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

必要に応じ、都度の指示を行う。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	一人ひとりが教壇に立つため、一度欠席するとその事柄についてはキャッチ・アップが難しくなる。したがって、全時数を通して出席を見る。 加えて、前半は、各自、各回、いかに積極的に授業に参加したかを評価する。後半は、グループに分け、そのグループごとに実習を行うが、その実習の様をもって評価の対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実践を重視する授業なので、各自の積極的な参加を期待する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教えるためのことばの整理 1	丸山敬介 / 京都日本語教育センター / /
授業の組み立て	丸山敬介 / 京都日本語教育センター / /
教え方の基本 改訂版	丸山敬介 / 京都日本語教育センター / /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

その他 / Other

拡張項目

憲法 I (JC)

17845

担当者名 / Instructor 植松 健一

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

憲法の総論・歴史と、基本的人権に関する部分を扱います。

スタイルとしては、現段階での代表的な憲法概説書である芦部信喜『憲法[第5版]』(岩波書店)の記述内容について、まずは正確に理解した上で、憲法の他のテキストや裁判例を参照にしながら、教科書を「批判的に」読み直すスタイルをとります。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・諸外国の制度や大日本帝国憲法との比較という視点も踏まえながら、日本国憲法の基本的人権に関する基本的な枠組みを理解します。その際には、政治的動態との関係を常に意識できる思考能力を修得します。
- ・基本的人権に関する主要な概念(「公共の福祉」や「私人間適用」などの基礎理論から、個人人権条項の制度趣旨やそれらに関する違憲審査基準まで)を自ら使いこなせるまでに理解します。
- ・該当部分に関する重要判例の事実経緯と判旨を内在的に理解すると同時に、当該判例を批判的に解読する能力を身につけます。(ちなみにS大法学部出身の現首相は法学部生であれば当然知っているべき「芦部信喜」という名前をご存じなかったようなので(じゃええ!))、この授業を通じて皆さんは内閣総理大臣以上の憲法に関する知識を獲得できるわけです)

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

- ①日本と西欧の近現代史の知識を有していた方が授業の理解は早いです。
- ②法学入門・政治学入門などの導入的科目で学んだことは、きちんと知的栄養としておくこと。
- ③基礎演習のテキストの靖国問題やピラ配り規制の事案の章(もし演習内で扱わなかった場合でも、テキストとして「読み応え」はあるので目を通しておくこと)。
- ④同時期に並行しての履修となりますが、ケース&ライティングで学ぶスキルは、さっさく、この授業の期末試験で実践してみるとよいでしょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	憲法学事始め	憲法学習の魅力とコツ、芦部信喜、そもそも「憲法」とは何か
2	近代憲法の展開	中世型立憲主義、近代憲法から現代憲法へ
3~4	明治憲法史①②	大日本帝国憲法の構造と運用、天皇機関説論争
5~6	日本国憲法成立の経緯と法理③④	8月革命説、押しつけ憲法批判
7	国民主権	主権の意義と構造、ナシオンとプーブル、主権論争
8	天皇制	象徴の意味、国事行為の助言と承認、公的行為?
9	非武装平和主義	非武装平和主義の憲法史的意義、憲法9条の解釈上の論点、9条裁判
10~11	11 基本的人権の歴史・「人間像」・分類①②	自由権から社会権へ、人権の国際的保障、「強い個人」か「弱い個人」か人権の分類の意義と相対性、制度的保障論
12~13	人権の享有主体①②	法人の人権、外国人の人権
14	14 人権の制約根拠と違憲審査基準	「公共の福祉」の解釈、比較衡量論、二重の基準論
15~16	「人権の私人間適用」の法理①②	私人間効力論
17~18	包括的基本権(憲法13条)	幸福追求権、新しい人権
19~20	法の下での平等(憲法14条)	形式的平等と実質的平等、平等に関する諸判例
21	思想の自由(憲法19条)	思想の自由の意義と保障範囲、日の丸・君が代裁判
22	信教の自由と政教分離(憲法20条)	信教の自由と政教分離原則の沿革、信教の自由と政教分離原則の関係、政教分離をめぐる判例動向
23~25	表現の自由・結社の自由①~③(憲法21条)	表現の自由の優越性、表現の自由規制の法理、結社の自由
26	26 職業選択の自由・居住・移転の自由(憲法22条)	「営業の自由」、経済的自由制限の二分論と判例動向
27	27 財産権(憲法29条)	財産権の歴史的沿革と意味、公用収用と損失補償
28	適正手続の保障(憲法31条)・裁判を受ける権利(憲法32条)	デュー・プロセスという発想の重要性、告知・聴聞、実効的な権利救済
29~30	社会権①②(憲法25~28条)	社会権の法的性格、生存権、教育を受ける権利、労働基本権・団結権

上記授業概要の趣旨からして、教科書の該当部分を事前に一読しておくことは必須です。詳細な資料も配布する予定ですが、より自分にとってわかりやすいノートを作成するスキルと習慣を身につけましょう。

学習の際は、教科書の記述、最高裁の判例、授業での私の説明(!)を「受け売り」するのではなく、「ホンマかいな?」という「批判的視点」を常に失わないことが法律の学習にとっては大切だと思います。

授業内容がわからなくなったら、図書館に行って指定教科書以外の教科書をあれこれ「浮気」すると、案外とあなたの思考とフィーリングの会う「お相手」に出会えるかもしれません。

「法学セミナー」と「法学教室」は、図書館に行って(自分の興味のあるところをコピーするだけでもよいので)毎号目を通そう。もちろん新聞やニュースで政治問題へのアンテナを張っておくこと。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業内容に関する理解とその応用力の修得状況を問います。具体的な形式等は授業内で説明します。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	20 %	確認的な小テストを1回実施します。また、不定期に質問票を回収しますが、内容次第でポイントを加算します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 出欠はとりませんが、試験の設問は授業内容を反映したものに なります。

(関西私大の雄・立命館大学の看板「法学部」のJCクラスの学生さんにはよもやそのような不逞の輩はいないとは思いますが)「私語」「途中入退席」などにより他の受講生の学習権を侵害し(不法行為!)、私の講義パフォーマンスを低下させるような(業務妨害!)「公共の利益」を害する行為は、当然ながら厳禁です。この点については厳しく処断しますので自重してください。

* これも当然のことですが、私が「ここは大切」といった点は本当に「大切」なので、とくに集中して聴きましょう。

* ある統計によれば、大教室の場合、真ん中より前と後ろでは、前席によく座る受講生の方が成績はよいそうです(根拠には諸説あり)。早めに教室に入り、良い席(ここでいう「良い」とは決して居眠りしやすい席を意味しない)を確保することで、貴重な90分を費やして授業に出る費用対効果が倍増します。

* 授業時間割が1限と3限なので、10分前には教室に入ることを心がけてみてください。必ず成績が上がることを約束します。ついでにいえば、終了後5分以内に、ノートを見返して授業を頭の中で「再現」してみてください(その際に不明な部分は当然でてるでしょうが、それは質問するなり、あとで教科書をゆっくり読み直す)。それだけで期末試験直前3時間分の学習効果が上がることを保証します。

* 判例に関する部分では、自分が当事者(原告、代理人・弁護士、および裁判官)だったらどういう主張を展開するかといった意識で聴講すると興味がわくでしょう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法〔第5版〕	芦部信喜(高橋和之補訂) / 岩波書店 / 978400022781 /
憲法判例集〔第10版〕	野中俊彦・江橋崇 / 有斐閣 / 9784641091580 /

①概要でも述べたように、教科書をベースに解説をするので、適宜必携です。

②あわせて、どの出版社でもよいので、コンパクトな六法を携帯すること。

③憲法 I では、判例がたくさん出てきますので、指定した憲法判例集も必携してください。2冊本の「百選」より値段的にはお得(1000円+税)でコンパクト。

なお、携帯代やら美容院代やらには惜しみなく出費しながら、こと書籍代になると、「お金がない」といって、けちろうとする輩がいます(学生時代の感覚としては理解はできるけど)感心できません。料理を究めようと思ったら品質の良い包丁や鍋は必要です(それだけでもダメでしょうが)、テニスを上達したいなら少なくとも「マイ・ラケット」「マイ・シューズ」でなければなりません。法律学習もそれと同じです。自分への将来の投資だと思えば、高い買い物ではありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法学教室〔全訂 第2版〕	浦部法穂 / 日本評論社 / 4535515190 / もし、芦部教科書でつまづいたら、図書館でこの本を手にとってみよう。
憲法入門	市川正人・倉田原志 / 法律文化社 / 9784589033970 / 立命館法学部憲法スタッフ陣が結集した、読みやすく・おもしろい憲法入門書。当然、植松の問題関心も表れているので、試験対策には備えておきたい。

他にも憲法の入門書・基本書はたくさんあります。お気に入りの服を選ぶときの試着のように、とにかく図書館であれこれ読み比べてみることに。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

授業時間帯が1限と3限なので、授業開始時間前を質問タイムとします。私も原則20分前には教室に入りますので、その時間を有効活用してください(授業後は次の授業との入れ替えがあるので質問に対応できません)。

その他 / Other

拡張項目

(選択)英語UBC・JP作文 (UC)

15171

担当者名 / Instructor SELZER MARK

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course will prepare students for academic writing and reading skills for their studies on the Ritsumeikan–University of British Columbia Joint Program.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

Students will learn the fundamentals of academic essay writing. This will include: learning how to identify and write various types of academic essays; learning how to structure each of the individual paragraphs within an essay; and learning how to assemble paragraphs into a cohesive whole. In addition, students will read a variety of academic articles that will serve as source material for their writing, help to develop their analytical skills, improve their comprehension ability, and expand their vocabulary base.

They will also learn other basic academic skills, such as avoiding plagiarism, APA documentation style, integrating sources, referencing, interpreting and describing graphs, charts, statistics, etc.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

Students are encouraged to attain basic skills in using Microsoft Word (e.g. how to change margins, spacing options, inserting page numbers, etc.) before they start their study at UBC. It is also recommended to start reading authentic materials on a regular basis, including newspapers and news websites. It would also be a good idea to explore the UBC website (<http://www.ubc.ca>) to get a better idea of what the university has to offer.

See also the Web Pages Useful for Reference below.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~2	Course overview & introductions Writing Lab	introductions
3~4	Unit 1 International student Writing Lab	informal descriptions
5~6	Unit 2 Where in the world . . . ? Writing Lab	country descriptions
7~8	Unit 3: Newspaper articles Writing Lab	article writing
9~10	Unit 4: Modern technology Writing Lab	discursive essays
11~12	Unit 5: Conferences and visits Writing Lab	formal letters
13~14	Essay exam questions Mid-term evaluation	exam
15~16	Unit 6: Science and our world Writing Lab	summaries
17~18	Unit 7: People: past and present Writing Lab	research
19~20	Unit 8: The world of IT Writing Lab	writing notes
21~22	Unit 9: Inventions discoveries and processes Writing Lab	process descriptions
23~24	Unit 10: Travel and tourism Writing Lab	vocabulary variety
25~26	Academic research and avoiding plagiarism Writing Lab	plagerism
27~28	The Research Paper Writing Lab	paper
29~30	The Research Paper ctd. End of Term Evaluation	paper, exam

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Some adjustments to the syllabus are likely during the semester. The paper syllabus given to you by your instructor in class supersedes anything listed here.

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、
平常点評価

100 % Daily Participation: 25%

Mid term Test: 25%

End of Term Test Examinations 25%

Final Paper: 25%

Students are expected to attend all classes. Students who anticipate an absence for a legitimate reason should contact the instructor as soon as possible. Should they be obliged to miss a class, students should contact the instructor or a classmate to find out about homework and other essential information; Being absent is not an acceptable excuse for not submitting coursework on time.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Warning against Plagiarism:

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation. Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Headway Academic Skills: Reading, Writing and
Study Skills. Level 2

Philpot, S./Oxford University Press/978-0-19-474160-6/

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference**

UBC Learning Commons. <http://learningcommons.ubc.ca/>

A+ Research and Writing. <http://www.ipl.org/div/aplus/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

Office: Shogakukan 841

Email: mzelzer@ir.ritsumeai.ac.jp

Web: <http://mzelzer.tripod.com>

その他 / Other**拡張項目**

全学インターンシップ (GD)

54510

担当者名 / Instructor 山口 洋典

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

グローバル化、テクノロジーの発展、人口構成の変化と長寿化、エネルギーと環境問題など、個人、家族、社会、様々なレベルで大きな変化が起こり、それに伴い社会への関わり、働き方も大きく変わりつつあります。そこで、「全学インターンシップ」では、サービスラーニングセンターとキャリア教育センターとの連携・協力のもと、特にNGO・NPOなど、社会問題の解決に取り組む団体へのインターンシップの機会を提供します。

サービスラーニングセンターによる「全学インターンシップ」では、自由で創造的な未来を築くためにはにはどのような社会へのかかわりが求められていくのか、社会問題解決に向けたイノベーションを実践するNGO・NPOでの活動を通して、「組織人」としてではなく「社会人」「地球人」としての社会への関わり、働き方を考えます。日ごろ学んでいる「専攻学問(あるいは、興味や関心をもっている学問領域)」が社会でどのように役立っているのか、その社会的な役割や意義を理解するとともに、学ぶ楽しさや面白さの気づきを、「幅広い業種での職場体験」を通じて検証します。

授業は、事前研修、年間最低36時間、標準42時間の集中したインターン先での活動、中間・事後振り返りの一連の過程を通じ、サービスラーニングの手法を用いて、授業を進めます。仕事と暮らし、教養と専門をつなぐ学びを導き、将来のライフキャリアを考えるきっかけにしてください。なお、インターンシップ活動は、原則として、授業のない夏季休業中に実施されます。

※この授業は予備登録科目です(予備登録期間:4/25(木)～5/9(木)11:00)

予備登録用HPアドレス→ <http://www.ritsumeai.ac.jp/slc/>

受講許可発表:5/10(金)13:00 サービスラーニングセンター各キャンパス窓口にて

1回目の授業(オリエンテーション含む)を予備登録締切前・受講許可発表前に行います。以下の3回の授業のうち、いずれか1回必ず出席してください。授業内容は各回ともすべて同じです。

1. 日時:4/23(火)4限 場所:諒822
2. 日時:4/30(火)2限 場所:志141
3. 日時:5/2(木)6限 場所:諒822
4. 日時:5/7(火)3限 場所:恒732(追加開催)

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- (1)NPOが取り組む社会問題を知り、大学での学習・研究との関連を考え、専攻学問での課題を発見する。
- (2)自分自身の将来の職業や生活を見据えてキャリアを考えることで、ライフデザインのきっかけを得る。
- (3)地域社会の問題を主体的に捉え、それに向けての解決を目指し、行動できるようになる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

地域参加学習入門、現代社会のフィールドワーク

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション:地域に入る上での気づきの準備	問いと記録
2	プレセミナー1:グローバル化で求められる社会への関わり	鳥の目(俯瞰)と虫の目(凝視)
3	プレセミナー2:社会とボランティア、NGO・NPO	セクター(領域)とパートナーシップ(関係構築)
4	プレセミナー3:社会と大学を結ぶプロセスデザインと活動のマッチング	目的(達成すべき学びの確認)と目標(果たすべき役割の確認)
5~7	インターンシップ(前半):知る・見る・わかる	(1)社会問題の発見、(2)自覚と責任、(3)専門性の確立
8	中間振り返り2:立ち止まる・見つめ直す	(1)目標の再設定、(2)悩みや苦しみへの共感(compassion)
9~11	インターンシップ(後半):支える・企てる・担う	(1)チームワーク、(2)意志と意味、(3)ロールモデル
12~13	アフターセミナー:グループワークを通じた共有体験からの共通言語化	(1)達成感と不全感、(2)自己評価と相互評価、(3)次の一手、(4)プレゼントとしてのプレゼンテーション
14~15	活動報告会:グループ・プレゼンテーション(1グループ15分程度)	(1)インターン活動で誰と共に誰に対して何をどこまで取り組んだのか?、(2)インターンが現場に関わることで現場の何が変わったか?、(2)設定した目標はどれくらい達成できたか?、(4)全体で得た学びは個々の受講生がどのように活かせるか?

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

インターンシップは「就業体験」とも言われるように、現場では業務に従事します。そのため、日々の記録が極めて重要である。そのため、平常点評価の素材の中心として、インターンシップにおける業務記録を特に重視します。なお、記録の付け方については、オリエンテーション及びプレセミナー3で、詳しく説明します。

- オフィスアワー:火曜昼休み、3限 前期:恒732 後期:洋980

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	日常点(ガイダンス、事前研修、中間振り返り、事後振り返りへの出席状況、実習成果)、インターンシップにおける業務記録、最終レポート、その他受け入れ団体担当者による評価等から、総合的に判断する。

この科目では、授業の一環にインターンシップを組み込んだ授業としているため、受講生がインターン先を指定することはできません。そのため、インターン先はサービスラーニングセンター事務局スタッフの支援のもと、担当教員と受入先と受講生によるマッチング(相互調整・協議・すりあわせ)を経て決定します。なお、マッチングにあたっては、本科目で設定された到達目標に対して、インターンシップがどのような経験知をもたらすことによって個々の関心が深められるかを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

企業と違って、NPO・NGOでインターンするということはどういうことか、そもそもNGO・NPOで「働く」という選択肢はありうるのか、疑問に思う場合もあるでしょう。しかし、世の中には多様な働き方、そして生き方、また死に方があります。少なくとも、この授業でのインターンを通じて携わる現場では、それぞれが世の中に根差す複雑な問題を自分事として捉え、その解決に向けて行動する人々との出会いから気づきと学びを得ることになるでしょう。例えば、誰もが問題解決の担い手になることができるということは、米国の起業家、デレク・シヴァーズ氏による「社会運動はどうやって起こすか」http://www.ted.com/talks/lang/ja/derek_sivers_how_to_start_a_movement.html が教えてくれます。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO NGO辞典:市民社会の最新情報とキーワード.	山内直人他(編著) / NPO研究情報センター / 9784879746641 /
よくわかるNPO・ボランティア	川口清史・新川達郎・田尾雅夫編 / ミネルヴァ書房 / 9784623040988 /
ワーク・シフト — 孤独と貧困から自由になる働き方の未来図(2025)	リンダ・グラットン / プレジデント社 / 9784833420167 /
ハーバードケネディスクールからのメッセージ	池田洋一郎 / 英治出版 / 9784862760470 /
ボランティアの知:実践としてのボランティア研究	渥美公秀 / 大阪大学出版会 / 9784872591019 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

立命館大学サービスラーニングセンターホームページ <http://www.ritsumeai.ac.jp/slc/>
 google <http://www.google.co.jp>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
 manaba+R / Learning Management System (manaba+R)
 学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

場合によってはFacebook等を用いることがあります。

拡張項目

全学インターンシップ (GE)

54511

担当者名 / Instructor 桑名 恵

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

グローバル化、テクノロジーの発展、人口構成の変化と長寿化、エネルギーと環境問題など、個人、家族、社会、様々なレベルで大きな変化が起こり、それに伴い社会への関わり、働き方も大きく変わりつつあります。そこで、「全学インターンシップ」では、サービスラーニングセンターとキャリア教育センターとの連携・協力のもと、特にNGO・NPOなど、社会問題の解決に取り組む団体へのインターンシップの機会を提供します。

サービスラーニングセンターによる「全学インターンシップ」では、自由で創造的な未来を築くためにはにはどのような社会へのかかわりが求められていくのか、社会問題解決に向けたイノベーションを実践するNGO・NPOでの活動を通して、「組織人」としてではなく「社会人」「地球人」としての社会への関わり、働き方を考えます。日ごろ学んでいる「専攻学問(あるいは、興味や関心をもっている学問領域)」が社会でどのように役立っているのか、その社会的な役割や意義を理解するとともに、学ぶ楽しさや面白さの気づきを、「幅広い業種での職場体験」を通じて検証します。

授業は、事前研修、年間最低36時間、標準42時間の集中したインターン先での活動、中間・事後振り返りの一連の過程を通じ、サービスラーニングの手法を用いて、授業を進めます。仕事と暮らし、教養と専門をつなぐ学びを導き、将来のライフキャリアを考えるきっかけにしてください。なお、インターンシップ活動は、原則として、授業のない夏季休業中に実施されます。

※この授業は予備登録科目です(予備登録期間:4/25(木)～5/9(木)11:00)

予備登録用HPアドレス→ <http://www.ritsumeai.ac.jp/slc/>

受講許可発表:5/10(金)13:00 サービスラーニングセンター各キャンパス窓口にて

1回目の授業(オリエンテーション含む)を予備登録締切前・受講許可発表前に行います。以下の3回の授業のうち、いずれか1回必ず出席してください。授業内容は各回ともすべて同じです。

1. 日時:4/23(火)4限 場所:諒822
2. 日時:4/30(火)2限 場所:志141
3. 日時:5/2(木)6限 場所:諒822
4. 日時:5/7(火)3限 場所:恒732(追加開催)

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- (1)NPOが取り組む社会問題を知り、大学での学習・研究との関連を考え、専攻学問での課題を発見する。
- (2)自分自身の将来の職業や生活を見据えてキャリアを考えることで、ライフデザインのきっかけを得る。
- (3)地域社会の問題を主体的に捉え、それに向けての解決を目指し、行動できるようになる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

地域参加学習入門、現代社会のフィールドワーク

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション: 地域に入る上での気づきの準備	問いと記録
2	プレセミナー1: グローバル化で求められる社会への関わり	鳥の目(俯瞰)と虫の目(凝視)
3	プレセミナー2: 社会とボランティア、NGO・NPO	セクター(領域)とパートナーシップ(関係構築)
4	プレセミナー3: 社会と大学を結ぶプロセスデザインと活動のマッチング	目的(達成すべき学びの確認)と目標(果たすべき役割の確認)
5~7	インターンシップ(前半): 知る・見る・わかる	(1)社会問題の発見、(2)自覚と責任、(3)専門性の確立
8	中間振り返り2: 立ち止まる・見つめ直す	(1)目標の再設定、(2)悩みや苦しみへの共感(compassion)
9~11	インターンシップ(後半): 支える・企てる・担う	(1)チームワーク、(2)意志と意味、(3)ロールモデル
12~13	アフターセミナー: グループワークを通じた共有体験からの共通言語化	(1)達成感と不全感、(2)自己評価と相互評価、(3)次の一手、(4)プレゼントとしてのプレゼンテーション
14~15	活動報告会: グループ・プレゼンテーション(1グループ15分程度)	(1)インターン活動で誰と共に誰に対して何をどこまで取り組んだのか?、(2)インターンが現場に関わることで現場の何が変わったか?、(2)設定した目標はどれくらい達成できたか?、(4)全体で得た学びは個々の受講生がどのように活かせるか?

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

インターンシップは「就業体験」とも言われるように、現場では業務に従事します。そのため、日々の記録が極めて重要である。そのため、平常点評価の素材の中心として、インターンシップにおける業務記録を特に重視します。なお、記録の付け方については、オリエンテーション及びプレセミナー3で、詳しく説明します。

オフィスアワー: 火曜2限 前期: 志141 後期: 洋978
火曜昼休み 前期: 志141 後期: 洋978

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	日常点(ガイダンス、事前研修、中間振り返り、事後振り返りへの出席状況、実習成果)、インターンシップにおける業務記録、最終レポート、その他受け入れ団体担当者による評価等から、総合的に判断する。

この科目では、授業の一環にインターンシップを組み込んだ授業としているため、受講生がインターン先を指定することはできません。そのため、インターン先はサービスラーニングセンター事務局スタッフの支援のもと、担当教員と受入先と受講生によるマッチング(相互調整・協議・すりあわせ)を経て決定します。なお、マッチングにあたっては、本科目で設定された到達目標に対して、インターンシップがどのような経験知をもたらすことによって個々の関心が深められるかを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

企業と違って、NPO・NGOでインターンするということはどういうことか、そもそもNGO・NPOで「働く」という選択肢はありうるのか、疑問に思う場合もあるでしょう。しかし、世の中には多様な働き方、そして生き方、また死に方があります。少なくとも、この授業でのインターンを通じて携わる現場では、それぞれが世の中に根差す複雑な問題を自分事として捉え、その解決に向けて行動する人々との出会いから気づきと学びを得ることになるでしょう。例えば、誰もが問題解決の担い手になることができるということは、米国の起業家、デレク・シヴァーズ氏による「社会運動はどうやって起こすか」http://www.ted.com/talks/lang/ja/derek_sivers_how_to_start_a_movement.html が教えてくれます。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO NGO辞典: 市民社会の最新情報とキーワード	山内直人他(編著) / NPO研究情報センター / 9784879746641 /
よくわかるNPO・ボランティア	川口清史・新川達郎・田尾雅夫編 / ミネルヴァ書房 / 9784623040988 /
ワーク・シフト — 孤独と貧困から自由になる働き方の未来図(2025)	リンダ・グラットン / プレジデント社 / 9784833420167 /
ハーバードケネディスクールからのメッセージ	池田洋一郎 / 英治出版 / 9784862760470 /
ボランティアの知: 実践としてのボランティア研究	渥美公秀 / 大阪大学出版会 / 9784872591019 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

立命館大学サービスラーニングセンターホームページ <http://www.ritsumeai.ac.jp/slc/>
google <http://www.google.co.jp>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
manaba+R / Learning Management System (manaba+R)
学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

場合によってはFacebook等を用いることがあります。

拡張項目

社会福祉援助技術演習Ⅱ (SC)

18060

担当者名 / Instructor 津止 正敏、南本 宜子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本演習は、集団指導ならびに個別指導による実技指導を通して、学生の現場実習における体験を一般化するとともに、3回生の演習・実習で学んだことを発展させて相談援助についてのより高度な知識・技能を習得することをめざすものである。したがって、「演習Ⅱ」は、これまでの実習・演習での各自の学びと体験を振り返り、社会福祉に関する知識を含め、それらを一般化することを試み、社会福祉士としての相談援助に必要な知識と技能を習得するための総合的な演習と位置づけている。

なお、この授業では、途中で担当者が交代して様々な領域の事例検討を行う。(スケジュールが一部変更する可能性がある)。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 相談援助に関わる知識と技能を、文献および事例を通じ、その学びを深める。
2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両面から、相談援助の具体的方法を理解し、実践することの重要性を認識する。
3. 社会福祉実践の基礎的な理解に加え、これまでの実習・演習での個別の学びと体験を一般化し、実践を理論化することに取り組む。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回: 授業の概要と導入	
	第2回: 事例を通じた学び1-①	
	第3回: 事例を通じた学び1-②	
	第4回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割1-①	
	第5回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割1-②	
	第6回: 事例を通じた学び2-①	
	第7回: 事例を通じた学び2-②	
	第8回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割2-①	
	第9回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割2-②	
	第10回: 事例を通じた学び3-①	
	第11回: 事例を通じた学び3-②	
	第12回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-①	
	第13回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-②	
	第14回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-③	
	第15回: まとめ	【キーワード】貧困、障害、高齢、医療、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント、プランニング、介入、評価
	【後期】	
	第1回: 授業の概要と導入	
	第2回: 事例を通じた学び4-①	
	第3回: 事例を通じた学び4-②	
	第4回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割4-①	
	第5回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割4-②	
	第6回: 事例を通じた学び5-①	
	第7回: 事例を通じた学び5-②	
	第8回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割5-①	
	第9回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割5-②	

第10回:事例を通じた学び6-①

第11回:事例を通じた学び6-②

第12回:各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割6-①

第13回:各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割6-②

第14回:各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割6-③

第15回:まとめ

【キーワード】児童、家族、ジェンダー、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント、プランニング、介入、評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術演習Ⅱ (SB)

13250

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子、福嶋 正人

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本演習は、集団指導ならびに個別指導による実技指導を通して、学生の現場実習における体験を一般化するとともに、3回生の演習・実習で学んだことを発展させて相談援助についてのより高度な知識・技能を習得することをめざすものである。したがって、「演習Ⅱ」は、これまでの実習・演習での各自の学びと体験を振り返り、社会福祉に関する知識を含め、それらを一般化することを試み、社会福祉士としての相談援助に必要な知識と技能を習得するための総合的な演習と位置づけている。

なお、この授業では、途中で担当者が交代して様々な領域の事例検討を行う。(スケジュールが一部変更する可能性がある)。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 相談援助に関わる知識と技能を、文献および事例を通じ、その学びを深める。
2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両面から、相談援助の具体的方法を理解し、実践することの重要性を認識する。
3. 社会福祉実践の基礎的な理解に加え、これまでの実習・演習での個別の学びと体験を一般化し、実践を理論化することに取り組む。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回: 授業の概要と導入	
	第2回: 事例を通じた学び1-①	
	第3回: 事例を通じた学び1-②	
	第4回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割1-①	
	第5回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割1-②	
	第6回: 事例を通じた学び2-①	
	第7回: 事例を通じた学び2-②	
	第8回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割2-①	
	第9回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割2-②	
	第10回: 事例を通じた学び3-①	
	第11回: 事例を通じた学び3-②	
	第12回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-①	
	第13回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-②	
	第14回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-③	
	第15回: まとめ	【キーワード】貧困、障害、高齢、医療、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント、プランニング、介入、評価
	【後期】	
	第1回: 授業の概要と導入	
	第2回: 事例を通じた学び4-①	
	第3回: 事例を通じた学び4-②	
	第4回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割4-①	
	第5回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割4-②	
	第6回: 事例を通じた学び5-①	
	第7回: 事例を通じた学び5-②	
	第8回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割5-①	
	第9回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割5-②	

第10回:事例を通じた学び6-①

第11回:事例を通じた学び6-②

第12回:各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割6-①

第13回:各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割6-②

第14回:各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割6-③

第15回:まとめ

【キーワード】児童、家族、ジェンダー、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント、プランニング、介入、評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術演習Ⅱ (SA)

13249

担当者名 / Instructor 小川 栄二、木村 泰子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本演習は、集団指導ならびに個別指導による実技指導を通して、学生の現場実習における体験を一般化するとともに、3回生の演習・実習で学んだことを発展させて相談援助についてのより高度な知識・技能を習得することをめざすものである。したがって、「演習Ⅱ」は、これまでの実習・演習での各自の学びと体験を振り返り、社会福祉に関する知識を含め、それらを一般化することを試み、社会福祉士としての相談援助に必要な知識と技能を習得するための総合的な演習と位置づけている。

なお、この授業では、途中で担当者が交代して様々な領域の事例検討を行う。(スケジュールが一部変更する可能性がある)。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 相談援助に関わる知識と技能を、文献および事例を通じ、その学びを深める。
2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両面から、相談援助の具体的方法を理解し、実践することの重要性を認識する。
3. 社会福祉実践の基礎的な理解に加え、これまでの実習・演習での個別の学びと体験を一般化し、実践を理論化することに取り組む。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回: 授業の概要と導入	
	第2回: 事例を通じた学び1-①	
	第3回: 事例を通じた学び1-②	
	第4回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割1-①	
	第5回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割1-②	
	第6回: 事例を通じた学び2-①	
	第7回: 事例を通じた学び2-②	
	第8回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割2-①	
	第9回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割2-②	
	第10回: 事例を通じた学び3-①	
	第11回: 事例を通じた学び3-②	
	第12回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-①	
	第13回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-②	
	第14回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-③	
	第15回: まとめ	【キーワード】貧困、障害、高齢、医療、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント、プランニング、介入、評価
	【後期】	
	第1回: 授業の概要と導入	
	第2回: 事例を通じた学び4-①	
	第3回: 事例を通じた学び4-②	
	第4回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割4-①	
	第5回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割4-②	
	第6回: 事例を通じた学び5-①	
	第7回: 事例を通じた学び5-②	
	第8回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割5-①	
	第9回: 各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割5-②	

第10回:事例を通じた学び6-①

第11回:事例を通じた学び6-②

第12回:各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割6-①

第13回:各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割6-②

第14回:各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割6-③

第15回:まとめ

【キーワード】児童、家族、ジェンダー、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント、プランニング、介入、評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

授業の概要 / Course Outline

Cultural studies (CS) has become a very popular area of study and research in the past few decades. CS is the study of culture/cultures using 'interdisciplinary' methods which means to use diverse methods and ideas borrowed from such disciplines as sociology, anthropology, psychology, history, literary criticism, media studies, linguistics, philosophy, etc. It is also related to intellectual movements, such as Marxism, feminism and the studies of colonialism, postcolonialism, modernity, postmodernity, and so on.

This course explores the issues of 'culture, identity and representation' which are central to sociological debates and discussions. The course also looks at how culture works in the present day, how culture is represented, produced (and reproduced) and consumed. Students will learn the role of culture in social life/practices and how identity develops in a social context.

Emphasis will also be placed on skill development in English, use of the Internet for research, project development, and production of short oral and written tasks linked to cultural studies.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

Students are required to understand contemporary debates on culture and identity by using contemporary theories that are based on discussions of the role of culture and identity in society. Students should also acquire knowledge and academic skills in sociology through doing cultural studies.

Standards for Achieving Goal:

Students will:

- *become familiar with research methodology to support written and oral activities in cultural studies.
- *produce medium-length written reports and oral presentations that reflect a high standard of academic competence within the subject matter of cultural studies.
- *employ graphic, statistical and textual information in a variety of formats.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Week 1 Introduction to the course and overview	
	Week 2 Key issues in the study of culture	
	Week 3 The West and the rest: discourse, knowledge and power	
	Week 4 Discourse and power: representing 'the other' and Orientalism	<About group research>
	Week 5 Stereotyping	
	Week 6 Museums and exhibiting other cultures	Group research proposal due
	Week 7 Representations of gender and sexuality: femininities and masculinities	
	Week 8 <Group presentations>	
	Week 9 Representations of class and ethnicity	<About individual research>
	Week 10 Representations of otherness in advertisements	
	Week 11 The body and difference	
	Week 12 Varieties of identities and their uses	
	Week 13 <Presentations>	
	Week 14 <Presentations>	

Week 15
Final exam

<Research paper due>

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	1.Attendance & Participation:20% 2.Oral Assignment (Presentation):20% 3.Writing Assignment (Research papers):20% 4.Informal Evaluations(homework):20% 5.Formal Evaluation (Final exam):20%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Advice will be given in class.

教科書 / Textbooks

No set textbook is used for this course but handouts and other materials will be given in class.

参考書 / Reference Books

Information will be given in class.

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

Information will be given in class.

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

email

その他 / Other

拡張項目

授業の概要 / Course Outline

Cultural studies (CS) has become a very popular area of study and research in the past few decades. CS is the study of culture/cultures using 'interdisciplinary' methods which means to use diverse methods and ideas borrowed from such disciplines as sociology, anthropology, psychology, history, literary criticism, media studies, linguistics, philosophy, etc. It is also related to intellectual movements, such as Marxism, feminism and the studies of colonialism, postcolonialism, modernity, postmodernity, and so on.

This course explores the issues of 'culture, identity and representation' which are central to sociological debates and discussions. The course also looks at how culture works in the present day, how culture is represented, produced (and reproduced) and consumed. Students will learn the role of culture in social life/practices and how identity develops in a social context.

Emphasis will also be placed on skill development in English, use of the Internet for research, project development, and production of short oral and written tasks linked to cultural studies.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

Students are required to understand contemporary debates on culture and identity by using contemporary theories that are based on discussions of the role of culture and identity in society. Students should also acquire knowledge and academic skills in sociology through doing cultural studies.

Standards for Achieving Goal:

Students will:

- *become familiar with research methodology to support written and oral activities in cultural studies.
- *produce medium-length written reports and oral presentations that reflect a high standard of academic competence within the subject matter of cultural studies.
- *employ graphic, statistical and textual information in a variety of formats.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Week 1 Introduction to the course and overview	
	Week 2 Key issues in the study of culture	
	Week 3 The West and the rest: discourse, knowledge and power	
	Week 4 Discourse and power: representing 'the other' and Orientalism	<About group research>
	Week 5 Stereotyping	
	Week 6 Museums and exhibiting other cultures	<Group research proposal due>
	Week 7 Representations of gender and sexuality: femininities and masculinities	
	Week 8 <Group presentations>	
	Week 9 Representations of class and ethnicity	<About individual research>
	Week 10 Representations of otherness in advertisements	
	Week 11 The body and difference	
	Week 12 Varieties of identities and their uses	
	Week 13 <Presentations>	
	Week 14 <Presentations>	

Week 15
Final exam

<Research paper due>

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	1.Attendance & Participation:20% 2.Oral Assignment (Presentations):20% 3.Writing Assignment (Research papers):20% 4.Informal Evaluations(homework):20% 5.Formal Evaluation (Final exam):20%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Advice will be given in class.

教科書 / Textbooks

No set textbook is used for this course but handouts and other materials will be given in class.

参考書 / Reference Books

Information will be given in class.

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

Information will be given in class

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

email

その他 / Other

拡張項目

仕事とキャリア (GA) § 特殊講義(キャリア形成論Ⅱ) (GA) § キャリア形成特殊講義 (SB) § キャリア形成論Ⅱ (L)

14007

担当者名 / Instructor 加藤 敏明、山路 顕

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義には、水族館長、作家、行政マン、ベンチャー起業家など幅広い職業人が講師として登壇します。仕事(職業人生)の広がりや深く理解し、将来のキャリア形成に寄与する内容です。講義の終盤には、内定を獲得した在学生(JA)とともに、学生の目線で仕事観について考察します。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

立命館大学は全学横断的に「キャリア教育科目」を配置しており、本講義はその中に位置付けられます。各科目は、学生のキャリア発達に応じた段階的な到達目標を掲げていて、本講義は科学的に「仕事(職業人生)」をとらえるのが到達目標です。本講義には、ビジネスの第一線で活躍する学外講師がオムニバス形式で多数登壇し、仕事(職業人生)について深く考察します。プロフェッショナルたちの知見から、仕事(職業人生)への科学的な認識能力を大いに高めてほしいものです。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本講義と同じキャリア教育科目の「キャリア形成論Ⅲ」(3回生以上、前期配当科目)の受講や、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3回生以上後期配当科目)にもチャレンジしてください。また、「学びとキャリア」(1回生以上、前期配当科目)の受講も相乗効果が期待されます。さらに、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(3回生以上配当科目、BKC開講)も夏期集中講義として開講されますので、3回生以上でさらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマ / (導入) 大学の学びと職業人生1 (加藤)	概要 / キャリア発達段階における「自己理解」に続く「他者認識」のあり方について解説した上で、本講義の位置づけと学び方を教示する。
2	テーマ / 環境と動物保護 事前学習 (加藤)	概要 / 次週に登壇する水族館長による講義に備え、チームを編成し、環境と動物保護に関わる世界についてグループワークを通じ自学自習課題をたてる。
3	テーマ / 動物に関わる仕事 (鳥羽水族館館長)	概要 /好きなものを仕事にするのは、誰も理想的な姿であろう。ただし、趣味と仕事は根本的に異なる世界。動物の世界の仕事の専門性とそこから見える社会観について学ぶ。
4	テーマ / 環境に関わる仕事 事後学習 (加藤)	概要 / 前回講義を振り返り、環境に関わる仕事の社会的意義についてグループワークを通じ考察する。
5	テーマ / 行政と教育 事前学習 (加藤)	概要 / 次々週に登壇する文部科学省官僚による講義に備え、チームを編成し、行政と教育の関わりについてグループワークを通じ自学自習課題をたてる。
6	テーマ / 行政と教育 事前学習2 (加藤)	概要 / 前講義で提示された課題をもとに、グループワーク形式で行政と教育の在り方について考察を深め
7	テーマ / 行政から見た教育 (文部科学省官僚)	概要 / 中学校長に転身した元・官僚が講師。大胆な人生選択の契機とは何か、伸びやかな選択肢を持つ働き方、仕事観について学ぶ。
8	テーマ / フリーランスの世界 事前学習 (加藤)	概要 / 次週に登壇する作家による講義に備え、チームを編成し、フリーランスの世界についてグループワークを通じ自学自習課題をたてる。
9	テーマ / 作家という仕事 (作家)	概要 / 講師は本学の卒業生。女流作家として数多くの作品を世に出している。特に、現代的な社会事象に深く関わるテーマを追求し続けており、仕事観とともに独自の社会観、人生観についても解き明かす。
10	テーマ / 働き方としてのフリーランス 事後学習 (加藤)	概要 / 前回講義を振り返り、働き方としてのフリーランスについてグループワークを通じ考察する。
11	テーマ / 起業の世界 事前学習 (加藤)	概要 / 次週に登壇する起業家による講義に備え、チームを編成し、起業についてグループワークを通じ自学自習課題をたてる。
12	テーマ / 起業家という生き方 (ベンチャー起業家)	概要 / ベンチャー起業家が講師。会社に就職する「就社」から視野を押し広げ、職業人生の有力な選択肢に起業を加える意味について学ぶ。
13	テーマ / 生き方としての起業 事後学習 (加藤)	概要 / 前回講義を振り返り、ベンチャーマインド(起業精神)と精神的自律についてグループワークを通じて考察する。

14	テーマ/JA(ジュニアアドバイザー、内定確定4回生)を招いて	概要/JAとの双方向形式の授業。厳しい就職戦線をどのように勝ち抜くか、目指す仕事(職業人生)を達成するための実学。
15	テーマ/(総括)大学の学びと職業人生 (加藤)	概要/後半の4人の講師、およびJAから得た知見を総括し、グループワークを通じて内省化を図る。その成果をもとに、総括レポートを課す。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

いずれインターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	20 %	仕事(職業人生)の広がりを科学的にどのように認識し内省化できたかを中心に、筆記試験で検証します。なお、定期試験は評価の大前提ですから、必ず受験すること。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	80 %	①出席状況、②受講態度、③総括レポート(第15講)、の3要素をもとに「総合的」に評価します。ただし、評価の前提をなすのは「出席状況」です。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の前提条件は、出席要件です。いずれ受講生の皆さんが巣立つ先のビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。80%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ビジネスの第一線で活躍する学外講師が数多く登壇するのに伴い、事前・事後学習が用意されています。また、講義の開始時にコーディネーター教員が各講義の位置づけ、前後の講義との関連性などについて解説します。講義内容の多くは皆さんが将来キャリアを形成する際に大きな力となるものばかりですから、この機会にぜひ、専門的な知識ばかりでなくモノの見方、考え方を広げて欲しいものです。そのためにも、受け身とせず能動的な受講姿勢を心がけてください。受講ノートはしっかりと作成するように。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
working 仕事!	スタッズ・ターケル / 晶文社 / 4-7949-5661-4 c0036 / 115の職業、133人の職業人にインタビュー手法で迫る「仕事」の古典的名著。
インタビューという仕事!	スタッズ・ターケル / 晶文社 / 4-7949-5674-6 c0036 / 『WORKING 仕事!』の筆者が仕事の内幕に迫る。
13歳のハローワーク	村上 龍 / 幻冬社 / 4-344-00429-9 c0095 / 社会現象にもなった作家村上龍の話題作。

「仕事」の広がり内実に迫る国内外の定番書を紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

特に指定するものではありませんが、学外講師はいずれもビジネスの第一線で活躍する顔ぶれです。ホームページで検索すれば多くの情報が得られますので、講義の前に必ずチェックしてみてください。講師陣の英知を間近に感じ取ることができるはずです。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

インタラクティブシート / Interactive Sheet

学生との直接対話 / Talk with Students

本講義に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤(katoshi@fc.ritsumei.ac.jp)まで問い合わせてください。

その他 / Other

本講義が全学インターンシップ・プログラム関連科目であることから、受講を機に衣笠のインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。受講で得られた科学的な自己観や社会観を、インターンシップや就職活動に大いに生かしてほしいものです。

拡張項目

情報リテラシーⅢ (SD) § 情報処理 (SD)

13842

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Illustratorによるイラスト入門』...(SKクラスと同内容)

ドキュメント、Webページなど様々な場面で使われるイラストを、Adobe Illustratorを用い作成することを学ぶ。Illustratorは、まず慣れることが大切であるため、基本の解説の後、練習、実習、課題へとつなげていく。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

イラスト作成の基礎。
Illustratorの基本操作。
画像ファイルの基礎。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

パソコン操作の基本が習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	ペイントとIllustrator	(ビットマップ系とベクトル系) 画像形式
3	Illustrator 入門	(cmykとrgb/ブラシツール/オプション・バー)
4	Illustrator 入門 + 実習(1)ポスター	(カラー/Web用保存)
5	実習(1)内覧 + Illustrator 入門	(ペン・ツール/ベジエ曲線)
6	Illustrator 入門	(ペン・ツール/ベジエ曲線/塗りと線)
7	Illustrator 入門	(レイヤー/その他)
8	実習(2)-1	携帯デザイン
9	実習(2)-2	携帯デザイン
10	実習(2)-3	提出、印刷、組み立て=>展示
11	写真の利用。	デジカメなどによる写真の利用。
12	最終課題	ぱらぱらアニメ作成
13	最終課題	ぱらぱらアニメ作成
14	最終課題	ぱらぱらアニメ作成
15	最終課題内覧・まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	最終課題及び講義中の課題、 実習状況など。
進度等により調整を行う。 最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
課題に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Other

拡張項目

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Illustratorによるイラスト入門』...(SDクラスと同内容)

ドキュメント、Webページなど様々な場面で使われるイラストを、Adobe Illustratorを用い作成することを学ぶ。Illustratorは、まず慣れることが大切であるため、基本の解説の後、練習、実習、課題へとつなげていく。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

イラスト作成の基礎。
Illustratorの基本操作。
画像ファイルの基礎。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

パソコン操作の基本が習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	ペイントとIllustrator	(ビットマップ系とベクトル系) 画像形式
3	Illustrator 入門	(cmykとrgb/ブラシツール/オプション・バー)
4	Illustrator 入門 + 実習(1)ポスター	(カラー/Web用保存)
5	実習(1)内覧 + Illustrator 入門	(ペン・ツール/ベジエ曲線)
6	Illustrator 入門	(ペン・ツール/ベジエ曲線/塗りと線)
7	Illustrator 入門	(レイヤー/その他)
8	実習(2)-1	携帯デザイン
9	実習(2)-2	携帯デザイン
10	実習(2)-3	提出、印刷、組み立て=>展示
11	写真の利用。	デジカメなどによる写真の利用。
12	最終課題	ぱらぱらアニメ作成
13	最終課題	ぱらぱらアニメ作成
14	最終課題	ぱらぱらアニメ作成
15	最終課題内覧・まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	最終課題及び講義中の課題、 実習状況など。
進度等により調整を行う。 最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
課題に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Other

拡張項目

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『PhotoShopによるフォトレタッチとWebページ作成入門』

Adobe PhotoShopによる写真などの画像処理と、ソフトウェアによるWebページを作成、公開するまでを学ぶ。デジタルカメラなどによる写真の撮影、PhotoShopによる写真の調整・加工、ソフトによるWebページ作成、完成したWebページの公開を行い、プレゼンテーションを行う。

なお、Webページ作成には、Dreamweaverを用いる予定である。

Webページを作成する講義としては、「入門」クラス。発展としては、『Webページ中級:HTML～JavaScript』(SHクラス)がある。Webページ作成を中心に学ぶには、『Webページ中級:HTML～JavaScript』(SHクラス)を選択すること。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。

画像処理の基本。

ソフトによるWebページ作成の基本。

Webページ公開の基礎。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

パソコン操作の基礎習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	写真の撮り方	画素数画像保存形式画像の取り込み
3	PhotoShop入門	(解像度、全体での明るさ、カラーバランス)
4	PhotoShop入門	(範囲指定／自動・マグネット中心、縁取り)
5	PhotoShop入門	(画像修正／赤目・パッチ・コピー・ぼかし・スポンジ・指)
6	PhotoShop入門	(フィルター／ギャラリー・シャープネス・描画(逆光))
7	PhotoShop入門	(画像合成・レイヤー／文字／切り抜き)
8	実習(1)	ポスター作成
9	実習(1)内覧	Webページの基礎(ネチケット・ブラウザ・HTML)
10	Dreamweaverの操作法	(作成から保存)
11	実習(2)ー1	Webページ作成
12	実習(2)ー2	Webページ作成
13	実習(2)ー3	リンク貼り、アップロード(公開)、更新
14	プレゼンテーション	(ページ紹介)
15	プレゼンテーション	(ページ紹介)まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	Webページ(作品)とプレゼンテーション、採点など及び、実習状況など。
進捗等により調整を行う。		
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要である。

素材撮影のために、デジカメあるいはカメラ付き携帯など(200万画素程度以上)が必要である。

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。

Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて講義中に紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

必要に応じて講義中に紹介する

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Other

拡張項目

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『コンピュータ教育(入門)』

2012年度の『パソコン実践教育(スキル編)』:2011年度の『パソコン実践教育(入門)』

教員をはじめ、パソコンを教える立場になることを想定し、様々な素材を用い、グループ学習やプレゼンテーションなどの実践を通じて、パソコン教育の技術や方法を探っていく。

実際には、同僚や友達、家族などにパソコンを教える機会は多く、このような場合にも役立つ。教えることで、自らも分からないことがはっきりし、自らのスキルアップにつながっていく。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

パソコンの基礎的な思考方法の習得。

パソコンの基礎的な学習方法の習得。

パソコンを教える技術の習得。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	パソコンの基礎知識	ハード/ソフト/OS/アプリ/NET
3	教材作成の基礎	マニュアルとプリント・スクリーン
4	実習(1)ー1	Windows基本教室づくり
5	実習(1)ー2	Windows基本教室プレゼンディスカッション
6	実習(2)ー2	Word基本教室づくり
7	実習(2)ー2	Word基本教室プレゼンディスカッション
8	Word/Excel/OLE/NET復習	
9	実習(3)ー1	Excel基本教室づくり
10	実習(3)ー2	Excel基本教室プレゼンディスカッション
11	実習(4)ー1	NET/OLE基本教室づくり
12	実習(4)ー2	NET/OLE基本教室プレゼンディスカッション
13	コメント	
14	実習(5)ー1	最終課題
15	実習(5)ー2	最終課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.
 上記以外の試験・レポート、 100 % 最終課題、発表、そのほかの実習課題、実習状況など。
 平常点評価

受講生数、受講生の習得スキルなどにより、進度及び各回のテーマなどは調整される。

最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

また、グループ学習(発表)への不参加は、大きな減点となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。

グループ課題などを作成するために、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Other

拡張項目

国際セミナー I (SC)

13409

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「国際セミナー」は、学部独自の国際化教育プログラム「グローバル・フォーカス」の核となる少集団授業です。履修指定科目(「国際社会入門」と「多文化共生論」)およびその他の履修推奨科目と連動しつつ、各クラスのテーマに応じたグループ研究を行い、最終的には英語で成果のプレゼンテーションをすることが目標となります。あくまで主眼は国際的な研究テーマについて学ぶことにありますが、それとあわせて、産業社会学部 OBOG のうちグローバルな環境で活躍している先輩をゲストとして迎えた授業、外国人留学生との研究交流企画などを通じた積極的な学習を行うことが期待されます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・社会問題について国際的な文脈で理解することができる。
- ・研究成果について英語でプレゼンテーションすることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

「国際社会入門」「多文化共生論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	全体オリエンテーションおよび導入的講義(4クラス合同) およびクラス別ワーク	
2	テーマ別リレー講義①「トランスナショナリズムと移民の 社会適応」(4クラス合同)	国際移動、トランスナショナリズム
3	テーマ別リレー講義②「グローバル化とメディア表象～韓 流ブームと「喪」の越境」(4クラス合同)	韓国と日本の映画・ドラマ、ノスタルジア、文化的近似性
4	テーマ別リレー講義③「近代と後近代におけるスポーツ の諸相」(4クラス合同)	近代オリンピック、民族スポーツ、ニュースポーツ、メディア
5	テーマ別リレー講義④「検討対象の設定方法と複眼的視 点の重要性:福祉と教育を巡るトピックと共に」(4クラス合 同)	ミクロ、マクロ、ルールとしての制度(政策)、クロス・オー バー・ラーニング、多国間比較、歴史分析
6~7	リレー講義振り返り、テーマ研究	
8~9	ゲストスピーカーによる特別講義(予定)(4クラス合同)	
10~13	グループ研究	
14~15	グループプレゼンテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	「出席」「受講態度」「グループプレゼンテーション」「レポート」を評価基準として、総合的に評価する。ただし、2/3以上出席した者のみを成績評価対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

国際セミナー I (SD)

13410

担当者名 / Instructor 江口 友朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「国際セミナー」は、学部独自の国際化教育プログラム「グローバル・フォーカス」の核となる少集団授業です。履修指定科目(「国際社会入門」と「多文化共生論」)およびその他の履修推奨科目と連動しつつ、各クラスのテーマに応じたグループ研究を行い、最終的には英語で成果のプレゼンテーションをすることが目標となります。あくまで主眼は国際的な研究テーマについて学ぶことにありますが、それとあわせて、産業社会学部 OBOG のうちグローバルな環境で活躍している先輩をゲストとして迎えた授業、外国人留学生との研究交流企画などを通じた積極的な学習を行うことが期待されます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・社会問題について国際的な文脈で理解することができる。
- ・研究成果について英語でプレゼンテーションすることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

「国際社会入門」「多文化共生論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	全体オリエンテーションおよび導入的講義(4クラス合同) およびクラス別ワーク	
2	テーマ別リレー講義①「トランスナショナリズムと移民の 社会適応」(4クラス合同)	国際移動、トランスナショナリズム
3	テーマ別リレー講義②「グローバル化とメディア表象～韓 流ブームと「喪」の越境」(4クラス合同)	韓国と日本の映画・ドラマ、ノスタルジア、文化的近似性
4	テーマ別リレー講義③「近代と後近代におけるスポーツ の諸相」(4クラス合同)	近代オリンピック、民族スポーツ、ニュースポーツ、メディア
5	テーマ別リレー講義④「検討対象の設定方法と複眼的視 点の重要性:福祉と教育を巡るトピックと共に」(4クラス合 同)	ミクロ、マクロ、ルールとしての制度(政策)、クロス・オー バー・ラーニング、多国間比較、歴史分析
6~7	リレー講義振り返り、テーマ研究	
8~9	ゲストスピーカーによる特別講義(予定)(4クラス合同)	
10~13	グループ研究	
14~15	グループプレゼンテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	「出席」「受講態度」「グループプレゼンテーション」「レポート」を評価基準として、総合的に評価する。ただし、2/3以上出席した者のみを成績評価対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

国際セミナー II (SD)

13513

担当者名 / Instructor 江口 友朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「国際セミナー」は、学部独自の国際化教育プログラム「グローバル・フォーカス」の核となる少集団授業です。履修指定科目(「国際社会入門」と「多文化共生論」)およびその他の履修推奨科目と連動しつつ、各クラスのテーマに応じたグループ研究を行い、最終的には英語で成果のプレゼンテーションをすることが目標となります。あくまで主眼は国際的な研究テーマについて学ぶことにありますが、それとあわせて、産業社会学部 OBOG のうちグローバルな環境で活躍している先輩をゲストとして迎えた授業、外国人留学生との研究交流企画などを通じた積極的な学習を行うことが期待されます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・社会問題について国際的な文脈で理解することができる。
- ・研究成果について英語でプレゼンテーションすることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

「国際社会入門」「多文化共生論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	夏期休暇課題の提出と共有、活動計画のオリエンテーション	
2~9	グループ研究	
10~11	グループ研究まとめ、グループプレゼンテーション準備	
12~13	最終グループプレゼンテーション	
14~15	年間活動のまとめ、個人別ふりかえり	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	「出席」「受講態度」「グループプレゼンテーション」「レポート」を評価基準として、総合的に評価する。ただし、2/3以上出席した者のみを成績評価対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

国際セミナー I (SB)

13408

担当者名 / Instructor 日高 勝之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「国際セミナー」は、学部独自の国際化教育プログラム「グローバル・フォーカス」の核となる少集団授業です。履修指定科目(「国際社会入門」と「多文化共生論」)およびその他の履修推奨科目と連動しつつ、各クラスのテーマに応じたグループ研究を行い、最終的には英語で成果のプレゼンテーションをすることが目標となります。あくまで主眼は国際的な研究テーマについて学ぶことにありますが、それとあわせて、産業社会学部 OBOGのうちグローバルな環境で活躍している先輩をゲストとして迎えた授業、外国人留学生との研究交流企画などを通じた積極的な学習を行うことが期待されます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・社会問題について国際的な文脈で理解することができる。
- ・研究成果について英語でプレゼンテーションすることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

「国際社会入門」「多文化共生論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	全体オリエンテーションおよび導入的講義(4クラス合同) およびクラス別ワーク	
2	テーマ別リレー講義①「トランスナショナリズムと移民の 社会適応」(4クラス合同)	国際移動、トランスナショナリズム
3	テーマ別リレー講義②「グローバル化とメディア表象～韓 流ブームと「喪」の越境」(4クラス合同)	韓国と日本の映画・ドラマ、ノスタルジア、文化的近似性
4	テーマ別リレー講義③「近代と後近代におけるスポーツ の諸相」(4クラス合同)	近代オリンピック、民族スポーツ、ニュースポーツ、メディア
5	テーマ別リレー講義④「検討対象の設定方法と複眼的視 点の重要性:福祉と教育を巡るトピックと共に」(4クラス合 同)	ミクロ、マクロ、ルールとしての制度(政策)、クロス・オー バー・ラーニング、多国間比較、歴史分析
6~7	リレー講義振り返り、テーマ研究	
8~9	ゲストスピーカーによる特別講義(予定)(4クラス合同)	
10~13	グループ研究	
14~15	グループプレゼンテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	「出席」「受講態度」「グループプレゼンテーション」「レポート」を評価基準として、総合的に評価する。ただし、2/3以上出席した者のみを成績評価対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

国際セミナー II (SC)

13512

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「国際セミナー」は、学部独自の国際化教育プログラム「グローバル・フォーカス」の核となる少集団授業です。履修指定科目(「国際社会入門」と「多文化共生論」)およびその他の履修推奨科目と連動しつつ、各クラスのテーマに応じたグループ研究を行い、最終的には英語で成果のプレゼンテーションをすることが目標となります。あくまで主眼は国際的な研究テーマについて学ぶことにありますが、それとあわせて、産業社会学部 OBOG のうちグローバルな環境で活躍している先輩をゲストとして迎えた授業、外国人留学生との研究交流企画などを通じた積極的な学習を行うことが期待されます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・社会問題について国際的な文脈で理解することができる。
- ・研究成果について英語でプレゼンテーションすることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

「国際社会入門」「多文化共生論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	夏期休暇課題の提出と共有、活動計画のオリエンテーション	
2~9	グループ研究	
10~11	グループ研究まとめ、グループプレゼンテーション準備	
12~13	最終グループプレゼンテーション	
14~15	年間活動のまとめ、個人別ふりかえり	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	「出席」「受講態度」「グループプレゼンテーション」「レポート」を評価基準として、総合的に評価する。ただし、2/3以上出席した者のみを成績評価対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

国際セミナー II (SB)

13511

担当者名 / Instructor 日高 勝之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「国際セミナー」は、学部独自の国際化教育プログラム「グローバル・フォーカス」の核となる少集団授業です。履修指定科目(「国際社会入門」と「多文化共生論」)およびその他の履修推奨科目と連動しつつ、各クラスのテーマに応じたグループ研究を行い、最終的には英語で成果のプレゼンテーションをすることが目標となります。あくまで主眼は国際的な研究テーマについて学ぶことにありますが、それとあわせて、産業社会学部 OBOG のうちグローバルな環境で活躍している先輩をゲストとして迎えた授業、外国人留学生との研究交流企画などを通じた積極的な学習を行うことが期待されます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・社会問題について国際的な文脈で理解することができる。
- ・研究成果について英語でプレゼンテーションすることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

「国際社会入門」「多文化共生論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	夏期休暇課題の提出と共有、活動計画のオリエンテーション	
2~9	グループ研究	
10~11	グループ研究まとめ、グループプレゼンテーション準備	
12~13	最終グループプレゼンテーション	
14~15	年間活動のまとめ、個人別ふりかえり	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	「出席」「受講態度」「グループプレゼンテーション」「レポート」を評価基準として、総合的に評価する。ただし、2/3以上出席した者のみを成績評価対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

国際セミナー II (SA)

13510

担当者名 / Instructor 玉置 えみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「国際セミナー」は、学部独自の国際化教育プログラム「グローバル・フォーカス」の核となる少集団授業です。履修指定科目(「国際社会入門」と「多文化共生論」)およびその他の履修推奨科目と連動しつつ、各クラスのテーマに応じたグループ研究を行い、最終的には英語で成果のプレゼンテーションをすることが目標となります。あくまで主眼は国際的な研究テーマについて学ぶことにありますが、それとあわせて、産業社会学部 OBOG のうちグローバルな環境で活躍している先輩をゲストとして迎えた授業、外国人留学生との研究交流企画などを通じた積極的な学習を行うことが期待されます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・社会問題について国際的な文脈で理解することができる。
- ・研究成果について英語でプレゼンテーションすることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

「国際社会入門」「多文化共生論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	夏期休暇課題の提出と共有、活動計画のオリエンテーション	
2~9	グループ研究	
10~11	グループ研究まとめ、グループプレゼンテーション準備	
12~13	最終グループプレゼンテーション	
14~15	年間活動のまとめ、個人別ふりかえり	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	「出席」「受講態度」「グループプレゼンテーション」「レポート」を評価基準として、総合的に評価する。ただし、2/3以上出席した者のみを成績評価対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

国際セミナー I (SA)

13407

担当者名 / Instructor 玉置 えみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「国際セミナー」は、学部独自の国際化教育プログラム「グローバル・フォーカス」の核となる少集団授業です。履修指定科目(「国際社会入門」と「多文化共生論」)およびその他の履修推奨科目と連動しつつ、各クラスのテーマに応じたグループ研究を行い、最終的には英語で成果のプレゼンテーションをすることが目標となります。あくまで主眼は国際的な研究テーマについて学ぶことにありますが、それとあわせて、産業社会学部 OBOG のうちグローバルな環境で活躍している先輩をゲストとして迎えた授業、外国人留学生との研究交流企画などを通じた積極的な学習を行うことが期待されます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・社会問題について国際的な文脈で理解することができる。
- ・研究成果について英語でプレゼンテーションすることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

「国際社会入門」「多文化共生論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	全体オリエンテーションおよび導入的講義(4クラス合同) およびクラス別ワーク	
2	テーマ別リレー講義①「トランスナショナリズムと移民の 社会適応」(4クラス合同)	国際移動、トランスナショナリズム
3	テーマ別リレー講義②「グローバル化とメディア表象～韓 流ブームと「喪」の越境」(4クラス合同)	韓国と日本の映画・ドラマ、ノスタルジア、文化的近似性
4	テーマ別リレー講義③「近代と後近代におけるスポーツ の諸相」(4クラス合同)	近代オリンピック、民族スポーツ、ニュースポーツ、メディア
5	テーマ別リレー講義④「検討対象の設定方法と複眼的視 点の重要性:福祉と教育を巡るトピックと共に」(4クラス合 同)	ミクロ、マクロ、ルールとしての制度(政策)、クロス・オー バー・ラーニング、多国間比較、歴史分析
6~7	リレー講義振り返り、テーマ研究	
8~9	ゲストスピーカーによる特別講義(予定)(4クラス合同)	
10~13	グループ研究	
14~15	グループプレゼンテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	「出席」「受講態度」「グループプレゼンテーション」「レポート」を評価基準として、総合的に評価する。ただし、2/3以上出席した者のみを成績評価対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

キャリア形成論Ⅲ (G) § キャリア形成論Ⅲ (L) § キャリア形成特殊講義 (SC) § 特殊講義(キャリア形成論Ⅲ) (W)

13648

担当者名 / Instructor 加藤 敏明、山路 顕

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、総合大学としての立命館大学の英知を結集して組み立てられている点に最大の特長があります。学生数(大学院生含む)約3万6000人の日本有数の大規模総合大学、立命館大学には、国内外で高い評価を受けている優れた教員が数多く在籍しています。その一方で、3キャンパスに分かれていることもあり、他キャンパスの、さらには他学部での優れた英知に触れる機会に乏しいのが現状です。

このため、13学部中、10学部・1研究科(予定)から研究・教育実績に定評のある優れた教員を講師として招き、本講義を組み立てました。「立命館の英知」をぜひこの機会に学びとってください。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

到達目標は二つです。

一つは、専攻学問の再検証です。入学以来の学習上のモチベーションはいかがですか？ 学生生活にも慣れ、学ぶ目的や目標を見失いやすい時期に差し掛かっているのではないのでしょうか。今ここで、改めて所属する学部の教学を見直し、その社会的な意味や意義、何よりも学ぶ楽しさを再認識してほしいのです。教材は「立命館の英知」です。総合大学ならではの幅広い領域の科学的英知に触れることで、自ら専攻する学問体系の意味や意義を検証する。これが第一の到達目標です。

もう一つは、「会社」に対する負のイメージの科学的な払拭です。1990年代初頭に生まれた皆さんは、日本経済が成長期をバブル経済の崩壊とともに終え、長い低迷期が始まる時代に育った最初の世代に該当します。このため、皆さんの世代は、会社に代表される経済組織に負のイメージを強く持つことが統計等でも検証されています。本講義では、3つの科学的カテゴリー(経済・経営学、法学、総合科学)においてしっかり学習することで、経済組織に対する負のイメージを払拭し、会社(職業人生)が才能が発露される場であることを認識できるようにします。インターンシップや就職活動を控えたこの時期、卒業後の進路・就職の選択に前向きな気持ちで臨めるよう、イメージにとらわれることなく科学的な視座を獲得するのが第二の到達目標です。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本講義と同じキャリア教育科目の「学びとキャリア」(1回生以上、前期配当科目)、「仕事とキャリア」(2回生以上、前期配当科目)の受講や、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオブ演習」(3回生以上後期配当科目)の受講にもチャレンジしてください。さらに、高度なインターンシップ、コーオブ教育を柱とした「コーオブ教育概論」(3回生以上配当科目、衣笠開講)も夏期集中講義として開講されますので、さらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマ / (導入)会社とは何者か (加藤)	概要 / 「会社と科学」の会社とは、ビジネス社会の意。科学的なものの見方、考え方の基本を説く。 【経済学・経営学カテゴリー】
2	テーマ / 「経済学」がとらえる会社と企業社会 (経済学部教員)	概要 / 会社 = 企業は経済の担い手の1つであり、経済社会に大きな影響を与えている。企業社会といわれるものには、会社内部で形成されている一種の社会という意味と、社会自体が企業中心の社会になっているという2つの意味がある。会社は市場を媒介にして、他の社会領域と関係を結び、またそれに影響を与えているので、ここでは、消費者問題を中心にして広く企業の社会的立場や役割について考える手がかりを提供したいと考える。
3	テーマ / 「世界経済と日本経済」 (国際関係学部教員)	概要 / 企業が海外進出し、多国籍化していく原理は、それほど単純なものではない。この問題を、今日もっとも一般的な理論パラダイムとして受け入れられているJ. H. Dunningの折衷理論を柱にしなが、わかりやすく解説していく。具体例として、日経新聞を用いながら日本企業のケースを取り上げる。
4	テーマ / 「財務」から見た会社 (経営管理研究科教員)	概要 / ディスクロージャー(財務内容の開示)は、企業の社会的評価を左右する重要な課題である。その中で最も有力な開示手段である「有価証券報告書」を使って、これを縦横に分析し、真の企業価値を読み解くのに不可欠な基本的な知識と考え方を学ぶ。
5	テーマ / 「経営学」と会社 (スポーツ健康科学部教員)	概要 / 組織(会社)とは何か。会社の根源に経営学の手法から迫る。加えて、新しい会社形態とその特長、そこで働く意味や意義など実践的な内容を加味した授業を展開する。 【法学カテゴリー】
6	テーマ / 「国際契約法」と株式会社 (法学部教員)	概要 / 国際契約法をめぐる各国国際私法や各種条約、商慣習などの体系的把握が専門領域の講師が、国際的視点から会社を法学的にとらえる。

7	テーマ/「税法」と株式会社（法学部教員）	概要/前回の講義では、国際契約法の側から国際的な観点で会社に対する法学的アプローチを試みた。本講義では一転して、働く側の視点で会社組織をとらえる。納税は日本国民の三大義務の一つであり、どのような働き方を選択しても深く関わるものである。授業では、税の観点から組織をとらえるユニークな視座の獲得を目指す。会社組織で働くための基礎的な法学的知識・素養としての税法を、法学部以外の学生にも理解できるように簡易に教示するとともに、納税への意識を高めることで能動的な就労観を習得する。
【中間的総括】		
8	テーマ/経済学、経営学、法学を概観して（加藤）	概要/3つの科学分野からの会社(ビジネス社会)へのアプローチを行った上で、専攻学問の異なる受講生で編成するグループによる学習検証のワーキングを行う。議論の成果を中間総括レポートとして課す。
【総合科学カテゴリー】		
9	テーマ/「人文地理学」でとらえる会社（文学部教員）	概要/地理学は哲学から早い段階で分派した歴史ある科学領域の一つであり、社会や地域をとらえる、ものの見方や考え方に有効な学問でもある。授業では、歴史ある京都の街づくりを教材に、人文地理学固有の視座の獲得とともに、京都で学ぶ意義についても深く考察する。
10	テーマ/「社会福祉」から見た会社（産業社会学部員）	概要/貧困と格差はいまや日本社会の喫緊の課題となっている。本講義では、ジェンダーの観点から、あるべき社会の姿を追究するとともに、人間らしい就労とはどのようなものか、働き方、生き方について学ぶ。
11	テーマ/「コンテンツ」でとらえる会社（映像学部教員）	概要/百年に一度という世界的な経済危機にあつて、日本の産業は大きな転換期を迎えつつある。そんな時代にあつて、日本が誇るべき産業にコンテンツ産業があり、また次世代型人材像としてもコンテンツ方人材が挙げられる。日本の救世主となり得るか、本講義ではコンテンツに焦点を当てつつ、キャリア形成のあり方や働き方を考察する。
12	テーマ/「プロデュース型人材」でとらえる会社（政策科学部教員）	概要/高付加価値創造型の人材は、21世紀の知識基盤社会に必須である。人材が唯一の資源である日本社会では、とりわけ新しい時代に対応した人材の育成が急務といわれている。本講義では、求められる人材像をまず解き明かし、その上で高付加価値型人材に向けて何が必要かを学ぶ。
13	テーマ/「自然科学(環境システム工学)」でとらえる会社（理工学部教員）	概要/本講義は、環境システム工学の立場から会社へのアプローチを試みる。実学の工学は社会システムなど多方面でその成果が活用されている。授業では、工学的な社会観、地域観を習得するとともに、組織で生き抜くのに必要な心得が伝授される。
14	テーマ/「自然科学(防災システム工学)」から見た会社（情報理工学部教員）	概要/本講義では、防災システム工学の立場から緊急時の情報と人間(社会)との関わりを、企業や自治体における事業継続管理(BCM)をもとに解き明かす。社会はシステムであり、会社もまたそのシステムの中に組み込まれた組織体に過ぎない。会社を超えた社会観のダイナミズムをぜひ深く理解し、将来のキャリア形成につなげてほしい。
【総括】		
15	テーマ/専攻学問(科学)と会社（加藤）	概要/インターンシップおよび就職活動直前期にあつて、会社(ビジネス社会)を自ら専攻する学問的視点から、さらには他の科学領域も含めた広い科学的視座からとらえるべく、3つのカテゴリーからのアプローチを総括。総括レポートを課す。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

いずれインターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	20 %	「経営学・経済学」、「法学」、「総合科学」の3つのカテゴリー全体にわたるアプローチの中で、経済組織に対する科学的な理解度を中心に評価します。なお、定期試験は評価の大前提ですので、必ず受験すること。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	80 %	①出席状況、②受講態度、③中間総括レポート(8講)、④総括レポート(15講)で課されるレポート、の4要素をもとに「総合的」に評価します。ただし、評価の前提をなすのは「出席要件」です。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の前提条件は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。80%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

10学部・1研究科(予定)から学内教員が次々に登壇し、講義を展開します。それをコーディネーター教員が講義の開始時、終了時に関連づけるのが、本講義の基本スタイルです。講義の多くは衣笠では受講機会の乏しい理工学など皆さんの専門外の方野ですから、講師が基本書を指定する場合は、事前に必ず読了しておいてください。基本書の指定は、原則として1週前の講義終了時にコーディネーター教員が行います。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
会社はこれからどうなるのか	岩井克人 / 平凡社 / ISBN4-582-82977-5 / 会社は何者か、誰のものか、どうなるのか。会社論の根源に迫る良書。小林秀雄賞受賞。
キャリア教育－歴史と未来	Kenneth B. Hoyt, 仙崎武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄訳 / 雇用問題研究会 / ISBN4-87563-230-4 / キャリア教育の先駆的立場にある米国の歴史的展開を整理。その上で、今後の方向性を示すキャリア教育の基本書。

初回の授業に向けての基本書を2冊挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

特に指定するものではありませんが、立命館大学公式ホームページの「教員紹介」で担当講師の研究業績を閲覧することを勧めます。講義の理解度が深まると思います。また、この機会に、授業外の学内の教員の研究業績も閲覧してみてください。「立命館の英知」を感じ取ることができるはずです。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

インタラクティブシート / Interactive Sheet

学生との直接対話 / Talk with Students

本講義に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤(katoshi@fc.ritsumeai.ac.jp)まで問い合わせてください。

その他 / Other

本講義が全学インターンシップ・プログラム関連科目であることから、受講を機に衣笠のインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。受講で得られた科学的な視座を、インターンシップや就職活動に大いに生かしてほしいと考えます。

拡張項目

コーオペ教育概論(L) § キャリア形成論Ⅲ(コーオペ教育概論)(GA) § キャリア形成特殊講義(SF) § 特殊講義(各部門共通) I (RK) § 政策科学特殊講義(コーオペ教育概論)(P) § 特殊講義(コーオペ教育概論)(W) § 特殊講義(自由選択) I (コーオペ教育概論)(T) § 特殊講義(基礎)1(コーオペ教育概論)(G1) § 特殊講義(コーオペ教育概論)(GV) § IR-EDR205 特殊講義(固有専門関連科目)(RH)

担当者名 / Instructor 山路 顕

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、約半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラム、コーオペ演習と教学的にリンクする科目として開講される夏期集中講義です。対象は全学部3回生以上で、学部の枠組みを超え開講します。科目名の「コーオペ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオペ教育(Cooperative Education)に由来しています。9月第2週の夏期集中講義で、2013年度はBKCでの開講です。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

科目名称のコーオペ教育にふさわしく、講義全体を通じて、①高度な産業社会に通用する人材像への科学的な理解、②問題発見・課題解決能力の涵養、③自律的な学習意志・姿勢の確立、を目指します。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本講義に教学的にリンクする講義として、「コーオペ演習」(研究科及び3回生以上、後期配当科目)が開講されています。同演習受講生は、必須ではありませんが、受講しておくことが望まれます。また、同じ全学型キャリア教育科目の「仕事とキャリア」(2回生以上、前期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3回生以上、前期配当科目)の受講も勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
【第1日目】		
1	テーマ／導入ーコーオペ教育とは (山路)	概要／1906年に米国・シンシナティ大学で導入されて以来、一世紀に及ぶコーオペ教育の歴史や、近年日米とも大きな高まりを見せるキャリア教育の動向などを解説する。
2	テーマ／理論を实践する1 (課題の提示と解説、学外講師)	概要／学外講師として渡海一博(元株オリエントランドショー開発部長)を招き、現実の課題をもとに13、14講の発表に向け受講生がチームを結成してその解決立案に挑戦する。
3	テーマ／理論を实践する2(問題の発見と課題の整理、学外講師)	概要／前講義で示された課題を受けて、学外講師の指導の下で受講生チームが問題の発見と課題の整理をグループワークを通じて実践する。
4	テーマ／理論を实践する3(問題の発見と課題の整理、山路)	概要／第2講で示された課題につき、前講義で行った問題の発見と課題の整理に基づいてグループワークを行い課題解決案についての提案を示す。
【第2日目】		
5～6	テーマ／職業人生を考える(学外講師)	概要／職業人生を考察する連続講義。学外講師による「職業人とは、職業人生とは」についての講話、及びグループワーク課題の遂行。
7	テーマ／職業人生を考える(山路)	概要／第5、6講をもとに、グループワークを通じて21世紀に向けての職業人生を考察する。
【第3日目】		
8	テーマ／理論と実践を学ぶ1 (学外講師)	概要／学外講師を招き、産学連携教育についてその実際の状況を含めて学習する。9講のグループワーク課題が提示される。
9	テーマ／理論と実践を学ぶ2 (同上)	概要／前回講義で提示された課題に、受講生がグループワークを通じて取り組む。
【第4日目】		
10～12	テーマ／理論を实践する4(企画立案への挑戦、山路)	概要／2講、3講、4講を受けて、受講生チームが翌日の企画立案発表に向けて準備を行う。
【第5日目】		
13～14	テーマ／理論を实践する5(企画立案発表、学外講師)	概要／2講、3講、4講、10講、11講、12講を通じて積み上げてきた企画立案を受講生チームが発表する。これに対して、学外講師および授業担当者が評価を行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

最低限、毎日、新聞をしっかりと読み込む習慣を身につけてください。特に、コーオブ演習受講生は、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかり目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	①出席状況(40%)、②受講態度、授業への参画姿勢(20%)、③チーム別の企画立案発表(13、14講)及び④総括レポート(15講)の要素(40%)をもとに「総合的」に評価します。評価の前提となる「出席状況」(無断欠席、遅刻など)については留意してください。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価では、出席要件が重要な要素を占めます。ビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。受講を機に将来を見据えた時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は、グループワークなど双方向型の授業形式を数多く採り入れていますので、受講生自らが学び取ろうという能動的な姿勢が強く求められます。教室内でビジネス社会と触れ合う良い機会です。多くのものを学んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオブ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオブ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオブ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／コーオブ教育をめぐる動向とともに、コーオブ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
キャリア教育－歴史と未来	Kenneth B. Hoyt、仙崎武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄訳／雇用問題研究会／キャリア教育の先駆的立場にある米国の歴史的展開を整理。その上で、今後の方向性を示すキャリア教育の基本書。
インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム／国内外のコーオブ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊
アメリカの産学連携	宮田由紀夫／東洋経済新報社／産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。

コーオブ教育の基本書を5冊挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

学外講師の所属する企業、団体の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
manaba+R / Learning Management System (manaba+R)
学生との直接対話 / Talk with Students
その他 / Other

本講義に関わる質問は、コーディネーター教員の山路まで問い合わせてください。

その他 / Other

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを勧めます。

拡張項目

全学インターンシップ (GB) § 国内インターンシップ (GB) § 海外インターンシップ (GB) § 国内インターンシップ (専門) (GB) § 海外インターンシップ (専門) (GB) § IR-EDR206 インターンシップ (国際関係学専攻) (GB) § IR-EDS202 Internship (GS Major) (GB)

54889

担当者名 / Instructor 山路 顕

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生(2年生以上)を対象に単位授与を行います。そのためには、①インターンシップ受入先機関へ応募し選考に合格する、②インターンシップ受入先機関決定後、期限までに受講登録を行う、③「事前、事後研修」をすべて受講する、④最終レポートなど必要書類をすべて提出する、ことが前提条件となります(※受講するインターンシップのタイプによっては、参加必須要件が異なります)。

受講を検討する学生は以下の日程で開催するインターンシップ・ガイダンスに参加し、詳細を確認してください。

<インターンシップガイダンス開催日>

衣笠 4月8日(月) 18:15~19:45 教室:明学館93

衣笠 4月9日(火) 18:15~19:45 教室:明学館93

BKC 4月10日(水) 18:15~19:45 教室:C201

BKC 4月11日(木) 18:15~19:45 教室:C101

BKC 4月15日(月) 18:15~19:45 教室:C201

また、より充実したインターンシップを実現するために、事前学習セミナー(5月)も用意しています。

「事前学習セミナー」とは、「会社等(株式会社や非営利組織、国際機関など)に関する基礎知識を習得し、派遣先研究や業界研究の手法を学ぶ」ことを目的としたセミナーです。

具体的には、まず、「株式会社や非営利組織、国際機関などどのような社会的役割を持っているのか、組織の仕組みや種類、仕事の流れや独自の制度、国内外の動向と相違点に加え、四季報を用いた財務分析の基本等」について、学びます。その知識やスキルをもとに、さらに「派遣先研究や業界研究」について発展的に学びます。このセミナーを通じて、皆さんが参加するインターンシップの「派遣先およびそれを取り巻く業界」に関する総合的な研究を促進させることを目的としています。ぜひ、受講してください。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

所属する学部やインスティテュートの専門的な学びを、体験学習を通じて検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学はインターンシップに関する「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、全学型キャリア教育科目「学びとキャリア」(1年生以上、前期配当科目)、「仕事とキャリア」(2年生以上、前期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3年生以上、前期配当科目)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(研究科及び3年生以上、後期配当科目)の受講にもぜひチャレンジしてください。

なお、コーオプ演習をサポートする科目として、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(3年生以上配当科目、BKC開講)が夏期集中講義として開講されます。コーオプ演習の受講生ばかりでなく、産学連携教育についてさらに発展的に学習したい方、問題発見・課題解決能力を高めたい方の受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマ/導入講義	概要/インターンシップとは何か、学びの自己紹介を通じて確認した後、厳しい就職環境も見据えて会社・業界研究の基本について学ぶ
2	テーマ/インターンシップのための法的認識	概要/研修先で起こりうる可能性のあるあらゆるリスクについて、法的理解を深め、基本的な心構えと対処法を習得
3	テーマ/ビジネスマインド研修(講義)	概要/1. 一組織人としての基本的な心得、2. インターンシップの心構え、3. 仕事の進め方、4. マナーの果たす役割、5. コミュニケーションは第一印象から、6. 話し方と聞き方、7. ケーススタディ
4	テーマ/ビジネスマナー研修(実技)	概要/1. ビジネス文書の基本、2. 文書の書き方、3. FAXとEメールの活用、4. 電話対応の基本、5. ケーススタディ<電話対応編>、6. 総まとめ

5	テーマ/グループワーク	概要/初回講義で提示された課題(企業・業界分析)をもとに分析手法などの解説。同業種の研修先毎のグループに分かれ、発表や議論を通じて研修先について深く学ぶ。事前研修にて学んできた内容を、インターンシップ研修に向けて理解し、どのように生かすべきかの総括も実施
6	テーマ/グループワーク+事前研修総括講義	概要/第5講でのグループワークによる成果発表+総括授業
7	テーマ/インターンシップ研修1	概要/原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の授業が無い時期に実施される。
8	テーマ/インターンシップ研修2	概要/同上
9	テーマ/インターンシップ研修3	概要/同上
10	テーマ/インターンシップ研修4	概要/同上
11	テーマ/インターンシップ研修5	概要/同上
12	テーマ/成果発表に向けての事前講義	概要/インターンシップ研修を通じて得た問題意識や成果を客観的に振り返る
13	テーマ/グループワーク	概要/個人別に振り返った内容を、さらに同業種の研修先毎のグループに分かれ、発表や議論を通じて、再度インターンシップ研修を通じて得た問題意識や成果を客観的に振り返る
14	テーマ/グループワーク+成果発表	概要/第13講でのグループワークによる成果発表
15	テーマ/事前・事後研修を通じた最終総括講義	概要/インターンシップ研修先での体験を総括し、自己及び専門分野との関わり等につき、考察し、今後の学習目標を設定、キャリアプランを明確にする。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流する。最低限、新聞をしっかりと読み込む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業(団体)に関わる記事にはしっかり目を通しましょう。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	日常点(事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習活動の内容をもとに評価します):70%、最終レポートなど:20%、その他(研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります):10%

評価は、学内で行われる事前・事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習、さらに提出物(最終レポートなど)を総合的に判定し、行います。中でも産学連携のインターンシップの主旨に照らし出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。正当な理由なく事前・事後研修を遅刻や欠席したり、各種提出物の締め切り後の提出は、大きな減点要素となります。十分注意してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

インターンシップ研修が行われる企業、団体は教育機関ではありませんので、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。従って、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生の主体的な姿勢は受け入れ甲斐がある」、「いろいろと提案してくれるので企業としても有益だ」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで下さい。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事!	スタッズ・ターケル/晶文社/ISBN4-7949-5661-4/1972年に発行された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編/日本経済新聞社/ISBN4-532-35114-6/日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上 龍/幻冬舎/ISBN4-344-00429-9/人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立ちそうな3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

4月初旬から中旬にかけて開催される学内のインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で様々な情報が紹介されます。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

インターンシップオフィスHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/internship/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

全学インターンシップ・プログラムに関わる質問は、コーディネーター教員である山路まで問い合わせてください。

その他 / Other

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを勧めます。

拡張項目

コーオペ演習 (GA) § 特殊講義 (各部門共通) I (RL) § インターンシップ演習 (LA) § 政策科学
 特殊講義 (コーオペ演習) (P1) § 特殊講義 (コーオペ演習) (WA) § IR-EDR205 特殊講義 (固有専門
 門関連科目) (GA)

52445

担当者名 / Instructor 山路 顕

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、学生の自主的学習活動であるインターンシップを基本としています。演習の立ち上げから最終の成果発表まで、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムです。後期セメスター期間を通じて企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生で編成されたチーム (5名程度) が取り組む実践的で自律的な学習プログラムです。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとに取り組むので、所属する学部の学びの再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営にあたるほか、チームメンバーも多様な学部構成となり、レベルの高い学習活動が展開されます。

本演習は4月初旬～5月下旬頃に募集と選考を行います。詳細は以下の日程で開催するインターンシップガイダンスに参加し、確認してください。

<インターンシップガイダンス開催日>

衣笠 4月8日(月) 18:15～19:45 教室:明学館93

衣笠 4月9日(火) 18:15～19:45 教室:明学館93

BKC 4月10日(水) 18:15～19:45 教室:C201

BKC 4月11日(木) 18:15～19:45 教室:C101

BKC 4月15日(月) 18:15～19:45 教室:C201

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

演習名の「コーオペ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオペ教育 (Cooperative Education) に由来しています。

演習全体を通じて、①学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、②知識基盤社会で求められる高い問題発見・企画立案能力の涵養、③教室では容易に学び得ない自律的な学習意志・姿勢の確立、などを目指します。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本演習をサポートする講義として、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(3回生以上配当科目、BKC開講)が夏期集中講義として開講されます。また、同じ全学型キャリア教育科目である「仕事とキャリア」(2回生以上、前期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3回生以上、前期配当科目)の受講も望まれます。さらに、「学びとキャリア」(1回生以上、前期配当科目)の受講も相乗効果が期待されます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【学内公募】	①参加企業からの課題が2012年度末に出揃います。②学内公募を2013年4～5月頃に実施します。③学内選考(レポート、面接)が行われ受講生が6月中旬頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名、学部生4名を基本とします。
1	【学内研究会】	チーム全員の顔合わせと課題・会社研究の基本学習を6月23日(日)13:00-14:30にBKCで実施します。
	【インターンシップのための法的知識、ビジネスマナー研修】	インターンシップのための法的知識では、インターンシップ研修に伴う機密保持義務や賠償責任、セクハラやパワハラなどの法律上の知識を習得します。また、ビジネスマナー研修では、社会人の基礎素養であるマナーの基本について実践を交えて学びます。
	【企業研修】	8月上旬-9月下旬(予定)に会社研究を目的に、原則2日間で参加企業に出向き研修(インターンシップ)を行います。初日、夏期休暇期間中にチームで取り組んできた会社研究発表を行います。
	【企画立案研修】	専門家を学外から招き、企業研修における会社研究発表に求められる基本的なスキルを習得します。
	【プレゼンテーション研修】	専門家を学外から招き、中間発表および成果発表に備えたプレゼンテーションスキルを習得します。
2	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
3	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
4	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
5	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
6	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
7	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
8	【学内研究会、模擬発表】	中間発表に向けて、模擬発表を行います。

9	【中間発表】	10月～11月(予定)に、専攻学問を生かした問題発見・課題解決の企画立案発表を原則として大学で行います。発表をもとに課題提示企業関係者との間で活発な意見交換を行い、成果発表に向けて最終的な方向性の確認を行います。
10	【学内研究会】	成果発表に向けてのグループワーク
11	【学内研究会】	成果発表に向けてのグループワーク
12	【学内研究会】	成果発表に向けてのグループワーク
13	【学内研究会、模擬発表】	成果発表に向けて、模擬発表を行います。
14	【成果発表】	2013年末、中間発表で得られた意見や評価をもとに、何回かの学内研究会を経て、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表は原則として、課題提示企業に出向き行います。企業側からは幹部社員などが多数参加し、忌憚のない意見や評価がなされます。
15	【総括】	全員が集い、半年間に及ぶ学習プログラムから何を得たかを評価シートに記載する中で振り返り内省化します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

評価のうち日常点は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用します。無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証し、コーディネーター教員(山路)が最終的な成績評価を行います。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	①学内研究会や各種研修への出席状況と学習姿勢(40%)、②各種レポートの提出(随時)、③中間発表、成果発表における取組み姿勢、及び ④成果報告書、の3要素(50%)、⑤発表における受入者評価(10%)、の5要素をもとに「総合的」に評価します。

評価のうち日常点は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用します。無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証し、コーディネーター教員(山路)が最終的な成績評価を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本演習の基本にはインターンシップが組み込まれています。受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取ろうという強い意志の上に成り立つ学習プログラムです。過去の事例でも、「誠実な取組み姿勢が若手社員の強い刺激になった」、「大学生のレベルとは思えない優れた立案力」など、能動的な学習姿勢と成果に対して高い評価が数多くなされました。受け身でなく、常に能動的に臨むことが求められます。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明 / 立命館大学 / 日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明 / 立命館大学 / コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム / 国内外のコーオプ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。
アメリカの産学連携	宮田由紀夫 / 東洋経済新報社 / 産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。
コトラーのマーケティング・マネジメント(ミレニアム版)	フィリップ・コトラー / ビアソン・エデュケーション / 問題発見、企画立案の基本書として世界に認められる書。

コーオプ演習の事前学習として役立ちそうな5冊を挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

課題提示企業の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

インターンシップオフィスHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/internship/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

本演習に関わる質問は、コーディネーター教員の山路まで問い合わせてください。

その他 / Other

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを勧めます。

拡張項目

全学インターンシップ (GA) § 国内インターンシップ(専門) (GA) § 国内インターンシップ (GA) §
 海外インターンシップ (GA) § 海外インターンシップ(専門) (GA) § IR-EDR206 インターンシップ
 (国際関係学専攻) (GA) § IR-EDS202 Internship (GS Major) (GA)

54888

担当者名 / Instructor 山路 顕

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生(2回生以上)を対象に単位授与を行います。そのためには、①インターンシップ受入先機関へ応募し選考に合格する、②インターンシップ受入先機関決定後、期限までに受講登録を行う、③「事前、事後研修」をすべて受講する、④最終レポートなど必要書類をすべて提出する、ことが前提条件となります(※受講するインターンシップのタイプによっては、参加必須要件が異なります)。

受講を検討する学生は以下の日程で開催するインターンシップ・ガイダンスに参加し、詳細を確認してください。

<インターンシップガイダンス開催日>

衣笠 4月8日(月) 18:15~19:45 教室:明学館93

衣笠 4月9日(火) 18:15~19:45 教室:明学館93

BKC 4月10日(水) 18:15~19:45 教室:C201

BKC 4月11日(木) 18:15~19:45 教室:C101

BKC 4月15日(月) 18:15~19:45 教室:C201

また、より充実したインターンシップを実現するために、事前学習セミナー(5月)も用意しています。

「事前学習セミナー」とは、「会社等(株式会社や非営利組織、国際機関など)に関する基礎知識を習得し、派遣先研究や業界研究の手法を学ぶ」ことを目的としたセミナーです。

具体的には、まず、「株式会社や非営利組織、国際機関などどのような社会的役割を持っているのか、組織の仕組みや種類、仕事の流れや独自の制度、国内外の動向と相違点に加え、四季報を用いた財務分析の基本等」について、学びます。その知識やスキルをもとに、さらに「派遣先研究や業界研究」について発展的に学びます。このセミナーを通じて、皆さんが参加するインターンシップの「派遣先およびそれを取り巻く業界」に関する総合的な研究を促進させることを目的としています。ぜひ、受講してください。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

所属する学部やインスティテュートの専門的な学びを、体験学習を通じて検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学はインターンシップに関する「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、全学型キャリア教育科目「学びとキャリア」(1回生以上、前期配当科目)、「仕事とキャリア」(2回生以上、前期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3回生以上、前期配当科目)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(研究科及び3回生以上、後期配当科目)の受講にもぜひチャレンジしてください。

なお、コーオプ演習をサポートする科目として、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(3回生以上配当科目、BKC開講)が夏期集中講義として開講されます。コーオプ演習の受講生ばかりでなく、産学連携教育についてさらに発展的に学習したい方、問題発見・課題解決能力を高めたい方の受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマ/導入講義	概要/インターンシップとは何か、学びの自己紹介を通じて確認した後、厳しい就職環境も見据えて会社・業界研究の基本について学ぶ
2	テーマ/インターンシップのための法的認識	概要/研修先で起こりうる可能性のあるあらゆるリスクについて、法的理解を深め、基本的な心構えと対処法を習得
3	テーマ/ビジネスマインド研修(講義)	概要/1. 一組織人としての基本的な心得、2. インターンシップの心構え、3. 仕事の進め方、4. マナーの果たす役割、5. コミュニケーションは第一印象から、6. 話し方と聞き方、7. ケーススタディ
4	テーマ/ビジネスマナー研修(実技)	概要/1. ビジネス文書の基本、2. 文書の書き方、3. FAXとEメールの活用、4. 電話対応の基本、5. ケーススタディ<電話対応編>、6. 総まとめ

5	テーマ/グループワーク	概要/初回講義で提示された課題(企業・業界分析)をもとに分析手法などの解説。同業種の研修先毎のグループに分かれ、発表や議論を通じて研修先について深く学ぶ。事前研修にて学んできた内容を、インターンシップ研修に向けて理解し、どのように生かすべきかの総括も実施
6	テーマ/グループワーク+事前研修総括講義	概要/第5講でのグループワークによる成果発表+総括授業
7	テーマ/インターンシップ研修1	概要/原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の授業が無い時期に実施される。
8	テーマ/インターンシップ研修2	概要/同上
9	テーマ/インターンシップ研修3	概要/同上
10	テーマ/インターンシップ研修4	概要/同上
11	テーマ/インターンシップ研修5	概要/同上
12	テーマ/成果発表に向けての事前講義	概要/インターンシップ研修を通じて得た問題意識や成果を客観的に振り返る
13	テーマ/グループワーク	概要/個人別に振り返った内容を、さらに同業種の研修先毎のグループに分かれ、発表や議論を通じて、再度インターンシップ研修を通じて得た問題意識や成果を客観的に振り返る
14	テーマ/グループワーク+成果発表	概要/第13講でのグループワークによる成果発表
15	テーマ/事前・事後研修を通じた最終総括講義	概要/インターンシップ研修先での体験を総括し、自己及び専門分野との関わり等につき、考察し、今後の学習目標を設定、キャリアプランを明確にする。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流する。最低限、新聞をしっかりと読み込む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業(団体)に関わる記事にはしっかり目を通しましょう。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	日常点(事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習活動の内容をもとに評価します):70%、最終レポートなど:20%、その他(研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります):10%

評価は、学内で行われる事前・事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習、さらに提出物(最終レポートなど)を総合的に判定し、行います。中でも産学連携のインターンシップの主旨に照らし出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。正当な理由なく事前・事後研修を遅刻や欠席したり、各種提出物の締め切り後の提出は、大きな減点要素となります。十分注意してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

インターンシップ研修が行われる企業、団体は教育機関ではありませんので、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。従って、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生の主体的な姿勢は受け入れ甲斐がある」、「いろいろと提案してくれるので企業としても有益だ」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで下さい。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事!	スタッズ・ターケル/晶文社/ISBN4-7949-5661-4/1972年に発行された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編/日本経済新聞社/ISBN4-532-35114-6/日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上 龍/幻冬舎/ISBN4-344-00429-9/人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立ちそうな3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

4月初旬から中旬にかけて開催される学内のインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で様々な情報が紹介されます。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

インターンシップオフィスHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/internship/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

全学インターンシップ・プログラムに関わる質問は、コーディネーター教員である山路まで問い合わせてください。

その他 / Other

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを勧めます。

拡張項目

コーオペ演習 (GB) § 特殊講義 (各部門共通) I (RM) § インターンシップ演習 (LB) § 政策科学
 特殊講義 (コーオペ演習) (P2) § 特殊講義 (コーオペ演習) (WB) § IR-EDR205 特殊講義 (固有専
 門関連科目) (GB)

52446

担当者名 / Instructor 中川 洋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、学生の自主的学習活動であるインターンシップを基本としています。事実上、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムです。具体的には、後期セメスター期間を通じて企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生で編成されたチーム (5名程度) が取り組む実践的で自律的な学習プログラムです。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとにあたりますので、所属する学部の学びの再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営にあたるほか、チームメンバーも多様な学部構成となりますので、レベルの高い学習活動が展開されます。

本演習は4月初旬～5月下旬頃に募集と選考を行います。詳細は以下の日程で開催するインターンシップガイダンスに参加し、確認してください。

<インターンシップガイダンス開催日>

衣笠 4月 8日(月) 18:15～19:45 教室:明学館93

衣笠 4月 9日(火) 18:15～19:45 教室:明学館93

BKC 4月10日(水) 18:15～19:45 教室:C201

BKC 4月11日(木) 18:15～19:45 教室:C101

BKC 4月15日(月) 18:15～19:45 教室:C201

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

演習名の「コーオペ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム「コーオペ教育 (Cooperative Education)」に由来しています。名称にふさわしく演習全体を通じて、①学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、②知識基盤社会に向けて求められる高い問題発見・企画立案能力の涵養、③教室では容易に学び得ない自律的な学習意志・姿勢の確立などを目指します。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本演習をサポートする講義として、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(3回生以上配当科目)が夏期集中講義として開講されます。

また、同じ全学型キャリア教育科目である「仕事とキャリア」(2回生以上、前期配当科目)、「全学インターンシップ」(2回生以上、後期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3回生以上、前期配当科目)の受講も望めます。さらに、「学びとキャリア」(1回生以上、前期配当科目)の受講も相乗効果が期待されます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme 【学内公募】	キーワード / Key Word
1	【学内研究会】	①参加企業からの課題が2012年度末に出揃います。②ただちに学内公募が2013年4～5月頃にかけて行われます。③学内選考(レポート・面接)が行われ受講生が6月中旬頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名・学部生4名を基本とします。
	【インターンシップのための法的知識, ビジネスマナー研修】	インターンシップのための法的知識では、インターンシップ研修に伴う機密保持義務や賠償のあり方、セクハラやパワハラなどの法律上の知識を習得します。また、ビジネスマナー研修では、社会人の基礎素養であるマナーの基本について実践を交えて学びます。
	【企業研修】	インターンシップのための法的知識では、インターンシップ研修に伴う機密保持義務や賠償のあり方、セクハラやパワハラなどの法律上の知識を習得します。また、ビジネスマナー研修では、社会人の基礎素養であるマナーの基本について実践を交えて学びます。
	【企画立案研修】	専門家を学外から招き、企業研修における会社研究発表に求められる基本的なスキルを習得します。
	【プレゼンテーション研修】	中間発表および成果発表に備えたプレゼンテーションスキルの学習を行います。
2	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
3	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
4	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
5	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
6	【学内研究会】	中間発表に向けて模擬発表を行います。

【中間発表】

10月～11月(予定)に、専攻学問を生かした問題発見・課題解決の企画立案発表を、原則として大学にて行います。発表をもとに課題提示企業関係者との間で活発な意見交換がなされ、成果発表に向けて最終的な方向性の確認を行います。

7	【学内研究会】	成果発表に向けてのグループワーク
8	【学内研究会】	成果発表に向けてのグループワーク
9	【学内研究会】	成果発表に向けてのグループワーク
10	【学内研究会】	成果発表に向けてのグループワーク
11	【学内研究会】	成果発表に向けてのグループワーク
12	【学内研究会】	成果発表に向けてのグループワーク
13	【学内研究会】	成果発表に向けてのグループワーク
14	【成果発表】	成果発表に向けて模擬発表を行います。
	【成果発表】	12月(予定)には、中間発表で得られた意見や評価をもとに、何回かの学内研究会を経て、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表は原則として、課題提示企業に出向き行います。企業側からは幹部社員などが多数参加し、忌憚のない意見や評価がなされます。
15	【総括】	全員が集い、半年間に及ぶ学習プログラムから何を得たかを評価シートに記載する中で振り返り内省化します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

本演習を通じてビジネス社会と長期間にわたり接触し、多くの社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞を読む習慣を身につけてください。特に、参加企業に関わる記事は見落とさずしっかり目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	①学内研究会や各種研修への出席状況と学習姿勢:40%, ②各種レポートの提出(随時):20%, ③中間発表・成果発表における取組み姿勢:20%, ④成果発表における受入者評価:10%, ⑤報告書:10%で評価します。

評価は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証しコーディネーター教員が最終的な成績評価を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本演習は「授業の概要」でも記したように、基本はインターンシップです。ですから、受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取ろうという強い意志の上に成り立つ学習プログラムです。過去の事例でも、「誠実な取組み姿勢が若手社員の強い刺激になった」、「大学生のレベルとは思えない優れた立案力」など、能動的な学習姿勢と成果に対して高い評価が数多くなされました。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

コーオプ演習の事前学習として役立ちそうな4冊を挙げました。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤 敏明 / 立命館大学 / 日米のキャリア教育、インターンシップを比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を述べた論文。
「立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤 敏明 / 立命館大学 / 日米のキャリア教育、インターンシップを比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を述べた論文。
大学生のためのリサーチリテラシー入門:研究のための8つの力	山田 剛史・林 創 / ミネルヴァ書房 / これから本格的に研究を始める学生(学部2~3年生や修士1年生)を対象に、リサーチリテラシー(研究を遂行するために必要な基礎的能力)について、わかりやすく解説した入門書。
ことわざで鍛えるマーケティング脳(マイコミ新書)	佐藤 義典 / 毎日コミュニケーションズ / “諺”を使用してマーケティングを解説した入門書。マーケティングにとっつきにくいと感じている人にお勧めの一冊。

本演習に関わる質問は、コーディネーター教員まで問い合わせてください。

受講登録をしている学生のみ、Webコースツールに掲載されているシラバスを通じて閲覧することが出来ます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

課題提示企業の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

本演習に関わる質問は、コーディネーター教員まで問い合わせてください。

その他 / Other

インターンシップオフィスは情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

拡張項目

全学インターンシップ (GC) § 国内インターンシップ (GC) § 海外インターンシップ (GC) § 国内インターンシップ (専門) (GC) § 海外インターンシップ (専門) (GC) § IR-EDR206 インターンシップ (国際関係学専攻) (GC) § IR-EDS202 Internship (GS Major) (GC)

54890

担当者名 / Instructor 山路 顕

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生(2年生以上)を対象に単位授与を行います。そのためには、①インターンシップ受入先機関へ応募し選考に合格する、②インターンシップ受入先機関決定後、期限までに受講登録を行う、③「事前、事後研修」をすべて受講する、④最終レポートなど必要書類をすべて提出する、ことが前提条件となります(※受講するインターンシップのタイプによっては、参加必須要件が異なります)。

受講を検討する学生は以下の日程で開催するインターンシップ・ガイダンスに参加し、詳細を確認してください。

<インターンシップガイダンス開催日>

衣笠 4月8日(月) 18:15~19:45 教室:明学館93

衣笠 4月9日(火) 18:15~19:45 教室:明学館93

BKC 4月10日(水) 18:15~19:45 教室:C201

BKC 4月11日(木) 18:15~19:45 教室:C101

BKC 4月15日(月) 18:15~19:45 教室:C201

また、より充実したインターンシップを実現するために、事前学習セミナー(5月)も用意しています。

「事前学習セミナー」とは、「会社等(株式会社や非営利組織、国際機関など)に関する基礎知識を習得し、派遣先研究や業界研究の手法を学ぶ」ことを目的としたセミナーです。

具体的には、まず、「株式会社や非営利組織、国際機関などどのような社会的役割を持っているのか、組織の仕組みや種類、仕事の流れや独自の制度、国内外の動向と相違点に加え、四季報を用いた財務分析の基本等」について、学びます。その知識やスキルをもとに、さらに「派遣先研究や業界研究」について発展的に学びます。このセミナーを通じて、皆さんが参加するインターンシップの「派遣先およびそれを取り巻く業界」に関する総合的な研究を促進させることを目的としています。ぜひ、受講してください。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

所属する学部やインスティテュートの専門的な学びを、体験学習を通じて検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学はインターンシップに関する「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、全学型キャリア教育科目「学びとキャリア」(1年生以上、前期配当科目)、「仕事とキャリア」(2年生以上、前期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3年生以上、前期配当科目)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(研究科及び3年生以上、後期配当科目)の受講にもぜひチャレンジしてください。

なお、コーオプ演習をサポートする科目として、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(3年生以上配当科目、BKC開講)が夏期集中講義として開講されます。コーオプ演習の受講生ばかりでなく、産学連携教育についてさらに発展的に学習したい方、問題発見・課題解決能力を高めたい方の受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマ/導入講義	概要/インターンシップとは何か、学びの自己紹介を通じて確認した後、厳しい就職環境も見据えて会社・業界研究の基本について学ぶ
2	テーマ/インターンシップのための法的認識	概要/研修先で起こりうる可能性のあるあらゆるリスクについて、法的理解を深め、基本的な心構えと対処法を習得
3	テーマ/ビジネスマインド研修(講義)	概要/1. 一組織人としての基本的な心得、2. インターンシップの心構え、3. 仕事の進め方、4. マナーの果たす役割、5. コミュニケーションは第一印象から、6. 話し方と聞き方、7. ケーススタディ
4	テーマ/ビジネスマナー研修(実技)	概要/1. ビジネス文書の基本、2. 文書の書き方、3. FAXとEメールの活用、4. 電話対応の基本、5. ケーススタディ<電話対応編>、6. 総まとめ

5	テーマ/グループワーク	概要/初回講義で提示された課題(企業・業界分析)をもとに分析手法などの解説。同業種の研修先毎のグループに分かれ、発表や議論を通じて研修先について深く学ぶ。事前研修にて学んできた内容を、インターンシップ研修に向けて理解し、どのように生かすべきかの総括も実施
6	テーマ/グループワーク+事前研修総括講義	概要/第5講でのグループワークによる成果発表+総括授業
7	テーマ/インターンシップ研修1	概要/原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の授業が無い時期に実施される。
8	テーマ/インターンシップ研修2	概要/同上
9	テーマ/インターンシップ研修3	概要/同上
10	テーマ/インターンシップ研修4	概要/同上
11	テーマ/インターンシップ研修5	概要/同上
12	テーマ/成果発表に向けての事前講義	概要/インターンシップ研修を通じて得た問題意識や成果を客観的に振り返る
13	テーマ/グループワーク	概要/個人別に振り返った内容を、さらに同業種の研修先毎のグループに分かれ、発表や議論を通じて、再度インターンシップ研修を通じて得た問題意識や成果を客観的に振り返る
14	テーマ/グループワーク+成果発表	概要/第13講でのグループワークによる成果発表
15	テーマ/事前・事後研修を通じた最終総括講義	概要/インターンシップ研修先での体験を総括し、自己及び専門分野との関わり等につき、考察し、今後の学習目標を設定、キャリアプランを明確にする。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流する。最低限、新聞をしっかりと読み込む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業(団体)に関わる記事にはしっかり目を通しましょう。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	日常点(事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習活動の内容をもとに評価します):70%、最終レポートなど:20%、その他(研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります):10%

評価は、学内で行われる事前・事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習、さらに提出物(最終レポートなど)を総合的に判定し、行います。中でも産学連携のインターンシップの主旨に照らし出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。正当な理由なく事前・事後研修を遅刻や欠席したり、各種提出物の締め切り後の提出は、大きな減点要素となります。十分注意してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

インターンシップ研修が行われる企業、団体は教育機関ではありませんので、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。従って、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生の主体的な姿勢は受け入れ甲斐がある」、「いろいろと提案してくれるので企業としても有益だ」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで下さい。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事!	スタッズ・ターケル/晶文社/ISBN4-7949-5661-4/1972年に発行された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編/日本経済新聞社/ISBN4-532-35114-6/日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上 龍/幻冬舎/ISBN4-344-00429-9/人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立ちそうな3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

4月初旬から中旬にかけて開催される学内のインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で様々な情報が紹介されます。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

インターンシップオフィスHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/internship/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

全学インターンシップ・プログラムに関する質問は、コーディネーター教員である山路まで問い合わせてください。

その他 / Other

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを勧めます。

拡張項目

民法 I (入門・総則) (JB)

17853

担当者名 / Instructor 谷本 圭子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本講義は、全部で18単位ある民法科目のうちの最初の科目である。そのため、最初の数回は、民法の基本事項について講義する。その後、民法典第1編「総則」について講義する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ①民法における「総則」に関する基本的知識を身につける。
- ②民法の基本的な思考方法を身につける。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

法学入門

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	民法入門(1)～民法とは何か、民法の法源～	公法と私法、一般法と特別法、慣習、条理
第2回	民法入門(2)～民法典について、民法の基本原則～	ポアソナード、パンデクテン方式、民法典論争、物権と債権、契約自由の原則
第3回	民法入門(3)～民法の思考方法に慣れる～	契約の成立要件と契約の有効要件
第4回	民法総則入門	パンデクテン方式、公共の福祉、信義則、権利濫用の禁止、一般条項
第5回	自然人(1)	権利能力、意思能力、行為能力、同時死亡の推定、失踪宣告
第6回	自然人(2)	意思能力、行為能力、未成年者、後見
第7回	自然人(3)	保佐、補助、催告、詐術
第8回	法人(1)	社団法人、財団法人、公益法人、営利法人、非営利法人
第9回	法人(2)	法人の権利能力・行為能力、権利能力なき社団・財団
第10回	物	有体物、不動産と動産、主物と従物、元物と果実
第11回	法律行為総論	法律行為、意思主義、表示主義、慣習、任意規定、強行規定、条理、公序良俗
第12回	意思表示総論、心裡留保	意思の不存在、瑕疵ある意思表示
第13回	虚偽表示	94条2項の類推適用、善意の第三者
第14回	錯誤	要素の錯誤、表示錯誤、動機錯誤
第15回	詐欺、強迫	取消しと第三者
第16回	消費者契約法における特則、意思表示にかかわるその他の問題	誤認の惹起、困惑の惹起、不当条項規制、到達主義
第17回	代理(1)	法定代理、任意代理、自己契約、双方代理、代理権の濫用
第18回	代理(2)	代理行為、代理行為の瑕疵、無権代理
第19回	代理(3)	無権代理
第20回	代理(4)	表見代理

第21回 代理(5)	表見代理
第22回 無効、取消し	無効行為の転換、追認
第23回 条件、期限、期間の計算	停止条件、解除条件、期限の利益、初日不算入の原則
第24回 時効(1)	消滅時効、起算点、援用
第25回 時効(2)	中断、停止
第26回 時効(3)	除斥期間、権利失効の原則
第27回 時効(4)	取得時効、占有
第28回 問題演習 ※講義の進度調整にあてる可能性あり	
第29回 民法改正の議論動向	
第30回 講義のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

講義での理解をスムーズなものとするために、予習・復習をする(教科書の該当部分をあらかじめ通読しておく、授業後に読んでみる)ことを習慣としてください。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述式の試験で、上記の到達目標に到達しているかどうかを見ます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

集中講義なので学習範囲が広がります。
講義には必ず出席してください。一回一回の積み重ねが何よりも大事です。
予習・復習は、学習をさらに助けてくれますが、何よりもまず、授業に出席してください。
理解できなかった箇所を復習で補うようにすればよいでしょう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法の基礎1(第三版)	佐久間毅 / 有斐閣 / /
民法 I	内田貴 / 東大出版会 / /

講義自体はレジュメと板書により行いますが、予習・復習用に必ず一冊は教科書を手元に置いてください。上記以外でも、自分に合うかどうかを書店で手に取ってみて、自分で選んでみてください

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法判例百選 I (第六版)	中田裕康ほか編 / 有斐閣 / /
判例ブラクティス I	松本恒雄ほか編 / 信山社 / /

判例を知ることは、どのように法律が実際に解釈運用されたかを知ることになります。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Other

拡張項目

担当者名 / Instructor 臼井 豊

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本授業では、民法第一編「総則」(民法全体の導入、つまり「民法入門」を含む)の解説を行う。条文では、とくに民法1条から37条、85条から174条の2までが中心となる。民法のなかでも総則部分は、民法全体に共通する問題を扱っていて、それだけに全体に抽象的な民法のなかでも、特に抽象度が高く取っつきにくいことから、初期法学教育にふさわしい教授法に関する工夫がもっとも重ねられてきた部分でもある。私もこれまでの先人の工夫に学びながら、できるだけ具体的な設例を用いて、分かりやすい授業に努めていきたい。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

民法第一編「総則」の諸制度、それに関する法律概念・用語・条文を正確に理解していること。
上記に関する判例通説の見解・基本問題を幅広く論理的に理解していること。
以上の理解を踏まえて、応用問題(とくに事例問題)にも正確な法的判断を下せること。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

法学入門

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	民法入門①—民法の意義、民法典と総則の全体像、民法の基本原則など	
2	民法入門②—私権とその行使の基本原則・限界	公共の福祉、信義則、権利濫用
3	権利の主体「自然人」①権利能力・意思能力	胎児の法的地位(阪神電鉄事件、停止条件説と解除条件説)、私的自治の原則
4	権利の主体「自然人」②行為能力—未成年者	
5	権利の主体「自然人」③行為能力—成年後見制度	後見・保佐・補助
6	権利の主体「自然人」④相手方の保護と行為能力制限制度の総括	制限行為能力者の詐術による取消権剥奪
7	住所・不在者の財産管理及び失踪宣告・同時死亡の推定・権利の客体「物」	居所・仮住所、普通失踪・特別失踪、有体物、不動産・動産
8	法律行為と意思表示	意思主義と表示主義、法律行為の種類、意思表示の構造
9	法律行為の有効要件①一般条項「公序良俗」	
10	法律行為の有効要件②心裡留保・通謀虚偽表示	意思の不存在(意思の欠缺)、相手方・第三者の保護
11	法律行為の有効要件③錯誤	錯誤の種類・類型、動機の錯誤
12	法律行為の有効要件④詐欺強迫・意思表示の効力発生時期	二段の故意、欺罔行為の違法性、到達主義
13	第1回小テスト実施(45分)とその解説(45分)※実施時期は前後することがありうる	
14	消費者契約法	
15	民法総則の前半部分を終えた「まとめ」	
16	代理総論・有権代理論	代理の意義・機能、任意代理・法定代理、代理権授与と代理行為、顕名主義、自己契約・双方代理の禁止、復代理
17	無権代理論(「無権代理と相続」を除く)	無権代理人の責任
18	表見代理論	代理権授与表示による表見代理、越権代理、代理権消滅後の表見代理
19	代理権の濫用法理	民法93条ただし書類推適用、親権者の法定代理権
20	法人総論—最近の法人制度改革を中心に—	法人制度の意義・必要性、社団法人・財団法人、一般法人・公益法人・営利法人、定款、設立主義
21	一般法人法・公益法人認定法の概要と「権利能力なき社団」法理	一般社団・財団法人、準則主義(登記)、公益社団・財団法人、認定主義、権利能力なき社団法理
22	法人の外部関係	法人学説、民法34条の定款の目的による制限、定款による理事の代表権の制限、法人の不法行為責任
23	法人の内部関係と法人格否認の法理	社員総会、理事・監事、評議員・評議員会、法人の解散、法人格否認の法理

24	第2回小テスト実施(45分)とその解説(45分)※実施しないこともありうる	
25	無効・取消し、条件と期限・期間の計算	無効行為の追認・転換、取消権の時効、停止条件・解除条件、確定期限・不確定期限、期限の利益
26	時効総論	時効の意義・正当化根拠、取得時効・消滅時効、時効の援用、時効利益の放棄、時効の中断
27	取得時効 自主占有・他主占有、長期・短期取得時効、原始取得、占有の承継、自然中断	
28	消滅時効	短期消滅時効
29	除斥期間－民法724条後段の20年の期間制限を中心に	除斥期間、権利濫用・信義則
30	「民法総則」の後半部分を終えた「まとめ」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

配布予定のレジュメには、「復習」、「調査」、「自宅学習」、「発展学習」、「演習事例問題」などがあるので、教員の指示に従い随時しっかりと行っていただきたい。

なお、予定している小テストは、必ず受験して現在の自分自身の到達度を把握し、予習・復習に生かして欲しい。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	民法第1編「総則」の諸制度・規定、関連する法概念、判例・学説の見解等を正確に理解し、習得した知識をもとにして一定の法的思考を行うことができるかどうかによって評価する(「到達目標」欄も参照のこと)。 なお小テストなどの機会に随時具体的に提示して、イメージしてもらう。

定期試験を基本に成績評価する。なお受講態度の悪い者については、減点を行うことがあるので、十分注意していただきたい。
また、実施した小テストを成績評価に加味すると判断した場合は、定期試験の割合が90～80%程度になることもありうる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

上記「授業外学習の指示」に従って勉強してください。

また分からないことがあれば、恥ずかしからず、本授業に配属の予定されているTA・ESに指定時間に相談することをオススメする。

なお授業では、六法は適宜参照するので、コンパクトなものでよいから、常に持参すること。条文に慣れるときわめて重宝するので、面倒くさがらずに必ず六法をめくること。

教科書 / Textbooks

教材・資料については、担当者が独自に作成したものを配布する予定にしている。ただし、急ぐ必要はないが、ご自身で必ず基本書を一冊購入して予習・復習などに活用していただきたい。

なお、新しい教科書が複数出版されることが予想されるため、詳細については、初回授業時に説明する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法判例百選 I	／有斐閣／／
民法の争点	内田貴＝大村敦志／有斐閣／／
判例プラクティス民法 I 総則・物権	松本恒雄＝潮見佳男／信山社／／

新しい参考書が複数出版されることが予想されるため、詳細は初回講義時にご紹介するつもりである。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

予定している「TA・ESの学習相談会」

その他 / Other

拡張項目

国際社会入門 (S)

16628

担当者名 / Instructor 玉置 えみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

我々はグローバル化が進んだ社会に住んでいます。人・モノ・資本の移動が国境を越え世界のあらゆる場所へ届く時代をどのように理解したらよいのでしょうか。この授業では人の移動に焦点を当て、社会科学的分析を通じて国際社会への理解を促します。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

国境を越えた人の移動のパターンとその理由が分かります。
また、その結果世界で何が起きているかが理解できます。
社会科学の方法にふれることができます。
データ収集と分析の経験ができます。
プレゼンテーション能力が身につきます。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特にありません

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション: グローバル化とはなにか	人・モノ・資本の移動
2	グローバル社会へのアプローチの方法	社会科学的方法論 リサーチ・クエスチョン 仮説検証 データ データ分析 理論・政策へのフィードバック
3	国際移動の理論: 国際移動のなぜに答える	人口転換論 労働移民の新経済学 ネットワーク論 世界システム論
4	国際移動と社会	移民の同化・統合・共生
5	国際移動と政治	移民政策 移民の政治参加 シティズンシップ
6	国際移動と経済	福祉国家と移民の経済的コスト 海外送金
7	国際移動と文化	アイデンティティ 宗教 言語
8	中間テスト(60分)とその解説(30分)	国境を越える移動と社会変容
9	クラス・チュートリアル1: インタビュー	質的方法
10	クラス・チュートリアル2: エクセルを使ったデータ分析	量的方法
11	トランスナショナリズムと国際移動	トランスナショナルな人の移動とその帰結 グローバリゼーション
12	移民と日本: ゲストスピーカー(予定)	ケーススタディ 国際比較
13	Kyoto as a Global City	学生によるインタビューに基づいたディスカッション
14	国際移動のプロファイル	学生によるプレゼンテーションに基づいたディスカッション
15	まとめ: 国際社会の今後	グローバル化と国家

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

授業のパワーポイント、および文献をウェブサイトアップロードします。必要に応じて予習・復習に役立ててください。またオフィスアワーを設けていますので、質問・相談などがあれば随時来てください。個別の相談はメールでアポイントを取っていただければいつでも受け付けます。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	20 %	講義で取り上げた概念や理論について自分の言葉で説明できる。学習した概念や理論を使いデータを評価できる。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	80 %	国際移住者へのインタビューレポート(25%) 国別・国際移住者のプロファイル(25%) クラスへの貢献(10%) 中間テスト(20%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義で学んだことを日常生活と関連づけて考えてみてください。
また、日本だけではなく、ほかの国ではどうか、と想像してみてください。
分からないことや困ったことは、早めに相談してください。

教科書 / Textbooks

授業中に資料を適宜配布します

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

国際移民の時代

S・カースルズ, M・J・ミラー / 名古屋大学出版会 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

最初の授業でお知らせします

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

(選択)英語UBC・JP作文 (UA)

15170

担当者名 / Instructor WARRIES GARTH A.

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course will prepare students for academic writing and reading skills for their studies on the Ritsumeikan–University of British Columbia Joint Program.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

Students will learn the fundamentals of academic essay writing. This will include: learning how to identify and write various types of academic essays; learning how to structure each of the individual paragraphs within an essay; and learning how to assemble paragraphs into a cohesive whole. In addition, students will read a variety of academic articles that will serve as source material for their writing, help to develop their analytical skills, improve their comprehension ability, and expand their vocabulary base.

They will also learn other basic academic skills, such as avoiding plagiarism, APA documentation style, integrating sources, referencing, interpreting and describing graphs, charts, statistics, etc.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

Students are encouraged to attain basic skills in using Microsoft Word (e.g. how to change margins, spacing options, inserting page numbers, etc.) before they start their study at UBC. It is also recommended to start reading authentic materials on a regular basis, including newspapers and news websites. It would also be a good idea to explore the UBC website (<http://www.ubc.ca>) to get a better idea of what the university has to offer.

See also the Web Pages Useful for Reference below.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Course introduction / In-class writing	
2~3	Unit 1 Education and learning	
4~5	Unit 2 Innovations in health and medicine	
6~7	Unit 3 Urban planning	
8~9	Unit 4 Water, food, and energy	
10~11	Unit 5 Free trade and fair trade	
12~13	Essay exam questions / Mid-term evaluation	
14~15	Unit 6 Conserving the past	
16~17	Unit 7 Wonders of the modern world	
18	Research paper: Planning and writing / APA style	
19~20	Unit 8 Olympic business / Avoiding plagiarism	
21~22	Unit 9 Trends	
23	Research paper: Editing	
24~25	Unit 10 Communication and technology	
26	Research paper: Proofreading	
27	Note taking (UBC Learning Commons)	
28	Evaluating Internet sources (UBC Library)	
29	Research paper: Evaluating	
30	Final evaluation	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 % Class instructors will provide students with more information regarding grading criteria.
平常点評価

Students are expected to attend all classes. Students who anticipate an absence for a legitimate reason should contact the instructor as soon as possible. Should they be obliged to miss a class, students should contact the instructor or a classmate to find out about homework and other essential information; Being absent is not an acceptable excuse for not submitting homework in time.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Keeping a journal is a good way to improve writing as well as other skills of English.

Warning against Plagiarism:

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation. Unacknowledged

copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Headway Academic Skills: Reading, Writing and
Study Skills. Level 3.

Philpot, S. & Curnick, L. / Oxford U P / 978-0-19-474161-3 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

UBC Learning Commons. <http://learningcommons.ubc.ca/>

A+ Research and Writing. <http://www.ipl.org/div/aplus/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Other

拡張項目

(選択)英語UBC・JP作文 (UB)

15172

担当者名 / Instructor HELVERSON GWYN A.

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course will prepare students for academic writing and reading skills for their studies on the Ritsumeikan–University of British Columbia Joint Program.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

Students will learn the fundamentals of academic essay writing. This will include: learning how to identify and write various types of academic essays; learning how to structure each of the individual paragraphs within an essay; and learning how to assemble paragraphs into a cohesive whole. In addition, students will read a variety of academic articles that will serve as source material for their writing, help to develop their analytical skills, improve their comprehension ability, and expand their vocabulary base.

They will also learn other basic academic skills, such as avoiding plagiarism, APA documentation style, integrating sources, referencing, interpreting and describing graphs, charts, statistics, etc.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

Students are encouraged to attain basic skills in using Microsoft Word (e.g. how to change margins, spacing options, inserting page numbers, etc.) before they start their study at UBC. It is also recommended to start reading authentic materials on a regular basis, including newspapers and news websites. It would also be a good idea to explore the UBC website (<http://www.ubc.ca>) to get a better idea of what the university has to offer.

See also the Web Pages Useful for Reference below.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Course introduction / In-class writing	
2~3	Unit 1 International student	
4~5	Unit 2 Where in the world . . . ?	
6~7	Unit 3 Newspaper articles	
8~9	Unit 4 Modern technology	
10~11	Unit 5 Conferences and visits	
12~13	Essay exam questions / Mid-term evaluation	
14~15	Unit 6 Science and our world	
16~17	Unit 7 People: past and present	
18	Research paper: planning and writing / APA style	
19~20	Unit 8 The world of IT / Avoiding plagiarism	
21~22	Unit 9 Inventions, discoveries, and processes	
23	Research paper: editing	
24~25	Unit 10 Travel and Tourism	
26	Research paper: proofreading	
27	Note taking (UBC Learning Commons)	
28	Evaluating Internet sources (UBC Library)	
29	Research paper: evaluating	
30	Final evaluation	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 % Class instructors will provide students with more information regarding grading criteria.
平常点評価

Students are expected to attend all classes. Students who anticipate an absence for a legitimate reason should contact the instructor as soon as possible. Should they be obliged to miss a class, students should contact the instructor or a classmate to find out about homework and other essential information; Being absent is not an acceptable excuse for not submitting homework in time.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Keeping a journal is a good way to improve writing as well as other skills of English.

Warning against Plagiarism:

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation. Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

教科書 / Textbooks書名 / Title出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Headway Academic Skills: Reading, Writing and
Study Skills. Level 2.

Philpot, S./Oxford U P/978-0-19-474160-6/

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference**

UBC Learning Commons. <http://learningcommons.ubc.ca/>

A+ Research and Writing. <http://www.ipl.org/div/aplus/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Other**拡張項目**

財政学 I (G)

13653

担当者名 / Instructor 内山 昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本財政を中心的素材として現代財政の全体像、財政学の基礎知識、理論を学修する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

財政学の基礎概念、理論を正確に理解し、日本の財政問題を考える。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

経済関係の基礎科目 マクロ経済学 税法関係科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代財政へのアプローチ	財政学の知恵 財政の概念 財政民主主義 国民主権 日本国憲法
2~4	現代財政の全体像	安価な政府 アダム・スミス 大きな政府 マスグレイブ 財政の機能
5~8	現代財政の制度的特徴	一般会計 四大経費 狭義の財政 広義の財政 社会 保険 財政投融资
9~12	租税の基礎知識	消費税 個別消費税 所得税 法人税 租税体系
13~14	公債の基礎知識	公債の定義 公債の制度 建設公債 赤字公債 日銀 引受 市中消化
15	主要論点整理	財政の基礎的概念 理論 制度 財政問題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	財政に関する諸概念、理論を正確に理解し、租税に関する計算問題ができること。
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	30 %	適宜小テストを行う

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞・雑誌の財政に関する解説記事に関心を持ち、読むこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代の財政	内山昭編著 / 税務経理協会 / /
図説・日本の財政 平成24年版	西田安範編 / 東洋経済新報社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

財務省、国税庁ホームページ

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

初等国語科教育法 (SB)

12289

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の指導法に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科の歴史的展開、目標、内容構成、授業、評価、現代の課題などについて、児童の言語発達の特徴をふまえながら、原理的実践的に探求する。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論を組み入れることにより、教材研究、教材開発、授業改善のための実践的力量的形成を目指す。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・小学校国語科の内容と教師の役割に関する基礎的知識を理解する。
- ・国語学力に関連する子どもの発達特性と指導方法の基礎的知識・技術を理解する。
- ・小学校国語科の教材研究、教材開発、授業改善、教育評価等に関する基礎的知識・技術を理解する。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	国語科教育の歴史的展開と現代的課題	学習指導要領と教科書の特徴 教科の構造
第2回	「書くこと」領域の教材研究と授業①	文章表現技術の特質 「作文」「綴方」「書くこと」の違い 生活と表現
第3回	「書くこと」領域の教材研究と授業②	幼・小連携の課題 低学年の発達特徴 入門期の教材と指導
第4回	「書くこと」領域の教材研究と授業③	中学年の発達特徴 教材と指導の実際 創作指導の課題
第5回	「書くこと」領域の教材研究と授業④	高学年の発達特徴 教材と指導の実際 「調べて書く」 ことの指導
第6回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業①	美しい声 小学生の声と体の実態 音読・朗読の基礎技術
第7回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業②	群読のためのシナリオづくり
第8回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業③	群読の実演
第9回	「読むこと」領域の教材研究と授業①	文芸学の基礎知識 構造 視点
第10回	「読むこと」領域の教材研究と授業②	民話教材の教材研究と授業
第11回	「読むこと」領域の教材研究と授業③	平和教材の教材研究と授業
第12回	「読むこと」領域の教材研究と授業④	詩の教材研究と授業
第13回	「読むこと」領域の教材研究と授業⑤	説明文教材と授業
第14回	読書・「言語事項」に関する指導法	読書指導の課題と方法 文字・語彙・文法・漢字・書写の指導法
第15回	国語科教育における教師の役割	教師のまなざし 教育実践に学ぶ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

小集団を基礎とした教材研究、指導案の作成、模擬授業など、演習的要素を取り入れた受講生参加型の講義となる。事前の準備を適宜指示することがある。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。授業で扱った国語教育に関する諸課題に関する理解、および基本的知識を問う。
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	50 %	日常の授業における諸課題や回数程度提起される小レポート(指導案等)の履修状況に基づいて、授業内容の理解度を平常点として評価する。

個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

言葉と国語教育に関してはもとより、学校と教育をめぐる幅広い関心を育ててほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新しい小学国語の創造』	伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎 / 双文社出版 / 978-4-88164-080-7 / 問題提起的な研究書である。
『小学校学習指導要領解説 国語編』	文部科学省 / 東洋館出版 / 978-4-491-02371-7 /

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新編書写指導』	全国大学書写書道教育学会編 / 萱原書房 / 860120094 /
『国語教師が知っておきたい日本語文法』	山田敏弘 / くろしお出版 / 9784874243107 /
『分ければ見つける知ってる漢字』	宮下久夫 / 太郎次郎社 / 4-8118-0659-X /
『白川静博士の漢字の世界へ』	福井県教育委員会 / 平凡社 / 978-4-582-40334-3 /

とりわけ、学習指導要領については、十分に理解しておく必要がある。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。 <http://www.ritsumeit.ac.jp/~t-ito/index.htm>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

- コミュニケーションペーパー / Communication Paper
- manaba+R / Learning Management System (manaba+R)
- 学生との直接対話 / Talk with Students
- その他 / Other

オフィスパワーを設ける。時間・場所については授業時に告知する。

その他 / Other

拡張項目

初等国語科教育法 (SA)

12217

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の指導法に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科の歴史的展開、目標、内容構成、授業、評価、現代の課題などについて、児童の言語発達の特徴をふまえながら、原理的実践的に探求する。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論を組み入れることにより、教材研究、教材開発、授業改善のための実践的力量的形成を目指す。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・小学校国語科の内容と教師の役割に関する基礎的知識を理解する。
- ・国語学力に関連する子どもの発達特性と指導方法の基礎的知識・技術を理解する。
- ・小学校国語科の教材研究、教材開発、授業改善、教育評価等に関する基礎的知識・技術を理解する。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 国語科教育の歴史的展開と現代的課題	学習指導要領と教科書の特徴 教科の構造
	第2回 「書くこと」領域の教材研究と授業①	文章表現技術の特質 「作文」「綴方」「書くこと」の違い 生活と表現
	第3回 「書くこと」領域の教材研究と授業②	幼・小連携の課題 低学年の発達特徴 入門期の教材 と指導
	第4回 「書くこと」領域の教材研究と授業③	中学年の発達特徴 教材と指導の実際 創作指導の課 題
	第5回 「書くこと」領域の教材研究と授業④	高学年の発達特徴 教材と指導の実際 「調べて書く」 ことの指導
	第6回 「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業①	美しい声 小学生の声と体の実態 音読・朗読の基礎技 術
	第7回 「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業②	群読のためのシナリオづくり
	第8回 「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業③	群読の実演
	第9回 「読むこと」領域の教材研究と授業①	文芸学の基礎知識 構造 視点
	第10回 「読むこと」領域の教材研究と授業②	民話教材の教材研究と授業
	第11回 「読むこと」領域の教材研究と授業③	平和教材の教材研究と授業
	第12回 「読むこと」領域の教材研究と授業④	詩の教材研究と授業
	第13回 「読むこと」領域の教材研究と授業⑤	説明文教材と授業
	第14回 読書・「言語事項」に関する指導法	読書指導の課題と方法 文字・語彙・文法・漢字・書写 の指導法
	第15回 国語科教育における教師の役割	教師のまなざし 教育実践に学ぶ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

小集団を基礎とした教材研究、指導案の作成、模擬授業など、演習的要素を取り入れた受講生参加型の講義となる。事前の準備を適宜指示することがある。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。授業で扱った国語教育に関する諸課題に関する理解、および基本的知識を問う。
レポート試験	0 %	国語教育の内容と方法に関する諸問題の中から、受講生の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。テーマ設定の妥当性、論究過程における論理性・具体性・実証性などを評価する。

上記以外の試験・レポート、 50 % 日常の授業における諸課題や教回程度提起される小レポート(指導案等)の履修状況に基づき、授業内容の理解度を平常点として評価する。

個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

言葉と国語教育に関してはもとより、学校と教育をめぐる幅広い関心を育ててほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新しい小学国語の創造』	伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎 / 双文社出版 / 978-4-88164-080-7 / 問題提起的な研究書である。
『小学校学習指導要領解説国語編』	文部科学省 / 東洋館出版 / 97844491023717 /

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新編書写指導』	全国大学書写書道教育学会編 / 萱原書房 / 860120094 /
『国語教師が知っておきたい日本語文法』	山田敏弘 / くろしお出版 / 9784874243107 /
『分ければ見つかる知ってる漢字』	宮下久夫 / 太郎次郎社 / 4-8118-0659-X /
『白川静博士の漢字の世界へ』	福井県教育委員会 / 平凡社 / 978-582-40334-3 /

とりわけ学習指導要領に関しては、十分に理解しておく必要がある。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。 <http://www.ritsumeai.ac.jp/~t-ito/index.htm>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

オフィスアワーを設ける。時間・場所については授業時に告知する。

その他 / Other

拡張項目

授業の概要 / Course Outline

民法総則は民法の体系(とくに財産法)に共通するルールをまとめたものであり、その内容はとても抽象的である。従って、はじめて法律を学ぶ者にとって分かり易いとはお世辞にもいえません。しかし、幅広く適用されるという性質をもっている民法総則を学ぶことは民法全体を理解するためには不可欠です。

本講義では民法総則に規定されている制度を判例・学説を交えつつ解説します。単なる抽象的な説明にならないよう具体例を挙げてなるべく分かり易く講義することをこころがけます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 民法総則の基本的知識を習得し、他人に事例を挙げて説明できるようになる。
2. 条文の要件・効果や判例・学説の理論を単に覚えるだけでなく、その沿革や趣旨も理解する。
3. 各種資格試験等の択一問題にも対処できるようになる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回 入門①		民法の位置づけ
第2回 入門②		民法の歴史
第3回 入門③		民法の基本原則
第4回 入門④		物を買う
第5回 入門⑤		他人に怪我をさせる
第6回 入門⑥		相続する
第7回 自然人①		権利能力・意思能力
第8回 自然人②		行為能力
第9回 自然人③		行為能力・失踪宣告
第10回 法人①		法人総論
第11回 法人②		能力・不法行為責任
第12回 法律行為①		総論・解釈
第13回 法律行為②		有効要件
第14回 意思表示・心裡留保		動機・効果意思・表示意思・表示行為・意思と表示の不一致
第15回 虚偽表示①		総論
第16回 虚偽表示②		第三者との関係
第17回 錯誤①		総論
第18回 錯誤②		要件・効果
第19回 詐欺・強迫		効果意思の形成に欠点がある場合
第20回 消費者契約法		契約自由の修正、消費者取消権、不当条項規制

第21回 無効・取消	無効と取消の異同
第22回 代理①	総論
第23回 代理②	代理権・代理行為
第24回 代理③	無権代理人の責任
第25回 代理④	相続と無権代理
第26回 代理⑤	表見代理
第27回 条件・期限・期間	停止条件・解除条件・出せ払い
第28回 時効①	総論・取得時効
第29回 時効②	消滅時効
第30回 時効③	援用・放棄・中断・停止

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

指定テキストで各講義の該当箇所を読んで復習することが望ましい。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	次の二点を基準とします。 基本的な知識を問う択一問題が解けるか。 制度や理論が過不足なく説明できるか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

六法(小型のもので構わない)を持参し、講義中に出てきた条文を各自で参照すること。
毎回の授業時に講義資料(ハンドアウト)を配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハイブリッド民法(1) 民法総則	小野秀誠ほか / 法律文化社 / 978-4589029980 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
判例プラクティス民法I【総則・物権】	松本恒雄、潮見佳男(編集) / 信山社 / 978-4797226263 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

講義中の私語・携帯電話の使用(通話・メール)は厳に慎むこと。程度が甚だしいと教員が判断した場合には、退室を命じ、成績に不利益を課します。

拡張項目

授業の概要 / Course Outline

債権各論と呼ばれる分野は契約、事務管理、不当利得、不法行為から成る。本講義では特に契約と不法行為を中心に扱います。物の売り買いなどのルールを法がどのように定めているのか、他人に怪我をさせた場合に法的にどのように処理されるのか、といったことを学びます。

なお、契約に関しては、契約の成立・効果・終了および売買をはじめとする典型契約ならびに債務不履行を講義の対象とします。本講義ではこれらの制度を判例・学生を交えつつ解説します。単なる抽象的な説明にならないよう具体例を挙げてなるべく分かり易く解説することをこころがけます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 債権各論（契約、事務管理、不当利得、不法行為）の基本的知識を習得し、他人に事例を挙げて説明できるようになる。
2. 条文の要件・効果や判例・学説の理論を単に覚えるだけでなく、その沿革や趣旨も理解する。
3. 各種資格試験等の択一問題にも対処できるようになる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 契約法総論	契約とは・契約観・契約の種類
	第2回 契約の成立	プロセス・成立前の責任・終了後の責任・隔地者間の契約
	第3回 契約の効力①	同時履行
	第4回 契約の効力②	危険負担
	第5回 債務不履行①	要件
	第6回 債務不履行②	損害賠償・受領遅滞
	第7回 契約の解除①	要件
	第8回 契約の解除②	効果
	第9回 贈与	一般の贈与・特殊の贈与・撤回
	第10回 売買①	予約・手付け
	第11回 売買②	売主の担保責任
	第12回 消費貸借・使用貸借	要物性・準消費貸借・借主の権利義務・貸主の権利義務
	第13回 賃貸借①	成立・内容・終了
	第14回 賃貸借②	敷金・信頼関係破壊・無断転貸
	第15回 賃貸借③	借地借家法
	第16回 請負	他人の役務を目的とする契約・所有権の帰属・危険負担・担保責任・解除
	第17回 委任・寄託	善管注意義務
	第18回 不法行為総論	意義・目的・過失責任主義
	第19回 要件①	故意・過失

第20回 要件②	権利利益侵害
第21回 要件③	因果関係・責任否定事由
第22回 効果①	金銭賠償・賠償の範囲
第23回 効果②	賠償額の調整
第24回 効果③	請求権者・差止請求
第25回 特殊の不法行為・監督義務者の責任	他人の行為による責任・責任能力
第26回 使用者責任・注文者の責任	他人の行為による責任・使用関係・事業執行性・求償
第27回 土地工作物責任・動物占有者の責任	物についての責任・工作物・营造物・所有者の責任・占有者の責任
第28回 共同不法行為	競合的不法行為・関連共同性
第29回 事務管理	委任によらない事務の処理
第30回 不当利得	法律上の原因・受益・損失・因果関係

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	次の二点を基準とします。 基本的な知識を問う択一問題が解けるか。 制度や理論が過不足なく説明できるか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

六法(小型のもので構わない)を持参し、講義中に出てきた条文を各自で参照すること。
毎回の授業時に講義資料(ハンドアウト)を配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スタートライン債権法[第5版]	池田真朗 / 日本評論社 / 978-4535517745 /
民法 2 債権法 第3版	我妻 榮、有泉 亨、川井 健 / 勁草書房 / 978-4326450862 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
判例プラクティス民法II [債権]	松本恒雄、潮見佳男 (編集) / 信山社 / 978-4797226270 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

講義中の私語・携帯電話の使用(通話・メール)は厳に慎むこと。程度が甚だしいと教員が判断した場合には、退室を命じ、成績に不利益を課します。

拡張項目

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「日本語教育学 I(または日本語教育学概論)」で学んだ内容をさらに発展させ、日本語教育や国際交流に関わっていく際に必要な日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習、外国語教育について、日本語教育に求められる発展的な力を養成する。この授業では特に方言と共通語、第二言語習得、バイリンガル教育、異文化コミュニケーション、実践的音声教育などに焦点を当てる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

日本語教育の現状及び多様な文化的背景を持つ学習者の実態への理解を深め、言語・日本語・日本語教育等に関する個々の知識を検定や教育の現場で役に立つ能力へとつなげていくことが目標とされる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

日本語教育学 I(または日本語教育学概論) や言語学概論で取り扱う基礎知識を背景としたトピックが多いので、先に履修しておくことが強く望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	日本の方言	日本の方言概略
2	日本の方言	方言の分布パターン、東西分布、周圏分布、逆周圏分布
3	日本の方言	方言の音声
4	方言と共通語	ネオ方言、新方言、ウチナーヤマトウグチ、コードスウィッチング、方言の未来
5	コミュニケーション・スキル	非言語コミュニケーション、自己開示、アサーティブ・コミュニケーション、エポケー
6	第二言語習得	オーディオ・リンガル・メソッド、対照分析研究、誤用分析研究、中間言語研究
7	第二言語習得	バイリンガリズム
8	第二言語習得	イマージョン・プログラム、年少者への日本語教育
9	第二言語習得	学習者のストラテジー、サジェストベディア
10	異文化コミュニケーション	異文化適応、リエントリー・クライシス
11	異文化コミュニケーション	気づきのエクササイズ
12	異文化コミュニケーション	異文化トレーニング
13~14	音声教育	音声教育の教材、教授法
15	アクション・リサーチ	アクション・リサーチ、自己研修型教師

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に質問する等のことを行うこと。特に教師に対する質問においては遠慮は不要なので、話の途中で遮ってでも質問すること。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	・授業内容の理解度 ・文章の構成力
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	50 %	・授業への積極参加度 ・タスク・ディスカッションに対する取り組み

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が大いに望まれる。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布(ハンドアウトがかなり多いので、ハンドアウトを整理できるようクリアファイルなどを準備すること)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

fleetwood@mac.com / il.nome.della.rosa@softbank.ne.jp

その他 / Other

拡張項目

特殊講義(大学アスリート)アスリートのためのアカデミック・スキルズ (K3) § ヴィジョン形成特殊講義(大学アスリート)アスリートのためのアカデミック・スキルズ (K3)

50636

担当者名 / Instructor 石本 雄真

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業の対象は、スポーツ特別入試選抜で入学した一回生全員です。アスリート学生には、部活動と学業との両立が求められます。本授業は、そのために必要なアカデミック・スキル(大学で学ぶための技法)の獲得を目指します。具体的には、論理的思考力や批判的思考力、コミュニケーション力、表現力に関する基礎知識や理論の理解、技能や態度の素地を養うことが挙げられます。少人数クラス(各クラス30名程度)において、講義とグループ演習とを組み合わせることによる仲間同士の学び合いを通して、他者の学びを尊重すると同時に自身の学びを客観化することで、アカデミック・スキルの獲得を目指します。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 大学での学びにおいて必要なアカデミック・スキルを理解し説明することができる。

(技能・表現)

2. 他者のもっている情報や考えを正確に収集することができる。

3. 自分のもっている情報や考えを論理的に相手に伝えることができる。

4. 相手の立場や状況を配慮したコミュニケーションをとることができる。

(関心・意欲・態度)

5. 他者との協同的な学びに積極的に参加しようとする態度をもつ。

6. 講義や演習を通して得た知識や技術を、学生生活のさまざまな場面において応用しようとする態度をもつ。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション: 大学での学び	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法、小レポートの書き方・評価基準の紹介、各回の授業の概要
2	アスリート学生に求められるアカデミック・スキル(講義)	批判的思考力、論理的思考力、コミュニケーション技術、プレゼンテーション技術、ライティング技能等
3	聴き手に求められるカーオーディエンス教育(講義と演習)	コミュニケーションの基本となる「聴き手側」の聴く力と態度を考える
4	受容的に聴くカー積極的傾聴法(講義と演習)	「犬バラ法」と呼ばれる手法を用い、受容的に聴くための技法を知るとともに、相手の悩みを知る方法を考える
5	相手の立場に立って話をするカーアサーション(講義と演習)	他者に自分の意見を伝える際に必要となる、自分の気持ちも相手の気持ちも大切に話した話し方と態度を考える
6	表現力とアイコンタクト-非言語プレゼンテーション(講義と演習)	非言語情報の大切さを知り、効果的なプレゼンテーションの技法を考える
7	議論するカーディベート(講義と演習)	一枚の写真と新聞記事から読み取れる情報をもとに、論理的かつ説得力のある議論の仕方を考える
8	情報を整理するカー強制連結法1(講義と演習)	自分のもっている知識を客観的に理解し、他者の持っている知識との違いを知る
9	情報を構造化するカーフォト・ランゲージ(講義と演習)	一枚の写真から読み取れる情報を、様々な角度から論理的に構造化し、本質を読み取る技法を考える
10	提案するカーロジック・ツリー(講義と演習)	大きな目標を小さく分割することによって、目標達成のための具体的な行動計画を練る方法を知る
11	道徳的に判断するカーコールバーグの道徳性認知発達段階(講義と演習)	社会のルールやモラルはなぜ守らなければならないのかや、自分の道徳性について考える
12	プレゼンテーションやレポートの論理を作る力(1)-強制連結法2(講義と演習)	「強制連結法」を新たなプレゼンテーションの設計に用いる手法を学ぶ。効率的にプレゼンテーションやレポートを構成するにはどのような点に配慮すればよいかを考える
13	プレゼンテーションやレポートの論理を作る力(2)-強制連結法2(講義と演習)	各自の設計した強制連結法によるプレゼンテーションの論理構造を受講者相互で評価する
14	プレゼンテーションやレポートの論理を作る力(3)-強制連結法2(講義と演習)	各自の設計した強制連結法によるプレゼンテーションの論理構造を受講者相互で評価する

これまで本授業で学んできたことを振り返り、どのような力がついたかを確認する
レポート試験の書き方、注意事項について説明する【重要】

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

授業では比較的限定された状況におけるグループ演習を行います。そこで得た知識やスキルを定着させるためにも、他の授業や部活動、その他の日常生活において応用してください。また、授業外での実践において気付いたことや感じたことをコースツールに書き込む等、積極的に協同的な学習を進めて下さい。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	定められた課題について、内容に加え、誤字・脱字、段落構成、文脈、結論の明記、引用・参考文献の表記などを評価する。課題は他のレポート試験と同時に発表する。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	60 %	授業中に6回実施する小レポート課題について、内容に加え、誤字・脱字、段落、文脈、結論の明記、引用・参考文献の表記などを評価する。 小レポート課題のテーマは、授業内で実施する講義や演習に関連したものである。そのため、授業への積極的な参加がなければレポートを作成することができない。 (小レポート各10%×6回=60%)

- ・小レポートには、必ずQRコードを貼付してください。
- ・公的な証明書の無い欠席や遅刻には厳しく対処します。
- ・欠席や遅刻については、クラブ顧問に報告します。
- ・教科書はワークブック形式のものとなっています。必ず持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業で扱うアカデミック・スキルは、主体的、積極的な実践によって身につくものです。そのため、毎回の授業への出席と演習への積極的な参加はもちろんのこと、他の授業や部活動等、日常生活のさまざまな場面でも応用することを心掛けて下さい。また、授業ではグループによる演習を行います。他の受講生の迷惑にならないよう、無断での遅刻や欠席、私語等はしないようにしてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践学(改訂版)	沖裕貴・林徳治(編著) / ぎょうせい / 978-4-324-09005-3 C3037 / テキストがない場合は演習に参加することが困難になります。授業開始までに必ず購入し、毎回の授業に持参してください。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

本授業ではグループ演習が中心になります。そのため、毎回授業に出席し、積極的に演習に参加してください。やむをえず欠席する場合は、事前に担当教員まで連絡するようにしてください。

拡張項目

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本語の知識, 教育観, 国際感覚, 外国語学習, 外国語教育について理解を深める. 特に日本語の文法・音声・語彙などを学び, 日本語教育に必要とされる基礎的な知識の習得を目指す.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

日本語教育に必要とされる基礎知識の習得とともに, 日本語を含む言語一般の持つ様々な問題を自分自身で分析できるようになるための方法論を身につけることが目標とされる.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション 日本語の文法, 日本語学史	品詞, 動詞の「活用」, 江戸時代の日本語研究
2	日本語の文法	動詞の語形変化, ら抜き言葉, テ形
3	日本語の文法	意志動詞 / 無意志動詞, 自動詞 / 他動詞, 受身, 使役, ヴォイス
4	日本語の文法	テンス, アスペクト, モダリティ
5	日本語の文法	文の基本構造, 格
6	日本語の文法	堤題, 対比
7	日本語の文法	指示詞
8	日本語の音声	音声器官, 聴覚器官
9~10	日本語の音声	子音
11~12	日本語の音声	母音
13	日本語の音声	アクセント
14	日本語の語彙	語構成, 複合語, 派生語, 畳語, 造語法
15	日本語の語彙	語種, 和語, 漢語, 外来語, 混種語

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

予習は特に必要としないが, 復習により学んだ知識を少しでも定着させること. 理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う, 文献に当たる, 教師に質問する等のことを行うこと. 特に教師に対する質問においては遠慮は不要なので, 話の途中で遮ってでも質問すること.

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	・授業内容の理解度 ・文章の構成力
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	50 %	・授業への積極参加度 ・タスク・ディスカッションに対する取り組み

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が大いに望まれる.

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布(ハンドアウトがかなり多いので, ハンドアウトを整理できるようクリアファイルなどを準備すること)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

fleetwood@mac.com / il.nome.della.rosa@softbank.ne.jp

その他 / Other

特殊講義(大学アスリート)アスリートのためのアカデミック・スキルズ (K1) § ヴィジョン形成特殊講義(大学アスリート)アスリートのためのアカデミック・スキルズ (K1)

50634

担当者名 / Instructor 川那部 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業の対象は、スポーツ特別入試選抜で入学した一回生全員です。アスリート学生には、部活動と学業との両立が求められます。本授業は、そのために必要なアカデミック・スキル(大学で学ぶための技法)の獲得を目指します。具体的には、論理的思考力や批判的思考力、コミュニケーション力、表現力に関する基礎知識や理論の理解、技能や態度の素地を養うことが挙げられます。少人数クラス(各クラス30名程度)において、講義とグループ演習とを組み合わせることによる仲間同士の学び合いを通して、他者の学びを尊重すると同時に自身の学びを客観化することで、アカデミック・スキルの獲得を目指します。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 大学での学びにおいて必要なアカデミック・スキルを理解し説明することができる。

(技能・表現)

2. 他者のもっている情報や考えを正確に収集することができる。

3. 自分のもっている情報や考えを論理的に相手に伝えることができる。

4. 相手の立場や状況を配慮したコミュニケーションをとることができる。

(関心・意欲・態度)

5. 他者との協同的な学びに積極的に参加しようとする態度をもつ。

6. 講義や演習を通して得た知識や技術を、学生生活のさまざまな場面において応用しようとする態度をもつ。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション: 大学での学び	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法、小レポートの書き方・評価基準の紹介、各回の授業の概要
2	アスリート学生に求められるアカデミック・スキル(講義)	批判的思考力、論理的思考力、コミュニケーション技術、プレゼンテーション技術、ライティング技能等
3	聴き手に求められるカーオーディエンス教育(講義と演習)	コミュニケーションの基本となる「聴き手側」の聴く力と態度を考える
4	受容的に聴くカー積極的傾聴法(講義と演習)	「犬バラ法」と呼ばれる手法を用い、受容的に聴くための技法を知るとともに、相手の悩みを知る方法を考える
5	相手の立場に立って話をするカーアサーション(講義と演習)	他者に自分の意見を伝える際に必要となる、自分の気持ちも相手の気持ちも大切に話した話し方と態度を考える
6	表現力とアイコンタクト-非言語プレゼンテーション(講義と演習)	非言語情報の大切さを知り、効果的なプレゼンテーションの技法を考える
7	議論するカーディベート(講義と演習)	一枚の写真と新聞記事から読み取れる情報をもとに、論理的かつ説得力のある議論の仕方を考える
8	情報を整理するカー強制連結法1(講義と演習)	自分のもっている知識を客観的に理解し、他者の持っている知識との違いを知る
9	情報を構造化するカーフォト・ランゲージ(講義と演習)	一枚の写真から読み取れる情報を、様々な角度から論理的に構造化し、本質を読み取る技法を考える
10	提案するカーロジック・ツリー(講義と演習)	大きな目標を小さく分割することによって、目標達成のための具体的な行動計画を練る方法を知る
11	道徳的に判断するカーコールバーグの道徳性認知発達段階(講義と演習)	社会のルールやモラルはなぜ守らなければならないのかや、自分の道徳性について考える
12	プレゼンテーションやレポートの論理を作る力(1)-強制連結法2(講義と演習)	「強制連結法」を新たなプレゼンテーションの設計に用いる手法を学ぶ。効率的にプレゼンテーションやレポートを構成するにはどのような点に配慮すればよいかを考える
13	プレゼンテーションやレポートの論理を作る力(2)-強制連結法2(講義と演習)	各自の設計した強制連結法によるプレゼンテーションの論理構造を受講者相互で評価する
14	プレゼンテーションやレポートの論理を作る力(3)-強制連結法2(講義と演習)	各自の設計した強制連結法によるプレゼンテーションの論理構造を受講者相互で評価する

これまで本授業で学んできたことを振り返り、どのような力がついたかを確認する
レポート試験の書き方、注意事項について説明する【重要】

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

授業では比較的限定された状況におけるグループ演習を行います。そこで得た知識やスキルを定着させるためにも、他の授業や部活動、その他の日常生活において応用してください。また、授業外での実践において気付いたことや感じたことをコースツールに書き込む等、積極的に協同的な学習を進めて下さい。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	定められた課題について、内容に加え、誤字・脱字、段落構成、文脈、結論の明記、引用・参考文献の表記などを評価する。課題は他のレポート試験と同時に発表する。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	60 %	授業中に6回実施する小レポート課題について、内容に加え、誤字・脱字、段落、文脈、結論の明記、引用・参考文献の表記などを評価する。 小レポート課題のテーマは、授業内で実施する講義や演習に関連したものである。そのため、授業への積極的な参加がなければレポートを作成することができない。 (小レポート各10%×6回=60%)

- ・小レポートには、必ずQRコードを貼付してください。
- ・公的な証明書の無い欠席や遅刻には厳しく対処します。
- ・欠席や遅刻については、クラブ顧問に報告します。
- ・教科書はワークブック形式のものとなっています。必ず持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業で扱うアカデミック・スキルは、主体的、積極的な実践によって身につくものです。そのため、毎回の授業への出席と演習への積極的な参加はもちろんのこと、他の授業や部活動等、日常生活のさまざまな場面でも応用することを心掛けて下さい。また、授業ではグループによる演習を行います。他の受講生の迷惑にならないよう、無断での遅刻や欠席、私語等はしないようにしてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践学(改訂版)	沖裕貴・林徳治(編著) / ぎょうせい / 978-4-324-09005-3 C3037 / テキストがない場合は演習に参加することが困難になります。授業開始までに必ず購入し、毎回の授業に持参してください。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

本授業ではグループ演習が中心になります。そのため、毎回授業に出席し、積極的に演習に参加してください。やむをえず欠席する場合は、事前に担当教員まで連絡するようにしてください。

拡張項目

担当者名 / Instructor 石橋 秀起

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

民法のうち、債権各論と呼ばれる領域(ただし、債権総論の中の債務不履行の部分を含む)について概説する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

民法のうち、債権各論と呼ばれる領域(ただし、債権総論の中の債務不履行の部分を含む)についての基本的知識の習得を目標とする。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本講義の履修時まで履修可能な他の民法科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	債権各論序説①	民法総則と債権法、
2	債権各論序説②、契約法①	債権各論とは何か?、契約の種類、契約の成立
3	契約法②	契約の成立、契約内容の実現に向けて(債権についての基本事項)
4	契約法③	契約内容の実現に向けて(債権についての基本事項、弁済の提供)
5	契約法④	契約内容の実現に向けて(同時履行の抗弁権、強制履行)
6	契約法⑤	契約内容の不実現(債務不履行責任の要件)
7	事例式問題を解く(その1)	答案の作成と解説
8	契約法⑥	契約内容の不実現(債務不履行責任の要件、損害賠償論)
9	契約法⑦	契約内容の不実現(損害賠償論、契約の解除)
10	契約法⑧	契約内容の不実現(契約の解除、売主の担保責任)
11	契約法⑨	契約内容の不実現(売主の担保責任)
12	契約法⑩	契約内容の不実現(危険負担、受領遅滞)
13	事例式問題を解く(その2)	答案の作成と解説
14	契約法⑪	売買契約、贈与契約
15	契約法⑫	賃貸借契約
16	契約法⑬	賃貸借契約
17	契約法⑭	請負契約
18	契約法⑮	請負契約、委任契約
19	契約法⑯	委任契約
20	不法行為法①	不法行為法序説、一般的不法行為の要件(違法性)
21	不法行為法②	一般的不法行為の要件(故意又は過失、損害の発生、因果関係)
22	不法行為法③	一般的不法行為の要件(不法行為責任を阻却する事由)
23	不法行為法④	不法行為の効果(損害賠償請求権者、賠償範囲の画定)
24	不法行為法⑤	不法行為の効果(損害額の算定、過失相殺)
25	不法行為法⑥	特殊の不法行為(使用者責任、土地工作物責任)
26	不法行為法⑦	特殊の不法行為(運行供用者責任)
27	不法行為法⑧	特殊の不法行為(製造物責任、動物占有者の責任)
28	不法行為法⑨	特殊の不法行為(共同不法行為責任)
29	不当利得法	不当利得の2類型、要件と効果、不法原因給付
30	事務管理法	要件と効果、準事務管理

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
-----------	-----------------	-------------------------------

定期試験(筆記)	100 %	基本的な制度の理解と、それを基礎にした法的思考力の有無・程度を評価の対象とする。
----------	-------	--

定期試験のみによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回の講義には六法を持参すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

スタートライン債権法(第5版)	池田真朗 / 日本評論社 / 978-4-535-51774-5 /
-----------------	------------------------------------

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

初等国語(書写を含む)(SB)

13099

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の教科目標・内容に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科にとって重要な、話す・聞く・書く・読むといった基本的な言語活動についての理解を促すとともに、学習指導要領にも言及しながら、教材研究、教材選択、授業づくりについての理論的実践的力量的形成をめざす。講義は、具体的な資料・教材を活用しながら、書写を含めて展開する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・小学校国語科の構造および各領域の指導目標・内容についての理解を深める。
- ・児童の言語能力の発達過程と特質についての理解を深める。
- ・日本語の特質を理解するとともに、書写指導の基礎的知識・技能を習得する。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

初等国語科教育法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	言葉と人間	人間発達における言葉の役割、国語科の構造と固有の役割
2	「書くこと」領域の基礎理論①	各学年の目標と内容、入門期の文字指導、仮名と漢字、文法の基礎
3	「書くこと」領域の基礎理論②	文章表現能力の発達過程と特質、題材・取材・構成・記述・評価
4	「書くこと」領域の基礎理論③	創作指導、読み合い、他教科との関連
5	「書写」指導の目標と内容	学習指導要領と教科書の構成、書写能力の発達特質
6	「書写」の基礎技術①	姿勢・運筆・字形・筆順・筆圧・用具等に関する基本的事項の理解、硬筆の基礎
7	「書写」の基礎技術②	毛筆の基礎
8	書写指導の基礎技術③	仮名・漢字・楷書の基礎
9	「話すこと・聞くこと」領域の基礎理論	会話・スピーチ・討議の指導、ストーリーテリング、語りの技術
10	「読むこと」領域の基礎理論①	文芸教育学の基礎(文字・文体・音律・構造・話者・読者)
11	「読むこと」領域の基礎理論②	文芸教育学の基礎(人物・視点・形象・典型・象徴・思想)
12	「読むこと」領域の基礎理論③	代表的な文学教材・詩教材の検討
13	「読むこと」領域の基礎理論④	説明文教材の特質、代表的な説明文教材の検討
14	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」指導の目標と内容	伝統的な言語文化とは何か 日本語の文字・語彙・文法の特徴
15	国語科教育と学校教育	他教科・「総合的学習の時間」・道徳及び特別活動などとの関連

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

演習的要素を取り入れた受講生参加型の講義となるため、事前の準備を適宜指示することがある。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。国語教育の内容と目標に関する重要事項についての知識・理解を問う。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	50 %	日常の授業における諸課題の取組状況および数回実施する小テストの成績に基づいて、授業内容の理解度を平常点として評価する。
個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるためには、積極的な授業参加はもちろんのこと、教科書や参考図書を用いた授業外での自習が不可欠である。積極的に取り組んでほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『新しい小学国語の創造』 伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎 / 双文社出版 / 4-88164-080-1 /

『小学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 / 東洋館出版 / 978-4-491-02371-7 /

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『新編書写指導』 全国大学書写書道教育学会 / 萱原書房 / 860120094 /

『国語教師が知っておきたい日本語文法』 山田敏弘 / くろしお出版 / 9784874243107 /

『分ければ見つける知ってる漢字』 宮下久夫 / 太郎次郎社 / 4-8118-06590-X /

『白川静博士の漢字の世界へ』 福井県教育委員会 / 平凡社 / 978-4-582-40334-3 /

とりわけ学習指導要領に関しては、十分に理解しておく必要がある。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。 <http://www.ritsumeai.ac.jp/~t-ito/index.htm>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

オフィスパワーを設ける。時間・場所については授業時に告知する。

その他 / Other

拡張項目

特殊講義(大学アスリート)アスリートのためのアカデミック・スキルズ (K2) § ヴィジョン形成特殊講義(大学アスリート)アスリートのためのアカデミック・スキルズ (K2)

50635

担当者名 / Instructor 鳥居 朋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業の対象は、スポーツ特別入試選抜で入学した一回生全員です。アスリート学生には、部活動と学業との両立が求められます。本授業は、そのために必要なアカデミック・スキル(大学で学ぶための技法)の獲得を目指します。具体的には、論理的思考力や批判的思考力、コミュニケーション力、表現力に関する基礎知識や理論の理解、技能や態度の素地を養うことが挙げられます。少人数クラス(各クラス30名程度)において、講義とグループ演習とを組み合わせることによる仲間同士の学び合いを通して、他者の学びを尊重すると同時に自身の学びを客観化することで、アカデミック・スキルの獲得を目指します。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 大学での学びにおいて必要なアカデミック・スキルを理解し説明することができる。

(技能・表現)

2. 他者のもっている情報や考えを正確に収集することができる。

3. 自分のもっている情報や考えを論理的に相手に伝えることができる。

4. 相手の立場や状況を配慮したコミュニケーションをとることができる。

(関心・意欲・態度)

5. 他者との協同的な学びに積極的に参加しようとする態度をもつ。

6. 講義や演習を通して得た知識や技術を、学生生活のさまざまな場面において応用しようとする態度をもつ。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション: 大学での学び	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法、小レポートの書き方・評価基準の紹介、各回の授業の概要
2	アスリート学生に求められるアカデミック・スキル(講義)	批判的思考力、論理的思考力、コミュニケーション技術、プレゼンテーション技術、ライティング技能等
3	聴き手に求められるカーオーディエンス教育(講義と演習)	コミュニケーションの基本となる「聴き手側」の聴く力と態度を考える
4	受容的に聴くカー積極的傾聴法(講義と演習)	「犬バラ法」と呼ばれる手法を用い、受容的に聴くための技法を知るとともに、相手の悩みを知る方法を考える
5	相手の立場に立って話をするカーアサーション(講義と演習)	他者に自分の意見を伝える際に必要となる、自分の気持ちも相手の気持ちも大切に話した話し方と態度を考える
6	表現力とアイコンタクト-非言語プレゼンテーション(講義と演習)	非言語情報の大切さを知り、効果的なプレゼンテーションの技法を考える
7	議論するカーディベート(講義と演習)	一枚の写真と新聞記事から読み取れる情報をもとに、論理的かつ説得力のある議論の仕方を考える
8	情報を整理するカー強制連結法1(講義と演習)	自分のもっている知識を客観的に理解し、他者の持っている知識との違いを知る
9	情報を構造化するカーフォト・ランゲージ(講義と演習)	一枚の写真から読み取れる情報を、様々な角度から論理的に構造化し、本質を読み取る技法を考える
10	提案するカーロジック・ツリー(講義と演習)	大きな目標を小さく分割することによって、目標達成のための具体的な行動計画を練る方法を知る
11	道徳的に判断するカーコールバーグの道徳性認知発達段階(講義と演習)	社会のルールやモラルはなぜ守らなければならないのかや、自分の道徳性について考える
12	プレゼンテーションやレポートの論理を作る力(1)-強制連結法2(講義と演習)	「強制連結法」を新たなプレゼンテーションの設計に用いる手法を学ぶ。効率的にプレゼンテーションやレポートを構成するにはどのような点に配慮すればよいかを考える
13	プレゼンテーションやレポートの論理を作る力(2)-強制連結法2(講義と演習)	各自の設計した強制連結法によるプレゼンテーションの論理構造を受講者相互で評価する
14	プレゼンテーションやレポートの論理を作る力(3)-強制連結法2(講義と演習)	各自の設計した強制連結法によるプレゼンテーションの論理構造を受講者相互で評価する

これまで本授業で学んできたことを振り返り、どのような力がついたかを確認する
レポート試験の書き方、注意事項について説明する【重要】

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

授業では比較的限定された状況におけるグループ演習を行います。そこで得た知識やスキルを定着させるためにも、他の授業や部活動、その他の日常生活において応用してください。また、授業外での実践において気付いたことや感じたことをコースツールに書き込む等、積極的に協同的な学習を進めて下さい。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	定められた課題について、内容に加え、誤字・脱字、段落構成、文脈、結論の明記、引用・参考文献の表記などを評価する。課題は他のレポート試験と同時に発表する。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	60 %	授業中に6回実施する小レポート課題について、内容に加え、誤字・脱字、段落、文脈、結論の明記、引用・参考文献の表記などを評価する。 小レポート課題のテーマは、授業内で実施する講義や演習に関連したものである。そのため、授業への積極的な参加がなければレポートを作成することができない。 (小レポート各10%×6回=60%)

- ・小レポートには、必ずQRコードを貼付してください。
- ・公的な証明書の無い欠席や遅刻には厳しく対処します。
- ・欠席や遅刻については、クラブ顧問に報告します。
- ・教科書はワークブック形式のものとなっています。必ず持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業で扱うアカデミック・スキルは、主体的、積極的な実践によって身につくものです。そのため、毎回の授業への出席と演習への積極的な参加はもちろんのこと、他の授業や部活動等、日常生活のさまざまな場面でも応用することを心掛けて下さい。また、授業ではグループによる演習を行います。他の受講生の迷惑にならないよう、無断での遅刻や欠席、私語等はしないようにしてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践学(改訂版)	沖裕貴・林徳治(編著) / ぎょうせい / 978-4-324-09005-3 C3037 / テキストがない場合は演習に参加することが困難になります。授業開始までに必ず購入し、毎回の授業に持参してください。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

本授業ではグループ演習が中心になります。そのため、毎回授業に出席し、積極的に演習に参加してください。やむをえず欠席する場合は、事前に担当教員まで連絡するようにしてください。

拡張項目

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「日本語教育学 I(または日本語教育学概論)」で学んだ内容をさらに発展させ、日本語教育や国際交流に関わっていく際に必要な日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習、外国語教育について、日本語教育に求められる発展的な力を養成する。この授業では特に方言と共通語、第二言語習得、バイリンガル教育、異文化コミュニケーション、実践的音声教育などに焦点を当てる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

日本語教育の現状及び多様な文化的背景を持つ学習者の実態への理解を深め、言語・日本語・日本語教育等に関する個々の知識を検定や教育の現場で役に立つ能力へとつなげていくことが目標とされる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

日本語教育学 I(または日本語教育学概論) や言語学概論で取り扱う基礎知識を背景としたトピックが多いので、先に履修しておくことが強く望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	日本の方言	日本の方言概略
2	日本の方言	方言の分布パターン、東西分布、周圏分布、逆周圏分布
3	日本の方言	方言の音声
4	方言と共通語	ネオ方言、新方言、ウチナーヤマトウグチ、コードスイッチング、方言の未来
5	コミュニケーション・スキル	非言語コミュニケーション、自己開示、アサーティブ・コミュニケーション、エポケー
6	第二言語習得	オーディオ・リンガル・メソッド、対照分析研究、誤用分析研究、中間言語研究
7	第二言語習得	バイリンガリズム
8	第二言語習得	イマージョン・プログラム、年少者への日本語教育
9	第二言語習得	学習者のストラテジー、サジェストベディア
10	異文化コミュニケーション	異文化適応、リエントリー・クライシス
11	異文化コミュニケーション	気づきのエクササイズ
12	異文化コミュニケーション	異文化トレーニング
13~14	音声教育	音声教育の教材、教授法
15	アクション・リサーチ	アクション・リサーチ、自己研修型教師

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に質問する等のことを行うこと。特に教師に対する質問においては遠慮は不要なので、話の途中で遮ってでも質問すること。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	・授業内容の理解度 ・文章の構成力
上記以外の試験・レポート、平常点評価	50 %	・授業への積極参加度 ・タスク・ディスカッションに対する取り組み

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が大いに望まれる。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布(ハンドアウトがかなり多いので、ハンドアウトを整理できるようクリアファイルなどを準備すること)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

fleetwood@mac.com / il.nome.della.rosa@softbank.ne.jp

その他 / Other

拡張項目

精神保健福祉援助技術各論 (S)

13034

担当者名 / Instructor 知名 純子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- 精神障害者を対象とした直接援助技術(ケースワーク、グループワーク)について学び、援助技術を習得することを目的とする。講義では、直接援助技術の実践に必要な理論を学び、演習によってこれを体験することで、社会福祉援助活動について総合的に理解する。
- 他者の意見や考え方について学ぶことで、自分自身についての客観的考察を深めることで、今後のコミュニケーション及び対人援助に役立てる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・ 直接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
- ・ 習得した知識を実践に応用できる

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	ケースワークとグループワークについて
2	ソーシャルワークの周辺理論①	交流分析
3	ソーシャルワークの周辺理論②	防衛機制
4~6	精神障害者を対象としたケースワーク①	面接の意味と目的
7~8	精神障害者を対象としたケースワーク②	面接技法
9	精神障害者を対象としたケースワーク③	記録の内容
10	精神障害者を対象としたケースワークの展開①	インテーク、アセスメント
11	精神障害者を対象としたケースワークの展開②	プランニング、モニタリング、評価
12	精神障害者を対象としたグループワーク①	歴史、目的
13	精神障害者を対象としたグループワーク②	メンバーの選択、グループワークの準備
14	精神障害者を対象としたグループワーク③	グループワークの始め方、規範の形成
15	グループへの介入、評価、終結	個人・環境への介入、グループの葛藤

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

毎回、授業の最後に「次回までの課題」を提示します。次の授業日の始めに時間をとって「課題」についての確認をペーパーにて行います。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	演習及びグループワークへの取り組み姿勢と各回終了時に提出してもらったペーパーで評価します。
最終講義日試験、試験に代わるレポート等はありません。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

対人援助を考える場合にまず大事なことは自分自身を知ることです。そのためには他者と交わり、他者の考えを知ることが前提になります。演習を通して「自分」の特徴を把握し、こころの援助技術について一緒に考えましょう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

e-mail: jct23071@ss.ritsumeiji.co.jp

その他 / Other

拡張項目

キャリア形成特殊講義 (SG)

20536

担当者名 / Instructor 斎藤 真緒、水野 篤夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)で開講し、立命館大学では開講しません。
- キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
- 履修の際は、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。
- ※2013年度よりキャンパスプラザ京都の講時時間が変更になりましたので注意してください。

青少年の自立と成長をどのように促進するのか。この問いは青少年教育において古くからある。しかし、ニートやフリーター・ひきこもりの増加に見られるように、若者を巡る課題や社会環境は複雑化し続けており、近年、改めてクローズアップされる問いとなっている。こうした現況にあつて、青少年の自立と成長を促進する専門職(いわゆる「ユースワーク」)に対して注目が集まっている。

本講義では、若者の自立と成長をどのように促進するのかという問いに対し、実践的な答えを提示しつつ、受講生とともに新たな企画・政策の立案を試みたい。その際、実際に「わかものを元気にする仕事」に従事している方々をゲストにお招きする。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

本講義を通じて、個々の青少年の課題と向かい合うと同時に、そうした課題を生起させている社会構造にも目を向けることを受講生には期待したい。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ユースサービスとは何か?	ユースサービス、青年、若者、思春期
2	現代日本の青少年が抱える課題を考える(ワークショップ)	ポスト青年期
3	ユースサービスの実践から学ぶ①-非行と青少年	非行、少年犯罪
4	ユースサービスの実践から学ぶ②-セクシュアルヘルスと青少年	セクシュアルヘルス、デートDV
5	ユースサービスの実践から学ぶ③-ニート フリーターと青少年	ニート、フリーター、就労支援
6	ユースサービスの実践から学ぶ④-不登校、引きこもりと青少年	不登校、ひきこもり、貧困
7	ユースサービスの実践から学ぶ⑤-メンタルヘルスと青少年	メンタルヘルス
8	ユースサービスの実践から学ぶ⑥-多文化共生と青少年	多文化共生
9	ユースサービスの実践から学ぶ⑦-政治参加/社会参加と青少年	政治参加、社会参加、投票行動
10	海外のユースサービスの活動を知る	イギリス、韓国、ユースワーク
11	ユースサービスの基本プロセスを学ぶ	政策の立案・実施・見直し、フィードバック
12	現代日本の青少年のニーズを調べる(グループワーク)	
13	現代日本の青少年のニーズを調べる(グループワーク)	
14	新たなユースサービスの取り組みを企画する-グループ発表会①	

新たなユースサービスの取り組みを企画するーグループ
発表会②

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	グループ発表およびレポートの提出
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	60 %	講義の最後にミニレポートを課す場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は、青少年支援のあり方について、多角的に学ぶと同時に、受講生自身が新しいユースサービスプログラムを考案する場でもある。したがって、したがって恒常的な出席が難しい学生には適さない。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『青少年・若者の自立支援』	柴山昌山編 / 世界思想社 / 9784790914347 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

(財)京都市ユースサービス協会のHP <http://www.ys-kyoto.org/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目

初等国語(書写を含む)(SA)

13030

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の教科目標・内容に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科にとって重要な、話す・聞く・書く・読むといった基本的な言語活動についての理解を促すとともに、学習指導要領にも言及しながら、教材研究、教材選択、授業づくりについての理論的実践的力量的形成をめざす。講義は、具体的な資料・教材を活用しながら、書写を含めて展開する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・小学校国語科の構造および各領域の指導目標・内容についての理解を深める。
- ・児童の言語能力の発達過程と特質についての理解を深める。
- ・日本語の特質を理解するとともに、書写指導の基礎的知識・技能を習得する。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

初等国語科教育法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	言葉と人間	人間発達における言葉の役割、国語科の構造と固有の役割
2	「書くこと」領域の基礎理論①	各学年の目標と内容、入門期の文字指導、仮名と漢字、文法の基礎
3	「書くこと」領域の基礎理論②	文章表現能力の発達過程と特質、題材・取材・構成・記述・評価
4	「書くこと」領域の基礎理論③	創作指導、読み合い、他教科との関連
5	「書写」指導の目標と内容	学習指導要領と教科書の構成、書写能力の発達特質
6	「書写」の基礎技術①	姿勢・運筆・字形・筆順・筆圧・用具等に関する基本的事項の理解、硬筆の基礎
7	「書写」の基礎技術②	毛筆の基礎
8	書写指導の基礎技術③	仮名・漢字・楷書の基礎
9	「話すこと・聞くこと」領域の基礎理論	会話・スピーチ・討議の指導、ストーリーテリング、語りの技術
10	「読むこと」領域の基礎理論①	文芸教育学の基礎(文字・文体・音律・構造・話者・読者)
11	「読むこと」領域の基礎理論②	文芸教育学の基礎(人物・視点・形象・典型・象徴・思想)
12	「読むこと」領域の基礎理論③	代表的な文学教材・詩教材の検討
13	「読むこと」領域の基礎理論④	説明文教材の特質、代表的な説明文教材の検討
14	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」指導の目標と内容	伝統的な言語文化とは何か 日本語の文字・語彙・文法の特徴
15	国語科教育と学校教育	他教科・「総合的学習の時間」・道徳及び特別活動などとの関連

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

演習的要素を取り入れた受講生参加型の講義となるため、事前の準備を適宜指示することがある。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	国語教育の内容と目標に関する重要事項についての知識・理解を問う。2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	50 %	日常の授業における諸課題の取組状況および数回程度実施される小テストの成績に基づいて、授業内容の理解度を平常点として評価する。

個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるためには、積極的な授業参加はもちろんのこと、教科書や参考図書を用いた授業外での自習が不可欠である。積極的に取り組んでほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新しい小学国語の創造』	伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎 / 双文社出版 / 4-88164-080-1 /
『小学校学習指導要領解説 国語編』	文部科学省 / 東洋館出版 / 978-4-491-02371-7 /

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新編書写指導』	全国大学書写書道教育学会 / 萱原書房 / 860120094 /
『国語教師が知っておきたい日本語文法』	山田敏弘 / くろしお出版 / 9784874243107 /
『分ければ見つかる知ってる漢字』	宮下久夫 / 太郎次郎社 / 4-8118-0659-X /
『白川静博士の漢字の世界へ』	福井県教育委員会 / 平凡社 / 978-4-582-40334-3 /

とりわけ学習指導要領に関しては、十分に理解しておく必要がある。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。http://www.ritsumeai.ac.jp/~t-ito/index.htm

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

- コミュニケーションペーパー / Communication Paper
- manaba+R / Learning Management System (manaba+R)
- 学生との直接対話 / Talk with Students
- その他 / Other

オフィスアワーを設ける。時間・場所については授業時に告知する。

その他 / Other

拡張項目

日本語教授法基礎演習Ⅱ (LB)

17491

担当者名 / Instructor 彦坂 萬智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1 日本語教授法には大きく分けて2つの課題がある。ひとつは何を教えるかという内容であり、もう一つはどう教えるかという方法である。後期では方法について学ぶ。4-1まず、言語教育のメソッド、アプローチ、テクニック等と呼ばれる教授法を概観する。4-2次に、教室でのインターアクションについて考える。教室環境、練習の種類と教具・教材、また教師からの働きかけに焦点を絞って、クラスルーム・リサーチという実証的な方法で分析を試みる。4-3最後に、評価法について学び信頼性と妥当性ある評価の方策を考える。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- 1 日常生活でも留学生や異文化に対して交流・理解を深める姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語教育能力検定試験合格を意識すること。
- 2 日本語教授法には絶対的なものがあるわけではないことを理解し、日本語学習者と意味を分かち合おうとする姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語への学究的な関心を寄せ、それを日常生活全般に活かす努力を重ねること。
- 3 講義の内容を正確に受信し、また自ら発信する力を養う。タスクの相互評価会を通して、他者の評価を受け入れ、客観的な自己評価能力の伸長を図る。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

- 1 まず、日本語学、日本語教育学および言語系周辺の科目を履修する
- 2 次に、日本事情及び異文化間コミュニケーション周辺の科目を履修することが望ましい
- 3 また、日本と国際関係論についての科目を履修することが望ましい
- 4 自らも外国語科目習得に努力し、日本語学習者の気持ちが理解できるようにしたい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	後期ガイダンス コース・デザインのために事前に ニーズ調査 2 レディネス調査 3 学習者背景調査の 実施	受講に当たっての留意点 1 欠席時と遅刻時の留意点 (5&6交換可能)2 評価基準の説明(試験の種類と割 合)後期15週間に亘るコースデザインの概観
2	ニーズ分析と抽出 コース・デザイン(シラバスとカリキュ ラム)の修正 日本語教授法の概観	日本語教授法の概観:Natural Method、Direct M ethod、Oral Method、Army Method、Phonetic Method、 Natural Approach、Audio-Lingual A pproach、Total Physical Response Approach
3	教授法に関する過去問題の実施と解説その1 教授法に関する過去問題の実施と解説その2	日本語教育能力検定試験のレベルを知ること。 その1は、2010年までの過去問題。その2は、改定新 シリーズの2011年以降の過去問題。
4	タスク1 「日本語教授法概観」	課題内容については該当授業
5	コース・デザインの第一段階 教室の環境 学習活動の形態 学習者と教師 学習 者と用具	教室の環境 学習活動の形態 学習者と教師 学 習者と用具
6	コース・デザインの第二段階	シラバスとカリキュラム
7	コース・デザインの 第三段階	教育の実施—接続助詞をタスクとして
8	タスク2 「コースデザイン」	課題内容については該当授業時に提示する。最新の 「コース・デザイン」を紹介したい。
9	日本語テキストの実例 1	教授法の種類その1 口頭表現 1 デイバート法 2 ロールプレイ法 3 プロジェクト・ ワーク法 4 その他
10	日本語テキストの実例 2	教授法の種類その2 文章表現
11	日本語テキストの実例 3	教授法の種類その3 ゲームの使用
12	タスク3 「日本語テキスト」	課題内容については該当授業時に提示する。最新の 「日本語テキスト」を紹介したい。

13
 評価法その1 教師の働きかけ 発問・応答の行動 誤用の扱いとフィードバック テストの種類
 評価法その2 評価の誤差

クラスでの自己評価と相互評価の実践

14
 後期試験その1 客観テスト60分 + 試験解答解説30分
 = 90分間

信頼性と妥当性に留意したテストを作成し実施したい。
 多肢選択、再生法、組み合わせ法、空所補充法など、複合的形式の試験をする。

15
 後期試験その2 主観テスト60分 + 試験解答解説30分
 = 90分間文章産出テスト + インタビュー

後期試験その1(客観テスト)を返却し、今後の研究上での課題・問題点を話し合う

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	1 前期最終講義日に到達度試験 2 後期最終講義日に到達度試験 1+2=25% 3 月例のタスク 25% 4 月例の試験 25% 5 授業への積極的な参加度 25%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本語能力試験ターゲット2000	旺文社教育コンテンツ部 / 旺文社 / 978-4-01-092402-0 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

オフィスパワーを設定する

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導 I (SD)

20054

担当者名 / Instructor 山田 三知子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者(潜在的利用者)の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 社会福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確に述べることができる。
2. 福祉実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の現場実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、レポート、施設見学、実習先選定のプロセスと方法
	第2回 支援すること・支援をうけること(体験学習)	
	第3回 社会福祉実践及び社会福祉士とは	倫理綱領、自己覚知(ワークショップ)
	第4回 行政機関とその福祉サービス①(福祉事務所からゲストスピーカー)	
	第5回 行政機関とその福祉サービス②(振り返りとまとめ)	
	第6回 地域福祉分野①(社会福祉協議会からのゲストスピーカー)	
	第7回 地域福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第8回 児童福祉分野①(児童相談所からゲストスピーカー)	
	第9回 児童福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第10回 高齢者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第11回 障害者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第12回 2011年度実習生による報告(児童・高齢)	
	第13回 2011年度実習生による報告(障害・地域)	
	第14回 実習に関連する心配・不安・気がかり等とそれらへの対処法	
	第15回 振り返りと今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

高齢者施設および障害(児)者施設への見学は、事前に見学計画書を作成し担当教員の指導を受けたいので、授業時間外にグループ単位で行う。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、施設見学の計画

平常点評価 書および報告、分野別レポート等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に参考になる文献・雑誌等については情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

日本語史 (LB)

14398

担当者名 / Instructor 小椋 秀樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代日本語は、長い日本語の歴史の上に成り立っている。したがって、現代日本語の背後にある日本語の歴史的变化の様相を知り、さらにその原理や規則性等について理解することは、現代日本語をより良く理解することにもつながる。

このような立場から、本授業では、音韻・文字・文法・語彙・方言の各分野を取り上げ、日本語教師として知っておくべき、日本語の歴史的な諸相を概説する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 基礎的な日本語史の用語を理解し、簡単な説明ができる。
2. 音韻・文字・文法・語彙・方言の各分野における日本語の歴史的变化の過程・要因等について、基礎的な日本語史の用語を用いて説明することができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

日本語学概論Ⅰ, 日本語学概論Ⅱ
イノベーションプログラム「日本語教育」の初年度の諸科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総説	共時態 通時態 日本語史の時代区分
2	音韻史(1)	音声 音韻 上代特殊仮名遣い 五十音図
3	音韻史(2)	音便 ハ行子音 ハ行転呼音
4	音韻史(3)	アクセントの型 アクセントの変化
5	文字史(1)	漢字 音訓
6	文字史(2)	万葉仮名 平仮名 片仮名 ローマ字
7	文字史(3)	定家仮名遣い 歴史的仮名遣い
8	文法史(1)	動詞の活用 活用の変化 活用型の変化
9	文法史(2)	係り結びの変化
10	文法史(3)	主語 助詞
11	文法史(4)	助動詞 分析的傾向
12	語彙史(1)	語彙の量的構造 語種
13	語彙史(2)	語彙の体系 意味 意味の変化
14	方言	方言 方言分布
15	理解検証テスト, 解説・まとめ	理解検証テスト(60分) 解説・まとめ(30分)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	1. 出席状況・授業への参加態度10% 2. 小テスト・小レポート20% 3. 理解検証テスト70%(基礎的な日本語史の用語を理解し、簡単な説明ができていないか。音韻・文字・文法・語彙・方言の各分野における日本語の歴史的变化の過程・要因等について、基礎的な日本語史の用語を用いて説明することができるか。)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

使用しない。プリントを配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本語の歴史	山口仲美／岩波新書／978-4004310181／

以上のほか、授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

日本語教育学会: <http://www.nkg.or.jp/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of

Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー／Communication Paper

学生との直接対話／Talk with Students

その他 / Other

初年度から日本語教育能力検定試験に挑戦すること。
ただし、このプログラムはその受験対策のためのものではない。

拡張項目

Study Abroad Program (S)

20549

担当者名 / Instructor 佐藤 詩恵

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

Study Abroad Programは、これまでみなさんが培ってきた総合的な英語運用能力を基礎としつつ、専門領域における英語運用能力向上のための短期集中プログラムです。本プログラムでは、講義はもちろん、フィールドトリップや小旅行、ホームステイなどを通して、オーストラリアの社会・歴史・文化などについての理解を深め、英語運用能力の更なる向上をめざしています。出発前に、派遣先のUniversity of Southern Queensland (USQ) (オーストラリア クイーンズランド州)の講師によるテレビ会議システムを使った遠隔講義と、本学英語教員(オーストラリア出身)の指導のもとで4回の事前学習を行います。その後、USQで20時間の英語スキルトレーニング、60時間の講義、フィールドトリップ、小旅行などからなる5週間の夏期研修プログラムを実施します。さらに帰国後も成果を公表するためにポスター展示と文集作成があります。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

必修英語の履修を通じて学んできた総合的な英語運用能力を基礎に、産業社会学部でさまざまな専門を学ぶ学生の関心と必要に応じた短期集中特別プログラムを通じて、英語のコミュニケーション能力と専門領域でも役立つ英語運用能力をさらに向上させるとともに、フィールドトリップや講義を通して派遣先の国の社会、歴史、文化についての理解を深めます。
自分が選んだテーマに沿って、リサーチスキルとプレゼンテーションスキルを伸ばします。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

英語副専攻の学生は、A群科目を履修していること。産業社会学部英語副専攻の履修者以外から参加者を募る場合は、別途案内します。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	①事前学習(4回):オーストラリアの歴史・文化・社会などの諸問題の学習を進めます。 ② テレビ会議システムを使ってUSQとの遠隔授業を実施します。 ③ 留学・渡航手続に関するガイダンスを実施します。 ④ 帰国後の成果物作成について説明を行います。	
	現地ではUniversity of Southern Queensland 所属の担当教員から詳しい予定表、成績のつけ方について資料が配布されますので、それを参照すること。	
	留学の成果物として、ポスターと報告集を作成します。ポスターは完成後、掲示・公開します。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

ホームステイの滞りなので、ホストファミリーとの交流を深めるためにも、通常の英語クラスでは、特に積極的に英語で話すように努力をすること。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	事前学習への出席と積極的参加、現地研修への積極的参加とオーラルプレゼンテーション、エッセイライティング、事後授業への出席、成果物(報告書とポスター)の完成度を含む。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

行政法Ⅱ (J)

15149

担当者名 / Instructor 須藤 陽子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

行政法Ⅱは、行政組織法、行政救済法の分野を内容とする。行政救済法では、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法、損失補償を扱う。授業の中心となるのは、抗告訴訟を中心に行政事件訴訟法であり、判例を学ぶことを特に重視する。法科大学院に進学を希望する者、公務員試験受験を予定する者は、予備校型の学習のみで十分とすることなく、まず、理解することを重視する大学での講義を受講することが必須です。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・国家行政組織の全体像、組織法原理を理解する
- ・最高裁判例の蓄積による法解釈の手法を理解する
- ・行政法Ⅰで学んだことと、行政法Ⅱで学ぶこととの関係性を理解する

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

行政法Ⅰ

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	行政組織法	行政主体 行政庁 行政機関概念
3～5	国家補償法 国家賠償法1条	国家無答責の法理 国家賠償と損失補償の谷間 公権力行使責任
6～8	国家賠償法2条 3条	営造物責任
9～11	国家賠償法4条 5条 6条 損失補償	
12～13	行政不服審査法	
14～15	行政訴訟と行政裁判 抗告訴訟の類型	行政訴訟制度の類型 司法権と行政権
16～17	抗告訴訟の訴訟要件①	被告適格 管轄裁判所 不服申立前置 出訴期間
18～20	抗告訴訟の訴訟要件②	処分性
21～23	抗告訴訟の訴訟要件③	原告適格
24～25	抗告訴訟の訴訟要件④ 取消訴訟の審理	原告適格 狭義の訴えの利益 執行停止
26～28	取消訴訟以外の抗告訴訟と仮の救済	無効等確認訴訟 不作為の違法確認訴訟 義務付け訴訟 差止め訴訟
29～30	当事者訴訟	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

「書く」ことを重視します。人は、「書く」ことによって、頭の中に固着させます。レジュメを「読む」だけで行政法を理解できる初学者は、この世の中に存在しません。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法 第3版	桜井敬子 橋本博之 / 弘文堂 / /

私が2012年度後期に開講した行政法Ⅰの受講者は、そのまま同じ教科書を使用します。他の二つの行政法Ⅰを受講した学生は、行政法Ⅱに対応した教科書を新しく購入する必要があります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法概説Ⅱ 行政救済法第2版	宇賀克也 / 有斐閣 / /
行政法Ⅱ 行政救済法第5版	塩野宏 / 有斐閣 / /
行政判例法入門 第5版	芝池義一編 / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

臨床精神医学 (S)

16506

担当者名 / Instructor 国本 昌善

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神医療は、患者(当事者・利用者)、治療者(援助者)および前二者を取り巻く環境を要素とする対人援助の営みである。患者の理解に努めつつ介入を試みるこの営みの理論的背景である臨床精神医学は、複数の理論体系を包摂しながら、常に臨床実践の検証にさらされている。本講義では、精神障害や臨床実践の概要が理解できるよう、臨床的視点から精神医学の基礎知識を概説するとともに、いくつかの現代的問題についても取り扱う予定である。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- (1) 臨床精神医学におけるいくつかの重要概念を理解し、これを説明することができる。
- (2) 主要な精神障害の概略を理解し、これを説明することができる。
- (3) 精神医学的援助の概略を理解し、これを説明することができる。
- (4) 臨床精神医学におけるいくつかの現代的問題について理解し、一定の見解を述べる事が出来る。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入／総論(1):精神医学の概念と歴史	
2	総論(2):精神症候学および記述精神医学の基礎、操作的診断システム	
3	総論(3):精神分析的臨床精神医学の基礎	
4	総論(4):神経系の解剖と生理、精神薬理の基礎	
5	総論(5):治療概論	
6	各論(1):統合失調症	
7	各論(2):感情障害	
8	各論(3):神経症性障害	
9	トピック(1):抑うつとうつ病をめぐって	
10	各論(4):精神遅滞、自閉症スペクトラム、注意欠陥・多動性障害など	
11	各論(5):パーソナリティ障害、性関連障害	
12	各論(6):摂食障害、物質関連障害、依存・嗜癖	
13	トピック(2):産業精神保健-職場のメンタルヘルスをめぐって	
14	各論(7):精神医学と社会-精神保健福祉行政と司法精神医学	
15	まとめ-援助・治療をめぐって	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	(1) ミニテスト=70% 第2回から第15回までの計14回の講義中に、前回講義内容の理解度を確認するためのミニテストを実施します。 (2) レポート=30% レポート(課題図書に対する書評)を提出してもらいます。詳細については講義中に示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神医学エッセンス 第2版	濱田 秀伯 / 弘文堂 / 978-4335651519 / 初学者向け入門書

現代臨床精神医学 改訂第11版	大熊 輝雄／金原出版／978-4307150613／医学生・研修医向け教科書(コメディカル・スタッフにも有用)
カプラン臨床精神医学テキスト DSM-IV-TR診断基準の臨床への展開 第2版	Sadock, VA, Sadock, BJ(編集)/井上令一, 四宮滋子(監訳)/メディカル・サイエンス・インターナショナル/978-4895923842/医学生・研修医向け教科書(コメディカル・スタッフにも有用)
パーソナリティ障害の診断と治療	McWilliams, N/成田善弘(監訳), 北村婦美, 神谷栄治(訳)/創元社/978-4422113302 /精神分析的臨床精神医学の良き入門書
ケースの見方・考え方—精神分析的ケースフォーミュレーション	McWilliams, N/成田善弘(監訳), 湯野貴子, 井上直子, 山田恵美子(訳)/創元社/978-4422113838/精神分析的臨床精神医学の良き入門書

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む)/ How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話/Talk with Students

その他 / Other

KUNIMOTO.Masayoshi@gmail.com

その他 / Other

拡張項目

Academic English III (S1)

11273

担当者名 / Instructor WILKINS MICHAEL R.

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

Through a combination of individual and group project work this course aims to develop students' academic research and presentation skills. Projects will require students to make use of library resources, online databases and the Internet, and may involve some primary research, using questionnaire surveys, for example. Students will have practice in presenting research in a variety of formats: in written reports, posters or oral presentations, for instance.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of this course students will have completed at least two academic research projects and improved their ability to gather, interpret, organize and present information in English.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English III: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	

Warning against Plagiarism (盗用 / 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters 3 Life in Society: Reading and Writing (2nd Edition)	Jessica Williams, Kristine Brown & Susan Hood / Cambridge, 2012 / /
Academic Encounters 3 Life in Society: Listening and Speaking (2nd Edition)	Kim Sanabria / Cambridge, 2012 / /

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic English II (S1)

11215

担当者名 / Instructor CLARK PHILLIP MILLER

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on listening for academic purposes, and in particular on developing students' ability to follow English lectures and take effective notes. Students will also get regular speaking practice as they discuss lecture material. As with Academic English I, material will draw on topics from the social sciences, including the family, gender issues and the media.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to identify the main ideas and supporting ideas of lectures on social science topics. They should know a variety of effective note-taking techniques to help them comprehend and recall lecture material.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English II: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information.各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
平常点評価

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters 3 Life in Society:

Kim Sanabria/Cambridge, 2012/9781107673144/

Listening and Speaking (2nd Edition)

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic English II (S2)

11216

担当者名 / Instructor HIKASA ROWENA MANTES

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on listening for academic purposes, and in particular on developing students' ability to follow English lectures and take effective notes. Students will also get regular speaking practice as they discuss lecture material. As with Academic English I, material will draw on topics from the social sciences, including the family, gender issues and the media.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to identify the main ideas and supporting ideas of lectures on social science topics. They should know a variety of effective note-taking techniques to help them comprehend and recall lecture material.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English II: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information.各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
平常点評価

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters 3 Life in Society:
Listening and Speaking (2nd Edition)

Kim Sanabria / Cambridge, 2012 / 9781107673144 /

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic EnglishIV (S1)

10668

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回) テーマ / Theme キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 % Students who score less than 450 or who don't take the test at all will lose 5% of their overall
平常点評価 grade for the course.

5% (2013 Dec. TOEIC-test)

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

IMPORTANT: Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450. Students who score less than 450 or who don't take the test at all will lose 5% of their overall grade for the course.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic English II (S3)

11217

担当者名 / Instructor RIES BRENDAN JOSEPH

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on listening for academic purposes, and in particular on developing students' ability to follow English lectures and take effective notes. Students will also get regular speaking practice as they discuss lecture material. As with Academic English I, material will draw on topics from the social sciences, including the family, gender issues and the media.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to identify the main ideas and supporting ideas of lectures on social science topics. They should know a variety of effective note-taking techniques to help them comprehend and recall lecture material.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English II: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information.各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
平常点評価

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters 3 Life in Society:
Listening and Speaking (2nd Edition)

Kim Sanabria/Cambridge, 2012/9781107673144/

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic English II (S4)

11221

担当者名 / Instructor CLAYTON DAVID J M

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on listening for academic purposes, and in particular on developing students' ability to follow English lectures and take effective notes. Students will also get regular speaking practice as they discuss lecture material. As with Academic English I, material will draw on topics from the social sciences, including the family, gender issues and the media.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to identify the main ideas and supporting ideas of lectures on social science topics. They should know a variety of effective note-taking techniques to help them comprehend and recall lecture material.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English II: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information.各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
平常点評価

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters 3 Life in Society:
Listening and Speaking (2nd Edition)

Kim Sanabria/Cambridge, 2012/9781107673144/

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic EnglishIV (S2)

10666

担当者名 / Instructor CLARK PHILLIP MILLER

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、
平常点評価

100 %

Students who score less than 450 or who don't take the test at all will lose 5% of their overall grade for the course.

5% (2013 Dec. TOEIC-test)

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

IMPORTANT: Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450. Students who score less than 450 or who don't take the test at all will lose 5% of their overall grade for the course.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic English III (S2)

11274

担当者名 / Instructor RIES BRENDAN JOSEPH

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

Through a combination of individual and group project work this course aims to develop students' academic research and presentation skills. Projects will require students to make use of library resources, online databases and the Internet, and may involve some primary research, using questionnaire surveys, for example. Students will have practice in presenting research in a variety of formats: in written reports, posters or oral presentations, for instance.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of this course students will have completed at least two academic research projects and improved their ability to gather, interpret, organize and present information in English.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English III: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters 3 Life in Society: Reading and Writing (2nd Edition)	Jessica Williams, Kristine Brown & Susan Hood / Cambridge, 2012 / /
Academic Encounters 3 Life in Society: Listening and Speaking (2nd Edition)	Kim Sanabria / Cambridge, 2012 / /

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic English III (S3)

11275

担当者名 / Instructor HIKASA ROWENA MANTES

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

Through a combination of individual and group project work this course aims to develop students' academic research and presentation skills. Projects will require students to make use of library resources, online databases and the Internet, and may involve some primary research, using questionnaire surveys, for example. Students will have practice in presenting research in a variety of formats: in written reports, posters or oral presentations, for instance.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of this course students will have completed at least two academic research projects and improved their ability to gather, interpret, organize and present information in English.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English III: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	

Warning against Plagiarism (盗用 / 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters 3 Life in Society: Reading and Writing (2nd Edition)	Jessica Williams, Kristine Brown & Susan Hood / Cambridge, 2012 / /
Academic Encounters 3 Life in Society: Listening and Speaking (2nd Edition)	Kim Sanabria / Cambridge, 2012 / /

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic English I (S4)

10655

担当者名 / Instructor CLARK PHILLIP MILLER

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on reading and writing for academic purposes. Course material will draw on a range of sociological topics, including the family, gender issues and the media, developing students' knowledge of core vocabulary for the social sciences. Students will learn strategies that will make them more efficient as critical readers, and techniques for organizing their ideas effectively in writing.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to write an academic research paper with properly-formatted references and citations.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回) テーマ / Theme キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English I: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
平常点評価

Warning against Plagiarism (盗用 / 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters 3 Life in Society: Reading and Writing (2nd Edition) Jessica Williams, Kristine Brown & Susan Hood / Cambridge, 2012 / 9781107658325

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部 『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic English V (S1)

12076

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
平常点評価

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

Refer to 2013Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic EnglishIV (S3)

10667

担当者名 / Instructor LANGFORD CRAIG M.

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、
平常点評価

100 %

Students who score less than 450 or who don't take the test at all will lose 5% of their overall grade for the course.

5% (2013 Dec. TOEIC-test)

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

IMPORTANT: Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450. Students who score less than 450 or who don't take the test at all will lose 5% of their overall grade for the course.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic English V (S2)

12074

担当者名 / Instructor DONNY-CLARK DANNY M.

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
平常点評価

Warning against Plagiarism (盗用 / 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic English V (S3)

12075

担当者名 / Instructor LANGFORD CRAIG M.

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
平常点評価

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic English V (S4)

12080

担当者名 / Instructor PIGOTT JULIAN DAVID

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
平常点評価

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

Refer to 2013Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

憲法 I (JA)

17844

担当者名 / Instructor 中島 茂樹

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「権利の保障が確保されず、権力の分立が規定されていないすべての社会は、憲法をもつものではない」。これは1789年のフランス人権宣言第16条の規定である。ここには、「権利の保障」と「権力分立」が「憲法」の不可欠の構成要素とされているが、このような意味での憲法が世界史のなかで具体化されるのは、近代市民革命以降のことに属する。憲法 I では、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重といった日本国憲法をめぐる憲法上の諸原理や憲法解釈上の諸問題について、歴史的な観点と比較憲法的な視点をもふまえて検討することとした。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

日本国憲法をめぐる憲法上の諸原理や憲法解釈上の諸問題について、歴史的な観点と比較憲法的な視点をもふまえた学習により、現代日本で生起するもろもろの憲法現象を主体的かつ批判的に判断できる能力の取得を目標とする。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	憲法概念と立憲主義	憲法とは何か、憲法の意味、立憲主義の構造と展開
2~3	日本国憲法の成立	明治憲法の特徴、日本国憲法の成立過程
4	国民主権の原理	国民主権、象徴天皇制
5~7	平和主義の原理	憲法9条の成立と展開、憲法9条裁判、日米安保体制
8~10	基本的人権の妥当範囲	人権の私人間効力、特別権力関係論、人権と公共の福祉
11~12	包括的基本権と法の下での平等	生命・自由・幸福追求権、法の下での平等
13	精神的自由(1)	思想・良心の自由、学問の自由
14~15	精神的自由(2)	信教の自由、政教分離の原則
16~18	精神的自由(3)	表現の自由、知る権利、集会・結社の自由
19~20	経済的自由	職業選択の自由、営業の自由、財産権
21~22	適正手続の保障	刑事手続、行政手続
23~24	国務請求権と参政権	国務請求権、参政権
25~26	社会権(1)	生存権
27~28	社会権(2)	教育を受ける権利
29~30	社会権(3)	労働基本権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

下記のテキストを用いるほか、レジュメを配布する。適宜受講者を指名して応答を求めるほか、小テストを実施する。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	論述問題 学説・判例が理解され、それらの検討がなされているかを重視。
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	10 %	択一式小テスト 基礎知識の有無を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

憲法(第5版)

芦部信喜(高橋和之補訂) / 岩波書店 / /

レジュメを適宜配布するので、その他の概説書でも差し支えない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

憲法判例百選〔第5版〕I・II

/ 有斐閣 / /

その他、講義の際に適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

法学館憲法研究所 <http://www.jicl.jp>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目

憲法Ⅱ (JA)

15140

担当者名 / Instructor 中島 茂樹

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本講義は、憲法Ⅰで扱われた人権保障理論を前提として、国民主権と政治制度というテーマのもとに統治機構にかんする諸問題を扱う。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

現代社会における国家の諸活動はかつて見られなかったほどに肥大化し、国民の社会・経済生活とのかかわり、したがってまた、国民の権利・自由とのかかわりも著しく複雑・多様な様相を示している。この憲法Ⅱでは、国民主権原理を基軸とし、人権保障の手段としての統治機構という観点から、歴史的な視点と比較憲法的な視点をふまえて、現実政治を洞察できる能力を獲得することを目標とした。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	国民主権と国民代表制度	国民主権と代表の概念、国民代表制
2	選挙制度と政党	国民主権と選挙制度、政党の憲法上の位置、政治資金の規制と政党への公的助成
3	権力分立の原理	近代憲法の権力分立制、権力分立制の現代的変容
4～6	国会	国会の地位、国会の組織と活動、国会と議院の権能
7～9	内閣	行政権と内閣、内閣の組織と権能、議院内閣制
10～12	裁判所	司法権の意味と範囲、裁判所の組織と権能、司法権の独立
13	違憲審査制	意義と類型、違憲審査権の対象、違憲審査の方法と基準、違憲判決の効力
14	財政	財政民主主義と租税法律主義、予算制度
15	地方自治	地方自治の本旨、地方公共団体の機関、条例

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的な知識の確認や簡単な事例問題の解決を通じて、論点がしっかり理解できているかを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法 第5版	芦部 信喜 / 岩波書店 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

法学館憲法研究所 <http://www.jicl.jp>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目

Academic English III (S4)

11278

担当者名 / Instructor de SOETE FRANCOIS

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

Through a combination of individual and group project work this course aims to develop students' academic research and presentation skills. Projects will require students to make use of library resources, online databases and the Internet, and may involve some primary research, using questionnaire surveys, for example. Students will have practice in presenting research in a variety of formats: in written reports, posters or oral presentations, for instance.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of this course students will have completed at least two academic research projects and improved their ability to gather, interpret, organize and present information in English.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English III: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	

Warning against Plagiarism (盗用 / 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters 3 Life in Society: Reading and Writing (2nd Edition)	Jessica Williams, Kristine Brown & Susan Hood / Cambridge, 2012 / /
Academic Encounters 3 Life in Society: Listening and Speaking (2nd Edition)	Kim Sanabria / Cambridge, 2012 / /

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic English I (S2)

10653

担当者名 / Instructor SUMMERVILLE CHRIS

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on reading and writing for academic purposes. Course material will draw on a range of sociological topics, including the family, gender issues and the media, developing students' knowledge of core vocabulary for the social sciences. Students will learn strategies that will make them more efficient as critical readers, and techniques for organizing their ideas effectively in writing.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to write an academic research paper with properly-formatted references and citations.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回) テーマ / Theme キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English I: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
平常点評価

Warning against Plagiarism (盗用 / 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters 3 Life in Society: Reading and Writing (2nd Edition) Jessica Williams, Kristine Brown & Susan Hood / Cambridge, 2012 / 9781107658325

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部 『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic English I (S1)

10652

担当者名 / Instructor HOGUE WILLIAM ROBERT

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on reading and writing for academic purposes. Course material will draw on a range of sociological topics, including the family, gender issues and the media, developing students' knowledge of core vocabulary for the social sciences. Students will learn strategies that will make them more efficient as critical readers, and techniques for organizing their ideas effectively in writing.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to write an academic research paper with properly-formatted references and citations.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回) テーマ / Theme キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English I: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
平常点評価

Warning against Plagiarism (盗用 / 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters 3 Life in Society: Reading and Writing (2nd Edition) Jessica Williams, Kristine Brown & Susan Hood / Cambridge, 2012 / 9781107658325

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部 『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

担当者名 / Instructor 横澤 茂夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- ① 実技(含: 簡単エクササイズ)
- ② 美術教育の背景の知識・理解
- ③ 模擬授業

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ① 美術(図工)教育の特質を理解し、自分の考えを持つことができる。
- ② 学習指導要領の図画工作編の知識・理解を図る。
- ③ 模擬授業を通して、指導の基礎・基本(気づき学習)を身につける。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマ:「オリエンテーション」と「簡単エクササイズ: 名札を作ろう」	キーワード: 履修上の留意点と評価について。造形は形と色のインパクト。
2	テーマ:「絵の具って面白い!」講師: (株) ぺんてる 大塚義孝氏	キーワード: 自製の絵の具を作って楽しもう。絵の具の仕組みの理解。学び方は気づき学習による協同学習
3~6	テーマ:「日本の伝統文化に触れる... 侘び茶の茶碗づくり」	キーワード: 日本の伝統文化の一つである茶の湯文化に触れる。6つのおもてなしの造形。指で見る感覚を磨く。
7	テーマ:「子どもの発達と造形」	キーワード: 子どもの絵の鑑賞は絵の中に入って読むこと。造形と子どもの心情のつながりが見えてくる。
8	テーマ:「チゼックとビジュアルコミュニケーションから見たヨーロッパの美術教育」	キーワード:「子どもたち自身によって成長させ発展させ、成熟させよ」「図工の授業で、教えたり学んだりする事は他の教科と変わらない」
9	テーマ:「日本の自由画教育運動と創造美育運動」	キーワード: 2つの運動の成果と課題。「生きる力」ビジュアルコミュニケーション。
10	テーマ:「模擬授業の準備1」	キーワード: 学習指導要領図画工作編のポイントをつかむ。班編成と題材選び、学習のねらいの確認。表現のテーマ、技法、材料についてねらいに即してみんなで考え合うよさを味わう。集団の中での自分の個性に気づく。
11	テーマ:「模擬授業の準備2」	キーワード: みんなで考え、確かめ合いながらの協同学習を通して試作と指導案作成をしよう。
12~14	テーマ:「模擬授業の実践1~3」	キーワード: 授業の構成と指導は「気づき学習」で確実に展開し、図工指導の特徴を体全体で身につけよう。
15	テーマ:「図工の授業の特性と指導法」	キーワード: 講義の成果と課題。図画工作科指導から見たこれからの教育の展望。造形芸術でいうところの「個性」とは?

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

- ① 講義による学び合いと振り返り
- ② 簡単エクササイズを含む実技
- ③ 模擬授業を通じた実践的学習
- ④ 外部講師の授業については、講師の都合で変更あり。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	① 各授業ごとの振り返りシートによる。 ② 出席日数と授業態度、作品評価も加味する。
		A評価: 振り返り等で授業以上の発展が見られる。 B評価: 振り返り等で授業の理解が図れた。
		① 教育実習で受講できなかった授業は、教育実習の振り返りで対応する。 ② 教育実習期間の講義は、特別授業「陶芸: クリスマスリース」

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ① 実習等を伴う場合は、汚れてもよい服装やエプロン、手吹きタオル等を各自用意すること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

Academic English I (S3)

10654

担当者名 / Instructor 平山 真奈美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on reading and writing for academic purposes. Course material will draw on a range of sociological topics, including the family, gender issues and the media, developing students' knowledge of core vocabulary for the social sciences. Students will learn strategies that will make them more efficient as critical readers, and techniques for organizing their ideas effectively in writing.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to write an academic research paper with properly-formatted references and citations.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回) テーマ / Theme キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English I: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
平常点評価

Warning against Plagiarism (盗用 / 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters 3 Life in Society: Reading and Writing (2nd Edition) Jessica Williams, Kristine Brown & Susan Hood / Cambridge, 2012 / 9781107658325

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部 『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

Academic EnglishIV (S4)

10671

担当者名 / Instructor PIGOTT JULIAN DAVID

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2, S3 & S4. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、
平常点評価

100 %

Students who score less than 450 or who don't take the test at all will lose 5% of their overall grade for the course.

5% (2013 Dec. TOEIC-test)

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

IMPORTANT: Students who are enrolled on the sansha English Fukusenko programme are formally required to take the TOEIC-IP test in the Fall semester (December, 2013) to achieve a minimum score of 450. Students who score less than 450 or who don't take the test at all will lose 5% of their overall grade for the course.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books

Refer to 2013 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2013年度版を参照

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

担当者名 / Instructor 横澤 茂夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- ①実技(含: 簡単エクササイズ)
- ②美術教育の背景の知識・理解
- ③模擬授業

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ①美術(図工)教育の特質を理解し、自分の考えを持つことができる。
- ②学習指導要領の知識・理解を図る
- ③模擬授業とを通して、指導の基本を身につける。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマ:「オリエンテーション」と「簡単エクササイズ: 名札を作ろう」	キーワード: 履修上の留意点と評価について。造形は形と色のインパクト。
2	テーマ:「絵の具って面白い!」講師:(株)ぺんてる 大塚義孝氏	キーワード: 自製の絵の具を作って楽しもう。絵の具の仕組みの理解。学び方は気づき学習法による協同学習
3~6	テーマ:「日本の伝統文化に触れる...侘び茶の茶碗づくり」	キーワード: 日本の伝統文化の一つである茶の湯の文化に触れる。6つのおもてなしの造形。指で見る感覚を磨く。
7	テーマ:「子どもの発達と造形」	キーワード: 子どもの絵の鑑賞は絵の中に入って読むこと。造形と子どもの心情のつながりが見えてくる。
8	テーマ:「チゼックとビジュアルコミュニケーションから見たヨーロッパの美術教育」	キーワード:「子ども自身によって成長させ発展させ、成熟させよ」
9	テーマ:「日本の自由画教育運動と創造美育運動」	キーワード: 2つの運動の成果と課題。「生きる力」ビジュアルコミュニケーション
10	テーマ:「模擬授業の準備1」	キーワード: 学習指導要領のポイント。題材の決定と学習のねらい、テーマと技法、材料についてみんなで考え合う。
11~12	テーマ:「模擬授業の準備2」	キーワード: みんなで考え、確認しながら試作をしよう。指導案も作成しよう。
13~14	テーマ:「模擬授業の実践」	キーワード: 指導は気づき学習法で、確実に授業の構成と展開を身につけよう。
15	テーマ:「図工科の特性と指導法」	キーワード: 講義の成果と課題。これからの教育の展望。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	① 作品の評価と振り返りシートの評価による。 ② 出席日数も加味する。
		A評価: 指導事項以上の振り返りができた。 B評価: 指導事項が一通り理解できている。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ① 作業を伴うときは、汚れてもよい服装、ハンドタオルの用意する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

財政学Ⅱ (G)

16155

担当者名 / Instructor 内山 昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代財政の機能、産業や国民生活との関係、財政問題の展開を中心に解説する

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

財政学の理論、概念、主要用語群を正確に理解する。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

財政学Ⅰ、経済関係科目、マクロ経済学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～3	現代財政の全体像と特徴	大きな政府 財政の機能 一般会計 社会保険 財政投融資
4～5	国防の財政学	防衛費の地位 消費的経費 歳出化経費 防衛力整備計画 軍事情勢 軍事大国
6～7	インフラ整備の財政学	社会資本 インフラストラクチャー 公共事業 公共投資 資源配分
8～10	社会保障の財政学	社会保障費 医療保険 公的年金 所得格差 貧困 移転的経費 所得再分配
11～13	租税・公債論の展開	租税の定義 租税原則 租税体系 税制改革 公債問題 財政赤字 財政健全化
14～15	財政問題の解説、講義のまとめ	主要論点の解説

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	財政の理論、概念、主要用語を正確に理解する。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	30 %	適宜小テストを行う

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

財政、予算に関する新聞の解説記事に目を通すことが望ましい

教科書 / Textbooks

プリント配布と板書

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代の財政	内山昭編著 / 税務経理協会 / 4-419-04721-6 /
図説日本の財政	西田安範編 / 東洋経済新報社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

財務省・国税庁ホームページ

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

授業の概要 / Course Outline

日常生活場面ですら使われることばが理解できるように、聞く・話す・読む・書くの4能力をバランスよく養成し、フランス語の基礎を身につけると共に、フランス語が話されている地域への理解、または映画などの文化の紹介を通じてフランス文化についての知識を深める。言語そのものよりも、異文化理解にウエイトが置かれた科目である。具体的には、フランスのみならず、ヨーロッパの映画の鑑賞を通じてヨーロッパを深く理解することになる。ヨーロッパに行ってみようという気分を味わってもらいたい。

授業で紹介するような淡々とした、ある意味では少々退屈な映画が今日受け入れられるのは、日常というものへの人々の感じ方が変化してきているからだろう。21世紀の今日、この確信はますます強まりつつあるように思われる。なぜならば、脱工業化・少子高齢化という市民社会爛熟期、ポストモダン期に移行して、19世紀以来の科学技術に支えられて来た価値観が怪しくなった今日は、多かれ少なかれ、人々が特権化されていない日常(=等身大の日常)に向かい、それを見つめざるを得ないような時代だからである。

このような世界観や人生観が、ますます身近なものに、よりリアリティを持ったものを感じられる時代を迎えているからである。これらの少々退屈な映画が今日、多くの人々に受け入れられるのは、彼らが既に、ごくりふれた日常に寄り添った精神生活を始めているからかもしれない。

登場人物のシンプルな生き方そのものが、まさに、リストラや失業の波が押し寄せている、今の時代にこそ求められる人生訓のひとつであるに違いない。彼らの生き方や選択は、それを決して声高に訴えかけるのではなくて、どこかとぼけた調子で、独自の世界観を展開させながらも、観る者の心に静かに、しかし確実に届くものとして呈示されている。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

フランスの日常生活や文化や社会などについての現代的話題に関しての意見を言うことができること、さらに、フランスと日本を比較して国際理解を深めることを目指します。特に、ヨーロッパ的な発想の仕方を理解して欲しいと思います。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

ヨーロッパの文化に関心があれば結構です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクションと「海の上のピアニスト」(1999年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
2	「海の上のピアニスト」(1999年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
3	「コーラス」(2004年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
4	「コーラス」(2004年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
5	「永遠と一日」(1998年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
6	「永遠と一日」(1998年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
7	「ハンネス、列車の旅」(1998年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
8	「ハンネス、列車の旅」(1998年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
9	「エル・スール」(1983年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
10	「エル・スール」(1983年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
11	「ソフィーの世界」(1999年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
12	「ソフィーの世界」(1999年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
13	「かもめ食堂」(2005年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
14	「かもめ食堂」(2005年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
15	まとめとレポート解説	講義の概括とレポートの講評

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	まず成績評価の前提として、原則的に出席要件として2/3以上が求められます。その上で、成果物+日常点という考え方に立ち、レポートに日常点評価(出席ポイント&授業運営への貢献度)を加味して成績評価を行います。
レポートは作品ごとに宿題として課されます。二週で一本の作品を鑑賞しますから、7本のレポートが課されます。したがって、成績評価の要件として、原則として、2/3以上の出席と、7本のレポートの提出が前提になります。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキスト: 久津内一雄『シネマの世界』をよく読んでください。それから後期金曜5限「言語文化論」を受講することを勧めます。

教科書 / Textbooks

テキスト: 久津内一雄『シネマの世界』を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
寝ながら学べる構造主義	内田樹 / 文春新書 2002年 / /
時間論	中島義道 / ちくま学芸文庫 2002年 / /
現代思想の冒険	竹田青嗣 / ちくま学芸文庫 1992年 / /
これがニーチェだ	永井均 / 講談社現代新書 2004年 / /
ワイトゲンシュタイン「論理哲学論考」を読む	野矢茂樹 / ちくま学芸文庫 2002年 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目

医学一般 (S)

12952

担当者名 / Instructor 三浦 ふたば

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本科目は主に社会福祉士を目指す学生のための専門科目である。社会福祉士が相談援助職として専門的な役割を果たすためには、医療関係職種との連携を強め、多職種協働に基づくソーシャルワーク能力が必要である。このため、医学・医療、介護に関する基本的な知識を身につけることが望まれる。

本科目では、医学・医療、介護に関する最低限必要な知識の習得と、具体的な事例を通じた医学的な側面からの理解の視点を理解することを目標とする。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ① 相談援助職に必要な医学・医療、介護に関する一般的基礎知識を習得する。
- ② 具体的な事例を通して、医学的側面からの援助の視点を学ぶ。
- ③ 社会福祉士に求められる、人体の構造と機能及び疾病の基礎知識を習得する。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1, 健康のとらえ方と国民健康づくり対策	健康の概念、プライマリーヘルスケア、人口の高齢化、疾病構造の変化
	2, 人の成長・発達、老化	身体の成長・発達、精神の発達・成長、老化、老化徴候
	3, 身体構造と心身の機能 ①	身体部位の名称、脱水、血液成分、心臓の構造と循環
	4, 身体構造と心身の機能 ②	泌尿器の構造と疾患、呼吸器の構造と疾患、消化と吸収、神経の構造と機能
	5, 疾病の概要と医療・介護 ①	生活習慣病、メタボリックシンドローム、悪性腫瘍、緩和ケア
	6, 疾病の概要と医療・介護 ②	脳血管疾患、脳出血、脳梗塞、クモ膜下出血、硬膜下血腫、脳血管性疾患後遺症、高次脳機能障害
	7, 疾病の概要と医療・介護 ③	虚血性心疾患、心不全、高血圧、糖尿病、内分泌疾患
	8, 疾病の構造と医療・介護 ④	呼吸器疾患、消化器疾患、消化と吸収、肝胆膵
	9, 疾病の構造と医療・介護 ⑤	血液疾患、膠原病、腎不全、人工透析、腎炎、泌尿器、排尿障害、神経因性膀胱、前立腺肥大
	10, 疾病の構造と医療・介護 ⑥	骨折、骨粗鬆症、変形性骨関節疾患、関節リュウマチ、転倒
	11, 疾病の構造と医療・介護 ⑦	神経難病、介護保険の特定疾患
	12, 疾病の構造と医療・介護 ⑧	認知症、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、ピック病、他
	13, 精神障害と医療・介護	統合失調症、躁鬱病、気分障害、強迫性障害、摂食障害、PTSD、措置入院、医療保護入院
	14, リハビリテーションの概要	リハビリテーション、ICF、廃用症候群、作業療法、理学療法、言語療法
	15, 医療をはじめとする多職種連携と相談援助職	多職種連携、ケアマネジメント、地域ケア、在宅ターミナルケア、地域包括ケア

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	記述問題、択一問題(社会福祉士国家試験形式)
上記以外の試験・レポート、平常点評価	20 %	出席状況と授業に対する取り組み状況

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

かなり広範囲の専門分野をピンポイントで講義することになるため、自己学習は欠かせない。テキストだけでなく、関係図書を読むことが必要。社会福祉士という専門職が多職種連携、相談援助にあたる上で必要な最低限の医療知識を習得することを意識して臨むこと。援助対象者当事者の著作も読んでほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「社会福祉士精神福祉士受験ワークブック」

社会福祉士・精神福祉士受験ワークブック編集委員会編／中央法規／

他、適宜授業の中で紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

厚生労働省ホームページ: <http://www.mhlw.go.jp/>

財団法人 厚生統計協会: <http://www.hws-kyokai.or.jp/>

認知症介護予防介護研究センターいづどこネット: <http://itsu-doko.net/>

国立感染症研究所感染症情報センター: <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

授業の中で伝達する

その他 / Other

拡張項目

情報リテラシーⅢ (SB) § 情報処理 (SB)

13816

担当者名 / Instructor 破田野 智己

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

web上で見かける様々なアニメーションは、単にページを装飾する手段にとどまらず、アート、広告、あるいはWBT(web-based-training)など、様々な目的に活用されています。つまりwebアニメーション作成のスキルを身につけることは、非常に強力で汎用性の高い表現手段を身につけることと同義といえます。そこでこの授業では、Flashというソフトウェアを用いて、なるべく直感的かつ簡単に、webアニメーションを作成する方法をレクチャーします。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

基本的なFlashの操作方法をマスターすること、アニメーションを用いた「作品」が作成できること、他者に自分の作品を発信できるようになること。以上3点を到達目標とします。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII、もしくはこれらの科目終了と同等のスキル・レベルを必要とします。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	パラパラマンガを描いてみよう	Flashによる「お絵描き」の特徴を学びながら、パラパラマンガを作ってみます
2	レイヤーを使ったパラパラマンガ	第1回を復習しつつ、背景と前景とを別々にアニメーションさせる方法を学びます
3	コンピュータにアニメをまかせる	原画と中割りを指定して、コンピュータにアニメーションを補完させる技術を学びます
4	もっとコンピュータにアニメをまかせる	軌跡(モーションパス)を指定して、アニメーションを作る方法を学びます
5	動くキャラクターでアニメを作る	ピコピコ動いているキャラクターを、さらに画面の中で動きまわらせる方法を学びます
6	特殊なアニメーション	パターン化されたアニメーションや、形状アニメーションなどを使ってみます
7	インタラクティブなアニメーション	Action Script を使ってアニメーションを制御する方法を学びます
8	アニメーションをランダムに動かす	アニメーションを使って簡単なゲームを作ってみます
9	作品に音をつける	アニメーションにあわせてサウンドエフェクトや楽曲などを重ねる方法を学びます
10~12	最終課題作成	最終課題を作成します(第10かいで説明を行います)
13	パブリッシング	作品をweb上にアップする方法や、アクセシビリティの考え方などについて学びます
14~15	プレゼンテーション	お互いに最終課題を発表し、評価し合います

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Flashに関する書籍は、参考に挙げたもの以外にもたくさんあります。また、web上にはFlashに関するチュートリアルやTipsが多数存在しており、これらの多くは無料で利用できます。これらは授業内容を深く理解するために役立つだけでなく、課題の作成を行う際にも有用です。もちろん、これらを用いなければ授業が十分に消化できないわけではありませんが、積極的に自学自習すれば、それだけ良い結果が得られるでしょう。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	第14・15回で行うプレゼンテーションの内容と、出席や各回の授業で出す課題などを総合して成績を評価します。 なお、授業内の課題に関して学生同士が教え合うことは制限しませんが、最終課題で盗用が認められた場合、定期試験でカンニングした場合と同様の厳しい処分を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

これまでの受講生(先輩)からは、「自分の思い通りのものを作ろうとすると、思いのほか時間がかかる。また、毎回の授業で出されるチャレンジ問題を解こうとすると、さらに時間を要する」とのコメントが寄せられています。つまり、他の授業に比べて、自習に費やす時間が多くなりがちだということです。時間的な余裕が無い受講生は、この授業をあまり楽しめないかもしれません。

なお、過去の受講生の作品のうち評価の高かったものを「参考になる WWW ページ」に例示しましたので参考にしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。その代わりに、毎回の授業では資料をweb(教材配布フォルダ)にupします。受講生は必要に応じてこれを保存、あるいは印刷して用いてください。

なお、課題はwebを介して提出してもらいます(詳しくは授業内で説明します)。

参考書 / Reference Books**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Flashレッスンブック

佐藤 好彦 / ソシム / 4883377180 / Flashの体験版やサンプルプログラムなどが入ったDVDが付属していますので、自宅で作品作りを行うことができます。

入門書には、ソフトの体験版が同梱されていることが多くあります。ここで挙げた書籍にもFlashの30日間トライアル版が付いていますので、折を見てインストール & 自習してみるのも良いでしょう。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

過去の受講生の作品

http://www.tomomis.com/ritsumei/flash_sample/

Flash Beginner's School(日本語です)

<http://m-school.biz/dev/flash-beginners/index.htm>**授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)**

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

必要があれば、教員のメールアドレスを通知します。

その他 / Other**拡張項目**

家庭科教育法 (SA)

12875

担当者名 / Instructor 表 真美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代の子どもたちは、社会状況、生活環境等の変化により、生活体験が著しく減少している。また、男女共同参画社会の進展、あるいは少子高齢社会への対応のためにも、家庭生活・家族への理解、および生活自立の基礎を培う家庭科の役割は、極めて重要である。そこで本講座では、前述のような社会背景を見据えたうえで、学習指導要領に沿って、小学校における家庭科指導法について、具体的、かつ実践的に学習する

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・家庭科教育の意義を理解する。
- ・質の高い家庭科の授業を構築・実践できる能力を身につける

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

家庭SA/SB

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	家庭科教育の特質	少子高齢化/男女共同参画社会/新学習指導要領/家庭生活/技術・家庭/家庭総合/家庭基礎/生活技術
2	家庭科教育の歴史	家事科/高等女学校/男女共修/高等学校教科書検定不合格
3	諸外国の家庭科教育	Home Economics Education /アメリカ/アジア/アフリカ/ヨーロッパ /IFHE
4	家庭科教育の学習目標・内容	カリキュラム開発/問題解決能力/生活問題
5	家庭科の学習指導・評価・授業設計	学習指導過程/学習戦略/児童指導要録/自己評価/学習指導計画/学習指導案
6	「家庭生活と家族」の授業設計	家族/家庭生活/家事労働/生活時間/近隣の人々/団らん
7	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計1	食事の役割/栄養素の種類と働き/食品の栄養的特徴/献立/食育/食文化
8	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計2	調理/米飯とみそ汁
9	「快適な衣服と住まい」の授業設計	衣服の着用/衣服の手入れ/整理・整頓/布を用いた製作
10	「身近な消費生活と環境」の授業設計	物や金銭の使い方/買い物/環境問題
11	模擬授業1	
12	模擬授業2	
13	模擬授業3	
14	模擬授業4	
15	総括	家庭科教育総論/家庭科学習内容論/模擬授業評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	家庭科学習指導のための基礎知識に関する試験を行う。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	50 %	(25%)模擬授業終了後に家庭科学習指導案、および実践した模擬授業の反省をまとめたレポートを授業内に提出する。 (25%)1から10回までの日常的な授業への取り組み、および11から14回の授業時に行う模擬授業への取り組みを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活の諸課題について、日頃から興味関心をもち、科学的解決法を考えることが重要である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校家庭科の指導	中間美砂子 多々納道子編著 / 建帛社 / 978-4-7679-2098-6 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
青少年期の家族と教育: 家庭科教育からの展望	牧野カツコ編著 / 家政教育社 / 4-7606-0359-x /
少子社社会の家族と福祉: 女性と高齢者の視点から	袖井孝子編著 / ミネルヴァ書房 / 4-623-04016-x /
現代家族のアジェンダ: 親子関係を考える	井上真理子編著 / 世界思想社 / 4-7907-1085-8 /
食卓と家族: 家族団らんの歴史の変遷	表真美 / 政界思想社 / 13: 978-4790714637 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

メール

その他 / Other

拡張項目

家庭科教育法 (SB)

12949

担当者名 / Instructor 表 真美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代の子どもたちは、社会状況、生活環境等の変化により、生活体験が著しく減少している。また、男女共同参画社会の進展、あるいは少子高齢社会への対応のためにも、家庭生活・家族への理解、および生活自立の基礎を培う家庭科の役割は、極めて重要である。そこで本講座では、前述のような社会背景を見据えたうえで、学習指導要領に沿って、小学校における家庭科指導法について、具体的、かつ実践的に学習する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・家庭科教育の意義を理解する。
- ・質の高い家庭科の授業を構築・実践できる能力を身につける

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

家庭SA/SB

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	家庭科教育の特質	少子高齢化/男女共同参画社会/新学習指導要領/家庭生活/技術・家庭/家庭総合/家庭基礎/生活技術
2	家庭科教育の歴史	家事科/高等女学校/男女共修/高等学校教科書検定不合格
3	諸外国の家庭科教育	Home Economics Education /アメリカ/アジア/アフリカ/ヨーロッパ/IFHE
4	家庭科教育の学習目標・内容	カリキュラム開発/問題解決能力/生活問題
5	家庭科の学習指導・評価・授業設計	学習指導過程/学習戦略/児童指導要録/自己評価/学習指導計画/学習指導案
6	「家庭生活と家族」の授業設計	家族/家庭生活/家事労働/生活時間/近隣の人々/団らん
7	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計1	食事の役割/栄養素の種類と働き/食品の栄養的特徴/献立/食育/食文化
8	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計a	調理/米飯とみそ汁
9	「快適な衣服と住まい」の授業設計	衣服の着用/衣服の手入れ/整理・整頓/布を用いた製作
10	「身近な消費生活と環境」の授業設計	物や金銭の使い方/買い物/環境問題
11	模擬授業1	
12	模擬授業2	
13	模擬授業3	
14	模擬授業4	
15	総括	家庭科教育総論/家庭科学習内容論/模擬授業評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	家庭科学習指導のための基礎知識に関する試験を行う。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	50 %	(25%)模擬授業終了後に家庭科学習指導案、および実践した模擬授業の反省をまとめたレポートを授業内に提出する。 (25%)1から10回までの日常的な授業への取り組み、および11から14回の授業時に行う模擬授業への取り組みを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活の諸課題について、日頃から興味関心をもち、科学的解決法を考えることが重要である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校家庭科の指導	中間美砂子 多々納道子編著 / 建帛社 / 978-4-7679-2098-6 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
青少年期の家族と教育: 家庭科教育からの展望	牧野カツコ編著 / 家政教育社 / 4-7606-0359-x /
少子社社会の家族と福祉: 女性と高齢者の視点から	袖井孝子編著 / ミネルヴァ書房 / 4-623-04016-x /
現代家族のアジェンダ: 親子関係を考える	井上真理子編著 / 世界思想社 / 4-7907-1085-8 /
食卓と家族: 家族団欒の歴史の変遷	表真美 / 世界思想社 / 13: 978-4790714637 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

メール

その他 / Other

拡張項目

精神障害リハビリテーション論 (S)

13820

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神障害の障害とはなにか。リハビリテーションの対象となる精神障害者は、大人のみではない。家族・学校・地域・職場が精神障害をどう捉え、対象者やその周辺に働きかけるのかにつき、多職種協働さらには協同という観点から精神障害リハビリテーションを考える。なぜリハビリテーションの対象であるのか。家族・学校との関わりでは、スクールソーシャルワーカーや教員が地域で働く精神障害者を対象とするリハビリテーションにおける精神保健福祉士と協働することが必要となる。さらに、学校卒業後の障害児や中途障害者である精神障害者が、“場”“職”“すまい”から排除されている事実を示し、排除から包摂への協働、さらにその支援哲学である協同的関係性についての役割はどこにあるのかをにつき授業を進める。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ①精神障害の基礎的な理解が可能となること
- ②リハビリテーションが占める人生の位置を、障害とライフストーリーとの関わりから明確に理解すること
- ③精神保健福祉の実践意義及び学校との関係についての理解に努めること

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに なぜ精神障害リハビリテーションなのか	隔離、差別、偏見、社会的自立
2	精神障害者の地域生活と排除に取り組む実践精神障害リハビリテーションと生活共同体	生活共同体、協同組織、地域アイデンティティ、麦の郷、発達障害、精神障害、協同と包摂へのアイデンティティ
3	精神障害リハビリテーションの思想や理念①	IL運動、当事者参加、当事者自立
4	精神障害リハビリテーションの思想と理念②	リカバリ、エンパワメントアプローチ、反スティグマ
5	精神障害リハビリテーションの思想と理念③	アディクションモデル、嗜癖する社会支援—被支援から協同的関係性へ
6	精神障害リハビリテーション政策と地域生活制限	障害者地域生活支援事業、大和川暴行事件、精神保健福祉法
7	障害者自立支援法の限界	地域生活制限、障害特性の軽視、ケアマネジメント、ひきこもり
8	学童期以降の精神保健福祉ニーズと実践①(家族のニーズと家族を対象とする実践)	発達障害、不登校、ひきこもり、社交不安障害等と支援
9	学童期以降の精神保健福祉ニーズと実践②(当事者のニーズと当事者を対象とする実践)	ひきこもり、社交不安障害と支援実践
10	学童期以降の精神保健福祉ニーズと実践③(支援者の育ちと支援現場)	支援者のゆらぎ、育ち
11	精神科医療機関と精神障害リハビリテーションの関わり	精神科病院、危機(救急)対応、長期入院、トリエステモデル
12	精神障害リハビリテーションと支援者家族	FPE・家族心理教育、障害受容、支援哲学と方法、支援者としての自己
13	精神障害リハビリテーションと就労	共同作業、適応から参加としての就労、新たな働き方、援助付き雇用
14	精神障害リハビリテーションと支援者	燃え尽き、発達、総合的支援、職種役割、共通言語
15	精神障害リハビリテーションと協働	協働、共通言語、職種役割、若者支援と障害者支援、地域共同体

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
上記以外の試験・レポート、平常点評価	30 %	出席1回に対して1点を加点し、コミュニケーションペーパーの内容で1点を加点(合計、毎回出席の場合15点~30点)加点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参考文献について学習することを求める。この授業では、私語、途中入室及び退室を認めない。私語等が顕著な場合は、平常点に影響することを十分理解すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ともに生き ともに育つ ひきこもり支援-協同的関係性とソーシャルワーク-	山本 耕平 / かもがわ出版 / 978-4-7803-0598-2 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神保健福祉白書(2010年版)流動化する障害福祉施策	精神保健福祉白書編集委員会 / 中央法規出版 / 978-4805832349 /
精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本	大熊一夫 / 岩波書店 / 978-4000236850 /
トリエステ精神保健サービスガイド—精神病院のない社会へ向かって	トリエステ精神保健局 / 現代企画室 / 978-4773806021 /
自由こそ治療だ—イタリア精神病院解体のレポート	ジル シュミット / 社会評論社 / 978-4784501816 /
精神障害をもつ人が地域でくらししていくために—介護保険統合論と、求められる社会的支援	山本耕平 / かもがわ書店 / 978-4876998401 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目

学びとキャリア (GA) § キャリア形成論 I (L) § キャリア形成特殊講義 (SA) § 特殊講義(キャリア形成論 I) (GA)

13651

担当者名 / Instructor 加藤 敏明、中川 洋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、2012年度から新たに教養教育C群科目として開講されています。様々な科学分野の視座から「自己」や「社会」、そして「立命館大学」を見つめ直すことで、これから始まる大学の学びを体系化する点に、最大の特長があります。講義では、思想、哲学や多文化理解の概念、立命館大学の教学理念「平和と民主主義」やシチズンシップ(サービスマーケティング)について学んだ上で、パフォーマンス型プレゼンテーション形式によるチーム発表で授業を総括し、大学における学びを展望し学習計画の確立を目指します。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

教養教育に位置づけたキャリア教育の視点から、自身の過去を振り返る作業はリフレイン学習として大変重要です。大学での学びがスタートする時点で、確かな学びの展望を持つことができるようになります。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本講義は、全学型のキャリア教育科目に位置づけられています。立命館大学では、1回生前期から3回生前期まで、キャリア発達に応じたキャリア教育科目を配置していて、本講義はそのスタートに該当します。講義の中で全学型キャリア教育科目についての詳細を紹介します。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマ/大学での学びを考える (加藤)	概要/副題「科学からとらえる自己」の意味を考え、大学における学びの大切さや意義につき解説する。後半は、グループワーク。
2	テーマ/多文化社会を生きる (産業社会学部教員)	概要/異文化間コミュニケーションギャップの観点から、多文化社会と自己を考察する。
3	テーマ/多文化理解を通じて、自己と向き合う (加藤)	概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて多文化社会に生きる意味を考察する。
4	テーマ/「こころ」で自己をとらえる (文学部教員)	概要/歴史に残る心理学者の業績をもとに「心」とは何かを考察する。
5	テーマ/心理学を通じて、自己と向き合う (加藤)	概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて心と向き合う意味を考察する。
6	テーマ/教学理念を理解する (国際関係学部教員)	概要/教学理念「平和と民主主義」の歴史的背景と今日的な意味を学ぶ。
7	テーマ/教学理念を通じて、自己と向き合う (加藤)	概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて教学理念の持つ意味と立命館大学での学びについて考察する。
8	テーマ/中間総括 (加藤)	概要/前半の講義を振り返り、コーディネーターがまず自己理解と大学での学びの内省化について中間的に総括。それをもとに受講生がグループワークを行い中間総括レポートを提出する。
9	テーマ/「地域」から社会に貢献する (サービスマーケティングセンター教員)	概要/高度な市民社会に生きるためのシチズンシップについて学び、地域社会のとらえ方について学ぶ。
10	テーマ/地域貢献を通じて、社会と向き合う (加藤)	概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じてシチズンシップの持つ意味を考察する。
11	テーマ/「職業人生」を通じて、社会に貢献する (加藤)	概要/労働経済学ライフスタイル論をもとに、職業人生を通じたキャリア形成と自律的な精神について学ぶ。
12	テーマ/職業人生を通じて、社会と向き合う (加藤)	概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて職業人生のあり方について考察する。
13	テーマ/パフォーマンス型プレゼンテーションに向けて 1 (加藤)	概要/プレゼンテーションのあり方について基礎的な学習を行うとともに、チームを編成し、発表課題が明示される。
14	テーマ/パフォーマンス型プレゼンテーションに向けて 2 (加藤)	概要/チーム発表に向けた準備を行うとともに、企画書指導がなされる。
15	テーマ/パフォーマンス型プレゼンテーションによる発表と総括 (加藤)	概要/パフォーマンス型プレゼンテーションによるチーム発表を通じて、講義全般の内省化を図る。その上で、コーディネーター教員が授業の最終総括を行う。なお、発表における企画書を総括レポートとして提出させる。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	20 %	自己理解とその延長線上の社会認識の理解度を中心に評価します。なお、定期試験は評価の大前提ですから、必ず受験すること。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	80 %	①出席状況、②受講態度、③6講での成果、④中間総括レポート(11講)、⑤総括レポート(発表企画書、15講)、の5要素をもとに「総合的」に評価します。ただし、評価の前提をなすのは「出席状況」です。

教養教育C群科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の前提条件は、出席要件です。この科目群は、キャリア教育としても位置づけられているからです。いずれ受講生の皆さんが巣立つ先のビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。80%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学部やキャンパスを超えて数多くの本学教員が登壇するほか、総括としてパフォーマンス型プレゼンテーションによる発表が用意されています。各講義では、開始時にコーディネーター教員が各講義の位置づけ、前後の講義との関連性などについて解説するのが基本スタイルです。講義内容の多くは皆さんの専門外の分野であると同時に、受講機会の極めて少ない貴重な学びとなるはずで、総合大学ならではの多様な学びとともに、ユニークな交流授業を通じて多くの知見を育み、ものの見方、考え方を広げて欲しいものです。そのためにも、受け身とならず能動的な受講姿勢を心がけてください。受講ノートはしっかりと作成するように。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代科学の誕生(講談社学術文庫、上・下巻)	H・バターフィールド著、渡辺正雄訳 / 講談社 / 科学史の不朽の名著。人間社会の価値観の変遷とともに科学の歴史を紐解く。
はじめての哲学史講義	鷲田小彌太 / PHP研究所 / 古代ギリシャ哲学から近代西洋哲学、現代の構造哲学、言語哲学を表題どおり分かりやすく解説する。

受講前の準備として、科学と哲学の基本書を2冊挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

特に指定するものではありませんが、立命館大学公式ホームページの「教員紹介」で担当講師の研究業績を閲覧することを勧めます。講義の理解度が深まると思います。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

インタラクティブシート / Interactive Sheet

学生との直接対話 / Talk with Students

本講義に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤(katoshi@fc.ritsumeai.ac.jp)まで問い合わせてください。

その他 / Other

本講義はキャリア教育センター教員が担当します。同センターは全学インターンシップ・プログラムを所管する組織でもありますので、受講を機に衣笠のインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。

拡張項目

授業の概要 / Course Outline

Instructor: Julie Higashi (Professor, Faculty of Social Sciences)

A close look at statistical data will give us some understanding of the state of the world we live in today. Many of the world's problems are caused by the imbalance of resources between the rich, industrialized world and the poorer, developing nations. We will analyze issues that are related to four major themes: War, Conflicts, Women and Men, and Children. For sure, the facts and data introduced in this course will not only change your views of this world but also enable you to demonstrate the current condition of social problems we need to face around the world.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students are expected to present their own views and provide new data based on their research on the topic discussed in class from a critical point of view.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

This class is *not* open for international students and graduate students from 2007 spring. You have to be registered as a "fukusenko" student. The class is suitable for 3rd year students or above.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 Introduction to the Course: "If the world were a village of 100 people"	Grading system, goal of course, and pre-reading activities
	2 PART I: WAR AND CONFLICTS (1)	"A quarter of the world's conflicts of recent years have involved a struggle for natural resources"
	3 WAR AND CONFLICTS (2)	"Landmines kill or maim at least one person every hour"
	4 WAR AND CONFLICTS (3)	"Every day, one in five of the world's population -- some 800 million people --- go hungry"
	5 REVIEW and Quiz No. 1 (15%)	
	6 A: Individual Presentations on landmines (or other weapons), conflicts for natural resources, or hunger in Africa	
	7 MEN AND WOMEN (1)	"7 million American Woman and 1 million American men suffer from an eating disorder"
	8 MAN AND WOMEN (2)	"In more than 70 countries, same-sex relationships are illegal"
	9 MAN AND WOMEN (3)	"Some 30 million people in Africa are HIV-positive" *Deadline*: Paper No. 1 draft(600 words)
	10 Review and Quiz No. 2 (15%)	
	11 B: Individual Presentations on eating disorder, same-sex relationships, or AIDS (any other diseases)in Africa"	*Deadline*: Paper No. 1 final draft (10%)
	12 PART III CHILDREN (1)	"There are 44 million Child laborers in India"
	13 CHILDREN (2)	"There are 300,000 child soldiers fighting in conflicts around the world" *Deadline*: Paper No. 2 draft (600 words)
	14 C: Individual Presentations on child soldiers or child laborers	Q. and A. Discussion

REVIEW and Quiz No. 3 (10%)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

This course is conducted entirely in English. This course is open to *fukusenko* undergraduate and graduate students only and no longer open to international students. Your participation is a must to make this course successful. Please come to class *well prepared* with your reading assignment completed beforehand.

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	In-Class short test No. 1: 15% No. 2: 15% No. 3: 10% Weekly Participation, reading assignment(30%) Presentation (10%) 2 short papers (20%)

The course grade will be evaluated based on a continuous assessment. Therefore, if you miss taking the in-class test(s), there will be *no make-up* tests.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Please complete the reading assignments before you come to class. Your *active* participation in the discussion is a must to make this class a success.

Please buy the textbook from your favorite bookstore or the internet. You need to have the textbook in hand by the 2nd week of class. The textbook we are using is the *2007 edition.*

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
50 facts that should change the world	Jessica Williams / Icon Books / 978-1840468-46-5 / 2007 edition

Please buy the textbook from your favorite bookstore or the internet. You need to have the textbook in hand by the 2nd week of class. The textbook we are using is the *2007 edition.*

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

Office hours and email address written on the handout syllabus distributed in class. You can also download it from the web. Pls. send your emails (in English) from your RU account only. All other mails from hotmail/yahoo/gmail/mobile phone mails will not be acknowledged.

Contact: jhigashi[at mark]ss.ritsumeit.ac.jp

その他 / Other

拡張項目

授業の概要 / Course Outline

Instructor: Julie Higashi (College of Social Sciences)

A close look at statistical data will give us some understanding of the state of the world we live in today. Many of the world's problems are caused by the imbalance of resources between the rich, industrialized world and the poorer, developing nations. We will analyze issues that are related to four major themes: War, Conflicts, Men and Women, and Children. For sure, the facts and data introduced in this course will not only change your views of this world but also enable you to demonstrate the current condition of social problems we need to face around the world.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

By the end of the course, students are expected to present their own views and provide new data based on their research on the topic discussed in class from a critical point of view.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

This class is *not* open for international students and graduate students from 2007 spring. You have to be registered as a "fukusenko" student. The class is suitable for 3rd year students or above.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 Introduction to the course: "If the world were a village of 100 people"	Grading system, goal of course, and pre-reading activities
	2 PART I: WAR AND CONFLICTS (1)	"A quarter of the world's conflicts of recent years have involved a struggle for natural resources"
	3 WAR AND CONFLICTS (2)	"Landmines kill or maim at least one person every hour"
	4 WAR AND CONFLICTS (3)	"Every day, one in five of the world's population -- some 800 million people -- go hungry"
	5 REVIEW and Short TEST (15%)	
	6 A: Individual Presentations on landmines (or other weapons), conflicts for natural resources, or hunger in Africa	Q. and A. and discussion
	7 PART II MEN AND WOMEN (1)	"7 million American Woman and 1 million American men suffer from an eating disorder"
	8 MAN AND WOMEN (2)	"In more than 70 countries, same-sex relationships are illegal"
	9 MAN AND WOMEN (3)	"Some 30 million people in Africa are HIV-positive" Deadline: Paper No. 1 draft (600 words)
	10 Review and Short Test No. 2 (15%)	
	11 B: Individual Presentations on eating disorder, same-sex relationships, or AIDS (any other diseases)in Africa"	*Deadline*: Paper No. 1 final Draft (10%)
	12 PART III CHILDREN (1)	"There are 44 million Child laborers in India"
	13 CHILDREN (2)	"There are 300,000 child soldiers fighting in conflicts around the world" *Deadline*: Paper No. 2 draft (600 words)
	14 C: Individual Presentations on child soldiers or child laborers	Q. and A. and discussion

REVIEW and SHORT TEST No. 3 (10%)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

This course is conducted entirely in English. This course is open to *fukusenko* undergraduate and graduate students only and no longer open to international students. Your participation is a must to make this course successful. Please come to class well prepared with your reading assignment completed beforehand.

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	Short test No. 1: 15%; No. 2: 15%; No. 3: 10%
		Weekly Participation, reading assignment(30%) Presentation (10%)w/ power point or resume short paper (20%)

The course grade will be evaluated based on a continuous assessment. Therefore, even if you miss taking the in-class test(s), there will be no make-up tests. The topic (chapters) might change.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Please complete the reading assignments before you come to class. Your *active* participation in the discussion is a must to make this class a success.

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
50 facts that should change the world (2007 edition)	Jessica Williams / Icon Books / 978-1840468-46-5 / required reading

Please buy the textbook from your favorite bookstore or at th Coop (SEIKYO). You need to have the textbook in hand by the 2nd week of class at the latest. The textbook we are using is the *2007 edition.*

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)
 学生との直接対話 / Talk with Students
 その他 / Other

Office hours and email address written on the handout syllabus distributed in class. You can also download it from the web. Pls. send your emails (in English) from your RU account *only*. All other mails from hotmail/yahoo/gmail/mobile phone mails will not be acknowledged by your instructor.

その他 / Other

拡張項目

担当者名 / Instructor 佐藤 詩恵

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course is designed to offer an introduction to sociolinguistics – the study of language in relation to society. The course will explore the profound, intricate relationship between language and society and analyze how the two interact. The objectives of this course are to learn the key linguistic notions in sociolinguistics and to develop critical thinking skills by examining a variety of language-related phenomena and historical issues relevant to many languages. Topics include language and social class, regional dialects, multilingual speech communities, pidgins and creoles, and language and sex/ gender.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

On successful completion of the course, students will be able to:

1. Define types of linguistic varieties in English and articulate the major linguistic features of each variety.
2. Demonstrate understanding about the relationship between social structures and norms of language use in a given community.
3. Acquire the knowledge and vocabulary to discuss the historical issues surrounding multilingual communities.
4. Explain the process whereby norms in language use are established.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

None.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction: Explanation of course objectives, assignments, grading guidelines, and course schedules	Course Overview, Student Information Sheet, Self-introduction
2	Introduction: What is Sociolinguistics?	Subfields of Linguistics: Syntax, Semantics, Morphology, Phonology, etc.
3	Introduction: What is Sociolinguistics?	Language and Society, definition of “dialect” and “language”, The Sapir-Whorf hypothesis
4	Language and Social Class	Social-class stratification, Social and regional dialect variation, Social and regional accent variation
5	Language and Ethnic Group (1)	Varieties in English, stereotypes of “black” and “white” speech, AAVE
6	Language and Ethnic Group (2)	Language use in multi-ethnic countries, English varieties in Scotland
7	Language and Sex (1)	Differences between male/female speech, gender and social class
8	Language and Sex (2)	Women’s speech in Japanese, language change
9	Language and Context	Stylistic varieties, register, formality levels
10	Language and Social Interaction	Code-switching
11	Language and Nation	Multilingual nations, bilingual communities, lingua franca
12	Language and Geography	Dialects in England, American English, New Zealand English
13	Language and Contact	Pidgin and Creole
14	Language and Humanity	Language death, language shift, language planning
15	Review and Final Test	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

This course is offered as one of the Sansha Fukusenken Courses. All sessions will be conducted in English. Students are expected to have completed the assigned readings before class and come to class prepared to participate in class discussions.

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 100 % Attendance/class participation: 20%

平常点評価

Presentations: 20%
Research papers:30%
In-class Test: 30%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Students are expected to participate actively in all group/class discussions.

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Sociolinguistics: An Introduction to Language
and Society, Fourth Edition

Peter Trudgill / Penguin Books / 978-0140289213 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

その他 / Other

拡張項目

日本語教授法基礎演習 (LA)

15581

担当者名 / Instructor 野々口 ちとせ

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本語教育の授業計画と実施のための知識を身につけ、日本語教育現場で必要となる実践的な力を養うことを目標とする。前期は、シラバス作成、学習目標設定、教材分析などのコースデザインについて学ぶ。また主な外国語教授法とその背景、特徴、教室活動について学ぶ。初級レベルの教材分析を通して各教材の背景となる教授法や対象学習者別の指導法を検討する。後期は、前期で学習したコースデザイン方法、教材分析、教授法をもとに、具体的にどのように授業を組み立て、どのような練習を行えばよいかを学ぶ。初級学習者対象の設定で教案を作成し、模擬授業ならびに授業分析を行う。模擬授業のふり返りを通して、教師、学習者、両方の視点から学習活動を考える。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- 前期: 1) 外国語・第二言語としての日本語を学ぶ／教えることに関する基礎的な概念や問題を説明することができる。
2) 主要な外国語教授法を説明することができる。
3) 日本語教育の教材を分析し評価することができる。
後期: 1) 初級レベルの日本語学習活動を説明することができる。
2) 仲間と協力して、1回の模擬授業を組み立て実践することができる。(目標設定、教案・教材作成、模擬授業実施)
3) 日本語教育の学習活動を、教師と学習者の両方の視点から分析したり評価したりすることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

日本語学・日本語教育・異文化間コミュニケーションに関わる科目: できる限り、事前に履修しておいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	前期の授業の概要と導入	日本語教師に必要な能力と姿勢
2	コースデザイン I	レディネス、ピリーフ、ニーズ
3	コースデザイン II	シラバス
4	コースデザイン III	授業の目標、教材、教具
5	コースデザイン IV	カリキュラム、副教材の利用
6	教授法 I	外国語教授法の概要と変遷、文法翻訳法、直接法、オーディオリンガル法
7	教授法 II	TPR、CLL、コミュニカティブ・アプローチ
8	教材分析と学習のデザイン I	読むこと
9	教材分析と学習のデザイン II	聞くこと
10	教材分析と学習のデザイン III	話すこと
11	教材分析と学習のデザイン IV	書くこと
12	韓国からの訪日団との日本語教育に関する意見交換(予定)	
13	教材分析発表 I	
14	教材分析発表 II	
15	教材分析発表 III	
16	後期の授業の概要と導入	初級の学習目標、日本語能力
17	コミュニケーション能力を育てる授業 I	授業の流れ、導入活動
18	コミュニケーション能力を育てる授業 II	基本練習
19	コミュニケーション能力を育てる授業 III	応用練習
20	コミュニケーション能力を育てる授業 IV	読むことと書くことの活動
21	コミュニケーション能力を育てる授業 V	聞くこと中心の活動
22	コミュニケーション能力を育てる授業 VI	話すことと聞くことの活動
23	教案作成	
24	教案作成	
25	模擬授業とふり返り	
26	模擬授業とふり返り	
27	模擬授業とふり返り	
28	模擬授業とふり返り	
29	模擬授業とふり返り	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

毎回の授業で、予習すべきテキストの範囲を指示します。また、授業後の「ふり返しレポート」で「今後の課題」に挙げた項目の学習にも各自で取り組んでください。教材分析の発表準備や模擬授業の準備は授業外学習として行ってください。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	2/3以上の授業に出席して、発表や話し合い活動に参加した者のみを成績評価の対象とする。受講生全員に1回以上の発表(前期)と模擬授業(後期)およびその評価を課する。発表は分析観点と考察の深さを評価する。模擬授業は受講生全員による相互評価を行う。また、受講生の到達目標すべてに対応して、毎回、授業で扱ったテーマ・内容についての自分の理解と今後の課題をまとめたふり返しレポートを作成する。レポートは、論点整理と議論の深さ、視点の多様性・独自性を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実習演習形式(グループや個人で課題に取り組み、それを評価し合う)で授業を進めるので、話し合い・発表・評価活動に主体的・積極的に参加してください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本語教師の役割／コースデザイン	国際交流基金／ひつじ書房／489476301X／前期に使用する
初級を教える	国際交流基金／ひつじ書房／4894763095／後期に使用する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本語教授法ワークショップ	鎌田修 他／凡人社／4893586424／多様な教授法が紹介されている。
すぐに役立つ日本語の教え方	小島聡子／アルク／4757405294／初心者向けに授業計画を説明している。
初級日本語文法と教え方のポイント	市川保子／スリーエーネットワーク／4883193365／授業計画をする際、活動を考えるヒントになる。
日本語教育における学習の分析とデザイン	岡崎眸・岡崎敏雄／凡人社／4893584871／第二言語学習の理論を、実際の教室活動に応用する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

日本語教師のための「みんなの教材」サイト(教材例が見られる。)<http://minnanokyoza.jp/>
日本語学習のリンク集(最後の方の「日本語教師に役立つサイト集」は、教材例等のサイトを紹介している。)
<http://www.ritsumeai.ac.jp/~kitade/links.htm>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

cnr13027@fc.ritsumeai.ac.jp

その他 / Other

拡張項目

授業の概要 / Course Outline

債権各論と呼ばれる分野は契約、事務管理、不当利得、不法行為から成る。本講義では特に契約と不法行為を中心に扱います。物の売り買いなどのルールを法がどのように定めているのか、他人に怪我をさせた場合に法的にどのように処理されるのか、といったことを学びます。

なお、契約に関しては、契約の成立・効果・終了および売買をはじめとする典型契約ならびに債務不履行を講義の対象とします。本講義ではこれらの制度を判例・学生を交えつつ解説します。単なる抽象的な説明にならないよう具体例を挙げてなるべく分かり易く解説することをこころがけます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 債権各論(契約、事務管理、不当利得、不法行為)の基本的知識を習得し、他人に事例を挙げて説明できるようになる。
2. 条文の要件・効果や判例・学説の理論を単に覚えるだけでなく、その沿革や趣旨も理解する。
3. 各種資格試験等の択一問題にも対処できるようになる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	契約法総論	契約とは・契約観・契約の種類
第2回	契約の成立	プロセス・成立前の責任・終了後の責任・隔地者間の契約
第3回	契約の効力①	同時履行
第4回	契約の効力②	危険負担
第5回	債務不履行①	要件
第6回	債務不履行②	損害賠償・受領遅滞
第7回	契約の解除①	要件
第8回	契約の解除②	効果
第9回	贈与	一般の贈与・特殊の贈与・撤回
第10回	売買①	予約・手付け
第11回	売買②	売主の担保責任
第12回	消費貸借・使用貸借	要物性・準消費貸借・借主の権利義務・貸主の権利義務
第13回	賃貸借①	成立・内容・終了
第14回	賃貸借②	敷金・信頼関係破壊・無断転貸
第15回	賃貸借③	借地借家法
第16回	請負	他人の役務を目的とする契約・所有権の帰属・危険負担・担保責任・解除
第17回	委任・寄託	善管注意義務
第18回	不法行為総論	意義・目的・過失責任主義
第19回	要件①	故意・過失

第20回 要件②	権利益侵害
第21回 要件③	因果関係・責任否定事由
第22回 効果①	金銭賠償・賠償の範囲
第23回 効果②	賠償額の調整
第24回 効果③	請求権者・差止請求
第25回 特殊の不法行為・監督義務者の責任	他人の行為による責任・責任能力
第26回 使用者責任・注文者の責任	他人の行為による責任・使用関係・事業執行性・求償
第27回 土地工作物責任・動物占有者の責任	物についての責任・工作物・营造物・所有者の責任・占有者の責任
第28回 共同不法行為	競合的不法行為・関連共同性
第29回 事務管理	委任によらない事務の処理
第30回 不当利得	法律上の原因・受益・損失・因果関係

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

指定テキストで各講義の該当箇所を読んで復習することが望ましい。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	次の二点を基準とします。 基本的な知識を問う択一問題が解けるか。 制度や理論が過不足なく説明できるか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

六法(小型のもので構わない)を持参し、講義中に出てきた条文を各自で参照すること。
毎回の授業時に講義資料(ハンドアウト)を配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スタートライン債権法[第5版]	池田真朗 / 日本評論社 / 978-4535517745 /
民法 2 債権法 第3版	我妻 榮、有泉 亨、川井 健 / 勁草書房 / 978-4326450862 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
判例プラクティス民法II [債権]	松本恒雄、潮見佳男(編集) / 信山社 / 978-4797226270 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)
学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

講義中の私語・携帯電話の使用(通話・メール)は厳に慎むこと。程度が基だしいと教員が判断した場合には、退室を命じ、成績に不利益を課します。

拡張項目

授業の概要 / Course Outline

This course is designed to offer an introduction to sociolinguistics – the study of language in relation to society. The course will explore the profound, intricate relationship between language and society and analyze how the two interact. The objectives of this course are to learn the key linguistic notions in sociolinguistics and to develop critical thinking skills by examining a variety of language-related phenomena and historical issues relevant to many languages. Topics include language and social class, regional dialects, multilingual speech communities, pidgins and creoles, and language and sex/ gender.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

On successful completion of the course, students will be able to:

1. Define types of linguistic varieties in English and articulate the major linguistic features of each variety.
2. Demonstrate understanding about the relationship between social structures and norms of language use in a given community.
3. Acquire the knowledge and vocabulary to discuss the historical issues surrounding multilingual communities.
4. Explain the process whereby norms in language use are established.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

None.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction: Explanation of course objectives, assignments, grading guidelines, and course schedules	Course Overview, Student Information Sheet, Self-introduction
2	Introduction: What is Sociolinguistics?	Subfields of Linguistics: Syntax, Semantics, Morphology, Phonology, etc.
3	Introduction: What is Sociolinguistics?	Language and Society, definition of “dialect” and “language”, The Sapir-Whorf hypothesis
4	Language and Social Class	Social-class stratification, Social and regional dialect variation, Social and regional accent variation
5	Language and Ethnic Group (1)	Varieties in English, stereotypes of “black” and “white” speech, AAVE
6	Language and Ethnic Group (2)	Language use in multi-ethnic countries, English varieties in Scotland
7	Language and Sex (1)	Differences between male/female speech, gender and social class
8	Language and Sex (2)	Women’s speech in Japanese, language change
9	Language and Context	Stylistic varieties, register, formality levels
10	Language and Social Interaction	Code-switching
11	Language and Nation	Multilingual nations, bilingual communities, lingua franca
12	Language and Geography	Dialects in England, American English, New Zealand English
13	Language and Contact	Pidgin and Creole
14	Language and Humanity	Language death, language shift, language planning
15	Review and Final Test	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

This course is offered as one of the Sansha Fukusenken Courses. All sessions will be conducted in English. Students are expected to have completed the assigned readings before class and come to class prepared to participate in class discussions.

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、	100 %	Attendance/class participation: 20%

平常点評価

Presentations: 20%
Research papers:30%
In-class Test: 30%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Students are expected to participate actively in all group/class discussions.

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Sociolinguistics: An Introduction to Language
and Society, Fourth Edition

Peter Trudgill / Penguin Books / 978-0140289213 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

その他 / Other

拡張項目

キャリア形成特殊講義 (SD)

16516

担当者名 / Instructor 前田 信彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業の目的は、さまざまな業種・職種の職業理解を通じて、自己の個性や職業適性について考え、将来を考えた大学での学びのモチベーションづくりや自律的な進路選択の一助とすることにある。2013年度は「地域」「コミュニティ」をキーワードに企業等からの課題をベースとした産学連携型の課題解決学習(project based learning)に準じた授業となる。

具体的には、①外部講師による講演等によりキャリアを考えるきっかけを与える(導入)。②企業から出された課題に対して少人数のグループごとに解答を探し出し、プレゼンテーションするPBL(課題解決型)作業を行う。

企業等から出された課題に対して、OB・OGへのインタビュー調査・企業ヒアリング、パワーポイントによるプレゼンテーション・討論などを予定している。最終的には、企業に対するプレゼンテーション(発表会)を実施し、企業からのコメントをいただく。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ①企業等からの課題に対して解決方法を探り、また具体的な社会との接点の中で自らのキャリアを探索できる
- ②グループワークを通して、チームで協同して課題を遂行できる
- ③企業に対するプレゼンテーションを通して、自分の考えを論理的に説明できる

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス レクチャー 進め方・テーマ等	
2	講義 キャリアの考え方	
3	講義 企業からのグループワークへの課題出し	
4	講義 企業からのグループワークへの課題出し	
5	グループ作業 教室内 自己紹介など 集団形成	
6	第1回プレゼン(紙ベース) 仮説提示と報告の流れ	
7	グループ作業 企業訪問等	
8	グループ作業 教室内 もしくは 教室外(作業日)	
9~12	第2回プレゼン(PTT) 予行演習 教員・キャリアオフィスのコメント	
13	グループ作業 最終チェック	
14~15	企業に対する成果発表会(集中)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

1グループ10名程度のグループワークとし、訪問先企業はあらかじめ抽選により決定する。

本授業は多くの先輩や企業の教育に対する理解と協力・連携により成り立っている。

そのため、信頼関係を損なうような行為(無断欠席・遅刻・私語など)に対しては厳しく対処する。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	授業への出席を重視する。業界・企業研究レポート、パワーポイントプレゼンテーション、コミュニケーションペーパーなどを評価。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自らが取材する企業・業界についての研究をしっかりと行い、理解を深め、十分な準備をしてから、インタビュー調査に臨むこと。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

その他 / Other

第1回目の授業で授業の進め方や成績評価などの重要な説明を行うので必ず出席すること。

拡張項目

社会福祉援助技術論 (S)

12878

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉活動(ソーシャルワーク)とその社会福祉領域での相談援助活動の基盤および専門職(相談援助職)について以下の内容で学ぶ。国民の生活問題および社会福祉活動の対象である社会福祉課題の現実、公的社会福祉制度と社会福祉活動との必要性を学ぶ。社会福祉活動・相談援助活動の現実の展開の基本を学ぶ。社会福祉活動・相談援助活動の原理(概念、理念、構造)を、歴史的な形成過程、生活問題を解決・緩和する国民のイニシアティブ、国家による制度の関係の角度から学ぶ。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・社会福祉活動の対象となる国民生活問題を理解する。
- ・社会福祉活動の原理と概念および範囲を理解する。
- ・社会福祉活動の基礎的知識と理論を理解する。
- ・社会福祉専門職制度と社会福祉従事者の歴史、現状、理念を学ぶ。
- ・社会福祉士の役割(総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む)と意義について理解する。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

社会保障論、社会福祉六法に関する各福祉論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1 ①授業の概要と導入 ②社会福祉活動・相談援助を理解するための導入事例(1)	生活の困りごと、生活問題、ニーズ、労働と生活、社会問題
2	2 社会福祉活動・相談援助を理解するための導入事例(2)	社会福祉資源、社会福祉制度、社会福祉活動、相談援助
3	3 社会福祉制度、社会福祉活動の構造(1)	生活問題、ニーズ、社会福祉制度、社会福祉の主体、社会福祉活動、相談援助
4	4 社会福祉制度、社会福祉活動の構造(2)	地域活動、社会資源(相談機関、社会福祉施設)、人材(社会福祉労働者・ボランティア)
5	5 社会福祉活動を必要とする問題状況とその対応および資源(1)	生活問題の発生、危機、生活の再設計
6	6 社会福祉活動を必要とする問題状況とその対応および資源(2)	児童の社会的養護、高齢者、障害者、在宅ケア、施設ケア
7	7 社会福祉活動を必要とする問題状況とその対応および資源(3)	ネットワーク、地域、ボランティア、ターミナルケア
8	8 社会福祉活動の考え方と構成要素(1)	社会福祉活動の類型、社会福祉活動・相談援助の諸機能、基本的人権、契約と権利、ノーマライゼーション、社会的包摂、自立
9	9 社会福祉活動の考え方と構成要素(2)	ゼネリックとスペシフィック、ジェネラリスト、共通基盤、価値と倫理
10	10 社会福祉活動の歴史と理論(1)	本源的蓄積、救貧法、産業革命、貧困、慈善事業、ソーシャルワーク、COS、セツルメント
11	11 社会福祉活動の歴史と理論(2)	ミルフォード会議、統合化、世界恐慌、ニューディール、社会保障、診断主義、機能主義、折衷主義、ベヴァリッジ報告、福祉国家、ノーマライゼーション
12	12 日本の社会福祉活動(1)	第二次大戦、GHQ、日本国憲法、基本的人権、社会福祉事業法、社会福祉論争、社会福祉主事、5法ワーカー、専門職
13	13 日本の社会福祉活動(2) 1970年中旬～	福祉見直し、在宅福祉、多元化、ケアマネジメント、チームアプローチ、社会福祉基礎構造改革、契約制度、権利擁護、社会的排除、反貧困運動
14	14 相談援助専門職と社会福祉労働(1)	専門職制度、社会福祉士制度、分業と協業
15	15 相談援助専門職と社会福祉労働(2)	専門職と価値・倫理、社会福祉労働過程、主体形成、制度形成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	筆記試験による
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	20 %	随時の提出物、コミュニケーションペーパーによる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・現在、社会で生じている「福祉問題」について注目し、日常的に考察してください。
- ・関心をもったテーマについて、文献・資料を集め、研究素材としてください。

教科書 / Textbooks

特に定めません。

参考書 / Reference Books

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座⑥相談援助の基盤と専門職第2版』中央法規 2010年

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Other

拡張項目

社会福祉概論 (S)

11524

担当者名 / Instructor 中野 加奈子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉は今私たちの生活にとって必要不可欠な社会資源となっています。福祉の仕事に就く人にとってだけでなく、生活する一般市民にとって社会福祉の役割や、そこで成立する人と人との関係の特質について歴史的に把握します。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

社会の中で社会福祉の位置と役割について過去・現在・未来の複眼的な視点から捉える力の獲得を目指します。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入:本講義でのねらいや受講の心得、社会福祉の世界で現実をとらえる鳥の眼(鳥瞰的・客観的視点)と蟻の眼(対面的・主観的視点)の意味を概説する	
2	共同社会のなかでの福祉的営みの必須性を考える	ポノボ、共同社会
3	資本主義的生産の浸透に寄る家族と地域社会における自主的な共同関係の衰退	合掌造り、複合家族、直系家族、核家族、地域社会
4	共同関係の衰退と貧困から社会福祉形成の歴史的前提を考える	資本主義、労働力の商品化、国・地方自治体、民間非営利組織
5	義務教育で権利としての社会保障・社会福祉について何を学びましたか?	出産手当、育児手当、医療保障、老後保障、障害者福祉、スウェーデンの中学生が学ぶ「公民科」教科書
6	社会福祉問題の現代的広がり～児童・青少年の発達環境は今～	児童相談所、家庭裁判所調査官
7	認知症の人と向き合う	痴呆、認知症、デイケア
8	当事者が語る若年認知症の世界	若年認知症、スティグマ、残存能力、ケアパートナー
9	社会福祉援助が必要となる場面での自己と他者関係	ミード、Iとme、社会統制、自我意識の獲得
10	地域福祉と権利擁護の課題	消費者被害、一人暮らし、悪質商法、地域福祉権利擁護事業、成年後見
11	貧困・格差拡大と社会福祉	格差社会、非正規雇用、子どもの貧困、障害者の貧困、移民労働者
12	社会福祉の三元構造と市場化	対象、運動、政策主体
13	社会福祉従事者と社会福祉法人、社会福祉協議会、地方自治体、国の役割と責任	社会福祉従事者、資格制度、社会福祉法人
14	当事者組織と社会福祉運動と社会福祉研究運動	社会運動、当事者運動
15	まとめと講義内容についての総括的な質問を受け付け必要な補足説明を行う	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

ビデオを多用しながら、社会福祉の多様な現場と奥の深さを考えます。また講義では考える小テーマを出して自分の頭を使って思考し、その結果を短時間にまとめる訓練も行います。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義の理解度を問う期末試験によって評価します。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	30 %	講義に出席して教室で出すテーマをどれくらい考えてくれたかを、コミュニケーションペーパーで判定します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

続けて出席することで理解が深まるように授業を組み立てています。欠席がないことを要請します。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現場がつくる新しい社会福祉	総合社会福祉研究所 / かもがわ出版 / //

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

その他 / Other

拡張項目

社会福祉法制 (S)

13831

担当者名 / Instructor 密田 逸郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現在、私たちにとって「社会保障・社会福祉制度」は、必要不可欠な生活の条件となっています。この講義では、社会保障・社会福祉制度の生成・発展の歴史を辿ることで、社会保障・社会福祉の理念、本質、機能について学ぶとともに、21世紀における福祉国家再生のための社会保障・社会福祉のあり方について学びます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

今日、社会保障・社会福祉は、テレビ・新聞等に取り上げられない日がないほどポピュラーになっているものの、一方では、学問としてとらえると、難しいと敬遠されているのが現状です。そこで講義では、社会保障・社会福祉の体系や理念を学び、少しでも身近なものと感じ興味を持っていただこうと思っています。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	今日における社会保障・社会福祉法制度の課題	
2	社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義①	所得保障、対人社会サービス、社会保障法の成立意義
3	社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義②	ILO、ベヴァリッジ報告、憲法第25条、社会保障制度審議会
4	社会保障のあゆみとダイナミクス—イギリス及びドイツにおける歴史	救貧法、本源的蓄積、ブース、ラウンリー、「飴と鞭」の政策、ビスマルク
5	社会保障と税の一体改革	売上税、輸出戻し税
6	生活保護	貧困問題、格差社会、セーフティネット
7	第1回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性があります。
8	社会手当	
9	労働保険	雇用保険、労働者災害補償保険
10	高齢者医療・福祉	
11	年金制度①	国民年金、厚生年金保険、共済年金の制度概要
12	年金制度②	年金制度の成立、財政方式、財政投融资、年金積立金の運用
13	諸外国の社会保障	
14	第2回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性があります。
15	新しい社会保障・社会福祉の姿(まとめ)	新しい福祉国家構想、社会保障基金、社会保障事務所、社会保障税

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容の理解度を評価します。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	30 %	前半、後半に1回ずつ計2回の検証テストを行います。配点は1回を15点とします。また、毎回コミュニケーションペーパーの提出を求めます。
<ul style="list-style-type: none"> 検証テストは、授業の進捗によって実施時期を変更する場合、あるいはレポートに変更する場合があります。 出席を重視します。 		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

世の中の動きに関心を持ってください。新聞を読むことをお勧めします。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎からまなぶ社会保障(仮)	芝田英昭編著 / 自治体研究社 / / 2013年3月刊行予定
授業において適宜提示します。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
脱貧困の社会保障	唐鎌直義 / 旬報社 / /
公的年金制度における年金記録管理問題の歴史的経緯	密田逸郎 / 『立命館産業社会論集』第44巻第2号、2008年9月 / /
社会保障の基本原理と将来像	芝田英昭編著 / 法律文化社 / 4-589-02724-0 /
授業において適宜提示します。	

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

itsuro@mbox.kyoto-inet.or.jp

その他 / Other

講義中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。受講生としての最低限のマナーを守ってください。

拡張項目

行政法 I (JA)

17855

担当者名 / Instructor 正木 宏長

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

行政法は、国や自治体といった行政機関が、民間事業者の取り締まりのような行政活動をするとき、どのような法の拘束を行政がうけるのか、あるいは、行政の規制を受けた民間事業者が、国や自治体に対して裁判を起すとき、いかなる訴訟を提起することができるか、というような問題を扱う。

つまり、行政に関する法が行政法である。

本講義では、行政法のうち、「行政法総論」を講義する

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・行政法の基本概念と判例について、包括的な理解を得る。
- ・行政手続法や情報公開法のような行政に関する基本的な制度について総合的な理解を得る。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

憲法や民法(特に総則、不法行為の分野)についての、基本的知識を習得した上で履修に臨むことが望ましいが、必須というわけではない。刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、環境法、経済法、社会保障法、労働法、行政学といった科目も、行政法を修得するうえで有益な知識を与える。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~2	「導入講義」、「行政と法」	行政の定義
3~4	「行政法の観念」、「公法と私法」	行政法の歴史、公法私法二分論
5~6	5, 6 「行政法の法源」、「行政法の基本原理」	特別権力関係、法治主義
7~8	「行政組織法」	内閣法、国家行政組織法
9~10	「行政過程論と行政の法的仕組み」、「行政立法」	法的仕組み論、行為形式論、法規命令、行政規則
11~12	「行政行為の種類」、「行政行為の効力」	法律行為的行政行為、準法律行為的行政行為、公定力
13~14	「行政行為の瑕疵」、「行政行為の効力の発生」、「行政行為の失効」、「行政行為の附款」	行政行為の無効と取消、行政行為の職権取消と撤回
15~16	「行政裁量」	法規裁量、便宜裁量、裁量権の濫用
17~18	「行政契約」、「行政指導」	公害防止協定、指導要綱に基づく行政指導
19~20	「行政計画」、「行政と私人」	都市計画、計画裁量、私人の公法行為、住民参加
21~22	「行政手続の基本理念」、「行政手続法」	聴聞手続、パブリックコメント
23~24	「行政上の義務履行確保」、「即時強制」	行政代執行法、警察官職務執行法
25~26	「情報公開」	情報公開法、公文書管理法
27~28	「行政調査」、「行政情報管理」	税務調査、行政機関個人情報保護法
29~30	「規制、給付、調達、誘導の法的仕組み」	許可制、特許制、認可制

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

最新の六法を携帯して授業に出席すること。

予習・復習をすれば学習効果が上がることはいうまでもない。

予習をするときは授業の順序が、教科書と必ずしも一致しないので気をつけること。

指定の教科書が難しいと感じたときは、より簡単な教科書(授業で指定する)を用いて予習・復習をすること。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	行政法の基本的理解即ち行政法の基本原則及び概念の理解度とその応用力が習得できているかを評価基準とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

六法は必ず最新版を用意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法1	大橋洋一／有斐閣／9784641130524／

参考書 / Reference Books

書名 / Title

行政法判例百選 I・II

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

宇賀克也ほか / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

正木宏長のHP

<http://www.ops.dti.ne.jp/~andm>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

研究室は修学館524。用事があるときは下のアドレスに連絡

andm@ops.dti.ne.jp

ただし、単位の請願は受け付けない。

その他 / Other

webCTは使っていないので注意

拡張項目

Comparative Society (SA)

13173

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

We live in a media-saturated world: advertising, communication, information, and entertainment. This vast infiltration into our everyday lives means that the media not only provide communication and entertainment, but the media now also shape the way we conceptualize ourselves and the world around us. For societal observers, the media can therefore serve as valuable sources for examining other cultures and societies. In this class students will take on the role of cultural observers and learn about North American culture and society by examining various forms of media from the United States and Canada.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- Students will develop the analytical skills necessary for critically interpreting various types of media (advertisements, newspapers, film, etc.).
- Students will enhance their English reading, writing, speaking, and listening skills.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Course Introduction	media, media-saturated society
2	What is Media Literacy?	media literacy
3	Key Concepts of Media Literacy	representation
4	Media and Audience	audience, encoding and decoding
5	Advertisement (1) TV Commercials	codes, roles of TV commercials
6	Advertisement (2) Branding and Consumer Culture	brand royalty
7	Advertisement (3) Marketing to Children	target audience
8	Media Representation and Identity (1) Gender	stereotype, gender
9	Media Representation and Identity (2) Race and Ethnicity	Self and Other, race, ethnicity
10	Violence in Media (1)	Violence in children's media
11	Violence in Media (2)	Violence in action films and video games
12	Media Education (1)	Media education in Canada
13	Media Education (2)	Media education in Japan
14	Student Presentation (1)	
15	Student Presentation (2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Each class will start with a student presentation on selected readings, followed by discussion, a lecture by the instructor, and media analysis activities. Students are expected to come to class with careful preparation: finish reading assignments and familiarize yourself with topics in advance in order to actively participate in discussion.

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	Participation and Weekly Assignments (50%) Presentations (25%) Final paper (25%)

For the participation grade, class attendance is not sufficient. Students are expected to actively participate in discussion and media

analysis activities in class.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

The reading list will be distributed in class.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Representation: Cultural Representations and Signifying Practices	Stuart Hall (Ed) / SAGE / 0761954325 /
Media Education: Literacy, Learning and Contemporary Culture	David Buckingham / Polity Press / 0475628303 /
Mass Media and Popular Culture (Version 2)	Barry Duncan / Harcourt Brace / 0774701706 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目

民法Ⅲ(物権法)(JB)

16283

担当者名 / Instructor 小田 美佐子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

民法典第二編「物権」のうち担保物権を除く部分を中心に扱う。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

物権はどのような権利であるのか、どのような性質を備えているのか、物権にはどのような種類のものがあるのか、どのような効力があるのか、不動産物権と動産物権の変動をめぐる問題は何かについて、その基本的理解を得る。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	本講義の概観	物権、不動産物権、動産物権
2	物権法序論	物権の意義と性質、客体、種類
3	物権の一般的効力	優先的効力、物権的請求権
4	物権変動論序説	物権変動の意義と原因、公示の原則、公信の原則
5	物権変動を生じる法律行為	物権変動における2つの立法主義、日本民法の解釈
6	不動産物権変動(1)	対抗要件、二重譲渡の法的構成
7	不動産物権変動(2)	登記を必要とする第三者の範囲
8	不動産物権変動(3)	取消と登記、解除と登記
9	不動産物権変動(4)	取得時効と登記、相続と登記、遺産分割と登記
10	動産物権変動(1)	引渡しの意味・種類
11	動産物権変動(2)	即時取得
12	占有権	占有訴権等
13	所有権と共同所有	共有等
14	用益物権(1)	地上権、借地権、土地賃借権、永小作権
15	用益物権(2)	地役権、入会権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	物権に関する基本的な概念、考え方の理解

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

憲法Ⅱ (JB)

15139

担当者名 / Instructor 倉田 原志

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本講義では、統治機構にかかわる制度・学説・判例を概観する。憲法は国家機関を定め、それに国家作用を授権するが、それは国民主権や人権保障という憲法の基本原理からどのようなものでなければならないのか、また、実際はどうかについて検討することとした。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・統治機構にかかわる概念や基本問題を幅広く理解できる。
- ・現実の憲法問題について、学説や判例を参考にして、主体的に判断できるようになる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

憲法Ⅰ (復習しながら講義はすすめるが、履修しておくことより理解が深まる)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	立憲主義	憲法規範の特質 立憲主義の展開
3～4	統治機構の構成原理	法の支配 国民主権 権力分立
5	国民	有権者団 選挙制度
6	政党	政党の自律性 国庫助成
7	国会(1)	国会の地位 全国民の代表
8	国会(2)	国会の構成
9～11	国会(3)	国会と議院の権能
12	内閣(1)	行政権 内閣の組織と権能
13	内閣(2)	議院内閣制
14～16	裁判所(1)	司法権の意義と範囲
17～18	裁判所(2)	裁判所の組織と権能
19	裁判所(3)	司法権の独立
20	地方自治(1)	地方自治の意義 地方公共団体とその機関
21	地方自治(2)	地方公共団体の権能
22	財政(1)	財政民主主義の原則 租税法律主義
23	財政(2)	予算 国費の支出
24～26	違憲審査制(憲法訴訟)(1)	違憲審査権の意義と性格 違憲審査権の主体と対象
27～28	違憲審査制(憲法訴訟)(2)	違憲審査の方法 違憲判決の効力
29～30	憲法の変動と保障	憲法の改正 憲法の変遷 憲法の保障

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

日頃から新聞などを読み、憲法をめぐる動きについて注意をはらっていただきたい。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義で扱った内容について理解できているか、その理解を論理的に表現できるかを評価する。
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	20 %	中間的な小テストを行い、基本的な知識を修得できているかを評価する。
小テストの詳細については、講義時に説明する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回、予習として、教科書の該当部分を読んでくることをすすめる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

憲法〔第5版〕

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

芦部信喜・高橋和之補訂 / 岩波書店 / 978-4-00-022781-0 /

教科書は、毎回参照しながら講義する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

憲法判例百選Ⅱ〔第5版〕

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

高橋和之ほか編 / 有斐閣 / 978-4-641-11487-6 /

憲法入門

市川正人・倉田原志編 / 法律文化社 / 978-4-589-03397-0 /

その他は、開講時および講義の中で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

講義の際、適宜紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目

初等体育科教育法 (SB)

12215

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、小学校体育の概論的かつ実践的な位置づけにある。前半では小学校の体育授業を営むために教材作りを学習する。後半では、自ら指導案を作って授業を実践しそれに対する評価活動を通じて、教師自身の成長のための授業研究の方法を理解する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ① 体育授業とスポーツ少年団などで行われているスポーツ活動との違いがわかること。
- ② グループ学習の仕組みがわかること。
- ③ 授業を設計し、マネジメントを行う基礎がわかること。
- ④ 授業を評価するポイントがわかること。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

初等体育

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションとグルーピング(教室)	戦後体育科教育の目標の変遷と今時改訂学習指導要領
2	マット運動1(第一アリーナ)	グループ学習と前転V字バランス
3	マット運動2(第一アリーナ)	側転の系統指導と「側転の習熟」
4	マット運動3(第一アリーナ)	音楽マットの発表会
5	体育授業を創る(教室)	種目の選択と指導案の収集
6	体育授業を評価する1(教室)	作成された体育の指導案の検討
7	教場の確認と指導案の最終確認(第一アリーナ)	指導の流れの確認
8	指導案の完成と教具の準備(教室)	指導案の完成, 教具の準備など
9	模擬授業2(第一アリーナ)	
10	模擬授業3(第一アリーナ)	
11	模擬授業3(第一アリーナ)	
12	音楽マットと模擬授業の結果とその検討(教室)	
13	体育と道徳の批判的検討(教室)	しつけ・態度形成について
14	体育授業を作るということ(教室)	全体のまとめ
15	実技試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

模擬授業に関わっては、指定された以外の文献や雑誌を当たることが望ましい。また、日頃から新聞やネット上で教育界の動向について敏感に反応しておくこと。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	体育授業を構成するために必要な知識や能力を問う。
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	60 %	マット運動関連20%, 模擬授業とその省察20%, 平常点20%

出席や遅刻については厳しく取り扱います。実技テストはP・Fで評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『体育授業を観察評価する』

高橋健夫他 / 明和出版 / 9784901933032 /

参考文献については、授業において指示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

実技に関わって試験をします。

拡張項目

ソーシャルワーク論 (S)

11738

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会福祉実践(ソーシャルワーク)に必要な専門性の基礎を築くことである。講義では、ソーシャルワークの基本的な考え方や視点、実践に必要な理論や専門技術などについてとりあげる。ソーシャルワークは、個人から地域、組織、政策までさまざまなレベルで展開されているが、本講義ではソーシャルワークの全体像を視野に入れつつ、個人、家族、グループへの支援に焦点をあてて学習する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・ソーシャルワークの専門性と役割について説明できる。
- ・ソーシャルワーク実践のプロセスと方法について述べるができる。
- ・ソーシャルワーカーが常に遵守しなければならないことを述べるができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目を可能なかぎり履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークとは	定義(目的、目標、方法)、分野、対象
第2回	ソーシャルワークの基本的な考え方	価値、視点、専門性
第3回	ソーシャルワーク実践の基本	原則、役割、機能
第4回	ソーシャルワーク実践のプロセス	インテーク、アセスメント、計画、計画の実施、モニタリング、評価
第5回	インテーク	インテーク面接の目的と方法、アウトリーチの目的と方法
第6回	アセスメント	アセスメントの目的、方法、項目
第7回	計画	計画の意義、目標・課題の設定方法と留意点、契約
第8回	計画の実施とモニタリング	実施時の留意点、モニタリングの目的と方法、記録の意義・種類・方法
第9回	終結と評価、開発・発展	終結についての留意点、評価の目的と方法、マイクロからメゾ・マクロへ
第10回	コミュニケーション	コミュニケーションの種類、留意点、コミュニケーションスキル
第11回	介入への理論・モデルの応用①	パーソン・センタード・アプローチ、行動理論、認知理論、認知行動理論
第12回	介入への理論・モデルの応用②	家族システム理論、グループワーク
第13回	スーパービジョン、コンサルテーション	スーパービジョンの目的・機能、方法
第14回	日本におけるソーシャルワーク	法制度のなかでの位置づけ、一般社会での認識、職能団体、今後の方向性
第15回	確認テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

授業は、教科書を読んだことを前提に進めるので、毎回、教科書の指定箇所を読んでくること。また、ミニ課題を数回、課すので、それも行うこと。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	授業内容について理解し、自分の言葉で説明できるか、また、それらの知識を応用することができるか、小レポートおよびテストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中には講義だけでなく演習を行うこともあるので主体的な参加が重要である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』 社会福祉士養成講座編集委員会編 / 中央法規 / 978-4-8058-3107-6 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

日本社会福祉士会 <http://www.jacsw.or.jp/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

メール : m-okada@ss.ritsumeai.ac.jp

個人研究室 : 修学館307&356号室(直通電話466-3371)

その他 / Other

拡張項目

初等体育 (SB)

12356

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校体育の幾つかの領域から、典型教材やその指導の系統性を実践的に学ぶ。スポーツは体育授業では発達刺激と考えられることが多いが、人間が歴史的、社会的に生み出してきた文化としてとらえ、文化としてのスポーツを教えるという立場で授業を進めていく。体育授業は上手い下手がはっきりするため、その中でどのような授業作りを展開するのかが中心に行う。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

授業で取り上げる種目の中身の理解を求めることは当然であるが、それら教材に備わっている典型性を生かして、新たに教材を構成する力量を養う。また、体育授業における競争や評価の考え方を身につけることができるようにする。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション(教室)	学習指導要領の目的・内容と体育授業の役割
2	実技のオリエンテーション(第二アリーナ)	50m走の測定 バスケットのシュート調査
3	リレーの教材作り(第二アリーナ)	バトンパスで記録を縮める
4	「投げる」の授業作りをやる(第二アリーナ)	投げる動作習得の重要性とさまざまな投げ
5	マット運動1(第二アリーナ)	グループ学習で前転V字バランス
6	マット運動2(第二アリーナ)	側転の指導と習熟
7	マット運動3(第二アリーナ)	音楽マット「タンポポ開いた」発表会
8	マット運動4(第二アリーナ)	側転の試験
9	フラッグフットボール I (第二アリーナ)	on the ballとoff the ballの動き
10	フラッグフットボール II (第二アリーナ)	2対2からの展開
11	バスケットボール I (第二アリーナ)	シュート調査の方法とスコアリング、試しのゲーム。
12	バスケットボール II (第二アリーナ)	ゲーム分析と様相発達段階。子どものつまづき
13	サッカーを教材化する (第二アリーナ)	空間の変化とアフォーダンス
14	縄跳び (第二アリーナ)	縄跳びを表現運動に位置づける。単なわ、ダブルダッチ
15	ボールの授業とまとめ (教室)	体育理論—スポーツを文化としてとらえる

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	各教材の指導内容と方法について問います。
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	50 %	出席と実技試験
出席については厳しく取り扱います。出席が満たない場合には単位認定は行いません。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

適宜授業で紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目

異文化研究Ⅱ (SA)

12760

担当者名 / Instructor GRAEWE GUDRUN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ドイツの社会、年中行事、観光地、食文化などをテーマにしてドイツ語やドイツ文化について学びます。例えば簡単な文章や新聞記事やレシピを読んだりします。

ドイツ語の発音、読解力や聞き取り能力を向上させます。

日本の文化とドイツの文化を比較しながら共通点や相違点を学習します。

バリエーションに富んだ、楽しい授業になるように心がけます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

ドイツ語の運用能力をレベルアップすること、そしてドイツの文化についての理解や知識を得ることが目標です。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

一年次のドイツ語科目を履修したこと、そしてドイツの文化に関心があることが望ましいです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	入門	
2	ドイツの社会	
3	ドイツの社会	
4	ドイツの社会	
5	ドイツの年中行事	
6	ドイツの年中行事	
7	ドイツの年中行事	
8	ドイツ旅行	
9	ドイツ旅行	
10	ドイツ旅行	
11	ドイツの食文化	
12	ドイツの食文化	
13	ドイツの食文化	
14	ドイツのショート・フィルム	
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	宿題、授業中の発表、出席点などを総合して評価します。単位取得に少なくとも2/3の出席が必要です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日本文化とドイツ文化の共通点と相違点を理解するように心がけてください。

教科書 / Textbooks

プリントを配ります。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

日独交流150周年: <http://dj150.jp/index.html>
 Young Germany: <http://www.young-germany.jp/>
 ドイツ旅行: <http://www.germany.travel/jp/index.html>
 ドイツの実情: <http://www.tatsachen-ueber-deutschland.de/jp/home1.html>
 Villa Kamogawa Kyoto: <http://www.goethe.de/ins/jp/kam/jaindex.htm>
 ドイツ語を学ぶ、ドイツを知る →ドイツ文化センター(Goethe-Institut)
 大阪: <http://www.goethe.de/ins/jp/osa/jaindex.htm>
 日本: <http://www.goethe.de/ins/jp/lp/jaindex.htm>
 ドイツ留学、奨学金 →ドイツ学術交流会(DAAD)
<http://tokyo.daad.de/wp/lang/ja/>

独日青少年協会: <http://www.djig.org/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

音楽Ⅱ (S)

12354

担当者名 / Instructor 吉田 直子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校音楽科の学習内容について理解を高め、教材研究や授業づくりについての基本的な方法論の理解を促しながら、実践的な能力の形成を目指すことを目的とする。主にピアノをはじめとする楽器の実技指導能力を向上させることを中心にすすめていくものとする。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

小学校音楽科の学習内容について理解し、授業づくりに必要な音楽的技能と実践的諸能力を身につける。
 いろいろな音楽を理解することを通じて、音楽教育観の視野を広げる。
 自主的に音楽を核にしたプログラムを企画、運営、実施できる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

音楽Ⅰを履修済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—音楽Ⅱで学ぶ内容について	オリエンテーション
2	音楽会をつくろう 小学校音楽科の教育内容とさまざまな音楽	学習指導要領 サウンドスケープ ワールドミュージック
3	鍵盤楽器の学習①	課題曲・練習曲を決める
4	鍵盤楽器の学習②	課題曲、練習曲の習得方法を考える
5	アンサンブルを楽しもう①	リズムのアンサンブル
6	アンサンブルを楽しもう②	トーンチャイムを使って
7	アンサンブルを楽しもう③	声を使って パートナーソング オスティナート
8	教材研究① 日本の音楽	音楽のしぐみを学習しよう 日本の音階 即興伴奏
9	教材研究② 諸民族の音楽	音楽のしぐみを学習しよう
10	教材研究③ 西洋の音楽	音楽のしぐみを学習しよう
11	アンサンブルを楽しもう④	ボディパーカッション
12	アンサンブルを楽しもう⑤	器楽のアンサンブル リコーダー 鍵盤ハーモニカ
13	音楽をつくってみよう①	音楽づくりとイメージ
14	音楽をつくってみよう②	音楽づくりと動き
15	発表会	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

授業時に適宜指示します。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	発表会での個人発表を評価の対象とします。 出席、授業時の課題、グループでの発表、参加意欲・態度等、総合的に評価します。
3分の2以上の出席を要します。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽の実技科目は、日々の練習の積み重ねが大切です。楽譜は正しく自分に適した練習を少しずつ積み重ねれば、必ず読めるようになります。練習方法などわからないことはどうぞ質問してください。根気よく地道に学習を継続することが大切です。一方で、世界の音楽の中には楽譜をつかわない音楽もたくさんありますので、音楽とは何か、音楽教育とは何かという問いを常に持ち、視野を広く持って音楽に接してみてください。最終的にクラスでひとつの音楽会を構成します。自分の役割を自覚して主体的に運営に参加してください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
最新初等科音楽教育法	初等科音楽教育研究会編／音楽之友社／978-4-276-8200098／
小学校学習指導要領解説・音楽編	文部科学省編／／／
授業時に適宜指示します。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

この一冊でわかる ピアノ実技と楽典	深見友紀子、小林田鶴子、坂本暁美 著／音楽之友社／427610050X／
楽しいボディ・パーカッション(1)(2)(3)	山田俊之／音楽之友社／4276315727・4276315735・4276315743 /
子どものうた弾き歌いベスト50注釈付き	深見友紀子編著、赤羽美希編曲他／音楽之友社／978-4-276-82072-2／

その他、授業時に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業時に適宜紹介します。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

異文化研究 I (SA)

12674

担当者名 / Instructor GRAEWE GUDRUN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ドイツの絵本、笑い話、メルヘン、コミックなどでドイツ語やドイツ文化について学びます。
 ドイツ語の発音、読解力や聞き取り能力を向上させます。
 日本の文化とドイツの文化を比較しながら共通点や相違点を学習します。
 バリエーションに富んだ、楽しい授業になるように心がけます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

ドイツ語の運用能力をレベルアップすること、そしてドイツの文化についての理解や知識を得ることが目標です。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

一年次のドイツ語科目を履修したこと、そしてドイツの文化に関心があることが望ましいです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	入門・自己紹介	
2	ドイツのユーモア	
3	ドイツのユーモア	
4	ドイツのユーモア	
5	ドイツの絵本	
6	ドイツの絵本	
7	ドイツの絵本	
8	ドイツのメルヘン	
9	ドイツのメルヘン	
10	ドイツのメルヘン	
11	ドイツのマンガ	
12	ドイツのマンガ	
13	ドイツのマンガ	
14	ドイツのショートフィルム	
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	宿題、授業中の発表、出席点などを総合して評価します。単位取得に少なくとも2/3の出席が必要です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日本文化とドイツ文化の共通点と相違点を理解するように心がけてください。

教科書 / Textbooks

プリントを配ります。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

日独交流150周年: <http://dj150.jp/index.html>
 Young Germany: <http://www.young-germany.jp/>
 ドイツ旅行: <http://www.germany.travel/jp/index.html>
 ドイツの実情: <http://www.tatsachen-ueber-deutschland.de/jp/home1.html>
 Villa Kamogawa Kyoto : <http://www.goethe.de/ins/jp/kam/jaindex.htm>
 ドイツ語を学ぶ、ドイツを知る →ドイツ文化センター(Goethe-Institut)
 大阪: <http://www.goethe.de/ins/jp/osa/jaindex.htm>
 日本: <http://www.goethe.de/ins/jp/lp/jaindex.htm>
 ドイツ留学、奨学金 →ドイツ学術交流会(DAAD)
<http://tokyo.daad.de/wp/lang/ja/>
 独日青少年協会: <http://www.djjg.org/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

行政学Ⅱ (J)

16149

担当者名 / Instructor 村上 弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

行政学は政治学の一分野で、国や地方自治体の行政を対象とするものである。現代の政府活動が拡大するなかで、行政機構は政策の執行だけでなく決定に関しても大きな役割を果たすとともに、さまざまな問題も抱えている。

この講義では、行政の外部過程、つまり政治過程のなかでの行政の活動、行政と議会や市民の関係、行政改革などについて考察する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

受講者は、関連づけて、政治学諸科目、行政法、憲法、財政学を履修することが望ましい。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

受講者は、関連づけて、政治学諸科目、行政法、憲法、財政学を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	* 1つのテーマを2~3回で扱う	
1-3	●行政責任	行政責任の諸類型、行政統制の諸方法
4-6	●官僚制理論	M. ウェーバーの官僚制論とその今日的意味、その後の理論展開
7-9	●議会と行政	立法、執行過程における官僚制の機能と権力
10	●利益団体と行政	各種社会集団の参加方法と影響力
11-12	●市民と行政	行政情報の流れ、市民参加の諸方法
13-15	●行政改革	行政改革の多面性、小さな政府、NPM、規制緩和・規制の充実、政策評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

教科書または準教科書を授業の前または後に読むことが望ましい。

準教科書の場合には、その編成と授業の進み方は一致しないので、目次や索引を活用して関連ページを探すこと。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	知識と論述能力を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

板書を多用するが、口頭で述べたことも重要な部分はノートすること。

資料レジュメは、教室でのみ配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる行政学	村上弘・佐藤満編 / ミネルヴァ書房 / 2009年

< 準教科書 >

* 上の教科書を持たない人は、下のどれか1冊を選んで買うことを薦めます。

真淵勝『行政学』有斐閣、2009

今村都南男ほか『ホーンブック基礎行政学』改訂版、北樹出版、2009

西尾勝『行政学』新版、有斐閣、2001

村松岐夫『行政学教科書』第2版、有斐閣、2001

参考書 / Reference Books

西尾勝・村松岐夫編『講座行政学』全6巻、有斐閣、1994~95

福田耕治・真淵勝・縣公一郎編『行政の新展開』法律文化社、2002

新藤宗幸『講義・現代日本の行政』東京大学出版会、2001

東田親司『現代行政の論点』芦書房、2012

総務省『行政管理・総合調整白書』毎年

行政管理研究センター『データ・ブック日本の行政』毎年

飯尾潤『日本の統治構造—官僚内閣制から議院内閣制へ』中公新書、2007

山口二郎『内閣制度』(行政学叢書)東京大学出版会、2007

岩田規久男『「小さな政府」を問いなおす』ちくま新書、2006

田中一昭『行政改革』新版、ぎょうせい、2006

OECD編『図表でみる世界の行政改革—政府・公共ガバナンスの国際比較』明石書店、2010
福山嗣朗『NPM実務の考え方・進め方—効率的・効果的な政策形成・実施・評価改善』学陽書房、2006
自治体問題研究所編『NPM行革の実像と公務・公共性』自治体研究社、2006
行政管理研究センター 編『政策評価ハンドブック 新基本方針対応版—評価新時代の到来』ぎょうせい、2007

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

総務省ホームページ <http://www.soumu.go.jp>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

行政学 I (J)

13710

担当者名 / Instructor 村上 弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

行政学は政治学の一分野で、国や地方自治体の行政を対象とするものである。現代の政府活動が拡大するなかで、行政機構は政策の執行だけでなく決定に関しても大きな役割を果たすとともに、さまざまな問題も抱えている。

この講義では、行政学全体への導入部のあと、行政の内部過程、つまり中央省庁等の運営・管理のためのさまざまなしくみについて考察する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

行政学の標準的な知識と分析枠組みを身につけること。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

受講者は、関連づけて、政治学諸科目、行政法、憲法、財政学を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 ＜導入＞	行政学とは、行政学(政治学)と行政法(法律学)の違い、教科書の説明
	2-4 ＜第1部 行政と行政学の歴史＞ ●行政と行政学の歴史	国家と政府の役割、絶対王政、自由主義、福祉国家、新自由主義、市場の失敗と政府の失敗
	5-6 ●日本の行政の戦前と戦後、行政学における価値基準	
	7-9 ＜第2部、行政の内的過程＞ ●組織理論の展開	科学的管理法、古典的組織論、人間関係論、サイモン理論
	10-11 ●行政組織における分業と統合調整	日本の行政組織、計画、リーダーシップ
	12-13 ●公務員人事	公務員制度の原理と改革、採用、昇進、天下り、服務
	14-15 ●財政	予算編成過程、財政健全化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

教科書または準教科書を、授業の前または後に読むことが望ましい。準教科書の場合には、その編成と授業の進み方は一致しないので、目次や索引を活用して関連ページを探すこと。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	知識と論述能力を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の内容については、レジュメは用意しない。板書を多用するが、口頭で述べたことも重要な部分はノートすること。

資料レジュメは、教室でのみ配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる行政学	村上弘・佐藤満編 / ミネルヴァ書房 / 2009年

＜準教科書＞

* 上の教科書を持たない人は、下のどれか1冊を選んで買うことを薦めます。

真淵勝『行政学』有斐閣、2009

今村都南男ほか『ホーンブック基礎行政学』改訂版、北樹出版、2009

西尾勝『行政学』新版、有斐閣、2001

村松岐夫『行政学教科書』第2版、有斐閣、2001

参考書 / Reference Books

西尾勝・村松岐夫編『講座行政学』全6巻、有斐閣、1994～95

福田耕治・真淵勝・縣公一郎編『行政の新展開』法律文化社、2002

新藤宗幸『講義・現代日本の行政』東京大学出版会、2001

東田親司『現代行政の論点』芦書房、2012年

総務省『行政管理・総合調整白書』毎年

行政管理研究センター『データ・ブック日本の行政』毎年

桑田耕太郎/田尾雅夫『組織論』補訂版、有斐閣、2010年
飯尾潤『日本の統治構造—官僚内閣制から議院内閣制へ』中公新書、2007
山口二郎『内閣制度』(行政学叢書)東京大学出版会、2007
大森彌『官のシステム』(行政学叢書)東京大学出版会、2006
岩田規久男『「小さな政府」を問いなおす』ちくま新書、2006
小此木潔『消費税をどうするか』岩波新書、2009
村松岐夫編『最新公務員制度改革』学陽書房、2012年
太田肇『公務員革命 — 彼らの“やる気”が地域社会を変える』ちくま新書、2011年

●公務員批判の風潮を知るために
福岡政行『公務員ムダ論 — 不況時代の公務員のあり方』角川書店、2010年

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

総務省ホームページ <http://www.soumu.go.jp>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

質問等は、授業のあと教室で寄せてください。

その他 / Other

拡張項目

介護概論 (S)

11011

担当者名 / Instructor 沖野 良枝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本概論では、社会福祉専門職として必要な介護に関する諸概念および専門知識と援助の方法について学習する。具体的には、今日の介護問題の背景と現状、介護保険制度を主とする社会施策の学習を通して、主として高齢者と家族を中心にその立場や状況を明らかにし、専門職の果たす役割・責任を理解する。さらに、要介護者のニーズに沿ったサービスに必要な視点として自律・自立、健康、生活の概念を学習し、対象の理解、生活援助の意味と認識を深める。問題解決技法としての介護過程、寝たきり、認知症、終末期の対象者・家族に対する根拠に基づいた援助の基本、対象者の安全と人権尊重の重要性を理解し、専門職者としての責務について自覚を深める。

授業形式は、講義を中心とするが、テーマによって映像鑑賞やグループ・ディスカッションを行い多様な視点で学習を深める方法も取り入れる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 介護の概念や基本原則、介護の場や介護に関わる専門職の種類と役割、連携など介護の概要を理解する。
2. 今日の介護問題の背景と現状を理解することにより、介護対象者および家族の立場や状況に対する理解と認識ができる。
3. 人にとっての自律、健康、生活の意味、在り方を学ぶことにより、介護対象者・家族の生活援助の意義を認識できる。
4. 介護問題解決の方法論、援助技術の原理を根拠に基づき理解できる。
5. 寝たきり、認知症、終末期など特定領域別の対象者・家族の状況理解、援助の特徴と基本的な関わりの方法がわかる。
6. 対象者・家族の人権尊重の重要性および安全確保のための倫理的、法的根拠が理解できる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本講義では、専門知識や関連情報、援助技術の学習に留まることなく、人に関する幅広い視点、多様で相対的思考で学習される事を希望する。また、社会福祉概論、社会福祉援助技術、ソーシャルワークなど主要な専門基礎科目を履修している2年次以降の受講が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1. 介護の概要 1)今日の介護事情と介護の概念 2)新しい介護の誕生	介護の概念、介護の歴史、日本型福祉、介護保険制度、社会福祉士・介護福祉士法
2	1. 介護の概要 3)今日の介護の現状と問題、その背景	少子高齢社会、疾病構造の変化、平均寿命の伸び、介護問題
3	2. 介護対象者の理解 1)人・対象者にとっての生活	人の生活、クオリティ・オブ・ライフ、生活の機能・構造、家族、地域
4	2. 介護対象者の理解 2)人・対象者にとっての健康	健康の概念、健康の意味、健康観の変遷
5	2. 介護対象者の理解 3)人・対象者にとっての自立・自律	自立、自律、自立支援
6	3. 介護のしくみ 1)介護に関する政策・制度 2)介護の場(在宅、施設)	保健・医療・福祉政策、介護の場、施設、居宅
7	3. 介護のしくみ 3)介護を担う人と役割 4)地域ケアと保健・医療・福祉の連携	介護者、介護者の役割、保健・医療・福祉、専門職、連携、地域ケア
8	3. 介護のしくみ 5)介護保険制度の概要	介護保険法、要介護認定、要介護、要支援、在宅サービス、施設サービス、介護予防
9	4. 介護のスキル 1)介護(問題解決)過程 2)ケアマネジメントの方法	介護過程、問題解決技法、ケアマネジメント、ケアプラン、個別援助計画
10	4. 介護のスキル 3)日常生活(ADL、IADL)援助の概要と意味	ADL、IADL、生活援助
11	4. 介護のスキル 4)介護技術の基本	学的根拠、状態観察、援助技術、コミュニケーション
12	4. 介護のスキル 5)主な領域と介護 ①寝たきりにしない介護の方法	寝たきり高齢者、日常生活自立度、寝たきりの要因、寝たきり予防、介護の方法
13~14	4. 介護のスキル 5)主な領域と介護 ②認知症高齢者の理解と介護の関わり	アルツハイマー病、軽度認知障害、脳血管性認知症、記憶障害、中核症状、周辺症状
15	4. 介護のスキル 5)主な領域と介護 ③終末期の理解と援助の視点	終末期、尊厳死、安楽死、延命治療、延命治療の中断、延命治療の手控え、人の死

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

教科書、講義のレジュメ、資料および紹介した著書、文献などによる予習・復習などの自己学習が必要です。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	筆記試験により介護問題の背景、関連する専門知識、対象の理解、援助の方法論の基本的理解、知識の修得状況を評価・判定します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・社会福祉士養成講座13 高齢者福祉論	社会福祉士養成講座編集委員会＝編集／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3113-7／授業は、独自に作成したレジュメに沿って出来るだけ広範な内容で進める予定ですが、時間の関係で、授業では触れられないこともあります。そのため、国家試験に備えて、標準的な知識として教科書で補足していただきたいです。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
介護の質に挑む人々	加藤仁／中央法規／授業で学習する内容については、最新の考え方や研究結果、社会状況、政策などの知識や情報を取り入れ、根拠に基づいた理解を得て頂く事に努めます。そのために、適宜、適切な文献を資料として活用しますが、その出典となった文献には出来るだけ全体に目を通して頂きたいです。
死は誰のものか	斎藤義彦／ミネルヴァ書房／／上記に同じ
アルツハイマー病にならない	井原康夫／朝日新聞社／／上記に同じ
アメリカ 置き去りにされる高齢者福祉	斎藤義彦／ミネルヴァ書房／／上記に同じ
知っておきたい認知症の基本	川畑信也／集英社／／上記に同じ
認知症の最新治療法	小坂憲司／羊泉社／／上記に同じ
ベッドサイドの高齢者の診かた	葛谷雅文／南山堂／／上記に同じ
新しい介護	太田仁史／講談社／／上記に同じ
ドイツと日本「介護」の力と危機	斎藤義彦／ミネルヴァ書房／／上記に同じ

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

図画工作 (SA)

10689

担当者名 / Instructor 北波 博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

表現及び鑑賞の活動を通して、小学校図画工作科教育の目標や内容について理解し、指導者としての実践力をつける。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ①学習指導要領に示されている図画工作科の目標や内容を説明できる。
- ②指導のねらいを明確にしなが、児童の発達段階に応じて授業をデザインすることができる。
- ③表現や鑑賞の活動を通して指導者としての実践的な力を身につける。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介, 授業の到達目標と評価, 授業の進め方, 各授業の課題, 小学校学習指導要領「図画工作科」の目標, アンケート(図画工作科教育及び美術教育の履歴)
2	絵に表す①「見たことを絵に表す」	「見たことを絵に表す活動」の指導, 見ることと描くこと, 色彩の体系と理論, アンケート結果, グループ編成
3	絵に表す②「感じたことを絵に表す」	「感じたことを絵に表す活動」の指導, かたちや色から発想, 多様な描画材料と描画方法, 色彩についての小テスト
4	立体に表す「想像の昆虫」①	「立体に表す活動」の指導①, 材料の形や特徴を生かす, アッサンブラージュ(並べる・つなぐ・積む・組み合わせるなど), 色彩についての小テスト結果
5	立体に表す「想像の昆虫」②	「立体に表す活動」の指導②, 材料の形や特徴を生かす, アッサンブラージュ(並べる・つなぐ・積む・組み合わせるなど)
6	造形遊びの理論と実践	「造形遊びをする活動」の指導, 材料と場所からの発想, 学びと遊び, 全身性, 総合性
7	工作に表す「陶芸・カップ」①	「工作に表す活動」の指導①, 材料や用具の特徴を生かす, 表現方法の工夫, 機能や用途, 生活の中の造形
8	工作に表す「陶芸・カップ」②	「工作に表す活動」の指導②, 材料や用具の特徴を生かす, 表現方法の工夫, 機能や用途, 生活の中の造形
9	工作に表す「光の造形」①	「工作に表す活動」の指導①, 光の効果, 空間の演出, 表現方法の工夫
10	工作に表す「光の造形」②	「工作に表す活動」の指導②, 光の効果, 空間の演出, 表現方法の工夫
11	共同してつくりだす活動「4コマ漫画」	「共同してつくりだす活動」の指導, 参加と交流, 連作, 漫画, 物語, 絵と言葉による表現
12	絵や立体に表す「ボックスアート」①	「絵や立体に表す活動」の指導①, 想像の世界, 視覚の冒険, 材料の効果的な組合せ
13	絵や立体に表す「ボックスアート」②	「絵や立体に表す活動」の指導②, 想像の世界, 視覚の冒険, 材料の効果的な組合せ
14	鑑賞する活動①	「鑑賞する活動」の指導①, グループ発表, 鑑賞と批評, 確認テスト(学習指導要領)
15	鑑賞する活動② まとめ	「鑑賞する活動」の指導②, グループ発表, 鑑賞と批評, 表現と鑑賞のかかわり, 確認テスト結果

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

- ・身のまわりにある作品を日常的に鑑賞し、そのよさを見つけたり批評したりする習慣をつける。
- ・各題材について、あらかじめ構想を練ったり材料を集めたりしておく。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	・振り返り小レポートの内容。 ・色彩についての小テスト結果。 ・自己評価や相互評価の妥当性。

- ・鑑賞領域の学習指導案や鑑賞指導の的確さ。
- ・アイデアスケッチや完成作品などによる教材理解度。
- ・表現や鑑賞活動における追究性や協同的な姿勢。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・指導者としての意識を常にもちながら授業を受けること。
- ・他教科や領域の学習活動と関連づけて図画工作科教育をとらえること。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アート教育を学ぶ人のために	竹内博他3名編著 / 世界思想社 / 4-7907-1123-4 /
図画工作科研究	藤江充・佐藤洋照編著 / 日本文教出版 / 978-4-536-60040-8 /
美術科教育の基礎知識	宮脇理監修他3名編集 / 建帛社 / 978-4-7679-2077-1 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

文部科学省HP小学校学習指導要領図工科の目標と内容 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/zu.htm

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

- ① オフィスアワー
- ② 授業で知らせるPCメールアドレス及び携帯メールアドレス

その他 / Other

拡張項目

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校での理科教育の目標・内容・方法、および評価について包括的に解説するとともに、授業理論と指導方法について様々な事例を通して考察する。具体的には、

- 理科教育は何のために、なぜ行うのか(目的)
- 理科教育では、何を、どのように指導するのか(内容・方法)
- 理科の評価はどのように行えばよいのか(評価)

そして、

- 実験や、観察はどのように指導すればよいのだろうか(実験・観察指導)

これらについて学習を深める。理科の授業の作り方と、それをいかに効果的に実施するかについての基礎的な力量を育成したい。学習指導案が作成出来る事を目標とする。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ① 小学校理科の変遷について、概要が説明出来る。
- ② 小学校理科の目標と内容が、学習指導要領との関わりで説明出来る。
- ③ 学習指導案が作成出来、それに基づいて観察・実験教材を用いた模擬授業が出来る。
- ④ 実験教材のもつ有効性と限界を適切に把握し、理解出来る。
- ⑤ 観点別評価基準にしたがって、授業評価ができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

理科入門

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	理科への気づき - オリエントーションを兼ねて -	授業の目標、進め方(グループ構成など)、また到達目標等の説明
2	理科とは何か(1)	理科の誕生(明治、対象、昭和から平成へ)
3	理科とは何か(2) - 学習指導要領の変遷から -	生活理科から探究理科へ
4	理科とは何か(3) - 学習指導要領の変遷から -	「ゆとりの時代の理科」から「確かな学びの理科」へ
5	小学校理科の目標と内容(内容と目標の関係)	これからの理科教育とその展望……検証テストの実施(30分)……
6	教材としての理科の内容(1) - A区分(物質とエネルギー) -	電気と磁石の授業構成について
7	教材としての理科の内容(2) - A区分(物質とエネルギー) -	素朴概念との関係(てこによるつり合いを事例として)
8	教材としての理科の内容(3) - B区分(生命と地球) -	素朴概念との関係(地動説と天動説を事例として)
9	小学校における実験教材の取り扱い(安全面にも触れる)	基礎的実験技能について(振り子の動きを事例として)
10	小中高という流れで捉えた理科の内容(内容と学びの関係)	小学校理科では何を、どう指導すればよいか
11	理科の授業と指導案(1) - 基礎的な考え方 -	理科の指導案とは何か、授業展開を示す指導案のスタイル
12	理科の授業と指導案(2) - 実践例に触れる -	指導案の実例と模範授業(メンター教師による授業)
13	理科の授業と指導案(3) - 単元の構成と本時の授業について -	授業実践を左右する指導案の書き方
14	理科における実践(1) - 基本的な考え方の定着 -	模擬授業の実施(実践的な指導案の作成法について)
15	理科における実践(2) - 基礎的な考え方の定着 -	模擬授業の実施(実践的な指導案の作成法について)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

授業は実験室で行います。「理科の内容」に関しては実験、実習を伴った授業を計画しています。具体的な指示については、第一回の授業時に伝えます。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	(60%)授業内レポート 授業中に実施した「検証テスト」のテーマから、受講者の関心に基づいて1つのテーマを選び、より深く追求する。あわせて、指導案を作成をおこなう。授業で得た知識の確認とその運用能力を見る。 (40%)検証テスト(2回実施)、指導案の作成(1回) ①授業期間中に学修到達度を確認する検証テストを実施する。 ②実験・実習等の取り組み(参加度)、またその結果をまとめたレポート等により授業への積極的な関わり方を評価する。 ③初等理科教育法の基礎的な知識、また模擬授業構成の基礎的な理解を問う。 ④指導案を作成をおこなう。授業で得た知識の確認とその運用能力を見る。

レポート試験は、各自が構想した指導案の作成を行ってまいります。検証テストについては、その詳細を講義時に発表します。なお、検証テストは受験の翌週の授業で解説返却します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では、各項目の概要に限定されます。より深く追求したい受講生には、グループ学習、また個別指導を行います。また、理科の内容については、実験による授業を行います。受講生の動向によっては、実験による授業の後、模擬授業を構想してまいります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
実験で実践する魅力ある理科教育	川村康文他 / オーム社 / 978-4-274-20920-8 /

授業では必要に応じてプリントを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説(理科編)	文部科学省 / / /
理科は理科系のための科目ですか	山下芳樹 / 森北出版 / /
教員採用試験のための理科学習(仮称)	山下芳樹 / オーム社 / / 2013年度発行予定

各種参考書は、授業時に紹介します。なお、後者の参考書は「教材の小中高の発展性」について詳細に扱っていますので購入しておいてください。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業時に連絡する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

メールアドレスを講義時に知らせる

その他 / Other

発展的な取り組みを歓迎します。希望者には、その詳細については授業時に連絡します。

拡張項目

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校での理科教育の目標・内容・方法、および評価について包括的に解説するとともに、授業理論と指導方法について様々な事例を通して考察する。具体的には、

- 理科教育は何のために、なぜ行うのか(目的)
- 理科教育では、何を、どのように指導するのか(内容・方法)
- 理科の評価はどのように行えばよいのか(評価)

そして、

- 実験や、観察はどのように指導すればよいのだろうか(実験・観察指導)

これらについて学習を深める。理科の授業の作り方と、それをいかに効果的に実施するかについての基礎的な力量を育成したい。学習指導案が作成出来ることを目指す。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ① 小学校理科の変遷について、概要が説明出来る。
- ② 小学校理科の目標と内容が、学習指導要領との関わりで説明出来る。
- ③ 学習指導案が作成出来、それに基づいて観察・実験教材を用いた模擬授業が出来る。
- ④ 実験教材のもつ有効性と限界を適切に把握し、理解出来る。
- ⑤ 観点別評価基準にしたがって、授業評価ができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

理科入門

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	理科への気づき -オリエンテーションを兼ねて-	授業の目標、進め方(グループ構成など)、また到達目標等の説明
2	理科とは何か(1)	理科の誕生(明治、対象、昭和から平成へ)
3	理科とは何か(2) -学習指導要領の変遷から-	生活理科から探究理科へ
4	理科とは何か(3) -学習指導要領の変遷から-	「ゆとりの時代の理科」から「確かな学びの理科」へ
5	小学校理科の目標と内容(内容と目標の関係)	これからの理科教育とその展望……検証テストの実施(30分)……
6	教材としての理科の内容(1) -A区分(物質とエネルギー)-	電気と磁石の授業構成に関して
7	教材としての理科の内容(2) -A区分(物質とエネルギー)-	素朴概念との関係(てこによるつり合いを事例として)
8	教材としての理科の内容(3) -B区分(生命と地球)-	素朴概念との関係(地動説と天動説を事例として)
9	小学校における実験教材の取り扱い(安全面にも触れる)	基礎的実験技能について(振り子の動きを事例として)
10	小中高という流れで捉えた理科の内容(内容と学びの関係)	小学校理科では何を、どう指導すればよいか
11	理科の授業と指導案(1) -基礎的な考え方-	理科の指導案とは何か、授業展開を示す指導案のスタイル
12	理科の授業と指導案(2) -実践例に触れる-	指導案の実例と模範授業(メンター教師による授業)
13	理科の授業と指導案(3) -単元の構成と本時の授業について-	授業実践を左右する指導案の書き方
14	理科における実践(1) -基本的な考え方-	模擬授業の実施(指導案の実践的考察)
15	理科における実践(2) -基礎的な考え方-	模擬授業の実施(指導案の実践的考察)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

授業は理科実験室で行います。「理科の内容」に関しては実験、実習を伴った授業を計画しています。具体的な指示については、第一回の授業時に伝えます。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	(60%) 授業内レポート 授業中に実施した「検証テスト」のテーマから、受講者の関心に基づいて1つのテーマを選び、より深く追求する。あわせて、指導案を作成をおこなう。授業で得た知識の確認とその運用能力を見る。 (40%)検証テスト(2回実施)・指導案の作成(1回) ①授業期間中に学修到達度を確認する検証テストを実施する。 ②実験・実習等の取り組み(参加度)、またその結果をまとめたレポート等により授業への積極的な関わり方を評価する。 ③初等理科教育法の基礎的な知識、また模擬授業構成の基礎的な理解を問う。 ④指導案を作成をおこなう。授業で得た知識の確認とその運用能力を見る。

レポート試験は、各自が構想した指導案の作成を行ってまいります。検証テストについては、その詳細を講義時に発表します。なお、検証テストは受験の翌週の授業で解説返却します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では、各項目の概要に限定されます。より深く追求したい受講生には、グループ学習、また個別指導を行います。また、理科の内容については、実験による授業を行います。受講生の動向によっては、実験による授業の後、模擬授業を構想してまいります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
実験で実践する魅力ある理科教育	川村康文他 / オーム社 / 978-4-274-20920-8 /

授業では必要に応じてプリントを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説(理科編)	文部科学省 / / /
理科は理科系のための科目ですか	山下芳樹 / 森北出版 / 4-627-16121-2 /
教員採用試験のための理科学習(仮称)	山下芳樹 / オーム社 / / 2013年度発行予定

各種参考書は、授業時に紹介します。なお、後者の参考書は「教材の小中高の発展性」について詳細に扱っていますので購入しておいてください。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業時に連絡する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

メールアドレスを講義時に知らせる

その他 / Other

発展的な取り組みを歓迎します。希望者には、その詳細については授業時に連絡します。

拡張項目

初等理科 (SB)

13031

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では小学校理科での学習内容について、学習指導要領に準拠しながらも

- 縦断的(理科における学習内容の歴史の変遷課程)
- 横断的(生活科、また他分野、さらには他教科との関連性)

に捉えるとともに、「子どもの学びの視点」や「知的文化遺産(親学問)の継承という視点」に配慮しながら、より高度な理解を獲得し、実践的力量的の形成、ならびに「教科指導に長けた理科の先生」の育成を目指す。指導案に授業設計の全てが漏れなく反映できる力量的の形成を図る。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 小学校理科の2領域(A区分、B区分)とも、その内容・項目について理解し、説明できる。
2. 幼稚園(自然領域)、生活科との関連性、継続性について理解し配慮できる。
3. 児童の発達段階に応じた教材内容の提示ができる。
4. 小中高という教材自身の発展過程において小学校理科で扱うべき内容を位置づけることができ、適切な指導ができる。
5. 実験に関しては、安全性に配慮した適切な指導ができる。
6. (発展目標)模擬授業を通して、「教材」がいかに作用したかの診断、教材自身の持つ課題が発見でき、適切に解決の手だてを見出し、そのための実践ができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

理科入門, 初等理科教育法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	理科とは何を教える教科か(横断的視点の養成)	科学リテラシー, 基礎知識の確認, (作業)基礎的実験のイロハ(1)
2	小学校理科の指導内容の変遷(1)ー学力観と学びの内容ー	教科内容の不易と流行, (作業)基礎的実験のイロハ(2)
3	小学校理科の指導内容の変遷(1)ー適時性と学びの内容ー	自然科学の体系と教材としての理科, (作業)基礎的実験のイロハ(3)
4	教材としての理科の内容(1)ーA区分:物質とエネルギーー	電気と磁石の世界(物理分野)
5	教材としての理科の内容(2)ーA区分:物質とエネルギーー	電気の利用, 電流の利用(物理分野)
6	教材としての理科の内容(3)ーA区分:物質とエネルギーー	電気と磁気(クリップモーターの製作)、電磁誘導(物理分野)
7	教材としての理科の内容(4)ーA区分:物質とエネルギーー	てこを有効な教材としたつりあい、振り子の運動(物理分野)
8	教材としての理科の内容(5)ーA区分:物質とエネルギーー	安全な化学実験、物質の溶解(化学分野)
9	教材としての理科の内容(6)ーA区分:物質とエネルギーー	気体の発生とその性質(化学分野)
10	教材としての理科の内容(7)ーB区分:生命と地球ー	月の満ち欠け(その1)(地学分野)
11	教材としての理科の内容(8)ーB区分:生命と地球ー	月の満ち欠け(その2)(地学分野)
12	小中高という流れで捉えた理科の内容(学習内容の位置づけ)	小学校理科では何を、どう指導すべきか
13	教材としての理科の内容(発展その1)(総合的な扱い)	開発教材の製作と学習指導案の作成
14	教材としての理科の内容(発展その2)(総合的な扱い)	開発教材の製作と学習指導案の作成
15	教材としての理科の内容(発展その3)(総合的な扱い)	実験をベースとした模擬授業の実施

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

適宜、理科の基礎的内容(実験の手法を問う問題を含む)を問う問題を出します。それに答えることが事前学習(予習)になります。予習なくして、実験はできないと考えてください。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	(60%)授業内レポート、小テスト、指導案作成 学習の度合いをみるために小テストを数回実施する。また、開発教材を用いた指導案を作成し、模擬授業を実施する。 (40%)実験レポートの作成

小学校理科各分野の知識、技能の定着をみる。

3分の2以上の出席者に対して評価します。開発教材を作成し、それをを用いた授業案を作成してもらいます。模擬授業における学生評価、自己評価を参考に評価します(60%)。最後の講義時に学習到達度を図る試験を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実験については全回出席が条件です。それまで行ったことのある実験でも、教えるという立場から、より深く学び取ってください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説(理科編)	文部科学省／東洋館出版社／／
実験で実践する魅力ある理科教育	川村康文他／オーム社／978-4-274-20920-8／

小学校、中学校の理科の教科書を用意しておいてください。なお、実験に関しては、その都度資料を配布します。現在、使用教科書を作成しています。講義中に連絡します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教員採用試験のための理科学習(仮称)	山下芳樹／オーム社／／2013年度出版予定

参考書は、その都度紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

適宜、紹介します。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

メールアドレスを講義中に連絡します。

その他 / Other

理科専科教員を目指す学生には、発展課題を与えます。また、授業外でも指導します。

拡張項目

算数科教育法 (SB)

12814

担当者名 / Instructor 岡本 尚子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、小学校6年間の算数科指導に必要な算数・数学教育学の学問的背景、実際の指導内容や指導方法を扱う。具体的には、算数教育の歴史や学習指導要領の内容とともに、児童の認識の特徴、理解が難しいとされる内容などについて言及し、指導方法の実例や留意点をとりあげる。また、後半からは、講義と併せてグループで授業を設計する活動を行い、指導方法の実際を経験してもらう。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 明治時代から第二次世界大戦後までの算数教育の歴史について、また戦後から現在までの算数教育の変遷(学習指導要領含む)について、社会背景とともに内容の特徴を説明することができる。
2. 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」「集合・論理」の各領域について、児童の認識の特徴を鑑み、指導上の留意点を示しながら指導内容・目標を設定することができる。
3. グループにおいて、各自が自身の役割を果たしながら互いに貢献することで、協力的に活動することができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特に定めない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	算数・数学教育とは？	目標、評価、先行研究、一般性
2	算数教育の歴史	黒表紙・緑表紙・水色表紙教科書、生活単元学習、数学教育の現代化、生きる力
3	学習指導要領の内容	算数的活動、表現する力、スパイラル
4	内容論「数と計算」	10進構造、整数、小数、分数
5	内容論「量と測定」	量感、長さ、面積、体積、角度、時間・時刻、速さ
6	内容論「図形」	図形の性質、平面、空間、運動、相似、展開図
7	内容論「数量関係」	関数、比例、反比例、文字、文字式、表、グラフ
8	内容論「集合・論理」/グループ活動	演繹的・帰納的・類推的推論、論理語、命題/グループ分け
9	方法論「授業設計」/グループ活動	教材・教具、学習指導案、目標設定、行為動詞/単元・目標の設定
10	方法論「授業実践」/グループ活動	発問、誤答分析、導入・展開・まとめ/教材観・児童観・指導観
11	グループ活動経過発表	プレゼンテーション、ディスカッション、クリティカルシンキング
12	評価論/グループ活動	診断的・形成的・総括的評価、全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS/授業展開
13	方法論「授業形式」/グループ活動	問題解決型、教えて考えさせる型、習熟度別編成、チーム・ティーチング/授業展開
14	情報通信技術を活用した算数教育/グループ活動成果発表	GeNii、デジタルコンテンツ、電子教科書/プレゼンテーション、評価
15	グループ活動成果発表	プレゼンテーション、評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

予習: キーワードに関する資料を検索して、事前学習をしておくことが望ましいです。
 復習: 授業の要約を400字程度で行い、学習記録として蓄積しておくことを勧めます。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向は講義中に説明を行います。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	50 %	20%: 出席 (毎回、コミュニケーション用紙の提出を求めます。)
		30%: グループ活動の成果 (プレゼンテーション、提出物で評価します。)
5回以上の欠席(公欠を除く)は、単位を認定しません。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分自身が小学校で学んだ算数科を振り返りながら、現在の算数科教育との相違を考えて下さい。それを踏まえ、教育実習では具体的にどの

ように学習した内容を活用できるかを想定するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
初等算数科教育法	黒田恭史 / ミネルヴァ書房 / 978-4-623-05763-4 / 算数科の教育方法について総合的に解説

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領	文部科学省 / 東京書籍 / 978-4-487-28695-9 / 小学校算数の移行措置内容についても掲載
小学校学習指導要領解説 算数編	文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4-491-02373-1 / 学習指導要領の具体的内容や要点について解説

その他の参考文献は、講義中に随時紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

- ①平成20年告示 小学校学習指導要領
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/
- ②調査データ・資料(教育課程関係)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/link/index.htm

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Other

Word, Excel, Power pointを用いて書類が作成できる程度の基本的操作能力を身に付けておいて下さい。また、小学校での研究授業、各種学会・研究会などに積極的に参加して下さい。学校現場での教育や児童の実態と、算数・数学教育学としての学術的研究の双方を関連付けながら、継続的に学ぶことを望みます。

拡張項目

授業の概要 / Course Outline

本講義では小学校理科での学習内容について、学習指導要領に準拠しながらも

- 縦断的(理科における学習内容の歴史的変遷課程)
- 横断的(生活科、また他分野、さらには他教科との関連性)

に捉えるとともに、「子どもの学びの視点」や「知的文化遺産(親学問)の継承という視点」に配慮しながら、より高度な理解を獲得し、実践的力量的形成、ならびに「教科指導に長けた理科の先生」の育成を目指す。指導案に授業設計の全てが漏れなく反映できる力量的形成を図る。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 小学校理科の2領域(A区分、B区分)とも、その内容・項目について理解し、説明できる。
2. 幼稚園(自然領域)、生活科との関連性、継続性について理解し配慮できる。
3. 児童の発達段階に応じた教材内容の提示ができる。
4. 小中高という教材自身の発展過程において小学校理科で扱うべき内容を位置づけることができ、適切な指導ができる。
5. 実験に関しては、安全性に配慮した適切な指導ができる。
6. (発展目標)模擬授業を通して、「教材」がいかに作用したかの診断、教材自身の持つ課題が発見でき、適切に解決の手だてを見出し、そのための実践ができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

理科入門Ⅰ, 初等理科教育法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	理科とは何を教える教科か(横断的視点の養成)	科学リテラシー、基礎知識の確認
2	小学校理科の指導内容の変遷(1)－学力観と学びの内容－	教科内容の不易と流行
3	小学校理科の指導内容の変遷(1)－適時性と学びの内容－	自然科学の体系と教材としての理科
4	教材としての理科の内容(1)－A区分:物質とエネルギー－	電気と磁石の世界(物理分野)
5	教材としての理科の内容(2)－A区分:物質とエネルギー－	電気の利用、電流の利用(物理分野)
6	教材としての理科の内容(3)－A区分:物質とエネルギー－	電気と磁気(クリップモーターの製作)、電磁誘導(物理分野)
7	教材としての理科の内容(4)－A区分:物質とエネルギー－	てこを有効な教材としたつりあい、振り子の運動(物理分野)
8	教材としての理科の内容(5)－A区分:物質とエネルギー－	安全な化学実験、物質の溶解(化学分野)
9	教材としての理科の内容(6)－A区分:物質とエネルギー－	気体の発生とその性質(化学分野)
10	教材としての理科の内容(7)－B区分:生命と地球－	月の満ち欠け(その1)(地学分野)
11	教材としての理科の内容(8)－B区分:生命と地球－	月の満ち欠け(その2)(地学分野)
12	小中高という流れで捉えた理科の内容(学習内容の位置づけ)	小学校理科では何を、どう指導すべきか
13	教材としての理科の内容(発展その1)(総合的な扱い)	開発教材の製作と学習指導案の作成
14	教材としての理科の内容(発展その2)(総合的な扱い)	開発教材の製作と学習指導案の作成
15	教材としての理科の内容(発展その3)(総合的な扱い)	実験をベースとした模擬授業の実施

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

適宜、理科の基礎的内容(実験の手法を問う問題を含む)を問う問題を出します。それに答えることが事前学習(予習)になります。予習なくして、

実験はできないと考えてください。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	(60%) 授業内レポート、小テスト、指導案の作成 学習の度合いをみるために小テストを数回実施する。また、開発教材を用いた指導案を作成し、模擬授業を実施する。 (40%) 実験レポートの作成 小学校理科各分野の知識、技能の定着をみる。

3分の2以上の出席者に対して評価します。開発教材を作成し、それを用いた授業案を作成してもらいます。模擬授業における学生評価、自己評価を参考に評価します(60%)。最後の講義時に学習到達度を図る試験を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実験については全回出席が条件です。それまで行ったことのある実験でも、教えるという立場から、より深く学び取ってください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説(理科編)	文部科学省／東洋館出版社／／
実験で実践する魅力ある理科教育	川村康文他／オーム社／978-4-274-20920-8／

小学校、中学校の理科の教科書を用意しておいてください。なお、実験に関しては、その都度資料を配布します。現在、使用教科書を作成しています。講義中に連絡します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教員採用試験のための理科学習(仮称)	山下芳樹／オーム社／／2013年度発行予定

参考書は、その都度紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

その都度紹介します。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

メールアドレスを講義中に連絡します。

その他 / Other

理科専科教員を目指す学生には、発展課題を与えます。また、授業外でも指導します。

拡張項目

算数科教育法 (SA)

12839

担当者名 / Instructor 岡本 尚子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、小学校6年間の算数科指導に必要な算数・数学教育学の学問的背景、実際の指導内容や指導方法を扱う。具体的には、算数教育の歴史や学習指導要領の内容とともに、児童の認識の特徴、理解が難しいとされる内容などについて言及し、指導方法の実例や留意点をとりあげる。また、後半からは、講義と併せてグループで授業を設計する活動を行い、指導方法の実際を経験してもらう。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 明治時代から第二次世界大戦後までの算数教育の歴史について、また戦後から現在までの算数教育の変遷(学習指導要領含む)について、社会背景とともに内容の特徴を説明することができる。
2. 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」「集合・論理」の各領域について、児童の認識の特徴を鑑み、指導上の留意点を示しながら指導内容・目標を設定することができる。
3. グループにおいて、各自が自身の役割を果たしながら互いに貢献することで、協力的に活動することができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特に定めない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	算数・数学教育とは？	目標、評価、先行研究、一般性
2	算数教育の歴史	黒表紙・緑表紙・水色表紙教科書、生活単元学習、数学教育の現代化、生きる力
3	学習指導要領の内容	算数的活動、表現する力、スパイラル
4	内容論「数と計算」	10進構造、整数、小数、分数
5	内容論「量と測定」	量感、長さ、面積、体積、角度、時間・時刻、速さ
6	内容論「図形」	図形の性質、平面、空間、運動、相似、展開図
7	内容論「数量関係」	関数、比例、反比例、文字、文字式、表、グラフ
8	内容論「集合・論理」/グループ活動	演繹的・帰納的・類推的推論、論理語、命題/グループ分け
9	方法論「授業設計」/グループ活動	教材・教具、学習指導案、目標設定、行為動詞/単元・目標の設定
10	方法論「授業実践」/グループ活動	発問、誤答分析、導入・展開・まとめ/教材観・児童観・指導観
11	グループ活動経過発表	プレゼンテーション、ディスカッション、クリティカルシンキング
12	評価論/グループ活動	診断的・形成的・総括的評価、全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS/授業展開
13	方法論「授業形式」/グループ活動	問題解決型、教えて考えさせる型、習熟度別編成、チーム・ティーチング/授業展開
14	情報通信技術を活用した算数教育/グループ活動成果発表	GeNii、デジタルコンテンツ、電子教科書/プレゼンテーション、評価
15	グループ活動成果発表	プレゼンテーション、評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

予習: キーワードに関する資料を検索して、事前学習をしておくことが望ましいです。
復習: 授業の要約を400字程度で行い、学習記録として蓄積しておくことを勧めます。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向は講義中に説明を行います。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	50 %	20%: 出席 (毎回、コミュニケーション用紙の提出を求めます。) 30%: グループ活動の成果 (プレゼンテーション、提出物で評価します。)
5回以上の欠席(公欠を除く)は、単位を認定しません。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分自身が小学校で学んだ算数科を振り返りながら、現在の算数科教育との相違を考えて下さい。それを踏まえ、教育実習では具体的にどの

ように学習した内容を活用できるかを想定するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
初等算数科教育法	黒田恭史 / ミネルヴァ書房 / 978-4-623-05763-4 / 算数科の教育方法について総合的に解説

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領	文部科学省 / 東京書籍 / 978-4-487-28695-9 / 小学校算数の移行措置内容についても掲載
小学校学習指導要領解説 算数編	文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4-491-02373-1 / 学習指導要領の具体的内容や要点について解説

その他の参考文献は、講義中に随時紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

- ①平成20年告示 小学校学習指導要領
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/
- ②調査データ・資料(教育課程関係)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/link/index.htm

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Other

Word, Excel, Power pointを用いて書類が作成できる程度の基本的操作能力を身に付けておいて下さい。また、小学校での研究授業、各種学会・研究会などに積極的に参加して下さい。学校現場での教育や児童の実態と、算数・数学教育学としての学術的研究の双方を関連付けながら、継続的に学ぶことを望みます。

拡張項目

日本語教授法基礎演習 I (LB)

14808

担当者名 / Instructor 彦坂 萬智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- 1 日本語教授法には大きく分けて2つの課題がある。ひとつは何を教えるかという内容であり、もうひとつはどのように教えるかという方法である。前期では内容について学ぶ。
- 2-1まず、音声学について[IPA]と比較しながら日本語の音声・発音の特徴を学ぶ。2-2次に、文字・語彙についてそれを支える仮名・漢字を中国漢字との対照、外国語との意味比較から考える。2-3そして、文法―構文については、文末決定性のある日本語を、テンス・アスペクト・ムードなど、述部の特徴を中心に学習する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- 1 日常生活でも留学生や異文化に対して交流・理解を深める姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語教育能力検定試験合格を意識すること。
- 2 日本語教授法には絶対的なものがあるわけではないことを理解し、日本語学習者と意味を分かち合おうとする姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語への学究的な関心を寄せ、それを日常生活全般に活かす努力を重ねること。
- 3 講義の内容を正確に受信し、また自ら発信する力を養う。タスクの相互評価会を通して、他者の評価を受け入れ、客観的な自己評価能力の伸長を図る。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

- 1 まず、日本語学、日本語教育学および言語系周辺の科目を履修する
- 2 次に、日本事情及び異文化間コミュニケーション周辺の科目を履修することが望ましい
- 3 また、日本と国際関係論についての科目を履修することが望ましい
- 4 自らも外国語科目習得に努力し、日本語学習者の気持ちが理解できるようにしたい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	前期ガイダンスコース・デザインのために事前に 1 ニーズ調査 2レディネス調査 3 学習者背景調査の実施	受講に当たっての留意点 1 欠席時と遅刻時の留意点 2 評価基準の説明(試験の種類と割合)3 前期15週間に亘るコースデザインの概観
2	ニーズ分析と抽出 コース・デザイン(シラバスとカリキュラム)の修正 音声・音韻論 1	[IPA]と50音図
3	音声・音韻論 2	拍とシラブル
4	音声・音韻論 3	アクセントとイントネーションとプロミネンス 客観テスト1「音声・音韻論」
5	音声・音韻論 4	主観テスト1「音声・音韻論」 相互評価
6	文字・語彙論 1	日本語の文字、仮名と漢字と外来語
7	文字・語彙論 2	語の構成
8	文字・語彙論 3	語の意味 客観テスト2「文字・語彙論」
9	文字・語彙論 4	主観テスト2「文字・語彙論」 相互評価
10	文法―構文論 1	日本語構文の特徴
11	文法―構文論 2	テンスとアスペクト
12	文法―構文論 3	モダリティとヴォイス 客観テスト3「文法―構文論」

13
文法一構文論 4

主観テスト「文法一構文論」
相互評価

14
前期試験その1 客観テスト60分 + 試験解答解説30分
= 90分間

信頼性と妥当性に留意したテストを作成し実施したい。
多肢選択、再生法、組み合わせ法、空所補充法など、
複合的形式の試験をする。

15
前期試験その2 主観テスト60分 + 試験解答解説30分
= 90分間文章産出テスト+インタビュー

前期試験その1(客観テスト)を返却し、今後の研究上で
の課題・問題点を話し合う

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	1 前期最終講義日に到達度試験 2 後期最終講義日に到達度試験 1+2=25% 3 月例のタスク 25% 4 月例の試験 25% 5 授業への積極的な参加度 25%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本語能力試験ターゲット2000N1単語	旺文社 / 旺文教育コンテンツ部 / 978-4-01-092402-0 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

オフィスアワーを設定します。

その他 / Other

拡張項目

精神保健福祉現場実習 (S)

20544

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

事前・事後の精神保健福祉援助実習(s)の一環として保健・医療施設および社会復帰施設等福祉施設での現場実習を行う。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ①精神保健福祉士として必要な知識について理解を深めると共に、相談援助その他の技術を習得する。
- ②実習での具体的な体験等を、専門的援助技術として概念化、理論化し、体系立てていくことができる能力を育てる。
- ③職業倫理を身につけ、専門職としての自覚を育てる。
- ④関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深める。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	次のものを判定の材料とする。 ①現場実習指導者の実習評価 ②現場実習参加状況 ③現場実習時の実習記録、各自が自主的に記載したメモ

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

現場実習である為、緊急時の連絡等は実習指導室で指導する。

その他 / Other

拡張項目

精神保健福祉援助演習 (S)

12580

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

精神科ソーシャルワーカーの養成において重要な役割を果たすのが精神保健福祉援助演習である。精神保健福祉に関する他の科目で学んだ理論を、教員と学生の共同作業により具象化し、精神科ソーシャルワーカーの専門性(価値・倫理、知識、技術)を培う。当事者の生活と権利を護り、当事者のパートナーとして実践を展開するために必要な倫理や価値、さらに技術をディベート、グループワーク、ロールプレイ等々を活用し獲得することを目指す。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ① 揺れながら共に学び、共に育つ。
- ② 討論できる精神科ソーシャルワーカーとして育つ。
- ③ 生きづらさを持つ個々の精神障害者と同様の課題を持つ仲間達が、社会に参加する力を獲得するプロセスを提示できる力を獲得する。
- ④ 専門性を獲得する為に自己に求められている課題と対峙する力を獲得する。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

精神保健福祉実習は本科目と同時に履修しなければならない。
他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	援助演習の約束, 未熟な自己との出会い, 自己開示
2	精神障害者の生活と支援①	当事者理解 KJ法
3	精神障害者の生活と支援②	リフレーミング, ストレングス
4	自己覚知を見つめる	自身の長所・短所, ゲーム, 他己紹介
5	支援関係形成とコミュニケーション・スキル②	バイステック7原則 循環的關係
6	支援関係形成とコミュニケーション・スキル③	言語的・非言語的コミュニケーション, ロールプレイ
7	課題の発見・分析と支援計画① ー統合失調症ー	当事者の語り, Strengths Perspective, ICF, QOL
8	課題の発見・分析と支援計画② ーアディクションー	マッピング技法, 共依存, 家族支援
9	課題の発見・分析と支援計画③ ー思春期・青年期ー	家族システム, 多機関連携, 発達支援
10	課題の発見・分析と支援計画④ ーうつ病と自殺ー	抑うつ, うつ病, 自殺念慮, 自殺予防
11	課題の発見・分析と支援計画⑤ ー社交不安障害と社会参加ー	SAD, 治療と社会参加, 付随症状
12	保健所におけるソーシャルワーク事例	危機対応, 受療支援, 退院促進
13	精神科病院におけるソーシャルワーク事例	権利擁護, 家族調整, 退院促進, 住居設定
14	就労移行・就労継続とソーシャルワーク	柔らかな危機対応, 自立支援, ステイグマ
15	前期のまとめ	実習前課題
16~17	グループワーク	心理教育 統合失調症圏 思春期・青年期圏 アディクション圏
18~28	スーパービジョン	実習報告, 限界と課題, 自己の可能性
29~30	統括的まとめ	視点, 対処法, 倫理, 自己覚知

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	演習活動への参加、事前学習レポート、実習計画、実習報告、実習記録などを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

精神保健福祉援助実習を参考にすること。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

算数 (SB)

12876

担当者名 / Instructor 岡本 尚子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校教員として算数科を指導する際、小学校での内容の系統性や領域間のつながりを理解するとともに、その内容が中・高等学校の数学にどのようにつながっていくのかを把握しておく必要がある。また、各領域において小学生が持つ認識の特徴を理解した上で、指導上どのような点に留意しながら、どのような能力を育成するべきかを考えることが重要となる。そこで、本授業では、算数科の内容とともに、指導の下支えとなる各領域の数学的内容や、小学生の認識調査の結果などについて扱うことにより、算数科指導の意義を深めていく。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 算数科の各領域について、各学年の内容の概略を説明することができる。
2. 算数科の各領域における小学生の認識の特徴について具体例を挙げて説明することができる。
3. 算数科の基礎となる数学的内容について、用語を理解し、説明することができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

算数科教育法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	算数・数学の系統性①	小・中・高の内容の接続, 自身の算数・数学経験
2	算数・数学の系統性②	数と計算, 量と測定, 図形, 数量関係
3	数と計算 ①数の種類について	集合数, 順序数, 実数, 無理数, 有理数, 整数, 分数, 小数
4	数と計算 ②数の性質について	無限小数, 有理数, 計算機
5	図形 ①図形についての子どもの認識	立方体, 鉛直, 水平, 運動
6	図形 ②平面図形について	点, 直線, 曲線, コンパス, 分度器
7	図形 ③平面図形について	曲線, 円定規, コンパス, 分度器
8	図形 ④変換について	アフィン変換, 射影変換, アルベルティの作図法
9	量と測定 ①量についての子どもの認識	速さ, 長さ, 重さ, 広さ, 量感
10	量と測定 ②量についての計算	単位, 距離・速さ・時間の計算
11	量と測定 ③測定についての計算	不定形の面積, はさみ, ものさし, 電卓
12	集合・論理 ①集合と論理について	補集合, ベン図, 合接, 離接, 真・偽, 真理表
13	集合・論理 ②推論形式について	逆, 裏, 対偶, 三段論法
14	確率・統計	場合の数, 期待値, 確率分布
15	現実事象と数学	フィボナッチ数列, モジュール演算, 数学的遠近法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

予習: キーワードに関する資料を検索して、事前学習しておくことが望ましいです。
 復習: 授業の要約を400字程度で行い、学習記録として蓄積しておくことを勧めます。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向は講義中に説明を行います。
レポート試験	30 %	レポート内容と評価基準は、講義中に提示します。
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	20 %	毎回、コミュニケーション用紙の提出を求めます。

5回以上の欠席(公欠を除く)は、単位を認定しません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義で学習した数学的内容と、算数科での学習内容との関連を理解し、小・中・高等学校を通しての学習内容の系統性を考えるようにして下さい。また、学習した内容が現実事象でどのように活かされているかを考えて下さい。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて講義で資料を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領	文部科学省 / 東京書籍 / 978-4-487-28695-9 / 小学校算数の移行措置内容について

でも掲載

 小学校学習指導要領解説 算数編

文部科学省／東洋館出版社／978-4-487-28695-9／学習指導要領の具体的内容や
 要点について解説

 数学教育の基礎

黒田恭史／ミネルヴァ書房／978-4-623-05995-9／算数科指導の際に重要となる数
 学的内容について解説

 その他の参考文献は、講義中に随時紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

- ①平成20年告示 小学校学習指導要領
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/
- ②調査データ・資料(教育課程関係)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/link/index.htm

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Other

レポートはPCによる作成を求める場合がありますので、Word, Excel, Power pointを用いて書類が作成できる程度の基本的操作能力を身に付けておいて下さい。また、小学校での研究授業、各種学会・研究会などに積極的に参加して下さい。学校現場での教育や児童の実態と、算数・数学教育学としての学術的研究の双方を関連付けながら、継続的に学ぶことを望みます。

拡張項目

異文化研究 I (SC)

13793

担当者名 / Instructor 文 楚雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は中国語を少し習った2回生以上の学生を対象とし、中国映画を中心とした映像資料を教材とします。中国映画の原音を聞きながら、字幕を通じて物語の展開を理解していきます。映画を通じて中国の文化や社会を読み解いていきます。と同時に中国語の能力も高めていきます。これがこの授業のねらいであります。前期では7本程度の映画を見る予定をしています

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- 中国映画を通して中国の社会や文化を理解することができる。
- 中国語のリスニング力を高めることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 映画「黄土地」を鑑賞しながら、討論する。	
	第2回 「黄土地」について討論、感想文を書く。	
	第3回 映画「熱恋」を鑑賞しながら、討論する。	
	第4回 「熱恋」について討論、感想文を書く。	
	第5回 映画「暖(故郷の香り)」を鑑賞しながら、討論する。	
	第6回 「暖(故郷の香り)」について討論、感想文を書く。	
	第7回 映画「那山、那人、那狗」を鑑賞しながら、討論する。	
	第8回 「那山、那人、那狗」について討論、感想文を書く。	
	第9回 映画「天堂口」を鑑賞しながら、討論する。	
	第10回 「天堂口」について討論、感想文を書く。	
	第11回 映画「海角七号」を鑑賞しながら、討論する。	
	第12回 「海角七号」について討論、感想文を書く。	
	第13回 映画「千里走単騎」を鑑賞しながら、討論する。	
	第14回 「千里走単騎」について討論、感想文を書く。	
	第15回 前期のまとめと前期のレポート作成。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	日常的な取り組みや出席は50%、感想文、レポートは50%。

上映予定の映画を差し替える場合がある。出席を重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

電話: 直通075-466-3132 内線3850
メール: wen-chux@ss.ritsumeai.ac.jp

拡張項目

算数 (SA)

12950

担当者名 / Instructor 岡本 尚子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校教員として算数科を指導する際、小学校での内容の系統性や領域間のつながりを理解するとともに、その内容が中・高等学校の数学にどのようにつながっていくのかを把握しておく必要がある。また、各領域において小学生が持つ認識の特徴を理解した上で、指導上どのような点に留意しながら、どのような能力を育成するべきかを考えることが重要となる。そこで、本授業では、算数科の内容とともに、指導の下支えとなる各領域の数学的内容や、小学生の認識調査の結果などについて扱うことにより、算数科指導の意義を深めていく。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 算数科の各領域について、各学年の内容の概略を説明することができる。
2. 算数科の各領域における小学生の認識の特徴について具体例を挙げて説明することができる。
3. 算数科の基礎となる数学的内容について、用語を理解し、説明することができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

算数科教育法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	算数・数学の系統性①	小・中・高の内容の接続, 自身の算数・数学経験
2	算数・数学の系統性②	数と計算, 量と測定, 図形, 数量関係
3	数と計算 ①数の種類について	集合数, 順序数, 実数, 無理数, 有理数, 整数, 分数, 小数
4	数と計算 ②数の性質について	無限小数, 有理数, 計算機
5	図形 ①図形についての子どもの認識	立方体, 鉛直, 水平, 運動
6	図形 ②平面図形について	点, 直線, 曲線, コンパス, 分度器
7	図形 ③平面図形について	曲線, 円定規, コンパス, 分度器
8	図形 ④変換について	アフィン変換, 射影変換, アルベルティの作図法
9	量と測定 ①量についての子どもの認識	速さ, 長さ, 重さ, 広さ, 量感
10	量と測定 ②量についての計算	単位, 距離・速さ・時間の計算
11	量と測定 ③測定についての計算	不定形の面積, はさみ, ものさし, 電卓
12	集合・論理 ①集合と論理について	補集合, ベン図, 合接, 離接, 真・偽, 真理表
13	集合・論理 ②推論形式について	逆, 裏, 対偶, 三段論法
14	確率・統計	場合の数, 期待値, 確率分布
15	現実事象と数学	フィボナッチ数列, モジュール演算, 数学的遠近法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

予習: キーワードに関する資料を検索して、事前学習をしておくことが望ましいです。
 復習: 授業の要約を400字程度で行い、学習記録として蓄積しておくことを勧めます。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向は講義中に説明を行います。
レポート試験	30 %	レポート内容と評価基準は、講義中に提示します。
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	20 %	毎回、コミュニケーション用紙の提出を求めます。

5回以上の欠席(公欠を除く)は、単位を認定しません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義で学習した数学的内容と、算数科での学習内容との関連を理解し、小・中・高等学校を通しての学習内容の系統性を考えるようにして下さい。また、学習した内容が現実事象でどのように活かされているかを考えて下さい。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて講義で資料を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領	文部科学省 / 東京書籍 / 978-4-487-28695-9 / 小学校算数の移行措置内容について

でも掲載

 小学校学習指導要領解説 算数編

文部科学省／東洋館出版社／978-4-487-28695-9／学習指導要領の具体的内容や
 要点について解説

 数学教育の基礎

黒田恭史／ミネルヴァ書房／978-4-623-05995-9／算数科指導の際に重要となる数
 学的内容について解説

 その他の参考文献は、講義中に随時紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

- ①平成20年告示 小学校学習指導要領
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/
- ②調査データ・資料(教育課程関係)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/link/index.htm

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Other

レポートはPCによる作成を求める場合がありますので、Word, Excel, Power pointを用いて書類が作成できる程度の基本的操作能力を身に付けておいて下さい。また、小学校での研究授業、各種学会・研究会などに積極的に参加して下さい。学校現場での教育や児童の実態と、算数・数学教育学としての学術的研究の双方を関連付けながら、継続的に学ぶことを望みます。

拡張項目

異文化研究Ⅱ (SC)

16580

担当者名 / Instructor 文 楚雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は中国語を少し習った2回生以上の学生を対象とし、中国映画を中心とした映像資料を教材とします。中国映画の原音を聞きながら、字幕を通じて物語の展開を理解していきます。映画を通じて中国の文化や社会を読み解いていきます。と同時に中国語の能力も高めていきます。これがこの授業のねらいであります。後期では7本程度の映画を見る予定をしています。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- 中国映画を通して中国の社会や文化を理解することができる。
- 中国語のリスニング力を高めることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 映画「非誠勿擾」を鑑賞しながら、討論する。	
	第2回 「非誠勿擾」について討論、感想文を書く。	
	第3回 映画「最初の愛最後の愛」を鑑賞しながら、討論する。	
	第4回 「最初の愛最後の愛」について討論、感想文を書く。	
	第5回 映画「花腰新娘」を鑑賞しながら、討論する。	
	第6回 「花腰新娘」について討論、感想文を書く	
	第7回 映画「十面埋伏」を鑑賞しながら、討論する。	
	第8回 「十面埋伏」について討論、感想文を書く。	
	第9回 映画「絆」を鑑賞しながら、討論する。	
	第10回 「絆」について討論、感想文を書く	
	第11回 映画「蘇菲的復讐」を鑑賞しながら、討論する。	
	第12回 「蘇菲的復讐」について討論、感想文を書く。	
	第13回 映画「緑茶」を鑑賞しながら、討論する。	
	第14回 「緑茶」について討論、感想文を書く。	
	第15回 後期のまとめと後期のレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	日常的な取り組みや出席は50%、感想文、レポートは50%。
上映予定の映画を差し替える場合がある。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

予定の映画を差し替える場合がある。出席を重視する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

電話: 直通075-466-3132 内線3850

メール: wen-chux@ss.ritsumeai.ac.jp

拡張項目

初等社会科教育法 (SB)

12218

担当者名 / Instructor 中西 仁

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

授業スケジュールの前半は、社会科の目標、歴史、生活科との違い、現行学習指導要領に定められた小学校社会科の目標及び内容、学習指導要領に沿った年間指導計画の作成など小学校社会科指導の基礎的知識・技能について学ぶ。後半は、「教材」「基礎・基本」「個に応じた指導」「問題解決能力」「評価」などに焦点を当て、実際に社会科の指導を行う際のポイントについて、実践例を通して考える。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ①小学校社会科の目標及び内容を理解できる。
- ②小学校社会科の指導計画作成・授業実践・評価のポイントが理解できる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	小学校社会科授業を振り返る	社会科授業体験
2	社会科のあゆみ	社会科教育史
3	社会科の目標	公民的資質
4	社会科でつきたい力	社会認識
5	学習指導要領1	改訂の要点
6	学習指導要領2	各学年の目標・内容
7	授業実践に学ぶ1	教材開発
8	授業実践に学ぶ2	地域教材
9	授業実践に学ぶ3	子どもとのやりとり
10	授業実践に学ぶ4	ロールプレイ
11	授業実践に学ぶ5	調べ学習
12	社会科授業づくり1	教材研究
13	社会科授業づくり2	授業構想
14	社会科授業づくり3	学習指導案
15	社会科授業づくり4	模擬授業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	実際の小学校社会科授業で実施可能な授業を設計できるか。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	60 %	・きちんと授業に出席した上で、講義中に適宜行う話し合いやプレゼンテーションなどの学習活動に積極的に参加する。 ・講義内容に関するミニレポート作成において、講義内容を理解した上で、自らの意見や考えをまとめることができる。
出席重視。2/3以上の出席が無い者は、上記の課題の成績如何に関わらず単位を認めない。 出席は授業開始後すぐにとる。20分以上の遅刻は欠席扱いとする。遅刻2回で欠席1回とカウントする。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職につくための知識・技能を習得する授業であると同時に、教職に対するキャリア開発の授業と考えているので、教職にふさわしくない受講態度は謹んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会 6上	／東京書籍／小学校検定教科書／
小学校学習指導要領解説社会編	／文部科学省／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目

行政法 I (JC)

17857

担当者名 / Instructor 湊 二郎

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

行政法は、(ア)行政の組織に関する行政組合法、(イ)行政の対私人作用(行政作用)に関する行政作用法、(ウ)行政作用により権利利益を害される者の救済に関する行政救済法に区別されることがある。この授業では、(ア)および(イ)について、教科書(宇賀克也『行政法』)に従い、主要な法的仕組み・学説・裁判例を学ぶ。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- (1) 行政組織に関する基本的な法的仕組みを説明できる。
- (2) 行政作用にどのようなものがあるかを説明できる。
- (3) 行政作用がどのような法的規制を受けているかを説明できる。
- (4) 行政作用に関する主要な学説および裁判例を説明できる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス / 行政法の特徴・法源・効力	授業の到達目標・進行方法、成績評価方法 / 行政主体・行政機関・行政庁、慣習法・判例法
2	行政活動の種類、規制行政(1)	許可制、特許制、認可制
3	規制行政(2)	附款、届出制、下命制・禁止制、即時強制
4	給付行政	官民の役割分担、給付決定の方式、公物使用
5	行政資源取得行政 / 誘導行政	租税の賦課徴収、土地収用、公務員の任用 / インセンティブ・ディスインセンティブ
6	法律による行政の原理	法律の優先、法律の留保、侵害留保説・全部留保説・重要事項留保説
7	行政法の一般原則	信義則、比例原則、平等原則
8	行政法と民事法 / 行政過程における私人	公法私法二元論、取締法規・強行法規 / 権利能力・行為能力、意思表示の瑕疵・撤回
9	行政行為の意義・分類	規律力、行政行為と行政処分、申請に対する処分と不利益処分
10	行政裁量	要件裁量・効果裁量、裁量権の逸脱濫用、実体的判断過程統制審査
11	瑕疵ある行政行為(1)	行政行為の瑕疵の分類、取消訴訟の排他的管轄
12	瑕疵ある行政行為(2)	違法性の承継、瑕疵の治癒、理由の追加・差替え
13	行政行為の成立・発効・失効	到達主義、職権取消し、撤回
14	申請に対する処分の手続	審査基準、標準処理期間、補正、拒否処分の理由提示
15	不利益処分の手続	処分基準、聴聞と弁明の機会の付与、理由提示
16	行政契約	公害防止協定、一般競争入札・指名競争入札・随意契約
17	行政指導(1)	武蔵野市マンション事件、品川区マンション事件
18	行政指導(2)	行政指導の一般原則、申請に関連する行政指導、行政指導の方式、行政指導指針
19	法規命令	法規概念、委任をした法律の合憲性、委任命令の適法性
20	行政規則	解釈基準、裁量基準、指導要綱
21	意見公募手続	命令等、案等の公示、提出意見の考慮、結果の公示
22	行政計画	拘束的計画、計画裁量、計画策定手続
23	行政情報の収集・管理・利用(1)	任意調査・間接強制調査、所持品検査、自動車の一斉検問、令状主義、黙秘権
24	行政情報の収集・管理・利用(2)	行政機関個人情報保護法、公文書管理法
25	行政情報の公開(1)	行政文書、開示請求、個人に関する情報、法人等情報
26	行政情報の公開(2)	国・公共の安全等に関する情報、審議検討情報、事務事業情報、インカメラ審理

27	行政上の義務履行強制	代執行, 執行罰, 直接強制, 行政上の強制徴収
28	行政上の義務違反に対する制裁	行政刑罰, 行政上の秩序罰
29	行政組織法総論(1)	行政組織編成権, 作用法的行政機関概念, 組織法的行政機関概念
30	行政組織法総論(2)	権限の委任・代理, 専決・代決, 訓令・職務命令

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

【予習】次回の授業で取扱うテーマにつき, 上記のキーワードを参考にして, 教科書の該当部分を一通り読んでおく。

【復習】授業の内容と教科書の内容を比較し, 重要度の高い部分と低い部分を区別する。その上で, 重要度の高い部分をまとめたノートを作成する。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	行政法の基本的理解即ち行政法の基本原則及び概念の理解度とその応用力が習得できているかを評価基準とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中においては, 他の学生の受講の妨げとなるような行為は絶対にしないこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法	宇賀克也 / 有斐閣 / 9784641131163 / この本に従って講義するので, 必携。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法概説 I	宇賀克也 / 有斐閣 / 9784641130906 / 教科書で詳しく説明されていない事項が気になる人に。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

小型六法に掲載されていない法令を参照したい場合に, 法令データ提供システム <http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

法科大学院専任教員であるため, 連絡方法は電子メールとさせていただきます。メールアドレスは最初の授業時にお知らせする。

その他 / Other

拡張項目

情報リテラシーⅢ (SM) § 情報処理 (SM)

14006

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合(初級)』...(SNクラスと同内容):2011年度までの(入門)

「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編。

入門クラスは、『Officeソフト総合(入門)』(SAクラス)

上級クラスは、『Officeソフト総合(中級)』(SJクラス)。

Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでく。講義は、復習から始め、より実践的な総合演習へと進めていく。情報リテラシーIやIIの続きとしては、最も連続性が高いもの。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

Windows/パソコンの基礎。

Officeソフトの基礎と応用。

特にExcelの実用的な使用方法。

パソコンの総合的な利用方法。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

講義は、情報リテラシーI及び情報リテラシーIIの復習を一部、含んでいる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック/ファイル操作復習
2	Word復習	(文字とオブジェクト/書式/プリント・スクリーンの利用)
3	実習(1)	パソコン・マニュアル
4	Excel復習-1	(位置関係/表と計算/絶対参照)
5	Excel復習-2	(表示形式/関数(sum,average,count.if)/グラフ)
6	Excel復習-3	(復習と応用)
7	実習(2)	Excelによる分析
8	Excel発展-1	(検索(vlookup)、文字列操作(len,mid,find))
9	Excel発展-2	(エラー処理(isna)/検索応用)
10	Excel発展-3	(復習と応用)
11	実習(3)	検索実習
12	OLE発展-1	(Web上のデータ利用/ペイント)
13	OLE発展-2	(リンク貼り付け)
14	実習(4)-1	課題
15	実習(4)-2	課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	最終課題を含めた課題など。 実習状況など。
進度等により調整を行う。 最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。

また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Other

拡張項目

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合(初級)』...(SMクラスと同内容):2011年度までの(入門)

「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編。

入門クラスは、『Officeソフト総合(入門)』(SAクラス)

上級クラスは、『Officeソフト総合(中級)』(SJクラス)。

Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでく。講義は、復習から始め、より実践的な総合演習へと進めていく。情報リテラシーIやIIの続きとしては、最も連続性が高いもの。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

Windows/パソコンの基礎。

Officeソフトの基礎と応用。

特にExcelの実用的な使用方法。

パソコンの総合的な利用方法。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

講義は、情報リテラシーI及び情報リテラシーIIの復習を一部、含んでいる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック/ファイル操作復習
2	Word復習	(文字とオブジェクト/書式/プリント・スクリーンの利用)
3	実習(1)	パソコン・マニュアル
4	Excel復習-1	(位置関係/表と計算/絶対参照)
5	Excel復習-2	(表示形式/関数(sum,average,count.if)/グラフ)
6	Excel復習-3	(復習と応用)
7	実習(2)	Excelによる分析
8	Excel発展-1	(検索(vlookup)、文字列操作(len,mid,find))
9	Excel発展-2	(エラー処理(isna)/検索応用)
10	Excel発展-3	(復習と応用)
11	実習(3)	検索実習
12	OLE発展-1	(Web上のデータ利用/ペイント)
13	OLE発展-2	(リンク貼り付け)
14	実習(4)-1	課題
15	実習(4)-2	課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	最終課題を含めた課題など。 実習状況など。
進捗等により調整を行う。 最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。

また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Other

拡張項目

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『セキュリティ入門』

『セキュリティ(入門)』及び『パソコン実践教育(セキュリティ編)』が統合されたクラス。

パソコンだけでなく、携帯やテレビなどがネットワークで結ばれ、ユビキタス社会が形成されていく中で、総合的なセキュリティの基礎知識を身につけると共に、今後どのように対処していけばよいかを考えていく。

なりすましやウイルス、詐欺、架空請求、サイバー・テロあるいは個人情報の流出などに見られるように、現代に於いてはセキュリティは最重要課題であり、誰もが学んでおくべきものである。社会人、特に教員や公務員になろうとする者は、正しい認識と対処方法を習得しておくべきである。この講座では、セキュリティ向上のため、生徒や同僚にその必要性を教示していくことも念頭に置きながら、セキュリティの基礎を実践的に学んでいく。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

情報リテラシーの確認

情報セキュリティの基礎知識(ウイルス、不正アクセス、著作権など)

リスクへの対処方法

教示方法

などの習得。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック
2	「ユビキタス」の基礎知識	情報、コンピュータ
3	実習(1)ー1 「ユビキタス」	プレゼン作成
4	実習(1)ー2 「ユビキタス」	プレゼン/ディスカッション
5	ウイルスとその基本対策	ウイルス、ワーム、種類、対策ソフト
6	不正アクセスとその基本対策	ユーザーIDとパスワード、不正アクセス、ウイルス、なりすまし
7	実習(2)ー1 対策チェックリスト	対策チェックリスト作成
8	実習(2)ー2 対策チェックリスト	対策チェックリスト作成
9	実習(2)ー3 対策チェックリスト	対策チェックリスト のチェック及びディスカッション
10	著作権	知的財産権、特許、商標、著作権、フリーウェア、
11	実習(3)	知的財産権戦略とその問題性ディスカッション
12	暗号化技術	暗号化技術、ネット・ショッピング、素数
13	匿名性	匿名性、ID、本人認証、ネット・ショッピング
14	実習(4)ー1 「セキュリティの必要性和教育」(最終課題)	プレゼン/ディスカッション
15	実習(4)ー2 「セキュリティの必要性和教育」(最終課題)	プレゼン/ディスカッション まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

プレゼンテーション作成のために、ある程度の授業外学習が必要である。

受講生数、受講生のスキルにより、調整する場合がある。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	最終課題、発表、そのほかの実習課題、実習状況など。
進度等により調整を行う。		
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。		
また、グループ学習(発表)への不参加は、大きな減点となる。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
グループ課題などを作成するために、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Other

拡張項目

情報リテラシーⅢ (SJ) § 情報処理 (SJ)

16523

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合(中級)』:(Excel中心)

情報リテラシーI、IIIに続く上級編。

入門クラスは、『Officeソフト総合(入門)』(SAクラス)

中級クラスは、『Officeソフト総合(初級)』(MA, SNクラス):2011年度までの(入門)

Officeソフトの総合的な利用を目指すとともに、もっともよく使われるExcelのスキル・アップを図っていく。Officeソフトを扱うクラスでは、もっとも実践的で、仕上げのクラスである。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

Officeソフトの基礎と応用。

特にExcelの実践な使用方法。

Excelの関数

Excelのデータベース機能。

Excelのマクロ機能の基礎。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	Word・Excel・OLE復習	
3	Word発展(1)	スタイルとアウトライン／脚注／目次／ページ区切り
4	実習(1)	アウトライン
5	Excel発展(1)	Database オートフィルタ／並び替え／集計／フォーム
6	Excel発展(2)	Database 項目作成／vlookup
7	実習(2)	Database 仮想店舗売り上げ
8	Excel発展(3)	文字列操作(len,mid,find)
9	Excel発展(4)	Webデータの利用
10	実習(3)	検索実習
11	Excel発展(5)	マクロの基礎(1)記録と保存
12	Excel発展(6)	マクロの基礎(2)変数、繰り返し、if
13	実習(4)ー1	最終課題
14	実習(4)ー2	最終課題
15	実習(4)ー3	課題及び最終課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	最終課題及び課題、実習状況など。
進捗等により調整を行う。 最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。

また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Other

拡張項目

情報リテラシーⅢ (SA) § 情報処理 (SA)

13814

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合(入門)』

「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く初級編。

やや上級のクラスは、『Officeソフト総合(初級)』(SM, SNクラス):2011年度までの(入門)

上級クラスは、『Officeソフト総合(中級)』(SJクラス)。

このクラスは、情報リテラシーI・IIを総括した上で、パソコンのより発展的な利用のために確実な基礎を築き、実践へとつなげていくクラスである。上の二つのクラスより、基礎的な部分に重きを置く。そのため、ある程度のスキルのある場合は向かない。ある程度のスキルがある場合、最も連続性の高い(初級)を、WordやExcelの基礎をおおよそマスターしている場合は、(中級)を選択すること。情報リテラシーI・IIの復習を一部含むが、方法も内容も異なるので注意し、適切な達成度を確保するため、安易に(入門)を選ばないこと。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

情報リテラシーの再確認。

パソコンの基本操作の再確認。

オフィスソフトの基本操作とその発展的利用。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

情報リテラシーIあるいはそれと同程度の経験。

講義は、情報リテラシーI及び情報リテラシーIIの復習を一部、含んでいる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック
2	コンピュータの基礎知識の復習	ファイル、フォルダ、キー、画面など
3	Wordの復習(1)	文字と段落
4	Wordの復習(2)	オブジェクト
5	Wordの復習(3)	プリント・スクリーンなど
6	実習(1)	パソコン・マニュアル
7	Excelの復習(1)	文字と数値、四則演算、簡単な関数
8	Excelの復習(2)	グラフの作成
9	Excelの復習(3)	関数、オブジェクト、レイアウト、印刷
10	実習(2)	Excelの表とグラフ
11	OLE(1)	リンク貼り付けまで
12	Excelの応用(1)	関数発展(averagea,counta,if)
13	Excelの応用(2)	関数発展(vlookup)
14	実習(3)	最終課題
15	実習(3)	最終課題及び課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	最終課題及び課題、実習状況など。
進捗等により調整を行う。		
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。

また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Other

拡張項目

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Webページ中級:HTML~JavaScript』

Webページを作成するために必要な基本知識と技術を総合的に身につける。

もともと基本となるHTMLから、CSS(スタイル)、JavaScriptまで。

Webページ関連科目としては、『PhotoShopによるフォトレタッチとWebページ作成入門』(SD)があるが、『PhotoShopによるフォトレタッチとWebページ作成入門』(SD)は、フォトレタッチが中心で、Webページ作成を学ぶには、本講座を選択すること。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

NETの基礎知識。

Webページの基礎知識。

HTML、CSS、JavaScriptの基礎知識。

Webページ公開。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	Webページの基礎	(ネチケット・ブラウザ・HTMLとCSSとJavaScriptの関係)
3	HTML入門	(html,head,body,h,p,br,div / 保存・閲覧・更新)
4	HTML追加	(table)
5	CSS入門	(box,座標 / box系,font系,img系)
6	CSS入門	(box,座標 / box系,font系,img系)
7	実習(1)	基本的なWebデザイン・サンプル作成
8	JavaScript入門	(script,onClick,onMouseOverなどイベント)
9	JavaScript入門	(for / if)
10	JavaScript入門	(その他)
11	実習(2)-1	Webページ作成
12	実習(2)-2	Webページ作成
13	リンク貼り・アップロード・実習(2)-3	リンク貼りアップロード更新
14	プレゼンテーション	(ページ紹介)
15	プレゼンテーション・まとめ	(ページ紹介)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	Webページ(作品)とプレゼンテーション、採点など及び、実習状況など。
進度等により調整を行う。		
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要である。

素材撮影のために、デジカメあるいはカメラ付き携帯など(200万画素程度以上)が必要である。

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。

Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。

また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Other

拡張項目

情報リテラシーⅢ (SI) § 情報処理 (SI)

16501

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Visual Basicによるプログラミング入門』

パソコン上の全ての機能は、プログラムによって提供されている。そのプログラム作成の最初歩を、簡単なゲームなどを素材に学んでいく。同時に、プログラミングに於いて大切な思考と発想も身につけていく。最終的には、オリジナルの簡単なゲームを作成する。

なお、プログラミング言語としては比較的初心者にも親しみやすい、Microsoft Visual Basicを用いる予定。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

プログラムの役割の理解。

プログラミングの基礎の理解。

プログラミングの基礎的な思考と発想の習得。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	プログラミング初歩	Hello World!! 操作の基礎クリックとその反応
3	アニメーション(1)	移動による表現
4	アニメーション(2)	切り替えによる表現
5	計算と落とし穴	四則演算とその落とし穴
6	タイマーの作成	
7	実習(1)	クリックゲーム(VB風モグラたたき)の作成
8	プログラミングの思考(1)	素数を求める
9	プログラミングの思考(2)	計算の効率化
10	プログラミングの思考(3)	何が大切か
11	ゲーム・プログラミングのヒント	
12	実習(4)-1	オリジナル・ゲーム作り(1)
13	実習(4)-2	オリジナル・ゲーム作り(2)
14	実習(4)-3	オリジナル・ゲーム作り(3)
15	実習(4)-4	オリジナル・ゲーム作り(4)検証と課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使えるが、Visual Basicの使用できるオープン・パソコンルームは限られるので注意すること。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 % 実習状況及び最終課題。

平常点評価

進度等により調整を行う。

最後の課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of

Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Other

拡張項目

日本語史 (LA)

14397

担当者名 / Instructor 彦坂 佳直

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本語を専攻する者ないし日本語教師として知っておくべき「日本語の歴史的な諸相」を概説する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

今日的な日本語の各種の様相が過去の日本語の上に成り立っていることを理解できる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

日本語学の概説的な知見

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~2	現代日本語の源流としての日本語の歴史を学ぶにあたって ソシール、共時態と通時態、今日の日本語につながる 遺産としての過去の日本語と現代語との関連	言語研究の視点・方法 共時態と通時態
3~4	音韻史の概説1	音声と音韻、音韻の種類と変化-上代特殊仮名遣い、50 音図など
5~6	音韻史の概説2	アクセントの体系、型の対応 現代日本語のアクセント
7~8	語彙史の概説1	語彙の量的側面、語種、語構成
9~10	語彙史の概説2	語彙の体系、意味、意味変化
11~12	文法史概説1	活用の仕組み、活用体系の変化
13~14	文法史概説2	助動詞の変化-統合と分析的傾向へ、助詞の機能
15	文法史概説3	係り結びの変化、呼応の関係の変化 格助詞ノとガの 歴史

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	1-内容の区切りごとに2,3回、小レポートを課す-約7割。 2-これと授業参加の程度-約3割- を勘案する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

単なる知識の記憶ではなく、古代語と近代語への変化にかかわる各種の要因を考えていくこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ケーススタディ日本語の歴史	半沢幹一・他 / おうふう / 4-273-03267-8 / 常時使用する。

授業の初めから使用するので、あらかじめ入手のこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本語の歴史	山口仲美 / 岩波新書 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

国立国語研究所のHP <http://www.ninjal.ac.jp>
 国文学研究資料館のHP <http://www.nkg.or.jp/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
 学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

日本語教師を目指す学生は「日本語教育能力検定試験」に挑戦するとよい。
 ただし、このプログラムはその受験対策のためのものではない。

拡張項目

担当者名 / Instructor 柴田 悠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、社会調査データの統計分析(主に多変量解析)の技術を、パソコン用統計分析ソフトSPSSの実習を通して、身につける。大量のデータを集計するだけでなく、データ同士の関連性や差異などの計算も行い、データに隠された社会的意味を見いだす。

具体的には、社会調査と統計分析の基礎知識を確認した上で、基本的な多変量解析の理論を解説する。さらに、実際の社会調査データと統計分析ソフトSPSSを用いて、基本的な多変量解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか?」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態(既婚/非婚)や居住地域(都市/郊外/農村)で比べたらどうだろうか。また、そういった状況(たとえば職業)と「幸せです」との間の関連は、他の状況(たとえば所得)によってどのくらい説明できてしまうのだろうか。さらに、その関連は、偶然ではめったに起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも、偶然でも生じる程度の誤差にすぎないのだろうか。

たとえばこういったことを、社会調査データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。ただし、受講生の事前知識と理解度に応じて、内容を易しめの部分に絞り、進度を遅くする場合がある。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

パソコン用統計分析ソフトSPSSを使って、基本的な多変量解析ができるようになる。

目標としては「ロジスティック回帰分析」または「パス解析(観測変数のみを用いた構造方程式モデリング)」まで。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

- 学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
- 「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
- USBフラッシュメモリ(容量1GB以上)を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。

1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること(ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更)。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」を履修済みであることが望ましい。

もし履修済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

また、下記の授業スケジュールは、「社会統計学」を履修済みであることを前提としている。そのため、履修済みでない学生が一定以上いる場合には、本授業の内容を易しめの部分に絞り、進度を遅くする場合がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	統計分析の基礎知識(1)	記述統計学と推測統計学、全数調査と標本調査、母集団と標本、標本の偏り、標本抽出法、質問紙調査法、統計分析手法の分類
2	統計分析の基礎知識(2)	要約統計量、推定(点推定、区間推定)、検定(帰無仮説、対立仮説、有意水準、検定統計量、自由度、棄却域、有意確率)
3	統計分析の基礎知識(3)	確率密度関数、確率分布、中心極限定理、2つの誤り
4	記述統計(1)	クロス集計、エラボレーション、棒グラフ、箱ひげ図
5	記述統計(2)	2変数の関連指標(相関係数、相関比、連関係数、オッズ比、順位相関係数など)、相関係数の注意点(相関と因果の区別、見かけ上の相関、偏相関係数、分割相関など)
6	検定(1)	検定の復習、相関係数の検定、順位相関係数の検定、相関比の検定(分散分析C/F検定)、連関係数の検定(独立性の検定Cカイ2乗検定)、2つの母平均の差の検定(Ct検定)
7	検定(2)	実習
8	単回帰分析	従属変数(被説明変数)と独立変数(説明変数)、回帰式、回帰係数、残差、最小2乗法
9	重回帰分析(1)	標準化偏回帰係数、自由度調整済み決定係数、多重共線性、中心化、ダミー変数、交互作用
10	重回帰分析(2)	実習

11	ロジスティック回帰分析(1)	ロジット変換、最尤法、Wald検定、尤度比検定、AIC(赤池情報量基準)、BIC(ベイズ情報量基準)
12	ロジスティック回帰分析(2)	実習
13	パス解析(1)	パス図、最尤法、偏相関、自由度、適合度指標
14	パス解析(2)	実習
15	発展的手法の簡単な紹介(実習なし)	順序ロジット回帰分析、多項ロジット回帰分析、クラスター分析、主成分分析、因子分析、潜在変数を用いた共分散構造分析、潜在クラス分析、イベントヒストリー分析、マルチレベル分析、パネル分析、傾向スコアマッチング(PSM)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

毎回出席していることを前提として、授業を進める。

よって、万一次席した場合には、次回までに、プリントの欠席回の部分を読み、または下記の参考書を参照して、上記授業スケジュールの「キーワード」に挙げた用語を、十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	出席率(50%)と、実習課題の出来(50%)から、総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中の私語は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと(出席点の減点対象とする)。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言すること。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるので、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし理論的理解は他書で補うこと。
マンガでわかる統計学 [回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／上の続編。「単回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし理論的理解は他書で補うこと。
マンガでわかる統計学 [因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
入門 はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／2つ以下の変数を用いた基礎的な統計分析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
入門 はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎／東京図書／4489020007／3つ以上の変数を用いた基礎的な多変量解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
すぐわかる統計用語	石村貞夫／デズモンド・アレン／東京図書／4489005229／統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室／東京大学出版会／4130420658／統計分析に必要な統計学の基礎知識を、ほぼ十分に学べる。
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森敏昭・吉田寿夫／北大路書房／4762801313／統計分析に必要な統計学の基礎知識を、十分に学べる。
SPSSによる多変量データ解析の手順(第3版)	石村貞夫／東京図書／4489007175／数量データを用いたやや高度な多変量解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順(第2版)	石村貞夫／東京図書／4489007051／カテゴリカルデータを用いたやや高度な多変量解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

本授業ではいずれも購入する必要はない。必要に応じて授業中に参照箇所を示す。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

本授業では、以下のオフライン・データアーカイブを使用することがある(使用法は授業で説明する)。

●WVS(世界価値観調査World Values Survey) [データは即時ダウンロード可能(無料登録が必要)]:

<http://www.wvsevsdb.com/wvs/WVSDData.jsp>

●ISSP(国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme) [データは即時ダウンロード可能(無料登録が必要)]:

<http://zacad.gesis.org>

●ICPSR(政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research)[立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能(無料登録とメール認証が必要)]: <https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct>
→ (JGSSのデータ)<http://www.icpsr.umich.edu/icpsrweb/ICPSR/series/209/studies?archive=ICPSR&q=JGSS&paging.startRow=1>

●SSJDA(東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive)[データは無料申請後にダウンロード可能]:
<http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/>
→ <http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/access/flow/>

また、授業中にも適宜紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む)/ How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話/Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

Critical Reading (SB)

11864

担当者名 / Instructor 伊東 寿泰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This is a fukusenko B-gun course with 2 credits mainly for the third year students. This course is designed to develop students' English language and academic skills through the study of important social issues from the standpoint of monotheistic thoughts.

- 1) Students will be introduced to key vocabulary and some of important social issues in English.
2) Students will work to develop 4 English skills, especially reading and speaking skills, by a variety of study activities, including:

- Lectures and explanations by the instructor;
- Teacher directed and independent reading;
- Research-based writing projects;
- Student directed a pair or group presentation;
- Class and group discussions.

現代の国際(化された)社会で活躍するには、世界でも優勢な一神教思想を理解することが重要です。従ってこの科目では、一神教思想(キリスト教・イスラム教・ユダヤ教等)と関わる「現代社会の諸問題」について書かれた英語文献やメディアを客観的・批判的に読解しながら考察します。またこれらの諸問題を英語によるグループ発表と個人のレポート作成を通して、英語運用能力を向上させていきます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

Students will be expected to:

- Develop an understanding of language and concepts related to the course topic;
- Learn and use a variety of reading skills and content-analysis skills;
- Become familiar with research methodology to support written and oral arguments;
- Work with a partner or group to give a formal presentation of a high standard;
- Complete a research/writing project as part of their preparation for the presentation;
- Communicate verbally in English with the instructor and classmates on a range of activities.

In other words, students will be expected to develop academic skills of:

- ① English ② finding real issues ③ research ④ critical reading ⑤ problem solving ⑥ presentation ⑦ communication and discussion ⑧ writing a research essay ⑨ understanding other cultures ⑩ teamwork.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction to the course (Course Outline)	Lecture on relevant social issues
2	① Brainstorming ② Pre-research	③ Presentation information and group forming
3	① What is monotheism?	② Essay writing information
4~6	Case studies 1 ~ 3	(Q&A about presentation and essay)
7~9	First presentations and discussions	
10	① Summary for First presentations ② Preparation for Final Presentations	③ Debate: Monotheism vs Polytheism
11	Debate: Monotheistic thoughts	
12~14	Final Presentations and discussions	
15	Conclusion for the course	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Students are required to read given materials in advance and to do writing assignments stated in the materials or instructed by the teacher.

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	More detailed information about assessment is provided in the syllabus which the teacher will distribute in the first class. The teacher will evaluate students based on their performance in homework assignments, presentations and quizzes, and on their participation in class activities. Students must attend at least two thirds of classes to be eligible for a passing grade.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Participation:

A high level of preparation outside of class as well as active participation in class will be required.

Responsibility of Absent Students:

Students who are absent from class must contact classmates to find out about work done or assigned during their absence.

Plagiarism:

Students must not copy the work of others, in whole or in part, without use of academic citation. A student who plagiarizes will receive a mark of zero for the assignment and may fail the course.

教科書 / Textbooks

There will be no main textbook, but the following reference books will be helpful and some books should be used for the research project. Additional materials will be introduced in class. Also the instructor will provide some lesson materials through the webCT.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
The Bible: A very short introduction	Riches, J.K./Oxford University Press//
The Monotheistic Religions: Judaism, Christianity, and Islam	Cohen, A.M../Mason Crest Publisher//
Judaism and World Religions: Encountering Christianity, Islam, and Eastern Traditions	Brill, A./Palgrave//
The Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism	Weber, M./Penguin Classics//
Jesus and Justice: Evangelicals, Race, and American Politics	Heltzel, P.G./Yale University Press//
Beyond fundamentalism: Confronting religious extremism in the age of globalization	Aslan, R./Random House Trade Paperbacks//
The Question of Palestine	Said, E.W./Vintage//

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

All students will be expected to bring an English-Japanese/Japanese-English dictionary to class each week.

拡張項目

担当者名 / Instructor 西村 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現在の日本経済を概観しながら、マクロ経済学の基礎的な知識(国民経済の枠組み、国民所得決定理論、マネーストックと貨幣市場、失業と需要管理政策、労働市場の特徴等)を紹介していく。そして、国内総生産(GDP)決定の均衡分析を説明しながら、最終的には、開放経済における金融政策や財政政策の効果について言及する。さらに、労働市場の特殊性についても説明する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・マクロ経済の基本的な概念についての用語を知る。
- ・マクロ経済の循環と生産物市場・労働市場・金融市場の関連について理解する。
- ・均衡GDPの決定とその要因について理解する。
- ・主要な一般新聞に掲載される経済記事のアウトラインを理解できるようにする。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回目 ミクロ経済学とマクロ経済学の分析対象について紹介する。	経世済民、集計量
	第2回目 財貨やサービスの集計量である国内総生産(GDP)について説明する。	国内総所得(GDI)、国内総支出(GDE)、三面等価の原則
	第3回目 名目成長率と実質成長率、および、総合物価変化率との関係について説明する。	成長率、GDPデフレーター
	第4回目 マクロ経済学の枠組みと各部門間の経済循環図を示す。	内需寄与度、外需寄与度、民間部門、政府部門、海外部門
	第5回目 景気循環の決め方について説明する。	好況、不況、一致指数、GDPギャップ
	第6回目 マクロ経済学の均衡分析: Step1	ワルラスの法則、夜警国家、消費関数、限界消費性向、45°線分析
	第7回目 マクロ経済学の均衡分析: Step2	混合経済、財政政策、均衡予算の乗数効果
	第8回目 マクロ経済学の均衡分析: Step2の続き	クラウディング効果、リカードの中立性定理、ドーマーの法則
	第9回目 マクロ経済学の均衡分析: Step3	投資関数、設備投資、投資の金利非対称性、加速度原理
	第10回目 貨幣市場の均衡式について説明する。	貨幣需要関数、マネーストック、信用創造
	第11回目 マクロ経済学の均衡分析: Step3の続き	I-S曲線、L-M曲線、財政・金融政策
	第12回目 輸出入関数と為替相場の決定について説明する。	比較優位の原則、自由貿易、保護貿易
	第13回目 マクロ経済学の均衡分析: Step4	開放経済、為替政策
	第14回目 日本型会社経営の特徴について説明する。	メインバンク制度、株式持ち合い制度
	第15回目 日本型雇用の特徴と変貌について説明する。	終身雇用、年功序列、企業別組合、非正規雇用

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

特になし。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

講義の理解度を深める一助として、不定期に宿題を課したり教室で練習問題を解いたりすることもある。その場合、成績評価の際に宿題や

練習問題の理解度を参考にすることもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

経済学は論理的な学問です。マクロ経済学の知識は全講義で完結します。したがって、毎回講義に出席することが大切です。それから、講義のスタイルは、グラフや記号を多用した形式になります。受講生は、このようなスタイルに抵抗を抱かないことを願います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

アウトルック 日本経済

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

西村理・加藤一誠 / 萌書房 / ISBN978-4-86065 /

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference****授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)**

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Other

講義の後の質問やメールによるやりとり。メールアドレスは onishimu@mail.doshisha.ac.jp です。

その他 / Other**拡張項目**

授業の概要 / Course Outline

米国が主張するグローバル・スタンダードは、自由な市場取引と市場開放である。そこで、最初に、市場取引の成果を測る“ものさし”の一つである「余剰」の概念を紹介する。そして、「余剰」の視点から競争市場の成果と問題点を概観しながら、ミクロ経済学の基礎的な知識(需要曲線・供給曲線、消費者行動、生産者行動、市場の役割と失敗等)を説明していく。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・留保価格と市場価格の関連、および、需要曲線と供給曲線の経済的な意味を理解する。
- ・消費者余剰、生産者余剰および総余剰の概念と、その意味を理解する。
- ・競争的な市場取引についての評価とその限界を理解する。
- ・競争的な市場と非競争的な市場における生産者行動の違いを理解する。
- ・市場主義についてのメリットやデメリットについて論理的な考え方ができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回目 ミクロ経済学とマクロ経済学の分析対象について紹介する。	希少性、経世済民
	第2回目 市場取引の成果を測る方法について述べる。	消費者余剰、生産者余剰
	第3回目 競争取引と相対取引の違いを総余剰の視点から明らかにする。	総余剰、投機、バブル
	第4回目 市場不均衡に対する価格調整と総余剰への影響を示す。	オークション、バーゲンセール、模索過程、非模索過程
	第5回目 市場不均衡に対する非価格調整と総余剰への影響を示す。	数量調整、抽選、先着順、機会費用
	第6回目 数量割当や価格規制などの経済規制がもたらす総余剰への影響を説明する。	従量税、従価税、租税の帰着
	第7回目 生産者の合理的行動(利潤最大化行動)についての分析する。	可変費用、固定費用、限界収入、限界費用
	第8回目 競争企業の利潤最大化行動とその条件を導出する。	価格受容者、費用関数、費用方程式、双対性定理
	第9回目 限界費用と売りの留保価格の関連および生産者余剰について説明する。	限界費用増
	第10回目 独占企業の利潤最大化行動とその条件を導出する。	価格形成者、社会的損失
	第11回目 価格差別を設定することで独占利潤がさらに増加することを示す。	完全価格差別、差別価格、二部料金
	第12回目 規模の経済性を活かした公共料金の決め方について説明する。	規模の経済性、自然独占、限界費用原理、平均費用原理
	第13回目 消費者余剰を最大にする公共料金の決め方について説明する。	受益者負担、独立採算制
	第14回目 情報の非対称性がもたらす市場の失敗について説明する。	逆選択、モラル・ハザード、フリーライド
	第15回目 市場の失敗を防ぐ手立てについて説明する。	シグナリング、スクリーニング

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

特になし。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100 %

講義の理解度を深める一助として、不定期に宿題を課したり教室で練習問題を解いたりすることもある。その場合、成績評価の際に宿題や練習問題の理解度を参考にすることもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

経済学は論理的な学問です。ミクロ経済学の知識は全講義で完結します。したがって、毎回講義に出席することが大切です。それから、講義のスタイルは、グラフや記号を多用した形式になります。受講生は、このようなスタイルに抵抗を抱かないことを願います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

インタラクティブ・エコノミクス 西村理(他) / 有斐閣 / ISBN4-641-16140 /

教科書でカバーできない箇所は、資料をその都度配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Other

講義の後の質問やメールによるやりとり。メールアドレスは onishimu@mail.doshisha.ac.jp です。

その他 / Other

拡張項目

Critical Reading (SA)

11737

担当者名 / Instructor 伊東 寿泰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This is a fukusenko B-gun course with 2 credits mainly for the third year students. This course is designed to develop students' English language and academic skills through the study of important social issues from the standpoint of monotheistic thoughts.

- 1) Students will be introduced to key vocabulary and some of important social issues in English.
- 2) Students will work to develop 4 English skills, especially reading and speaking skills, by a variety of study activities, including:

- Lectures and explanations by the instructor;
- Teacher directed and independent reading;
- Research-based writing projects;
- Student directed a pair or group presentation;
- Class and group discussions.

現代の国際(化された)社会で活躍するには、世界でも優勢な一神教思想を理解することが重要です。従ってこの科目では、一神教思想(キリスト教・イスラム教・ユダヤ教等)と関わる「現代社会の諸問題」について書かれた英語文献やメディアを客観的・批判的に読解しながら考察します。またこれらの諸問題を英語によるグループ発表と個人のレポート作成を通して、英語運用能力を向上させていきます。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

Students will be expected to:

- Develop an understanding of language and concepts related to the course topic;
- Learn and use a variety of reading skills and content-analysis skills;
- Become familiar with research methodology to support written and oral arguments;
- Work with a partner or group to give a formal presentation of a high standard;
- Complete a research/writing project as part of their preparation for the presentation;
- Communicate verbally in English with the instructor and classmates on a range of activities.

In other words, students will be expected to develop academic skills of:

- ① English ② finding real issues ③ research ④ critical reading ⑤ problem solving ⑥ presentation ⑦ communication and discussion ⑧ writing a research essay ⑨ understanding other cultures ⑩ teamwork.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction to the course (Course Outline)	Lecture on relevant social issues
2	① Brainstorming ② Pre-research	③ Presentation information and group forming
3	What is monotheism?	Essay writing information
4~6	Case studies 1 ~ 3	(Q&A about presentation and essay)
7~9	First presentations and discussions	
10	① Summary for First presentations ② Preparation for Final Presentations	③ Debate: Monotheism vs Polytheism
11	Debate: Monotheistic thoughts	
12~14	Final Presentations and discussions	
15	Conclusion for the course	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

Students are required to read given materials in advance and to do writing assignments stated in the materials or instructed by the teacher.

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	More detailed information about assessment is provided in the syllabus which the teacher will distribute in the first class. The teacher will evaluate students based on their performance in homework assignments, presentations and quizzes, and on their participation in class activities. Students must attend at least two thirds of classes to be eligible for a passing grade.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Participation:

A high level of preparation outside of class as well as active participation in class will be required.

Responsibility of Absent Students:

Students who are absent from class must contact classmates to find out about work done or assigned during their absence.

Plagiarism:

Students must not copy the work of others, in whole or in part, without use of academic citation. A student who plagiarizes will receive a mark of zero for the assignment and may fail the course.

教科書 / Textbooks

There will be no main textbook, but the following reference books will be helpful and some books should be used for the research project. Additional materials will be introduced in class. Also the instructor will provide some lesson materials through the webCT.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
The Bible: A very short introduction.	Riches, J.K./Oxford University Press//
The Monotheistic Religions: Judaism, Christianity, and Islam	Cohen, A.M./Mason Crest Publisher//
The Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism: and Other Writings	Weber, M./Penguin Classics//
Jesus and Justice: Evangelicals, Race, and American Politics	Heltzel, P.G./Yale University Press//
Beyond fundamentalism: Confronting religious extremism in the age of globalization	Aslan, R./ Random House Trade Paperbacks//
Judaism and World Religions: Encountering Christianity, Islam, and Eastern Traditions	Brill, A./Palgrave//
The Question of Palestine	Said, E.W./Vintage//

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

All students will be expected to bring an English-Japanese/Japanese-English dictionary to class each week.

拡張項目

担当者名 / Instructor 下條 正純

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本語教育学IとIIで学んだ基礎知識をもとに、実際の授業に必要な実践能力を養うことを目標とする。前期は、主な外国語教授法とその背景、特徴、教室活動について学ぶ。また、初級レベルの教材分析を通して各教材の背景となる教授法や効果的な指導法を検討する。さらに、評価の意義・目的、方法、種類についても考える。後期は、前期に学んだ日本語教授法の基礎知識をもとに、実際にどのように授業を組み立てるのかを学ぶ。シラバス作成、到達目標設定、学習項目設定、教案作成などのコースデザイン方法を学び、初級学習者対象の設定で模擬授業ならびに授業分析を行う。さらに模擬授業の反省点から教師、学習者、両方の視点について考える。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

前期:

- 1) 実際に日本語を教える前に必要な準備項目と準備方法について知る。
- 2) 初級の教材分析を通して日本語教育の教材と教材選択について理解する。
- 3) 日本語教育における教授法の基礎知識を学び、授業への取り入れ方について理解する。

後期:

- 1) 初級レベルの学習者の日本語能力や適切な学習活動について知る。
- 2) 一回の授業の組み立て方について理解する。
- 3) 教師と学習者、双方の視点から日本語教育について考える姿勢を身につける。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

日本語教育学 I、日本語教育学 II、日本語教授法基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	日本語教師の役割	日本語教師の仕事、教師が理解しておくこと
2	コースデザイン①	レディネス、ピリーフ、ニーズ
3	コースデザイン②	シラバス
4	コースデザイン③	目標、教材、教具
5	コースデザイン④	副教材の利用
6	教材分析、評価	教材分析の観点、評価の意義・目的、方法、種類
7	教授法①	文法翻訳法、直接法、オーディオリンガル法
8	教授法②	TPR、CLL、今日の教授法について
9	教授法③	コミュニケーション・アプローチ
10	教材分析発表①	教材分析発表と分析結果に対する批評
11	教材分析発表②	教材分析発表と分析結果に対する批評
12	教材分析発表③	教材分析発表と分析結果に対する批評
13	教材分析発表④	教材分析発表と分析結果に対する批評
14	個別指導	教材分析に基づく学習活動案について
15	個別指導	教材分析に基づく学習活動案について
16	初級で身につけさせたい能力	初級の学習者ができること、初級段階で教えること、学習目標を立てる
17	コミュニケーション能力を育てる授業①	授業の流れ、導入で行う活動
18	コミュニケーション能力を育てる授業②	基本練習で行う活動
19	コミュニケーション能力を育てる授業③	応用練習で行う活動
20	授業設計①	授業設計の手順、教科書の分析、学習目標の設定、教案の作成
21	授業設計②、教え方の基礎	授業実践と授業評価
22	個別指導	模擬授業の教案について
23	個別指導	模擬授業の教案について
24	模擬授業①	模擬授業とそれに対する批評
25	模擬授業②	模擬授業とそれに対する批評
26	模擬授業③	模擬授業とそれに対する批評
27	模擬授業④	模擬授業とそれに対する批評
28	模擬授業⑤	模擬授業とそれに対する批評

29	模擬授業⑥	模擬授業とそれに対する批評
30	模擬授業⑦	模擬授業とそれに対する批評

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	25 %	・後期末レポート
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	75 %	・前期末レポート ・教材分析発表(前期) ・模擬授業(後期) ・参加度

受講者数等により授業スケジュールを変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本語教師の役割／コースデザイン	国際交流基金／ひつじ書房／978-4-89476-301-2／前期使用
初級を教える	国際交流基金／ひつじ書房／978-4-89476-309-8／後期使用

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
クラスルーム運営	横溝紳一郎／くろしお出版／978-4-87424-535-4／魅力的な授業のためのヒントが満載
実践にほんご指導 見なおし本一語彙と文法指導編	K.A.I.T.／アスク／授業計画を立てる際、活動を考えるヒントになる
日本語の教え方ABC	寺田和子、他／アルク／授業計画を立てる際、活動を考えるヒントになる
日本語教授法ワークショップ	鎌田修、他／凡人社／多様な教授法が紹介されている
すぐに役立つ日本語の教え方	小島 聡子／アルク／初心者向けに授業計画を説明している
初級日本語文法と教え方のポイント	市川保子／スリーエーネットワーク／授業計画を立てる際、活動を考えるヒントになる

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

初回の授業で説明する。

その他 / Other

拡張項目

行政法 I (JB)

17856

担当者名 / Instructor 駒林 良則

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

行政法 I は、いわゆる行政法通則と行政作用法の領域を講義の対象とする。行政法通則とは行政法の基礎的概念とか原理を扱うものである。行政作用法は、多数の行政法令に基づく行政活動に共通に存在する法理を抽出し説明するものといえる。

行政法は、よくとっつきにくいと敬遠されることがある。確かに、行政法は学習の軸となるべき基本的な法典がないため、刑法や民法のように法典の内容を個々の条文に即して修得するという科目とは異なるためそうした印象は拭えない。しかし、行政法の「おもしろさ」は多くの行政法令の背後にあって条文に書かれていない一般法理を探究するところにあるといえる。また、そういう意味で学説のもつ意味も大きいといえよう。やや抽象的なイメージを持たれるかもしれない行政法をできるだけわかりやすく講義したいと思う。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

行政法の基本的構造及び概念を理解することができる。
さらに、行政法の履修者の多くが公務員試験受験を考えていることにも配慮しそれに対応する基礎的能力がつく。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

行政法は、憲法と民法の知識が必要な場合があり、これらの科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 講義のすすめ方、行政と法のかかわりなど。 この回では行政法関係について概略を説明することにした。	行政と私人
	第2回 公法と私法 公法と私法の区別する意味について議論を紹介する。	
	第3回 法律による行政の原理について、その内容である法律の法規創造力、法律の優位、法律の留保について説明する。	侵害留保、全部留保、
	第4回 法律による行政の原理以外の行政法の一般原則 特に、民事法上の一般原則の適用について判例の動向を説明する。	
	第5回 行政の組織の概観 行政機関概念を簡単に説明する。	行政主体、行政機関、行政庁概念
	第6回 行政の行為形式論 行政立法(1) 伝統的な法規命令と行政規則の区別について説明するとともに、それぞれの概念も検討する。	
	第7回 行政立法(2) 法規命令と行政規則の相対化、あるいは行政規則の外部化現象について説明する。	
	第8回 行政行為論(1)行政行為の意義、種類 行政の行為形式の中心である行政行為について学ぶ。	
	第9回 行政行為論(2)行政行為の諸効力 公定力を中心に行政行為の特殊な効力の意義について説明する。	公定力、取消訴訟の排他的管轄、不可変更力
	第10回 行政行為論(3)行政行為の附款 附款の概念を理解する。	
	第11回 行政行為論(4)行政行為の瑕疵論	取消原因となる瑕疵と無効原因となる瑕疵の区別
	第12回 行政行為論(5)行政行為の瑕疵論つづき	

第13回

行政行為論(6)行政行為の取消と撤回
行政行為の取消と撤回を理解するとともに、その制限の法理について論じる。

第14回

行政裁量(1)
行政裁量とは何か、行政裁量に関するこれまでの学説の状況を学ぶ。

法規裁量、自由裁量

第15回

行政裁量(2)裁量統制の議論
裁量の所在、現行行訴法30条の下での裁量処分の扱いなど。

要件裁量、効果裁量、時の裁量

第16回

行政裁量(3)裁量審査の手法と基準
裁量統制手法の主流になりつつある判断合理性審査に着目して説明する。

判断代置型審査、手続的審査

第17回

行政計画
行政計画の意義、計画の争訟可能性
小田急高架化訴訟など行政計画をめぐる訴訟を紹介する。

第18回

行政指導
行政指導の定義、行政指導に関する手続法規定の内容

任意性

第19回

行政契約
行政契約の意義

第20回

行政上の実効性確保手段(1)行政上の強制執行
行政上の強制執行制度について説明し、行政上の義務の司法的執行の可否についても検討する。

行政代執行、直接強制、執行罰、強制徴収

第21回

行政上の実効性確保手段(2)行政代執行
行政代執行法について概説する。
行政罰など制裁について説明する。

行政刑罰、秩序罰、過料

第22回

即時強制
即時強制の意義とその問題について理解する。

第23回

行政調査
強制調査の問題点を判例を中心に説明する。

任意調査、間接強制調査、強制調査

第24回

行政手続(1)行政手続の意義
行政手続とは何か、適正手続4原則など判例を交えて説明する。

第25回

行政手続(2)申請に対する処分手続
行政手続法の申請処分に関する規定を説明する。

審査基準

第26回

行政手続(3)不利益処分手続
行政手続法の不利益処分に関する規定を説明するが、特に、履践すべきとしている聴聞と弁明手続を解説する。

処分基準、聴聞、弁明、

第27回

行政手続(4)届出手続、意見公募手続、手続瑕疵と処分の効力
パブリックコメント手続を説明し、手続の瑕疵が本体の処分にどのように影響するか、判例の検討を行う。

第28回

情報管理法制(1)情報公開制度の説明

第29回

情報管理法制(2)個人情報保護制度、情報公開判例の検討

第30回

法律による行政の原理、行政裁量論、行為形式論

まとめ:行政作用法の主要内容を再確認するとともに、各回で触れられなかった部分を補充する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	行政法の基本的理解即ち行政法の基本原則及び概念の理解度とその応用力が習得できているかを評価基準とする。

知識の確認のための確認テストを実施することがある(成績には反映しない)。これは学生の理解度を計測するためのものである。理解度の計測するためにも履修生に講義中に問いかけることがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業には、六法の携帯を必要とする。また、判例集を参照する機会もあるが、詳しくは初回の講義で話したいと思う。なお、講義のスケジュールどおりにすすめないこともありうることを予め断っておきたい。

また、行政法の基本概念を理解することが講義の主眼となるので、繰り返し重要概念を学習することだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法の基本	北村・佐伯・佐藤・高橋 / 法律文化社 / 標準的でわかりやすい。

教科書で詳しく触れられていない点や理解が難しい点について、プリントで補う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法判例百選 I 第6版	／有斐閣／／
行政法のエッセンス	櫻井敬子 / 学陽書房 / 行政法入門書。行政法のとっつきにくさに悩む学生にとってはわかりやすい書物として薦めたい。
第四版行政法 I (総論)改訂版	藤田宙靖 / 青林書院 / 水準の高い体系書

上記の判例百選は講義で参照することがある。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Other

拡張項目

初等社会 (SA)

13101

担当者名 / Instructor 角田 将士

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では小学校社会科における学習内容について、学習しどう指導要領に示された各学年の内容領域に応じて、どのような内容を取り上げ、どのように授業化していけばよいのか、についての考察を深める。本授業は講義形式で行われるが、適宜、受講生による演習も組み込むことによって、小学校社会科の授業づくりや学習指導についての実戦的力、質の高い教材研究を行う力の形成をめざす。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

小学校社会科における学習内容についての理解を深め、小学校の教員として求められる資質の内、社会科授業構成能力、とりわけ教材研究のための力を培うことをねらいとする。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	小学校における社会科教育とは何かー社会科の歩みから考えるー	
2	社会科授業構成の理論と方法ー社会科授業を生み出す様々な考え方ー	
3	小学校社会科授業における教材研究の視点ー個人／社会からのわかり方ー	
4	小学校社会科地域学習における学習内容①ー「地域調査活動」をどう授業化するかー	
5	小学校社会科地域学習における学習内容②ー「地域の商店」をどう授業化するかー	
6	小学校社会科地域学習における学習内容③ー「地域の工場・農家」をどう授業化するかー	
7	小学校社会科地域学習における学習内容④ー「地域の公共サービス」をどう授業化するかー	
8	小学校社会科地域学習における学習内容⑤ー「地域の過去と現在」をどう授業化するかー	
9	小学校社会科地域学習における学習内容⑥ー「特色ある地域」をどう授業化するかー	
10	小学校社会科国土・産業学習における学習内容①ー「我が国の産業」をどう授業化するかー	
11	小学校社会科国土・産業学習における学習内容②ー「我が国の国土」と「環境保全」をどう授業化するかー	
12	小学校社会科歴史学習における学習内容ー「我が国の歴史における人物と文化遺産」をどう授業化するかー	
13	小学校社会科政治学習における学習内容ー「政治のしくみ」と「日本国憲法」をどう授業化するかー	
14	小学校社会科国際理解学習における学習内容ー「身近な国」と「国際貢献活動」をどう授業化するかー	
15	小学校社会科授業開発演習	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

問題意識を持って臨むこと。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	・出席及び授業への取り組みによる(コメントペーパー等)。 ・学習指導案の作成を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

まずは出席すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

わたしたちの京都 3・4年 上

京都市小学校社会科教育研究会編／教材研究所／／

わたしたちの京都 3・4年 下

京都市小学校社会科教育研究会編／教材研究所／／

授業内容に応じたレジュメをも配布する。

参考書 / Reference Books**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

小学校の“優れた社会科授業”の条件

全国社会科教育学会編著／明治図書／／

小学校学習指導要領解説 社会編

文部科学省／／／

授業内容に応じて適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference**授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)**

学生との直接対話 / Talk with Students

E-mail:kakuda@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Other**拡張項目**

初等社会 (SB)

13032

担当者名 / Instructor 角田 将士

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では小学校社会科における学習内容について、学習しどう指導要領に示された各学年の内容領域に応じて、どのような内容を取り上げ、どのように授業化していけばよいのか、についての考察を深める。本授業は講義形式で行われるが、適宜、受講生による演習も組み込むことによって、小学校社会科の授業づくりや学習指導についての実戦的力、質の高い教材研究を行う力の形成をめざす。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

小学校社会科における学習内容についての理解を深め、小学校の教員として求められる資質の内、社会科授業構成能力、とりわけ教材研究のための力を培うことをねらいとする。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	小学校における社会科教育とは何かー社会科の歩みから考えるー	
2	社会科授業構成の理論と方法ー社会科授業を生み出す様々な考え方ー	
3	小学校社会科授業における教材研究の視点ー個人／社会からのわかり方ー	
4	小学校社会科地域学習における学習内容①ー「地域調査活動」をどう授業化するかー	
5	小学校社会科地域学習における学習内容②ー「地域の商店」をどう授業化するかー	
6	小学校社会科地域学習における学習内容③ー「地域の工場・農家」をどう授業化するかー	
7	小学校社会科地域学習における学習内容④ー「地域の公共サービス」をどう授業化するかー	
8	小学校社会科地域学習における学習内容⑤ー「地域の過去と現在」をどう授業化するかー	
9	小学校社会科地域学習における学習内容⑥ー「特色ある地域」をどう授業化するかー	
10	小学校社会科国土・産業学習における学習内容①ー「我が国の産業」をどう授業化するかー	
11	小学校社会科国土・産業学習における学習内容②ー「我が国の国土」と「環境保全」をどう授業化するかー	
12	小学校社会科歴史学習における学習内容ー「我が国の歴史における人物と文化遺産」をどう授業化するかー	
13	小学校社会科政治学習における学習内容ー「政治のしくみ」と「日本国憲法」をどう授業化するかー	
14	小学校社会科国際理解学習における学習内容ー「身近な国」と「国際貢献活動」をどう授業化するかー	
15	小学校社会科授業開発演習	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

問題意識を持って臨むこと。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	・出席及び授業への取り組みによる(コメントペーパー等)。 ・学習指導案の作成を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

まずは出席すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

わたしたちの京都 3・4年 上

京都市小学校社会科教育研究会編／教材研究所／／

わたしたちの京都 3・4年 下

京都市小学校社会科教育研究会編／教材研究所／／

授業内容に応じたレジュメも配布する。

参考書 / Reference Books**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

小学校の“優れた社会科授業”の条件

全国社会科教育学会編著／明治図書／／

小学校学習指導要領解説 社会編

文部科学省／／／

授業内容に応じて適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference**授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)**

学生との直接対話 / Talk with Students

E-mail:kakuda@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Other**拡張項目**

民法Ⅲ(物権法)(JA)

16282

担当者名 / Instructor 和田 真一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

民法第2編物権のうち、担保物権を除く175条～294条を概説する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

物権法の基本的な知識、理論を知り、条文の解釈、適用方法の基礎を学ぶことを目的とする。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

この授業に先行または併行して開設されている民法科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	物権法序論	物、物権法定主義、物権の効力
2	物権変動総論	法律行為によらない物権変動、法律行為による物権変動、物権変動の時期
3	不動産物権変動(1)	民法177条、不動産物権変動の公示、不動産登記、民法177条の効果、第3者の範囲
4～7	不動産物権変動(2)	取消と登記、解除と登記、相続と登記、取得時効と登記、不動産登記の効力
8～9	動産物権変動	民法178条、即時取得、明認方法
10	所有権(1)	所有権の自由、所有権の取得、添付
11	所有権(2)	共有、建物区分所有
12	用益物権	地上権、永小作権、地役権、入会権
13	占有権	本権、占有権、代理占有、占有訴権
14	物権的請求権	物権的返還請求権、妨害排除請求権、妨害予防請求権、行為請求権説、認容請求建設
15	補論と全体のまとめ	
12		
13		
14		
15		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

事前にテキストまたは各自の物権法の該当箇所を読んでおくと、講義の理解度が高まる。また、論述問題への文章での解答の仕方も練習しておくこと。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	定期試験期間中に論述試験を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法の基礎2 物権	佐久間毅 / 有斐閣 / /

講義は上記テキストに沿って進める。ただし、すでに物権法のテキストを持っているなら、それを利用してもらっても問題ない。そのほか、授業には六法を必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法判例百選 I 総則・物権	中田・潮見・道垣内編 / 有斐閣 / /
民法判例ブラクティス I	松本・潮見編 / 信山社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話／Talk with Students

その他 / Other

担当者は法科大学院所属で通常は朱雀キャンパスのため、Eメールによる質問なども受け付ける。

その他 / Other

授業の進行、予復習の目安となる項目レジュメを配布します。

拡張項目

地方自治法 (J)

13713

担当者名 / Instructor 駒林 良則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1999年に地方分権一括法が成立して、今次の地方分権改革が始まったが、2006年に地方分権改革推進法ができ、2007年から第2次地方分権改革がスタートしたが、その後新政権になって、地方政府基本法の制定の動きや地方自治法の抜本的改正の動きがある。また、近時においては道州制や議会と長の関係など地方制度の今後の動向が注目されている。さらに、最近では、名古屋市の議会解散などを契機に、住民と自治体の関係も根本的に改革される機運が生まれようとしている。本講義では、こうした流動的状況を踏まえながらも、現行の地方自治制度の法的仕組みをできるだけわかりやすく説明する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

地方自治の法制度の全体像を把握できるようになる。
地方自治に関わる法的紛争について理解ができるようになる。
自治体実務について関心をもつことができるようになる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

地方自治法は行政組織法の一部であるので、行政法の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 講義の進め方、地方自治の仕組みの概要、自治体の種類など	団体自治と住民自治
	第2回 自治体の事務の問題について、概説する。特に、自治事務と法定受託事務について解説する。	自治事務、法定受託事務、関与
	第3回 国と地方の関係 団体自治のテーマである「国と地方の関係」について説明する。	自治権、国の関与
	第4回 特別地方公共団体 民間委託や指定管理者制度など、地方自治の担い手の変容について説明する。	特別区、組合 外郭団体、公の施設
	第5回 地方分権改革の動向について説明する。特に、議会と長の関係といった制度改革の議論にも関心を寄せたい。	道州制、「議会」内閣制とは
	第6回 自治体の組織構造(1) 自治体組織の基本構造原理である首長制について詳しく説明する。自治体の議事機関たる議会について説明する。	二元代表制、 議会の権限
	第7回 自治体の組織構造(2) 議会に引きつづき、長を中心とする執行機関について説明をしたのち、議会と長の関係について法的視点から考察する。また、地方公務員法制についても簡単に触れる。	執行機関の多元主義、長の総合調整権 議会と長の関係(長の不信任と議会解散、再議権、専決処分)
	第8回 自治体法論(1) 自治体の法形式、条例、特に条例制定権(自治立法権)について説明する。	条例、規則
	第9回 自治体法論(2) 地方自治法の重要なテーマのひとつである法令と条例の関係について、判例を紹介しつつ説明する。	自主条例、徳島市公安条例事件最高裁判決、法律先占論
	第10回 自治体法論(3) 規則や要綱など条例以外の自治体法について説明する。	
	第11回 住民の権利総論 自治体の情報公開制度	

第12回
直接民主主義的制度(1)
直接請求制度の解説し、住民参加制度の1つであるパブリックコメント手続について紹介する。

投票結果の法的拘束力

第13回
直接民主主義的制度(2)
住民投票制度の動向についてその問題点も含め紹介する。

第14回
住民訴訟(1)
住民監査請求制度の概要、住民訴訟制度の概要を説明する。

監査委員、財務会計行為

第15回
住民訴訟(2)
住民訴訟に関する判例を分析する。

住民訴訟の拡大傾向

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

現実の地方自治の動きに関心を持って欲しい

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	地方自治法の基本的問題に関して出題する。地方自治法の基本的知識を理解しているかが評価の基準である。

場合によっては、定期試験の評価に加えて小レポートを課すことがあることを留意しておいてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストを中心に講義をすすめるが、地方自治法の改正などテキストでは不十分な場合は随時レジュメで補うことにする。また受講生は最新法改正にも関心を持ってほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ホーンブック地方自治法	人見剛・須藤陽子編著 / 北樹出版 / / スタンダードな内容である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地方自治判例百選	/ 有斐閣 / /
地方自治法概説第4版	宇賀克也 / 有斐閣 / / 概説書としては詳しい内容である

判例百選を授業で使うことはあまりないが、参照してもらうときは指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Other

拡張項目

精神科リハビリテーション学 (S)

11110

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神障害という病気になった人が、自身の病気と向き合いながら社会生活において人間らしく生活していくことを援助するかが精神科リハビリテーションです。

精神科リハビリテーション学は精神保健医療福祉全般にかかわる領域であることから、病気の経過、機能回復の訓練、さらに、精神科リハビリテーションの経緯、多職種連携のなかで精神保健福祉士としてどう取り組むのかという視点を得ることを目的とします。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

精神保健福祉士として障害者の視点に立って、精神科リハビリテーションにどう取り組むかの視座を育てる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	障害者リハビリテーションの概念	リハビリテーションの概念、歴史
2	障害者リハビリテーションの理念と意義	WHOの理念、身体的リハビリテーションと精神的リハビリテーション
3	障害者リハビリテーションの基本原則	ADLからQOLへ、ノーマライゼーション、国際機能分類
4	障害者リハビリテーションの理念と意義	WHOの理念、基本原則と技法
5	精神科リハビリテーションの構成①	精神科リハビリテーションの対象、専門職種との連携、
6	精神科リハビリテーションの構成②	精神保健福祉士の役割、精神科リハビリテーションの施設、関連領域
7	精神科リハビリテーションのプロセス	リハビリテーション計画、アプローチの方法
8	医療機関におけるリハビリテーション①	作業療法、レクルエーション療法、集団精神療法、行動療法、
9	医療機関におけるリハビリテーション②	認知行動療法と社会生活技能訓練、家族教育プログラム、
10	医療機関におけるリハビリテーション③	デイケア、ナイトケア、精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
11	医療機関におけるリハビリテーション④	退院・地域移行支援
12	精神保健福祉士が行うリハビリテーション	医学的リハビリテーションと社会的リハビリテーション
13	精神科リハビリテーションの総合化	地域リハビリテーション、職業リハビリテーション
14	精神保健福祉施策の展開	わが国の現状と課題、諸外国の現状と課題
15	「検証テスト(確認テスト)」と「解説」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	出席状況と受講態度(発言内容・コミュニケーションペーパーの内容を含)および確認テスト・授業中に実施する数回のレポート問題などを総合。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。

☆精神障害者に関する論議すべき事例が生じた時は講義計画を変更することがある。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

新・精神保健福祉養成講座第4巻「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ」 日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／／2,835円(税込)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Other

拡張項目

精神保健学 (S)

10890

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「こころの時代」といわれて久しいが、現代社会は複雑な社会背景から、いじめ・虐待・自殺などさまざまな問題が発生している。特に自殺者は1998年から2011年まで14年連続で3万人を越えている。2012年は3万人を下回ったというものの高位である。自殺者の多くがうつ病などの精神疾患が原因と言われている。

多くの現代人は常に様々なストレスを感じており、こころの健康を害しやすくなっている。

現代社会での生活とストレスは常に近くに接しており、ストレス社会と言われる所以でもある。

精神保健には、幼少期から老年期までの人生のライフサイクルにおいて、家庭、学校、地域、職場などの生活・環境の視点からの理解が必要不可欠であり、ただ単に病気の予防、再発防止、自立的生活の維持だけでなく、広く国民全体の精神保健の保持、増進の必要性について知識が必要となってくる。

本教科では精神保健の基礎知識を通じて、ライフサイクルにおける精神保健の問題や課題についての取り組みについて学ぶ。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

本教科では精神保健の基礎知識を通じて、ライフサイクルを通じての精神保健の問題や課題についての取り組みを学び、精神保健福祉士としての概要を理解する。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	精神保健の概要	WHO憲章の定義、保健学の範囲
2	精神保健の意義と課題	わが国の現状と課題、保健・医療体制の特徴と課題
3	ライフサイクルにおける精神保健①	胎児期・乳幼児期における精神保健
4	ライフサイクルにおける精神保健②	学童期・思春期における精神保健
5	ライフサイクルにおける精神保健③	青年期・成人期における精神保健
6	ライフサイクルにおける精神保健④	老年期における精神保健
7	精神障害者対策	歴史と障害者自立支援法・課題
8	アルコール関連問題対策	アルコール関連問題とは・健康日本21
9	薬物乱用防止対策	薬物乱用の現状・特徴・対策
10	地域精神保健対策	危機介入・アウトリーチ
11	家庭における精神保健	少子高齢化・児童虐待・DV
12	学校における精神保健	不登校・いじめ・学校精神保健の課題
13	職場のメンタルヘルス	職場のメンタルヘルス・4つのケア
14	諸外国における精神保健	イギリス・イタリア・オーストラリア・アメリカの精神保健施策
15	「検証テスト(確認テスト)」と「解説」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	出席状況と受講態度(発言内容・コミュニケーションペーパーの内容を含)および確認テスト・授業中に実施する数回のレポート問題などを総合。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。
- ☆精神障害者に関する論議すべき事例が生じた時は講義計画を変更することがある。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

新・精神保健福祉養成講座第2巻「精神保健の
課題と支援」 日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／／定価2,835円(税込み)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Other

拡張項目

精神保健福祉の現状と課題 (S)

16468

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本教科では、精神保健福祉士に求められる精神障害者観について講義する。精神障害者の人権を保障する担い手となる精神保健福祉士に求められる障害者観、実践観、さらに我が国の現状と課題について取り上げる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

精神保健福祉士として精神障害者の人権をどう保障するのか。その為に必要な障害者観を理解し、政策や実践課題に関心を持つ。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 精神障害者観	スティグマ・バタナーリズム
	2 精神障害者の治療の流れ	隔離収容施策
	3 精神障害者と精神科医療①	精神科救急の現状と課題
	4 精神障害者と精神科医療②	うつ病・自殺問題
	5 精神障害者と精神科医療③	認知症高齢者問題
	6 精神障害者と精神科医療⑤	受診アクセス・法34条・社会的入院・当事者ニーズ
	7 精神障害者と精神科医療⑥	インテグレーション・性同一性障害
	8 精神障害者と暮らしの場①	家族・グループホーム・ケアホーム
	9 精神障害者と暮らしの場②	当事者研究
	10 精神障害者と暮らしの場③	リハビリとWRAP・
	11 精神障害者と暮らしの場④	なかま・自治・自律
	12 精神障害者と就労	就労支援・ジョブコーチ・適応から参加
	13 PSWと精神障害者の地域生活支援①	ACT(包括的地域生活支援)の実際と課題
	14 PSWと精神障害者の地域生活支援②	ケアマネジメント・パートナーとしてのPSWパートナー・フレンドシップライン
	15 「検証テスト(確認テスト)」と「解説」	精神保健福祉の政策的課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	出席状況と受講態度(発言内容・コミュニケーションペーパーの内容を含)および確認テスト・授業中に実施する数回のレポート問題などを総合。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。
- ☆精神障害者に関する論議すべき事例が生じた時は講義計画を変更することがある。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉士養成講座7「精神障害者の生活支援システム」	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

精神障害をもつ人が地域でくらししていくためにー 山本耕平 / かもがわ出版 / 4-87699-840-x /
介護保険統合論と、求められる社会的支援

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Other

拡張項目

精神障害者の人権とくらし (S)

13837

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉士としての基礎的な知識といえる精神障害者の視点に立って人権とは何かとそれを権利擁護する精神保健福祉士の役割について、その現状と課題を取り上げる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

精神保健福祉士として、精神障害者の人権をどう保障するか。そのためには客観的な視点がどう必要かを理解し、精神保健福祉士としての共通認識基盤の確立を目指す。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	精神保健福祉法にみる人権保障の歴史	任意入院、医療保護入院、措置入院、応急入院
2	障害者の人権保障	世界人権宣言、国際障害者年、障害者感の変遷
3	精神障害者の人権保障	精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスクアの改善のための諸原則
4	わが国における障害者の人権保障の枠組み	障害者基本法、障害者プラン
5	精神医療における権利擁護①	インフォームド・コンセント、病院内の審査体制
6	精神医療における権利擁護②	精神医療審査会、実地指導・実地審査
7	権利擁護と市民運動	精神医療オンブズマン
8	人権侵害の現状	宇都宮病院事件、大和川病院事件などを通して
9	権利擁護の取り組み	欠格条項、成年後見制度、アドボカシー
10	偏見・差別・スティグマ	権利擁護の担い手としてのPSW
11	精神保健福祉援助活動①	精神科病院での相談援助
12	精神保健福祉援助活動②	地域(保健所等)での相談援助 ACT(包括的地域生活支援)について
13	精神保健福祉援助活動③	災害時の相談援助
14	精神保健福祉士の役割・課題	PSWのアイデンティティ
15	「検証テスト(確認テスト)」と「解説」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	出席状況と受講態度(発言内容・コミュニケーションペーパーの内容を含)および確認テスト・授業中に実施する数回のレポート問題などを総合。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。
- ☆精神障害者に関する論議すべき事例が生じた時は講義計画を変更することがある。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

新・精神保健福祉士養成講座6「精神保健福祉 日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／／
に関する制度とサービス」

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉士養成講座第5巻「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／／定価2,835円(税込み)

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Other

拡張項目

音楽科教育法 (SA) § (教)音楽科教育法 (SA)

12216

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

初等音楽科教育の理念、歴史的展開、目標、内容構成、指導計画、評価のあり方、現状と課題等について概観し、初等音楽科教育の概念と全体像の理解を深めるとともに、実践的諸問題について検討する。理論と実践を連動させながら、学習指導要領や教科書、実践事例の具体的検討を通して、初等音楽科教育の基本的原理を概観するとともに、模擬授業やディスカッションを通して、授業デザインの方法や学習指導案の作成、指導法、環境構成等、教育実習を視野に含みこんだ実践の力量の形成を目指す。音楽科教育についての課題意識を明確にし、自己の音楽教育観を確立する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

初等音楽科教育の全体像を理解するとともに、基本的原理と諸課題を理解する。
授業デザインの方法や学習指導案の作成等、実践的諸能力を身につける。
初等音楽科教育における課題意識を明確にし、自己の音楽科教育観を確立する。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

音楽 I を履修済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—音楽科教育とは何か	イントロダクション 音楽自分史
2	小学校音楽科の現状と課題	学校現場 教師 子ども 学習指導要領
3	音楽科の成立—音楽科教育の歴史的展開	唱歌 童謡運動 芸能科音楽 学習指導要領
4	小学校音楽科の実際—目標と指導内容	表現 鑑賞 歌唱共通教材
5	音楽づくりの実際	即興的表現 創造的音楽づくり
6	小学校音楽科の学習指導計画と音楽学習の評価	カリキュラム 年間指導計画 学習指導案 題材 評価基準
7	学習指導案の作成	学習指導案 主題による題材 楽曲による題材 教材
8	学習指導案の検討と模擬授業準備	模擬授業 教材研究
9	模擬授業とディスカッション①	表現 歌唱指導
10	模擬授業とディスカッション②	表現 器楽指導
11	模擬授業とディスカッション③	表現 音楽づくり指導
12	模擬授業とディスカッション④	鑑賞指導 視聴覚機器
13	諸民族の音楽の実際	諸民族の音楽
14	音楽科の授業研究	授業評価 授業改善
15	初等音楽科教育実践の課題と展望	総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

音楽科教育は近年新しいアプローチや指導内容がとりいれられて、授業時数は削減されているにもかかわらず、内容は多義的に拡大しています。日常からいろいろなジャンルの音楽を聴いたり触れたりするように心がけ、音楽(教育)関連の書籍などを手にとってみるようにしてください。また他の教職科目や他教科の教育法とも関連づけながら、相対的に音楽科教育について考えてみてください。

* 授業ははじめとおわりに、オープニング・パフォーマンス、エンディング・パフォーマンスとして、歌唱共通教材の指揮と伴奏、簡単な指導をしていただきます。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	学習指導案の作成を含む最終レポートを課す。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	50 %	出席状況、授業の中での課題への取り組み、授業時の学習指導案等の提出物、毎時授業後に提出する個人レポートカード等をあわせて、総合的に評価する。

三分の二以上の出席を要します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽教育とは何かという問いを常にもって、自分の生活の中の音楽やこれまでうけてきた音楽教育などについて考えてみてください。小学校の音楽の授業が苦手だったという人や嫌いだったという人は、どういった授業をすればそれを克服できるかを考えましょう

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『最新初等科音楽科教育法』	初等科音楽教育研究会編 / 音楽之友社 / 978-4-276-8200-1 / 09年の改訂版を使用のこと。

参考書 / Reference Books

適宜授業時に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

音楽 I (SA)

13033

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校音楽科の教育内容について理解を深める。表現・鑑賞領域の学習内容について、教材研究や授業づくりの基本的な方法論の検討を通して、音楽活動のあり方や教材選択と教材解釈の方法についての理解をうながし、実践的力量的の形成をめざす。また音楽科授業において必要とされる簡単な和音伴奏による伴奏や弾き歌いのスキル、代表的な歌唱教材や器楽教材の表現スキルを身につける。

本講義は、クラス全体授業と個人指導を連動させて行う。(シラバスに記載するテーマによる学習と、主に鍵盤楽器を中心とした個人の実技的な学習を並行して授業を構成する。)

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

小学校音楽科の学習内容について理解し、音楽の基礎的スキルと実践的諸能力を身につける。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—初等音楽で学ぶもの	音楽とは何か
2	西洋音楽の決まりごと①—五線譜を読む	五線譜の基礎
3	鍵盤楽器の基礎・基本①—鍵盤楽器のきまりごと	読譜と記譜
4	鍵盤楽器の基礎・基本②—五線譜を表現してみよう	鍵盤楽器の基礎
5	和音伴奏の作り方①—音楽の理論を学習して、和音伴奏をつくろう	和音とは何か
6	和音伴奏の作り方②—和音伴奏をつくって弾き歌いに挑戦しよう	伴奏の形
7	和音伴奏の作り方③—いろいろな調の和音伴奏をつくろう	調とは何か
8	リコーダーの基礎・基本①—リコーダーに挑戦しよう	リコーダーの基礎 ダンギング
9	リコーダー②—リコーダーで表現しよう	リコーダー・アンサンブル
10	アンサンブル—いろいろな楽器をつかってアンサンブルに挑戦しよう	トーンチャイム
11	いろいろな音①—サウンド・スケープ	サウンドスケープとは何か 音
12	いろいろな音楽②—日本の音を体験しよう	日本音楽 和太鼓実習
13	いろいろな音楽③—世界の音楽を体験しよう	諸民族の音楽
14	音楽づくり—自由な発想で音楽をつくって表現しよう	CMM
15	発表会—演奏会をしよう	まとめと総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

特に音楽実技が不得意だと思う人は、授業に向けて少しでも個人練習するよう心がけてください。

また日常からさまざまなジャンルの音楽を聴いたり触れたりするよう心がけましょう。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	以下の要件をみたしているうえで、出席、授業時の課題、授業内のテスト、グループでの発表、参加意欲・態度等、総合的に評価します。 また、十分な到達水準に認められないと判断される者については、「音楽Ⅱ」の履修をすすめます。 1) 授業時に行う楽典の小テストにおいて70%以上、発表会の個人発表において60%以上の到達水準を求めます。 2) 授業時に示す課題を到達できなかった者は、到達水準にいたっていないものとして、最終時の発表会の出席を認めません。(課題は、指定した共通教材から選択して6曲以上です。授業時に詳しく説明します。)

3分の2以上の出席を要します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽実技は、日々の練習の積み重ねが大切です。今楽譜が読めなくても、ピアノがまったく弾けなくても、少しずつ積み重ねれば、必ず楽譜が読めて、演奏することができるようになります。根気よく投げ出さずに学習を継続することが大切です。

一方で、世界の音楽の中には五線譜をつかわない音楽もたくさんあります。音楽とは何か、音楽教育とは何かという問いを常にもって、いろいろ

な音楽に接してみてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『最新初等科音楽科教育法』	初等科音楽教育研究会編 / 音楽之友社 / 978-4-276-82008-1 /

必ず持参してください。

このほか、必要に応じて、レジュメ等を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説・音楽編	文部科学省編 / / /
音楽の基礎	鞍掛昭二、小桜秀爾、廣中宏雄、山田輝子、若林延昌 著 / 音楽之友社 / 4276100488 /
ピアノ伴奏法入門 ひとりでマスター	鈴木渉著 / 子どもの未来社 / 4-901330-07-1 /
この一冊でわかる ピアノ実技と楽典	深見友紀子、小林田鶴子、坂本暁美 著 / 音楽之友社 / 427610050X /
音楽科重要用語300の基礎知識	吉富功修編集 / 明治図書 / 4-18-717802-3 /

その他、授業時に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

適宜紹介します。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

その他 / Other

ソプラノリコーダーを使用します。クラス分のリコーダーは用意していますが、自分のリコーダーをもっている場合は用意してください。(バロック式、ジャーマン式いずれも可)

拡張項目

音楽 I (SB)

13102

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校音楽科の教育内容について理解を深める。表現・鑑賞領域の学習内容について、教材研究や授業づくりの基本的な方法論の検討を通して、音楽活動のあり方や教材選択と教材解釈の方法についての理解をうながし、実践的力量的の形成をめざす。また音楽科授業において必要とされる簡単な和音伴奏による伴奏や弾き歌いのスキル、代表的な歌唱教材や器楽教材の表現スキルを身につける。

本講義は、クラス全体授業と個人指導を連動させて行う。(シラバスに記載するテーマによる学習と、主に鍵盤楽器を中心とした個人の実技的な学習を並行して授業を構成する。)

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

小学校音楽科の学習内容について理解し、音楽の基礎的スキルと実践的諸能力を身につける。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—「音楽 I」で学ぶもの	音楽とは何か
2	西洋音楽の決まりごと①—五線譜を読む	五線譜の基礎
3	鍵盤楽器の基礎・基本①—鍵盤楽器の決まりごと	読譜と記譜
4	鍵盤楽器の基礎・基本②—五線譜を表現してみよう	鍵盤楽器の基礎
5	和音伴奏の作り方①—音楽の理論を学習して、和音伴奏をつくろう	和音とは何か
6	和音伴奏の作り方②—和音伴奏をつくって弾き歌いに挑戦しよう	伴奏の形
7	和音伴奏の作り方③—いろいろな調の和音伴奏をつくろう	調とは何か
8	リコーダーの基礎・基本①—リコーダーに挑戦しよう	リコーダーの基礎 ダンギング
9	リコーダー②—リコーダーで表現しよう	リコーダー・アンサンブル
10	アンサンブル—いろいろな楽器をつかってアンサンブルに挑戦しよう	トーンチャイム
11	いろいろな音①—サウンド・スケープ	サウンドスケープとは何か 音
12	いろいろな音楽②—日本の音を体験しよう	日本音楽 和太鼓実習
13	いろいろな音楽③—世界の音楽を体験しよう	諸民族の音楽
14	音楽づくり—自由な発想で音楽をつくって表現しよう	CMM
15	発表会—演奏会をしよう	まとめと総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

特に音楽実技が不得意だと思う人は、授業に向けて少しでも個人練習するよう心がけてください。

また日常からさまざまなジャンルの音楽を聴いたり触れたりするよう心がけましょう。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	以下の要件をみたしているうえで、出席、授業時の課題、授業内のテスト、グループでの発表、参加意欲・態度等、総合的に評価します。 また、十分な到達水準に認められないと判断される者については、「音楽 II」の履修をすすめます。 1) 授業時に行う楽典の小テストにおいて70%以上、発表会の個人発表において60%以上の到達水準を求めます。 2) 授業時に示す課題を到達できなかった者は、到達水準にいたっていないものとして、最終時の発表会の出席を認めません。(課題は、指定した共通教材から選択して6曲以上です。授業時に詳しく説明します。)
3分の2以上の出席を要します。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽実技は、日々の練習の積み重ねが大切です。今楽譜が読めなくても、ピアノがまったく弾けなくても、少しづつ積み重ねれば、必ず楽譜が読めることができるようになります。根気よく投げ出さずに学習を継続することが大切です。

一方で、世界の音楽の中には五線譜をつかわない音楽もたくさんあります。音楽とは何か、音楽教育とは何かという問いを常にもって、いろいろな音楽に接してみてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『最新初等科音楽科教育法』	初等科音楽教育研究会編 / 音楽之友社 / 978-4-276-82008-1 /

必ず持参してください。
このほか、必要に応じて、レジュメ等を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説・音楽編	文部科学省編 / / /
音楽の基礎	鞍掛昭二、小桜秀爾、廣中宏雄、山田輝子、若林延昌 著 / 音楽之友社 / 4276100488 /
ピアノ伴奏法入門 ひとりでマスター	鈴木渉著 / 子どもの未来社 / 4-901330-07-1 /
この一冊でわかる ピアノ実技と楽典	深見友紀子、小林田鶴子、坂本暁美 著 / 音楽之友社 / 427610050X /
音楽科重要用語300の基礎知識	吉富功修編集 / 明治図書 / 4-18-717802-3 /

その他、授業時に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

適宜紹介します。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)
学生との直接対話 / Talk with Students
その他 / Other

その他 / Other

ソプラノリコーダーを使用します。備品としてクラス分を用意していますが、自分でもっている人は用意してください。(バロック式、ジャーマン式いづれも可)

拡張項目

家庭 (SA)

12815

担当者名 / Instructor 加藤 佐千子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校における家庭科の学習内容について、より高度な理解を促すと共に、教材研究や授業作りの基本的な方法論の検討を通して、実践的力量的形成を目指す。衣食住についての体験活動のあり方や適切な教材選択方法、家庭生活への関心や理解、裁縫や調理といった家庭科の内容について理解を促していく。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論、裁縫などの製作活動や調理実習なども組み入れ、具体的な授業実践につながる教材研究の手法等の獲得を目指す。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・小学校家庭科の指導内容がわかる。
- ・裁縫や調理の基本的知識、技術を理解する。
- ・指導案の作成、模擬授業の体験を通して学習指導や評価の方法がわかる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回目 オリエンテーション	授業の到達目標、進め方、成績評価方法等
2	第2回目 家庭科の教育の本質と変遷、家庭科教育の目標と内容、 学習指導要領の見方	歴史、目標、学習指導要領
3	第3回目 A 家庭生活と家族	家庭生活、家族
4	第4回目 C 快適な衣服と住まい1	衣生活の現状、被服材料、着方、手入れの仕方、洗濯、 汚れの落ちる仕組み・燃焼実験
5	第5回目 C 快適な衣服と住まい2	基本縫い、ボタン付け、ミシン縫い、用具の安全な取り扱い方、 小物の製作
6	第6回目 C 快適な衣服と住まい3 学習指導の方法1(授業の見方)	現場教員の授業の視聴(DVD)
7	第7回目 B 日常の食事と調理の基礎1	栄養素、食品の特性
8	第8回目 B 日常の食事と調理の基礎2	炊飯の原理、材料の切り方、包丁の持ち方(ビデオ)、 実習の説明 炊飯、切り方、実習室の使い方、実習計画 立案、器具の確認、実習計画
9	第9回目 B 日常の食事と調理の基礎3(調理実習1)	ご飯、味噌汁、野菜炒め、ゆで卵
10	第10回目 B 日常の食事と調理の基礎4(調理実習2)	ご飯、味噌汁、野菜サラダ、自由献立1品
11	第11回目 C 快適な衣服と住まい4 D 身近な消費生活と環境	暖かい住まい方、涼しい住まい方(ビデオ) 金銭の使い方、生活時間、環境
12	第12回目 学習指導の方法2(学習指導案の作成方法、機器の使い方)	学習指導案、評価、OHC、OHP、黒板、カード、グループワーク
13	第13回目 学習指導の方法3(模擬授業、研究発表)	マイクロティーチング、研究発表
14	第14回目 学習指導の方法4(模擬授業、研究発表)	マイクロティーチング、研究発表
15	第15回目 学習指導の方法5(模擬授業、研究発表)、試験説明	マイクロティーチング、研究発表、試験説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

衣・食・住・消費生活・環境に関する専門書を読み、基本的な知識を身につけておくこと。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	学習指導要領と家庭科に関する専門の内容を理解できたかどうかを確認する検証テスト

上記以外の試験・レポート、 40 % 授業への参加、取り組みの状況など20%。
 平常点評価 実験・演習のレポートの提出10%
 指導案の提出10%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活に関心を持って臨んでほしい

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説家庭科編	文部科学省 / 東洋館出版 / 978-4-491-02374-8 /
小学校家庭科教育法ワークブック	鈴木洋子 / 家政教育社 / 978-4-7606-0377-0 / 2010年10月15日改訂第1刷
小学校家庭科概論—生活の学びを深めるために—	加地芳子・大塚真理子 / ミネルヴァ書房 / 978-4-623-05994-2 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家庭科教育法	佐藤文子ら / 高陵社 / 4-7711-0028-4 /

家庭科の歴史、指導方法、授業方法、設備など広く理解できる参考書である

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/shou/08_sho_katei.pdf

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
 インタラクティブシート / Interactive Sheet
 manaba+R / Learning Management System (manaba+R)
 学生との直接対話 / Talk with Students
 その他 / Other

メールアドレスを最初の授業時に連絡する。

その他 / Other

調理実習は、事前に必要な材料を計算し、当日持参すること。食器ふき、台ふきん、鍋つかみを準備してくること。
 簡単な小物の製作では、材料を事前に準備し、当日持参すること。

拡張項目

家庭 (SB)

12840

担当者名 / Instructor 加藤 佐千子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校における家庭科の学習内容について、より高度な理解を促すと共に、教材研究や授業作りの基本的な方法論の検討を通して、実践的力量的形成を目指す。衣食住についての体験活動のあり方や適切な教材選択方法、家庭生活への関心や理解、裁縫や調理といった家庭科の内容について理解を促していく。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論、裁縫などの製作活動や調理実習なども組み入れ、具体的な授業実践につながる教材研究の手法等の獲得を目指す。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・小学校家庭科の指導内容がわかる。
- ・裁縫や調理の基本的知識、技術を理解する。
- ・指導案の作成、模擬授業の体験を通して学習指導や評価の方法がわかる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回目 オリエンテーション	授業の到達目標、進め方、成績評価方法等
2	第2回目 家庭科の教育の本質と変遷、家庭科教育の目標と内容、 学習指導要領の見方	歴史、目標、学習指導要領
3	第3回目 A 家庭生活と家族	家庭生活、家族
4	第4回目 C 快適な衣服と住まい1	衣生活の現状、被服材料、着方、手入れの仕方、洗濯、 汚れの落ちる仕組み・燃焼実験
5	第5回目 C 快適な衣服と住まい2	基本縫い、ボタン付け、ミシン縫い、用具の安全な取り扱い方、 小物の製作
6	第6回目 C 快適な衣服と住まい3 学習指導の方法1(授業の見方)	現場教員の授業の視聴(DVD)
7	第7回目 B 日常の食事と調理の基礎1	栄養素、食品の特性
8	第8回目 B 日常の食事と調理の基礎2	炊飯の原理、材料の切り方、包丁の持ち方(ビデオ)、 実習の説明 炊飯、切り方、実習室の使い方、実習計画 立案、器具の確認、実習計画
9	第9回目 B 日常の食事と調理の基礎3(調理実習1)	ご飯、味噌汁、野菜炒め、ゆで卵
10	第10回目 B 日常の食事と調理の基礎4(調理実習2)	ご飯、味噌汁、野菜サラダ、自由献立1品
11	第11回目 C 快適な衣服と住まい D 身近な消費生活と環境	暖かい住まい方、涼しい住まい方(ビデオ) 金銭の使い方、生活時間、環境
12	第12回目 学習指導の方法2(学習指導案の作成方法、機器の使い方)	学習指導案、評価、OHC、OHP、黒板、カード
13	第13回目 学習指導の方法3	指導案作成、グループワーク、マイクロティーチング、 研究発表
14	第14回目 学習指導の方法4(模擬授業、研究発表)	マイクロティーチング、研究発表
15	第15回目 学習指導の方法5(模擬授業、研究発表、試験説明)	マイクロティーチング、研究発表、試験説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

衣・食・住・消費生活・環境に関する専門書を読み、基本的な知識を身につけておくこと。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	学習指導要領と家庭科に関する専門の内容を理解できたかどうかを確認する検証テスト

上記以外の試験・レポート、 40 % 授業への参加、取り組みの状況など20%
 平常点評価 実験のレポートの提出10%
 指導案の提出10%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活に関心を持って臨んでほしい

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説家庭科編	文部科学省／東洋館出版／978-4-491-02374-8／
小学校家庭科教育法ワークブック	鈴木洋子／家政教育社／978-4-7606-0377-0／2010年10月15日改訂第1刷
小学校家庭科概論—生活の学びを深めるために—	加地芳子、大塚真理子／ミネルヴァ書房／978-4-626-05994-2／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家庭科教育法	佐藤文子ら／高陵社／4-7711-0028-4／

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/shou/08_sho_katei.pdf

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
 インタラクティブシート / Interactive Sheet
 manaba+R / Learning Management System (manaba+R)
 その他 / Other

第1回目の授業でメールアドレスを連絡する。

その他 / Other

調理実習は、事前に必要な材料を計算し、当日持参すること。食器ふき、台ふきん、鍋つかみを準備してくること。簡単な小物の製作では、材料を事前に準備し、当日持参すること。

拡張項目

憲法 I (JB)

17847

担当者名 / Instructor 小松 浩

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本講義は、憲法の総論と人権の部分を対象とする。時間の許す限り、現代日本に現実には生起している憲法問題を具体的に取り上げ、憲法を単に知識として捉えるのではなく、自らの問題として捉えなおす機会となるような講義を心がけたい。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

憲法学説、判例を単に頭で理解し、習得するだけでなく、日本国憲法の理念、精神を文字通り体得し、現代日本で生起する憲法問題に対して主体的な判断ができるようになることを目標とする。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	1 憲法の概念	憲法とは何か、憲法の意味、分類、立憲主義
3～4	2 日本憲法史(1)	明治憲法の基本原理
5～6	3 日本憲法史(2)	日本国憲法の制定
7～8	4 国民主権原理	国民主権、象徴天皇制
9～10	5 平和主義(1)	平和主義の原理、憲法9条の解釈
11～12	6 平和主義(2)	平和主義に関する判例
13～14	7 人権総論(1)	人権の歴史的展開
15～16	8 人権総論(2)	人権の分類、享有主体
17～18	9 人権総論(3)	人権の限界、特別権力関係、私人間効力
19～20	10 包括的基本権	幸福追求権、自己決定権
21～22	11 法の下での平等	平等の意味、憲法14条の解釈
23～24	12 精神的自由権(1)	思想・良心の自由、信教の自由
25～26	13 精神的自由権(2)	表現の自由、集会・結社の自由
27～28	14 経済的自由権	職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権の保障
29～30	15 社会権	生存権、教育を受ける権利、労働基本権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

下記の教科書を中心にして講義を進めるが、教科書に掲載されていない内容にも当然触れるので、講義に出席することが必須である。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述問題 学説、判例が理解され、それらの検討が行えているかを評価する。
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	20 %	択一式小テスト 法学部生としての最低の基礎知識の有無を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title **出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

憲法(第5版)	芦部信喜(高橋和之補訂) / 岩波書店 / /
---------	-------------------------

一応上記教科書を指定するが、他の体系書、基本書でもかまわない。

参考書 / Reference Books**書名 / Title** **出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

新・憲法判例特選	柏崎敏義ほか / 敬文堂 / /
----------	------------------

憲法1人権(第5版)	渋谷秀樹・赤坂正浩 / 有斐閣 / /
------------	---------------------

憲法判例百選 I・II(第5版)	高橋和之ほか / 有斐閣 / /
------------------	------------------

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

法学館憲法研究所 <http://www.jicl.jp/>

憲法会議 <http://www.kenpoukaigi.gr.jp/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

hkomatsu@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Other**拡張項目**

憲法Ⅱ (JC)

15141

担当者名 / Instructor 小松 浩

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本講義では、憲法Ⅰの履修を前提に、憲法の統治機構の部分を扱う。統治機構の部分は、憲法Ⅰで扱った人権に比して、抽象的で身近ではないと感じられるかもしれないが、民主主義の実現にとって重要であるとともに、権力の濫用を防止しもって人権保障に奉仕するという役割を果たすものである。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

憲法学説、判例を単に頭で理解し、習得するだけでなく、日本国憲法の理念、精神を文字通り体得し、現代日本で生起する憲法問題に対して主体的な判断ができるようになることを目標とする。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

憲法Ⅰ

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	1 権力分立	権力分立の原理、歴史的展開、現代の変容
3～4	2 国民代表制	国民代表制の原理、歴史的展開
5～6	3 国会(1)	国会の地位、二院制
7～8	4 国会(2)	選挙制度、政党
9～10	5 国会(3)	国会議員の地位、国会の活動、国会の権能、議院の権能
11～12	6 内閣(1)	行政権の概念、内閣の組織
13～14	7 内閣(2)	内閣の権能、議院内閣制、解散権の所在
15～16	8 裁判所(1)	司法権の概念、司法権の範囲と限界
17～18	9 裁判所(2)	裁判所の組織、裁判所の権能
19～20	10 裁判所(3)	司法権の独立
21～22	11 財政	財政民主主義、租税法律主義
23～24	12 地方自治	地方自治の本旨、地方自治の機関、条例
25～26	13 違憲審査制(1)	憲法保障
27～28	14 違憲審査制(2)	違憲審査の性格
29～30	15 憲法改正	憲法改正の原理、限界

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述問題 学説、判例が理解され、それらの検討が行えているかを評価する。
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	20 %	択一式小テスト 法学部生としての最低の基礎知識の有無を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記の教科書を中心に講義を進めるが、教科書に掲載されていない内容にも当然触れるので、講義に出席することが必須である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法(第5版)	芦部信喜(高橋和之補訂) / 岩波書店 / /

一応上記教科書を指定するが、他の体系書、基本書でもかまわない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・憲法判例特選	柏崎敏義ほか / 敬文堂 / /
憲法2統治(第5版)	渋谷秀樹・赤坂正浩 / 有斐閣 / /
憲法判例百選 I (第5版)	高橋和之ほか / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

衆議院 <http://www.shugiin.go.jp/index.nsf/html/index.htm>
 参議院 <http://www.sangiin.go.jp/>
 首相官邸 <http://www.kantei.go.jp/>
 裁判所 <http://www.courts.go.jp/>
 法学館憲法研究所 <http://www.jicl.jp/>
 憲法会議 <http://www.kenpoukaigi.gr.jp/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

hkomatsu@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Other

拡張項目

図画工作 (SB)

13565

担当者名 / Instructor 細谷 僚一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

表現及び鑑賞の活動を通して、小学校図画工作科教育の目標や内容について理解し、指導者としての実践力をつける。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・学習指導要領に示されている図画工作科の目標や内容を説明できる。(知識・理解)
- ・指導のねらいを明確にしながら、児童の発達段階に応じて授業をデザインすることができる。(思考・判断)
- ・表現や鑑賞の活動を通して指導者としての実践的な力を身につける。(技能・表現)

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介, 授業の到達目標と評価, 授業の進め方, 各授業の課題, 小学校学習指導要領「図画工作科」の目標, アンケート(図画工作科教育及び美術教育の履歴)
2	絵に表す①「見たことを絵に表す」	「見たことを絵に表す活動」の指導, 見ることと描くこと, 色彩の体系と理論, アンケート結果, グループ編成
3	絵に表す②「感じたことを絵に表す」	「感じたことを絵に表す活動」の指導, かたちや色から発想, 多様な描画材料と描画方法, 色彩についての小テスト
4	立体に表す「想像の昆虫」①	「立体に表す活動」の指導, 材料の形や特徴を生かす, アッサンブラージュ(並べる・つなぐ・積む・組み合わせるなど), 色彩について的小テスト結果
5	立体に表す「想像の昆虫」②	「立体に表す活動」の指導, 材料の形や特徴を生かす, アッサンブラージュ(並べる・つなぐ・積む・組み合わせるなど)
6	造形遊びの理論と実践	「造形遊びをする活動」の指導, 材料と場所からの発想, 学びと遊び, 全身性, 総合性
7	工作に表す「陶芸・カップ」①	「工作に表す活動」の指導①, 材料や用具の特徴を生かす, 表現方法の工夫, 機能や用途, 生活の中の造形
8	工作に表す「陶芸・カップ」②	「工作に表す活動」の指導②, 材料や用具の特徴を生かす, 表現方法の工夫, 機能や用途, 生活の中の造形
9	工作に表す「光の造形」①	「工作に表す活動」の指導①, 光の効果, 空間の演出, 表現方法の工夫
10	工作に表す「光の造形」②	「工作に表す活動」の指導②, 光の効果, 空間の演出, 表現方法の工夫
11	共同して作りだす活動「4コマ漫画」	「共同して作りだす活動」の指導, 参加と交流, 連作, 漫画, 物語, 絵と言葉による表現
12	絵や立体に表す「ボックスアート」①	「絵や立体に表す活動」の指導①, 想像の世界, 視覚の冒険, 材料の効果的な組合せ
13	絵や立体に表す「ボックスアート」②	「絵や立体に表す活動」の指導②, 想像の世界, 視覚の冒険, 材料の効果的な組合せ
14	鑑賞する活動①	「鑑賞する活動」の指導①, グループ発表, 鑑賞と批評, 確認テスト
15	鑑賞する活動② まとめ	「鑑賞する活動」の指導②, グループ発表, 鑑賞と批評, 表現と鑑賞のかかわり, 確認テスト結果

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

- ・身のまわりにある作品を日常的に鑑賞し、そのよさを見つけたり批評したりする習慣をつける。
- ・各題材について、あらかじめ構想を練ったり材料を集めたりしておく。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.
 上記以外の試験・レポート、 100 % ・振り返り小レポートの内容。

平常点評価

- ・色彩についての小テスト結果。
- ・自己評価や相互評価の妥当性。
- ・発達段階に応じた鑑賞領域の学習指導案や鑑賞指導の的確さ。
- ・アイデアスケッチや完成作品などによる教材理解度。
- ・表現や鑑賞活動における追究性や協同的な姿勢。
- ・確認テストによる学習指導要領の理解度

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・指導者としての意識を常にもちながら授業を受けること。
- ・他教科や領域の学習活動と関連づけて図画工作科教育をとらえること。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア時代の美術教育	柴田和豊編 / 国土社 / /
美術科教育の基礎知識	福田隆真・福本謹一・茂木一司編著 / 建帛社 / /
美術教育概論	新聞伸也・松岡宏明・藤本陽三・佐藤賢司・鈴木光男編著 / 日本文教出版 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)
 学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

精神保健福祉論 (S)

13103

担当者名 / Instructor 塩満 卓

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉論は、精神保健福祉の原論として位置づけられる科目である。したがって、精神障害者のおかれてきた状況を社会的歴史的に正しく理解し、その過程で練り上げられてきた援助専門職の思想、価値実践を学ぶことを目的とする。さらに、現状の精神保健福祉の課題について考える視座を獲得するために、制度政策と現場実践と運動の関係性の理解を深めることを目的とする。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ①精神障害者福祉の政策背景を歴史的に探る力を獲得する
- ②精神科ソーシャルワークの原則を理解する力を獲得する

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

障害者福祉論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	精神障害者福祉の歩み1 精神病患者監護法の概要	相馬事件 精神病患者監護法 私宅監置
2	精神障害者福祉の歩み2 精神病院法の概要	呉秀三 精神病患者一斉調査 精神病院法
3	精神障害者福祉の歩み3 15年戦争と精神病患者の生活実態	社会防衛思想 優性思想 ロボトミー 入院患者餓死
4	戦前の精神保健福祉政策に関するまとめの講義と到達度テスト	
5	精神障害者福祉の歩み4 精神衛生法の概要と精神病院ブーム	医療金融公庫 精神科特例 経済的措置入院
6	精神障害者福祉の歩み5 精神衛生法一部改正の概要	ライシャワー事件 保健所精神衛生業務 通報制度の拡大
7	精神障害者福祉の歩み6 入院中心主義から地域中心主義への萌芽	全家連設立 PSW協会発足 クラーク勧告 共同作業
8	精神障害者福祉の歩み7 「Y問題」の概要と背景の考察	精神障害者とソーシャルワーク 札幌宣言 人権思想 福祉見直し論
9	精神障害者福祉の歩み8 精神病院不祥事件の概要と背景の考察	栗岡病院事件 安田病院事件 日本精神神経学会声 明文
10	精神障害者福祉の歩み9 精神保健法の概要	宇都宮病院事件 ICJとICHPの調査 入院患者の人権
11	戦後精神保健法までの精神保健福祉政策に関するまとめの講義と到達度テスト	
12	精神障害者福祉の歩み10 精神保健福祉法及び精神保健福祉士法の概要	精神保健法一部改正 手帳制度 福祉の専門職化 福祉の計画化
13	精神障害者福祉の歩み11 障害者自立支援法の内包する問題と運動	政策形成過程 応益負担 違憲訴訟
14	ゲストスピーカーによる講義 PSWの地域精神保健福祉活動の実際	精神障害当事者との協働 権利擁護 市民との共同
15	精神保健法から現在までの精神保健福祉政策に関するまとめの講義と到達度テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	出席状況 25% リアクション・ペーパー 25% 到達度小テスト 50%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神障害者の未来を拓くために	秋元波留夫 / 共同作業所全国連絡会 / ISBN4-89491-020-9 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心病める人たち	石川信義 / 岩波新書 / 400430122X /
ルポ・精神病棟	大熊一夫 / 朝日文庫 / 4022602449 /
わが国に生まれた不幸を重ねないために	藤井克徳・田中秀樹 / 萌文社 / 4894910667 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Other

拡張項目

精神医学 (S)

10302

担当者名 / Instructor 辻 正之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「こころ」の働きやストレス、精神疾患、精神保健、精神医療など『精神医学』の基礎論を学習します。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

「精神医学の基礎となる知識を習得し、概念を理解して、それらを説明できる」水準への到達を目標に致しましょう。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	4月8日 授業の概要と導入(科目のガイダンス)	シラバス、「こころ」の働き、ストレス、精神疾患、診断分類、チーム医療
2	4月15日 精神科診断(1) 最初の診察・面接	主訴、精神的現在症、問診、聴くこと
3	4月22日 精神科診断(2) 精神症状	知覚、思考、感情、意欲・行動、表情、自我
4	4月29日(★昭和の日) 統合失調症	妄想、幻覚、解体した会話/行動、感情の平板化、4A症状
5	5月11日(★土曜) 気分障害	躁うつ病、躁病、うつ病、内因性、心因性
6	5月13日 神経症 ICD-10の疾病分類	葛藤、不安、ICD-10
7	5月20日 パーソナリティ障害 思春期の精神障害	同一性、思春期心性、不登校、対人恐怖、摂食障害
8	5月27日 老年期の精神障害	老化、対象喪失、認知症、老年期うつ病
9	6月3日 特別講師「講義」: 崔秀賢 岩倉病院長	精神医療・精神科病院の歴史、開放医療、「病院」と「地域」
10	6月10日 精神保健スタッフに求められる技能 ご意見の交換/ご質問へのお答え	精神症状、効果的なコミュニケーション、BPRS
11	6月17日 特別講師「講義」: 大谷和世 岩倉病院副看護部長	精神科看護、「こころ」と「身体」、医療現場の実際
12	6月24日 精神療法	精神療法的態度、精神療法的技法、治療メカニズム、治療的变化、治療構造
13	7月1日 精神科薬物療法 「腕試しテスト」(7月15日)の事前説明	向精神薬、プラセボ、作用要因、「転移」と「逆転移」
14	7月8日 「ストレスケア病棟」と職場のメンタルヘルス	ストレスケア病棟、うつ病、チーム医療
15	7月15日(★海の日) 45分間の腕試しテスト+45分間の講義(事後説明・解説、科目のまとめ)	シラバスのレビュー、「到達目標」と「自己評価」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

- ①テレビや新聞の精神医療・精神保健など『精神医学』に関する報道などにも、ご関心が持てれば更に良いと思います。
- ②授業内では症例もご提示します。秘密の保持には十分、ご配慮ください。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	①授業時間内に書いて頂く簡単なレポートに対する評価に加えて、受講状況による加点を行いません→全評価中の65%に充当します。 ②第15回授業(7月15日 海の日)で45分間の「腕試しテスト」を行いません→全評価中の35%に充当します。

★授業時間内に書いてご提出して頂く「レポート」「出席カード」などには全て、①お名前②学生証番号③学部④学科・専攻・コース⑤回生、をご記入の上で必ず⑥QRコードを貼付して下さい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

白紙の状態を受講して頂いて構いません。授業内で集中的に学習を致しましょう。

教科書 / Textbooks

教科書(テキスト)は用いません。必要時に、レジュメなどを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ストレスとうつ	徳永雄一郎 / 西日本新聞社 / 第5,8,14回の授業内容の理解を深めたいときの参考書的新書です。
事例で学ぶSST	高柴哲次郎 / 日総研出版 / 第3,4,10回の授業内容の理解を深めたいときの参考書です。
禪的森田療法	宇佐晋一 / 三聖病院 / 森田療法を原法に忠実に継承して来られている臨床医の貴重な「エッセイ」と「日記指導実例」です。

上記の3冊は気軽に読める書籍です。
授業のご理解にだけでなく、ご自身の健康維持にも役立つかもしれません。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

岩倉病院 <http://www.toumonkai.net/>
 日本精神神経学会 <http://www.jspn.or.jp/>
 日本うつ病学会 <http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/>
 日本統合失調症学会 <http://jsr.kenyuukai.jp/special/index.asp?id=4746>
 日本不安障害学会 <http://www.jpsad.jp/>
 日本精神分析的な精神医学会 <http://www.jaapp.jp>
 日本森田療法学会 <http://www.jps-morita.jp/index.html>
 日本語臨床フォーラム <http://pfk.saloon.jp/>
 京都市こころの健康増進センター <http://www.city.kyoto.jp/hokenfukushi/kokenzou/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
 インタラクティブシート / Interactive Sheet
 学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

社会調査士 II (SD)

13784

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士 II」および「社会調査士 III」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士 II」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士 III」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士 I」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査主題と調査フィールドの検討(1)	
2	調査主題と調査フィールドの検討(2)	
3	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(1)	
4	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(2)	
5	班別に作業仮説の検討(1)	
6	班別に作業仮説の検討(2)	
7	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(1)	
8	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(2)	
9	仮説の構築(1)	
10	仮説の構築(2)	
11	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(1)	
12	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(2)	
13	調査票(案)作成等(1)	
14	調査票(案)作成等(2)	
15	調査票(案)作成等(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成

平常点評価

される、さまざまな調査に関するノートや文書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Democracy is a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What relationship is there, if any, between the classical democracy of ancient Athens and modern day democracies like Japan and the UK? What is the relationship between democracy and individual rights? Can modern communications technology improve the quality of democracy, and what is the future for democracy in an era of globalisation? These are just some of the questions students will consider on this course.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

This course is only open to students enrolled on the Sansha English Fukunsenko Programme.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 Defining democracy: key concepts and questions Reading: excerpt from Robert Dahl, 'On Democracy'	
	2 Athenian democracy Reading: Paul Cartledge, The Democratic Experiment	
	3 How democratic was Athenian democracy? Reading: excerpt from Ian Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'	
	4 The Second Transformation: Democracy as Representative Government Reading: excerpt from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
	5 Virtual Democracy: The democratizing potential of the Internet #1 Reading: 'Virtual Democracy?' typescript Writing assignment: Are you an optimist or pessimist regarding the potential of "digital democracy"?	
	6 Virtual democracy: The democratizing potential of the Internet #2 Reading: excerpt from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
	7 Electoral Systems: How can elections be 'free and fair'? Writing assignment: Should voting be compulsory?	
	8 Comparing electoral systems: First-Past-The-Post; Alternative Vote; Party List	
	9 Should voting be compulsory? Readings: Chris Puplick, 'The case for compulsory voting'; Padraic McGuinness, 'The case against compulsory voting'	
	10 Measuring democracy: Reading: excerpt from Robert Dahl, 'On Democracy'	

11
Measuring democracy: The Freedom House index
Reading: excerpt from 'Freedom In The World'
Research task: The Third Wave, and The End of History

12
The Third Wave of Democracy and the End of History
thesis

13
Deliberative Polls – a new initiative for democracy
Reading: excerpt from James Fishkin, 'The Voice of the
People'

14
Evaluating Deliberative Polls

15
Final Examination and Course Summary

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

This is a demanding course. Of course, as with other B-gun courses on the sansha English Fukusenko Programme, all classes are conducted in English. Students will need to prepare for these by reading selected articles written in English, completing short-answer worksheets and by learning key vocabulary. Regular attendance and active participation in class are essential.

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
平常点評価

1. The above schedule of classes may change. More details will be given in class.
2. Students must complete all coursework in order to pass.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1. The readings provided on this course are authentic English texts – that is, they are the kinds of texts used by students at English-speaking universities. It's important that you complete the readings each week, but don't worry if you don't understand every word. Focus on the main ideas. Use the worksheet provided by the instructor to help you (the questions / tasks on the worksheet will help you to identify the main points in the reading).
2. Make a list of key words that come up in the readings. Certain key words / phrases will come up again and again in the lectures / readings (e.g. legitimacy; accountability)
3. If you don't already do so, get into the habit of reading a newspaper regularly – either in print or online. In class discussions, we will often talk about current political events in the world.

教科書 / Textbooks

No textbook. Teacher will provide materials.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『On Democracy』	Robert Dahl / Yale University Press / 0300084552 / A useful general introduction to the topic.

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

Freedom House <http://www.freedomhouse.org/template.cfm?page=1>
International IDEA <http://www.idea.int/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Democracy is a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What relationship is there, if any, between the classical democracy of ancient Athens and modern day democracies like Japan and the UK? What is the relationship between democracy and individual rights? Can modern communications technology improve the quality of democracy, and what is the future for democracy in an era of globalisation? These are just some of the questions students will consider on this course.

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

This course is only open to students enrolled on the Sansha English Fukunsenko Programme.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 Defining democracy: key concepts and questions Reading: excerpt from Robert Dahl, 'On Democracy'	
	2 Athenian democracy Reading: Paul Cartledge, The Democratic Experiment	
	3 How democratic was Athenian democracy? Reading: excerpt from Ian Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'	
	4 The Second Transformation: Democracy as Representative Government Reading: excerpt from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
	5 Virtual Democracy: The democratizing potential of the Internet #1 Reading: 'Virtual Democracy?' typescript Writing assignment: Are you an optimist or pessimist regarding the potential of "digital democracy"?	
	6 Virtual democracy: The democratizing potential of the Internet #2 Reading: excerpt from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
	7 Electoral Systems: How can elections be 'free and fair'? Writing assignment: Should voting be compulsory?	
	8 Comparing electoral systems: First-Past-The-Post; Alternative Vote; Party List	
	9 Should voting be compulsory? Readings: Chris Puplick, 'The case for compulsory voting'; Padraic McGuinness, 'The case against compulsory voting'	
	10 Measuring democracy: Reading: excerpt from Robert Dahl, 'On Democracy'	

11
 Measuring democracy: The Freedom House index
 Reading: excerpt from 'Freedom In The World'
 Research task: The Third Wave, and The End of History

12
 The Third Wave of Democracy and the End of History
 thesis

13
 Deliberative Polls – a new initiative for democracy
 Reading: excerpt from James Fishkin, 'The Voice of the
 People'

14
 Evaluating Deliberative Polls

15
 Final Examination and Course Summary

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

This is a demanding course. Of course, as with other B-gun courses on the sansha English Fukusenko Programme, all classes are conducted in English. Students will need to prepare for these by reading selected articles written in English, completing short-answer worksheets and by learning key vocabulary. Regular attendance and active participation in class are essential.

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 %
 平常点評価

1. The above schedule of classes may change. More details will be given in class.
2. Students must complete all coursework in order to pass.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1. The readings provided on this course are authentic English texts – that is, they are the kinds of texts used by students at English-speaking universities. It's important that you complete the readings each week, but don't worry if you don't understand every word. Focus on the main ideas. Use the worksheet provided by the instructor to help you (the questions / tasks on the worksheet will help you to identify the main points in the reading).
2. Make a list of key words that come up in the readings. Certain key words / phrases will come up again and again in the lectures / readings (e.g. legitimacy; accountability)
3. If you don't already do so, get into the habit of reading a newspaper regularly – either in print or online. In class discussions, we will often talk about current political events in the world.

教科書 / Textbooks

No textbook. Teacher will provide materials.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『On Democracy』	Robert Dahl / Yale University Press / 0300084552 / A useful general introduction to the topic.

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

Freedom House <http://www.freedomhouse.org/template.cfm?page=1>
 International IDEA <http://www.idea.int/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会調査士Ⅲ (SD)

16411

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査結果の整理と確認(1)	
2	調査結果の整理と確認(2)	
3	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(1)	
4	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(2)	
5	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(3)	
6	データクリーニング、分析案の検討(1)	
7	データクリーニング、分析案の検討(2)	
8	面接による補足調査(1)	
9	面接による補足調査(2)	
10	データ解析作業(1)	
11	中間報告会	
12	データ解析作業(2)	
13	データ解析作業(3)	
14	調査報告書の作成、編集(1)	
15	調査報告書の作成、編集(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レ

ポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 /
4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会調査士Ⅲ (SC)

12866

担当者名 / Instructor 櫻井 純理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査結果の整理と確認(1)	
2	調査結果の整理と確認(2)	
3	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(1)	
4	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(2)	
5	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(3)	
6	データクリーニング、分析案の検討(1)	
7	データクリーニング、分析案の検討(2)	
8	面接による補足調査(1)	
9	面接による補足調査(2)	
10	データ解析作業(1)	
11	中間報告会	
12	データ解析作業(2)	
13	データ解析作業(3)	
14	調査報告書の作成、編集(1)	
15	調査報告書の作成、編集(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レ

ポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 /
4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会調査士Ⅲ (SA)

16410

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査結果の整理と確認(1)	
2	調査結果の整理と確認(2)	
3	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(1)	
4	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(2)	
5	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(3)	
6	データクリーニング、分析案の検討(1)	
7	データクリーニング、分析案の検討(2)	
8	面接による補足調査(1)	
9	面接による補足調査(2)	
10	データ解析作業(1)	
11	中間報告会	
12	データ解析作業(2)	
13	データ解析作業(3)	
14	調査報告書の作成、編集(1)	
15	調査報告書の作成、編集(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レ

ポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 /
4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅱ (SA)

13567

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。
2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。
4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができている。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事前学習①	
	第3回 事前学習②	
	第4回 事前学習③	
	第5回 事前学習④	
	第6回 事前学習⑤	
	第7回 実習計画①	
	第8回 実習計画②	
	第9回 実習計画③	
	第10回 実習懇談会	
	第11回 実習計画④	
	第12回 事前学習⑤	
	第13回 実習直前準備①	
	第14回 実習直前準備②	
	第15回 実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまと

平常点評価 めるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会調査士 II (SC)

12860

担当者名 / Instructor 櫻井 純理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士 II」および「社会調査士 III」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士 II」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士 III」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士 I」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査主題と調査フィールドの検討(1)	
2	調査主題と調査フィールドの検討(2)	
3	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(1)	
4	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(2)	
5	班別に作業仮説の検討(1)	
6	班別に作業仮説の検討(2)	
7	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(1)	
8	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(2)	
9	仮説の構築(1)	
10	仮説の構築(2)	
11	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(1)	
12	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(2)	
13	調査票(案)作成等(1)	
14	調査票(案)作成等(2)	
15	調査票(案)作成等(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成

平常点評価

される、さまざまな調査に関するノートや文書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会調査士 II (SB)

12859

担当者名 / Instructor 丸山 里美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士 II」および「社会調査士 III」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士 II」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士 III」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士 I」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査主題と調査フィールドの検討(1)	
2	調査主題と調査フィールドの検討(2)	
3	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(1)	
4	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(2)	
5	班別に作業仮説の検討(1)	
6	班別に作業仮説の検討(2)	
7	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(1)	
8	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(2)	
9	仮説の構築(1)	
10	仮説の構築(2)	
11	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(1)	
12	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(2)	
13	調査票(案)作成等(1)	
14	調査票(案)作成等(2)	
15	調査票(案)作成等(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成

平常点評価

される、さまざまな調査に関するノートや文書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会調査士 II (SA)

13783

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士 II」および「社会調査士 III」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士 II」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士 III」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士 I」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査主題と調査フィールドの検討(1)	
2	調査主題と調査フィールドの検討(2)	
3	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(1)	
4	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(2)	
5	班別に作業仮説の検討(1)	
6	班別に作業仮説の検討(2)	
7	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(1)	
8	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(2)	
9	仮説の構築(1)	
10	仮説の構築(2)	
11	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(1)	
12	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(2)	
13	調査票(案)作成等(1)	
14	調査票(案)作成等(2)	
15	調査票(案)作成等(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成

平常点評価

される、さまざまな調査に関するノートや文書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会調査士 I (SD)

13579

担当者名 / Instructor 平本 毅

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士 I」「社会調査士 II」「社会調査士 III」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士 II」「社会調査士 III」への導入であり基礎である。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

社会調査の基本的な考え方を理解し、調査の具体的な方法を習得することによって、社会学的発想から、調査課題を設定し、資料やデータを収集、分析し、結論まで導くことができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士 II」「社会調査士 III」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会調査士課程全体の概要と導入	
2	社会調査の背景、社会調査とは	
3	社会調査のモラル、調査倫理	
4	調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
5	調査票の作成(1)	
6	調査票の作成(2)	
7	調査対象者の選定、サンプリングとは	
8	社会調査の実施方法	
9	調査票の回収とコーディング	
10	データ入力とデータクリーニング	
11	質的調査の方法	
12	質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
13	データの整理と分析(1)	
14	データの整理と分析(2)	
15	調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進める。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成する。討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

授業内レポート: 授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。他者の発表や授業内の討論を活かしつつ、論理的説得力をもって記述されているかをみる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士課程を履修した先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 /
4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会調査士Ⅲ (SB)

12865

担当者名 / Instructor 丸山 里美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査結果の整理と確認(1)	
2	調査結果の整理と確認(2)	
3	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(1)	
4	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(2)	
5	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(3)	
6	データクリーニング、分析案の検討(1)	
7	データクリーニング、分析案の検討(2)	
8	面接による補足調査(1)	
9	面接による補足調査(2)	
10	データ解析作業(1)	
11	中間報告会	
12	データ解析作業(2)	
13	データ解析作業(3)	
14	調査報告書の作成、編集(1)	
15	調査報告書の作成、編集(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レ

ポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 /
4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術現場実習 (SB)

20543

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習III」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会調査士 I (SA)

12171

担当者名 / Instructor 湊 邦生

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士 I」「社会調査士 II」「社会調査士 III」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士 II」「社会調査士 III」への導入であり基礎である。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

社会調査の基本的な考え方を理解し、調査の具体的な方法を習得することによって、社会学的発想から、調査課題を設定し、資料やデータを収集、分析し、結論まで導くことができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士 II」「社会調査士 III」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会調査士課程全体の概要と導入	
2	社会調査の背景、社会調査とは	
3	社会調査のモラル、調査倫理	
4	調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
5	調査票の作成(1)	
6	調査票の作成(2)	
7	調査対象者の選定、サンプリングとは	
8	社会調査の実施方法	
9	調査票の回収とコーディング	
10	データ入力とデータクリーニング	
11	質的調査の方法	
12	質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
13	データの整理と分析(1)	
14	データの整理と分析(2)	
15	調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進める。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成する。討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

授業内レポート: 授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。他者の発表や授業内の討論を活かしつつ、論理的説得力をもって記述されているかをみる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士課程を履修した先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術演習 I (SA) § 社会福祉援助技術演習 (SA)

13467

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導II」「社会福祉援助技術演習III」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 % 演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。

平常点評価

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術演習 I (SB) § 社会福祉援助技術演習 (SB)

13468

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導II」「社会福祉援助技術演習III」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 % 演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。

平常点評価

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術演習 I (SC) § 社会福祉援助技術演習 (SC)

13469

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導II」「社会福祉援助技術演習III」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 % 演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。

平常点評価

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術演習 I (SD) § 社会福祉援助技術演習 (SD)

13470

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導II」「社会福祉援助技術演習III」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。
日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。 欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術演習Ⅲ (SA)

13035

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、社会福祉士に必要な基礎スキルの習得をめざす。コミュニケーションや専門的援助関係づくりなどすべての福祉分野に必要な基本的な知識・技能をグループ討議やロールプレイ等を通して学ぶ。また、事例を通して、福祉実践に関わる価値や理念、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。

なお、この授業では、A、B、Cの3人の教員が3クラスで各々5回ずつ授業を担当するので、クラスによって授業スケジュールが異なる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 専門的援助関係づくりのための基本スキル(コミュニケーション、原理原則の適用)の重要性がわかり、習得の意欲をもっている。
2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両方を生態学的視点に基づいて理解することの重要性が認識できている。
3. 社会福祉実践の目的、内容、方法、プロセス、課題について基礎的な理解ができている。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

社会福祉援助技術実習指導Ⅱは履修しておかねばならない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事例(マクロレベル)の提示、地域についての理解	統計、地域特性、住民の生活実態、社会問題
	第3回 介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
	第4回 介入のプロセスと方法①	アセスメント
	第5回 介入のプロセスと方法②	計画の策定と実施、モニタリング、評価
	第6回 専門職の価値と自己覚知	
	第7回 専門的援助関係	
	第8回 コミュニケーション	
	第9回 面接技法	
	第10回 福祉実践の実際(ゲストスピーカー)	
	第11回 事例(ミクロレベル)の提示、利用者についての理解	発達、生活歴、環境との相互作用、社会問題
	第12回 介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
	第13回 介入のプロセスと方法①	アセスメント
	第14回 介入のプロセスと方法②	計画の作成と実施、モニタリング、評価
	第15回 授業の振り返りとまとめ	自己評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術演習Ⅲ (SB)

13036

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、社会福祉士に必要な基礎スキルの習得をめざす。コミュニケーションや専門的援助関係づくりなどすべての福祉分野に必要な基本的な知識・技能をグループ討議やロールプレイ等を通して学ぶ。また、事例を通して、福祉実践に関わる価値や理念、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。

なお、この授業では、A、B、Cの3人の教員が3クラスで各々5回ずつ授業を担当するので、クラスによって授業スケジュールが異なる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 専門的援助関係づくりのための基本スキル(コミュニケーション、原理原則の適用)の重要性がわかり、習得の意欲をもっている。
2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両方を生態学的視点に基づいて理解することの重要性が認識できている。
3. 社会福祉実践の目的、内容、方法、プロセス、課題について基礎的な理解ができている。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

社会福祉援助技術実習指導Ⅱは履修しておかねばならない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事例(マクロレベル)の提示、地域についての理解	統計、地域特性、住民の生活実態、社会問題
	第3回 介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
	第4回 介入のプロセスと方法①	アセスメント
	第5回 介入のプロセスと方法②	計画の策定と実施、モニタリング、評価
	第6回 専門職の価値と自己覚知	
	第7回 専門的援助関係	
	第8回 コミュニケーション	
	第9回 面接技法	
	第10回 福祉実践の実際(ゲストスピーカー)	
	第11回 事例(ミクロレベル)の提示、利用者についての理解	発達、生活歴、環境との相互作用、社会問題
	第12回 介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
	第13回 介入のプロセスと方法①	アセスメント
	第14回 介入のプロセスと方法②	計画の作成と実施、モニタリング、評価
	第15回 授業の振り返りとまとめ	自己評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術演習Ⅲ (SC)

13037

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、社会福祉士に必要な基礎スキルの習得をめざす。コミュニケーションや専門的援助関係づくりなどすべての福祉分野に必要な基本的な知識・技能をグループ討議やロールプレイ等を通して学ぶ。また、事例を通して、福祉実践に関わる価値や理念、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。

なお、この授業では、A、B、Cの3人の教員が3クラスで各々5回ずつ授業を担当するので、クラスによって授業スケジュールが異なる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 専門的援助関係づくりのための基本スキル(コミュニケーション、原理原則の適用)の重要性がわかり、習得の意欲をもっている。
2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両方を生態学的視点に基づいて理解することの重要性が認識できている。
3. 社会福祉実践の目的、内容、方法、プロセス、課題について基礎的な理解ができている。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

社会福祉援助技術実習指導Ⅱは履修しておかねばならない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事例(マクロレベル)の提示、地域についての理解	統計、地域特性、住民の生活実態、社会問題
	第3回 介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
	第4回 介入のプロセスと方法①	アセスメント
	第5回 介入のプロセスと方法②	計画の策定と実施、モニタリング、評価
	第6回 専門職の価値と自己覚知	
	第7回 専門的援助関係	
	第8回 コミュニケーション	
	第9回 面接技法	
	第10回 福祉実践の実際(ゲストスピーカー)	
	第11回 事例(ミクロレベル)の提示、利用者についての理解	発達、生活歴、環境との相互作用、社会問題
	第12回 介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
	第13回 介入のプロセスと方法①	アセスメント
	第14回 介入のプロセスと方法②	計画の作成と実施、モニタリング、評価
	第15回 授業の振り返りとまとめ	自己評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術現場実習 (SA)

20545

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習III」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

生活科教育法 (SB)

11331

担当者名 / Instructor 寺田 博幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校生活科が設置された背景を小学校教育の営みをもつ意味から検証し、生活科の目標や内容構成、生活科の指導計画作成と学習指導等について解説する。また、実践事例をもとに、具体的な学習指導と評価について考察し、生活科教育について理解を図る。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・生活科が設置された背景をふまえ、生活科教育にかかわる基礎的・基本的な理論について理解することができる。
- ・生活科の改善点をふまえ、子どもの主体性を育てる指導計画の作成、単元構想の在り方について理解することができる。
- ・生活科学習の指導と評価の一体化、子どもの学習意欲を高める学習指導法について理解することができる。
- ・生活科における子ども自身の自己評価や子ども相互の評価の在り方について理解することができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

生活科は、小学校低学年において教科の総合性を有している。その特質から他教科等の教科教育法を履修しておくことは有益である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	生活科とは一生活科誕生の背景と生活科教育の意義	知的好奇心・知的探究心がわきたつ具体的な体験や活動
第2回	生活科の目標と学年目標	身近な人々、社会及び自然を一体としてとらえること
第3回	生活科の学習内容一	気付きの質を高めること
第4回	生活科の学習内容二	かかわりを深め、表現活動を高めること
第5回	生活科の学習内容三	他教科等との合科的・関連的な指導の充実
第6回	生活科の年間指導計画と単元構想	子どもの思いや願いの実現へ
第7回	単元構想に基づく学習指導と評価一	気付きの質を高める工夫
第8回	単元構想に基づく学習指導と評価二	表現力を高める工夫
第9回	単元構想に基づく学習指導と評価三	安全教育や生命を大切にす指導の工夫
第10回	単元構想に基づく学習指導と評価四	かかわりを深める活動の重視
第11回	生活科学習指導の構想一	ワークショップによる小集団の協議を通して
第12回	生活科学習指導の構想二	ワークショップによる小集団の協議を通して
第13回	総合的な学習への接続とその意義	探究心がわきたつ教育の創造
第14回	かかわりを深める活動を重視する生活科・総合的な学習の展望	生きる力の具体化
第15回	本講義のまとめ	生活科の原点に立ち返って

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

ワークショップ形式による小集団の協議を行うが、詳しくは講義において指示をする。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義をもとに、レポート題について考えをまとめる。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	50 %	講義への参加意欲と協議への参加による評価を重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生きる力を育む教育の新たな展開を探る上で、毎月刊行される「初等教育資料」(東洋館出版)が参考になろう。教員を目指す受講生には、生活科のみならず小学校教育全体の営みを理解することを心から願う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

小学校学習指導要領解説 生活科編 文部科学省 / 日本文教出版 / 978-4-536-59002-0 /

小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4-491-02378-6 /

小学校学習指導要領 文部科学省 / 文部科学省 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

小学校学習指導要領の展開 生活科編 木村吉彦 / 明治図書 / 978-4-18-838617-0 /

小学校学習指導要領の展開 総合的な学習編 嶋野道弘 / 明治図書 / 978-4-18-839318-5 /

【スタートカリキュラム】のすべて仙台市発・幼小連携の新しい視点 木村吉彦監修, 仙台市教育委員会編 / ぎょうせい / 978-4-324-09151-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅱ (SC)

13569

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。
2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。
4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができています。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事前学習①	
	第3回 事前学習②	
	第4回 事前学習③	
	第5回 事前学習④	
	第6回 事前学習⑤	
	第7回 実習計画①	
	第8回 実習計画②	
	第9回 実習計画③	
	第10回 実習懇談会	
	第11回 実習計画④	
	第12回 事前学習⑤	
	第13回 実習直前準備①	
	第14回 実習直前準備②	
	第15回 実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまと

平常点評価 めるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

生活 (S)

13506

担当者名 / Instructor 寺田 博幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校における生活科の学習指導と評価について、実践事例をもとに考察していく。新学習指導要領に基づく生活科の改善点をふまえ、指導計画作成や単元構想、学習指導案上のポイントなどについてグループ討論などを行いながら、実践に生きる指導力を身に付けるようにする。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・生活科教育の基礎的・基本的な理論について理解し、説明することができる。
- ・子どもの思いや願いを実現し、主体性を育てる生活科学習の在り方について理解し、説明することができる。
- ・生活科における指導と評価の一体化や子どもの学習意欲を高める学習指導法について理解し、説明することができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

生活科は、小学校低学年において教科の総合性を有している。その特質から他教科の教科教育法を履修しておくことは有益である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	生活科の学習指導を進めるにあたって	教科目標, 学年目標, 学習内容をとらえる
第2回	生活科の学習指導と評価ー1	評価の観点, 学習内容における評価規準
第3回	生活科の学習指導と評価ー2	気付きの質を高める指導法の工夫
第4回	生活科の学習指導と評価ー3	表現力を高める指導法の工夫
第5回	生活科の学習指導と評価ー4	安全教育や生命を大切にしている指導法の工夫
第6回	生活科の学習指導と評価ー5	かかわりを深める活動の工夫
第7回	生活科の学習指導と評価ー6	他教科等との合科的・関連的な指導の工夫
第8回	総合的な学習への接続とその意義	知的好奇心・知的探究心をわきたたせる体験や活動の充実
第9回	かかわりを重視する生活科・総合的な学習の展望	かかわりを通して学びをつくること
第10回	指導と評価の一体化を図るために	評価の妥当性, 客観性, 信頼性を高める工夫
第11回	学級経営と生活科学習ー1	子どもの意見や考えが高まる学級集団づくり
第12回	学級経営と生活科学習ー2	目的意識, 相手意識を高める学級集団に向けて
第13回	生活科における学習指導の特質ー1	活動が深めるための時間的なゆとり, 空間的なゆとり, 心理的なゆとりを大切に
第14回	生活科における学習指導の特質ー2	自分のよさや可能性について気付きを深める指導の工夫
第15回	本講義を振り返って	意見交流を通して, 生活科を展望する

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

ワークショップ形式を取り入れ意見交流を進めていくが、具体的な内容等については講義で明示する。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義をもとに、レポート題について考えをまとめる。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	50 %	講義への参加意欲と意見交流への参加による評価を重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生きる力を育む教育の新たな展開を探る上で、毎月刊行される「初等教育資料」(東洋館出版)が参考になろう。教員を目指す受講生には、生活

科のみならず小学校教育全体の営みを理解することを心から願う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 生活科編	文部科学省 / 日本文教出版 / 978-4-536-59002-0 /
小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4-491-02378-6 /
小学校学習指導要領	文部科学省 / 文部科学省 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校新学習指導要領の展開 生活科編	木村吉彦 / 明治図書 / 978-4-18-838617-0 /
小学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編	嶋野道弘 / 明治図書 / 978-4-18-839318-5 /
「スタートカリキュラム」のすべて 仙台市発・幼小連携の新しい視点	木村吉彦監修, 仙台市教育委員会編 / ぎょうせい / 978-4-324-09151-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

拡張項目

応用精神保健学 (S)

20514

担当者名 / Instructor 石橋 典子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神保健学で学んだ内容をふまえて、精神保健活動の場としての地域、学校、職場の特性をふまえてそれぞれの場面における精神保健活動のあり方を学習する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

精神保健活動に関する諸理論をふまえて、具体的な精神保健活動のあり方を分析・討論・報告することができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

精神保健学の履修を終えていることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1,2 人間にとっての精神とは	
	3,4 精神保健とは	
	5,6 精神を病むということ	
	7,8 偏見のなかでつくられた病像	
	9,10 精神障害者の充実した生活とは	
	11,12 当事者と家族の社会参加	
	13,14 障害と共に生きるということ	
	15 まとめ 確認テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

精神保健福祉士養成セミナー編集会編「精神保健福祉士養成セミナー第2巻精神保健学」(東京;へるす出版)
石橋典子『呆けを「仕舞」として』中央法規

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術現場実習 (SC)

20546

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習III」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術現場実習 (SD)

20547

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習III」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、 平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導 I (SA)

13104

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者(潜在的利用者)の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 社会福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確に述べることができる。
2. 福祉実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の現場実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、レポート、施設見学、実習先選定のプロセスと方法
	第2回 支援すること・支援をうけること(体験学習)	
	第3回 社会福祉実践及び社会福祉士とは	倫理綱領、自己覚知(ワークショップ)
	第4回 行政機関とその福祉サービス①(福祉事務所からゲストスピーカー)	
	第5回 行政機関とその福祉サービス②(振り返りとまとめ)	
	第6回 地域福祉分野①(社会福祉協議会からのゲストスピーカー)	
	第7回 地域福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第8回 児童福祉分野①(児童相談所からゲストスピーカー)	
	第9回 児童福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第10回 高齢者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第11回 障害者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第12回 2011年度実習生による報告(児童・高齢)	
	第13回 2011年度実習生による報告(障害・地域)	
	第14回 実習に関連する心配・不安・気がかり等とそれらへの対処法	
	第15回 振り返りと今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

高齢者施設および障害(児)者施設への見学は、事前に見学計画書を作成し担当教員の指導を受けたいので、授業時間外にグループ単位で行う。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、施設見学の計画

平常点評価 書および報告、分野別レポート等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に参考になる文献・雑誌等については情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導 I (SB)

13105

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者(潜在的利用者)の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 社会福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確に述べることができる。
2. 福祉実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の現場実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、レポート、施設見学、実習先選定のプロセスと方法
	第2回 支援すること・支援をうけること(体験学習)	
	第3回 社会福祉実践及び社会福祉士とは	倫理綱領、自己覚知(ワークショップ)
	第4回 行政機関とその福祉サービス①(福祉事務所からゲストスピーカー)	
	第5回 行政機関とその福祉サービス②(振り返りとまとめ)	
	第6回 地域福祉分野①(社会福祉協議会からのゲストスピーカー)	
	第7回 地域福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第8回 児童福祉分野①(児童相談所からゲストスピーカー)	
	第9回 児童福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第10回 高齢者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第11回 障害者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第12回 2011年度実習生による報告(児童・高齢)	
	第13回 2011年度実習生による報告(障害・地域)	
	第14回 実習に関連する心配・不安・気がかり等とそれらへの対処法	
	第15回 振り返りと今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

高齢者施設および障害(児)者施設への見学は、事前に見学計画書を作成し担当教員の指導を受けたいので、授業時間外にグループ単位で行う。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、施設見学の計画

平常点評価 書および報告、分野別レポート等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に参考になる文献・雑誌等については情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導 I (SC)

13106

担当者名 / Instructor 西村 清忠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者(潜在的利用者)の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 社会福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確に述べることができる。
2. 福祉実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の現場実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、レポート、施設見学、実習先選定のプロセスと方法
	第2回 支援すること・支援をうけること(体験学習)	
	第3回 社会福祉実践及び社会福祉士とは	倫理綱領、自己覚知(ワークショップ)
	第4回 行政機関とその福祉サービス①(福祉事務所からゲストスピーカー)	
	第5回 行政機関とその福祉サービス②(振り返りとまとめ)	
	第6回 地域福祉分野①(社会福祉協議会からのゲストスピーカー)	
	第7回 地域福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第8回 児童福祉分野①(児童相談所からゲストスピーカー)	
	第9回 児童福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第10回 高齢者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第11回 障害者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第12回 2011年度実習生による報告(児童・高齢)	
	第13回 2011年度実習生による報告(障害・地域)	
	第14回 実習に関連する心配・不安・気がかり等とそれらへの対処法	
	第15回 振り返りと今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

高齢者施設および障害(児)者施設への見学は、事前に見学計画書を作成し担当教員の指導を受けたいので、授業時間外にグループ単位で行う。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、施設見学の計画

平常点評価 書および報告、分野別レポート等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に参考になる文献・雑誌等については情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅱ (SB)

13568

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。
2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。
4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができている。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事前学習①	
	第3回 事前学習②	
	第4回 事前学習③	
	第5回 事前学習④	
	第6回 事前学習⑤	
	第7回 実習計画①	
	第8回 実習計画②	
	第9回 実習計画③	
	第10回 実習懇談会	
	第11回 実習計画④	
	第12回 事前学習⑤	
	第13回 実習直前準備①	
	第14回 実習直前準備②	
	第15回 実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまと

平常点評価 めるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅱ (SD)

13570

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。
2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。
4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができている。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事前学習①	
	第3回 事前学習②	
	第4回 事前学習③	
	第5回 事前学習④	
	第6回 事前学習⑤	
	第7回 実習計画①	
	第8回 実習計画②	
	第9回 実習計画③	
	第10回 実習懇談会	
	第11回 実習計画④	
	第12回 事前学習⑤	
	第13回 実習直前準備①	
	第14回 実習直前準備②	
	第15回 実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
上記以外の試験・レポート、	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまと

平常点評価 めるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SA)

13580

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『鞆』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。
2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。
3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べるることができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 実習の振り返り	
	第3回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第4回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第5回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第6回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第7回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第8回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第9回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第10回 実習報告書『鞆』作成準備	
	第11回 実習報告会①	
	第12回 実習報告会②	
	第13回 実習報告会の振り返りと補足	
	第14回 実習報告書『鞆』の見直し	
	第15回 実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 % 日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参

平常点評価 画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SB)

13581

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『轍』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。
2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。
3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べるができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 実習の振り返り	
	第3回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第4回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第5回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第6回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第7回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第8回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第9回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第10回 実習報告書『轍』作成準備	
	第11回 実習報告会①	
	第12回 実習報告会②	
	第13回 実習報告会の振り返りと補足	
	第14回 実習報告書『轍』の見直し	
	第15回 実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 % 日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参

平常点評価 画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SC)

13582

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『轍』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。
2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。
3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べるができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 実習の振り返り	
	第3回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第4回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第5回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第6回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第7回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第8回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第9回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第10回 実習報告書『轍』作成準備	
	第11回 実習報告会①	
	第12回 実習報告会②	
	第13回 実習報告会の振り返りと補足	
	第14回 実習報告書『轍』の見直し	
	第15回 実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 % 日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参

平常点評価 画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SD)

13583

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『鞆』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。
2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。
3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べるができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 実習の振り返り	
	第3回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第4回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第5回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第6回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第7回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第8回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第9回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第10回 実習報告書『鞆』作成準備	
	第11回 実習報告会①	
	第12回 実習報告会②	
	第13回 実習報告会の振り返りと補足	
	第14回 実習報告書『鞆』の見直し	
	第15回 実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

上記以外の試験・レポート、 100 % 日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参

平常点評価 画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

拡張項目

生活科教育法 (SA)

13566

担当者名 / Instructor 寺田 博幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校生活科が設置された背景を小学校教育の営みをもつ意味から検証し、生活科の目標や内容構成、生活科の指導計画作成と学習指導等について解説する。また、実践事例をもとに、具体的な学習指導と評価について考察し、生活科教育について理解を図る。

受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

- ・生活科が設置された背景をふまえ、生活科教育にかかわる基礎的・基本的な理論について理解することができる。
- ・生活科の改善点をふまえ、子どもの主体性を育てる指導計画の作成、単元構想の在り方について理解することができる。
- ・生活科学習の指導と評価の一体化、子どもの学習意欲を高める学習指導法について理解することができる。
- ・生活科における子ども自身の自己評価や子ども相互の評価の在り方について理解することができる。

事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Study

生活科は、小学校低学年において教科の総合性を有している。その特質から他教科等の教科教育法を履修しておくことは有益である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	生活科とはー生活科誕生の背景と生活科教育の意義	知的好奇心・知的探究心がわきたつ具体的な体験や活動
2	生活科の目標と学年目標	身近な人々、社会及び自然を一体としてとらえること
3	生活科の内容ー1	気付きの質を高める指導
4	生活科の内容ー2	関わりを深め、表現活動を高める指導
5	生活科の内容ー3	他教科等との合科的・関連的な指導の充実
6	生活科の年間指導計画と単元構想	子どもの思いや願いの実現へ
7	単元構想に基づく学習指導と評価ー1	気付きの質を高める指導の工夫
8	単元構想に基づく学習指導と評価ー2	表現力を高める指導の工夫
9	単元構想に基づく学習指導と評価ー3	安全教育や生命を大切にす指導の工夫
10	単元構想に基づく学習指導と評価ー4	関わりを深める活動の重視
11	生活科の学習指導の構想ー1	ワークショップによる小集団の協議を通して
12	生活科の学習指導の構想ー2	ワークショップによる小集団の協議を通して
13	総合的な学習への接続とその意義	探究心がわきたつ教育の創造
14	関わりを深める活動を重視する生活科・総合的な学習の展望	生きる力の具体化
15	本講義のまとめ	生活科の原点に立ち返って

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Class Format

ワークショップ形式を取り入れ意見交流を進めていくが、具体的な内容等については講義で明示する。

成績評価方法 / Grade Evaluation Method

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義をもとに、レポート題について考えをまとめる。
上記以外の試験・レポート、平常点評価	50 %	講義への参加意欲と協議への参加による評価を重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生きる力を育む教育の新たな展開を探る上で、毎月刊行される「初等教育資料」(東洋館出版)が参考になろう。教員を目指す受講生には、生活科のみならず小学校教育全体の営みを理解することを心から願う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『小学校学習指導要領解説生活編』	文部科学省 / 日本文教出版 / 978-4-536-59002-0 /
『小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間』	文部科学省 / 東洋館出版 / 978-4-491-02378-6 /
『小学校学習指導要領』	文部科学省 / 文部科学省 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『小学校学習指導要領の展開生活科編』	木村吉彦 / 明治図書 / 978-4-18-838617-0c3037 /
『小学校学習指導要領の展開総合的な学種の時間編』	嶋野道弘 / 明治図書 / 978-4-18-839318-5c3037 /
『スタートカリキュラムのすべて』仙台市発信・幼小連携の新しい視点	木村吉彦 監修 / ぎょうせい / 978-4-324-09151-7c3037 /

参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

拡張項目